



日本学術会議
SCIENCE COUNCIL OF JAPAN

日本学術会議活動報告
(2024年10月～2025年9月)

Annual Report 2024

年次報告 第2編活動報告

2025年10月1日

日 本 学 術 会 議

日本学術会議活動報告（2024年10月～2025年9月）

第2編 活動報告 目次

1. 日本学術会議の概要（組織の概要）	…	1頁
2. 組織ごとの活動報告		
(1) 総会	…	2頁
(2) 幹事会	…	4頁
(3) 幹事会附置委員会	…	5頁
(4) 部	…	9頁
(5) 機能別委員会	…	13頁
(6) 課題別委員会	…	28頁
(7) 分野別委員会	…	33頁
(8) 部が直接統括する分野別委員会合同分科会	…	204頁
(9) 地区会議	…	210頁
(10) 若手アカデミー	…	215頁

1. 日本学術会議の概要（組織の概要）

(1) 経緯

日本学術会議は、我が国の科学者の内外に対する代表機関として、科学の向上発達を図り、行政、産業及び国民生活に科学を反映浸透させることを目的として、昭和24年1月、内閣総理大臣の所轄の下に設立されました。

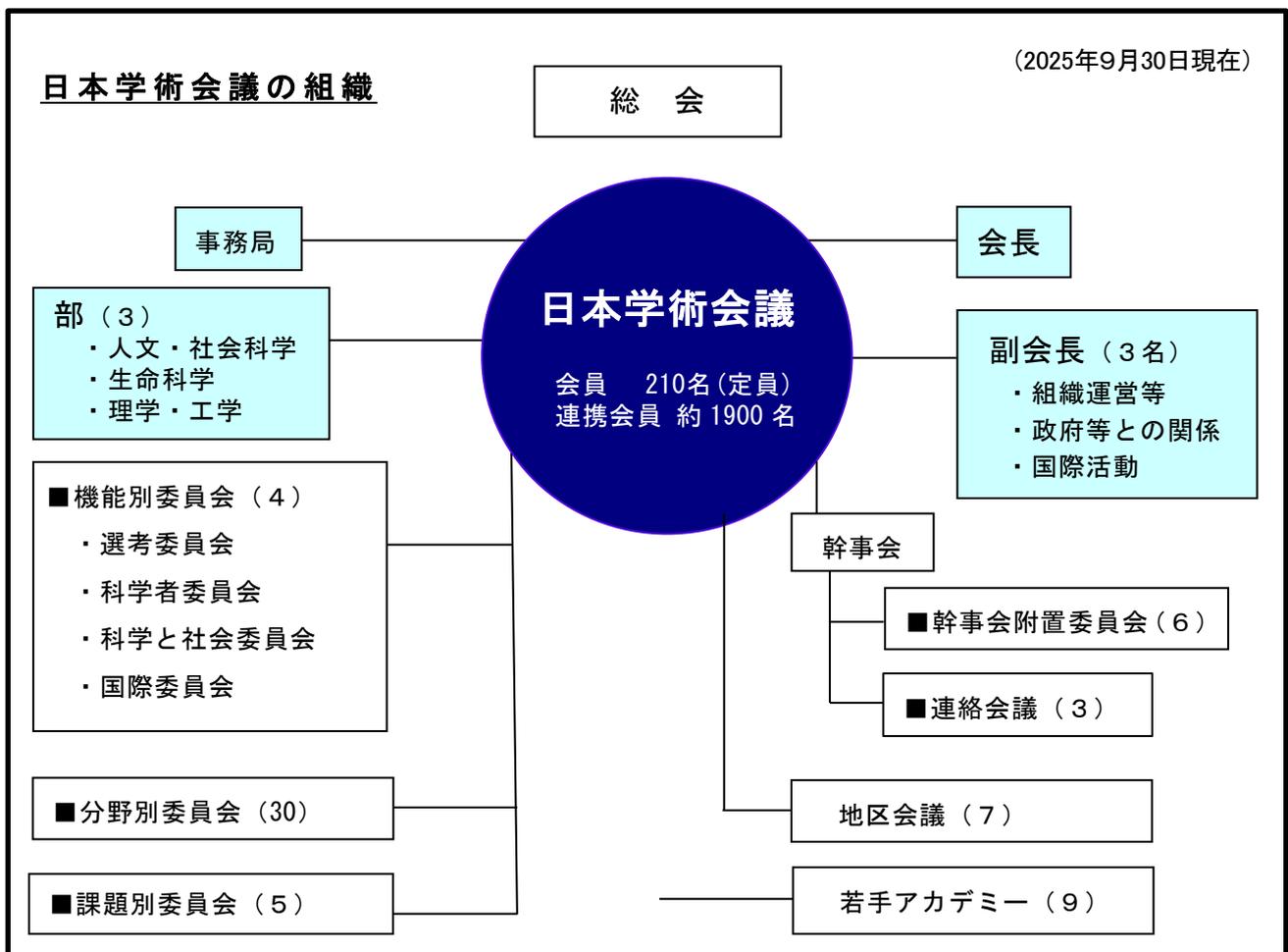
その後、平成13年の中央省庁改革に伴い、総務省に移管されましたが、平成16年に「日本学術会議法の一部を改正する法律」が成立したことを受け、平成17年4月に内閣府に移管されました。同年10月には同法が完全施行され、会員選考方法の変更、定年制の導入、7部制から3部制への移行、連携会員の新設等を内容とする改革が実施され、現行の体制が発足しました。

(2) 組織

日本学術会議は、内閣総理大臣から任命された210名（定員）の会員と日本学術会議会長から任命された約1,900名の連携会員で構成されています。

会員・連携会員の任期は6年で、3年ごとにその半数が改選されることとされています。

日本学術会議には、法の委任の下に意思決定を行う幹事会、3つの部（第一部に人文・社会科学、第二部に生命科学、第三部に理学・工学）、4つの機能別委員会及び30の分野別委員会、課題別委員会等が設置されています。また、地域の科学者と意思疎通を図るとともに学術の振興に寄与することを目的に7つの地区会議が、若手科学者の連携を図り、その活動を通じて学術の振興に寄与することを目的に45歳未満の会員又は連携会員で構成される「若手アカデミー」が、それぞれ設置されています。



2. 組織ごとの活動報告

(1) 総会

総会

総会

－ 第192回総会（2024年10月21日～23日） －

（10月21日）

- ・坂井学内閣府特命担当大臣より御挨拶をいただく。
- ・第192回総会及び部会におけるオンライン参加併用の承認を報告。
- ・会長、各副会長、各部部長、若手アカデミー代表より活動報告。
- ・「第7期科学技術・イノベーション基本計画に向けての提言」について、科学者委員会学術体制分科会林和弘委員長より、提言の検討状況について説明。
- ・「日本学術会議のあり方」について議論。
- ・幹事会を開催

（10月22日）

- ・「第26期日本学術会議アクションプラン」について議論。
- ・部会を開催。

（10月23日）

- ・各種委員会等を開催。

－ 第193回総会（2024年12月22日） －

- ・第193回総会におけるオンライン参加併用の承認を報告。
- ・「日本学術会議のあり方」について議論。
- ・総会での議論を踏まえ、日本学術会議会長談話「有識者懇談会最終報告及び日本学術会議第193回総会を受けて～より良い役割発揮のための改革に向けて～」を発出

－ 第194回総会（2025年4月14日～16日） －

（4月14日）

- ・第194回総会及び部会におけるオンライン参加併用の承認を報告。
- ・我が国の学術の発展・研究力強化に関する検討委員会林隆之委員長より、委員会の進捗状況について報告。
- ・科学者委員会学術研究振興分科会森田一樹委員長より、「未来の学術振興構想」の改訂について説明。
- ・外部評価有識者より外部評価書について報告。
- ・会長、各副会長、各部部長、若手アカデミー代表より活動報告。
- ・川嶋四郎会員外55名より提案の決議案「日本学術会議法案の修正について」及び光石会長提案の「声明（案）「次世代につなぐ日本学術会議の継続と発展に向けて～政府による日本学術会議法案の国会提出にあたって」」について、趣旨説明及び議論。
- ・幹事会を開催。

(4月15日)

- ・光石会長より声明(案)の修正案提出。
- ・「日本学術会議法案の修正について」の決議及び声明「次世代につなぐ日本学術会議の継続と発展に向けて～政府による日本学術会議法案の国会提出にあたって」について、投票採決により可決。
- ・幹事会及び部会を開催。

(4月16日)

- ・各種委員会等を開催。

(2) 幹事会

幹事会

幹事会	
幹事会構成員	
四 役	光石 衛 会長、三枝 信子 副会長、磯 博康 副会長、日比谷 潤子 副会長
第一部	吉田 文 部長、大久保 規子 副部長（2025年3月末まで）、只野 雅人 副部長 （2025年4月以降）、小田中 直樹 幹事、西山 慶彦 幹事
第二部	神田 玲子 部長（2025年9月18日まで）、尾崎 紀夫 副部長、 奥野 恭史 幹事、堀 正敏 幹事
第三部	沖 大 幹 部長、北川 尚美 副部長、奥村 幸子 幹事、関谷 毅 幹事
審議 経過	<p>主要な決定事項は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各委員会等委員（連携会員（特任）を含む）の決定。 ・各委員会等の運営要綱の決定及び改正。新規設置は、1 幹事会附置委員会、3 同分科会、1 機能別委員会小委員会、4 分野別委員会分科会小委員会、1 部が直接統括する分野別委員会分科会、1 課題別委員会、1 同分科会。 ・意思の表出について、提言2件を承認。 ・「意思の表出等の作成手続について」等規則関係の決定及び改正。 ・令和8年度共同主催国際会議等の取り扱いの決定。 ・令和7年度代表派遣実施計画、その他の国際会議や海外アカデミーとの意見交換等に係る派遣についての承認。 ・日本学術会議協力学術研究団体の指定。 ・各地区会議の事業計画の決定。 ・日本学術会議主催学術フォーラム、委員会等主催シンポジウム等の開催の承認。 ・国内会議・国際会議の後援の承認。 ・外部機関からの依頼に対する委員候補者の承認。 ・賞候補者の推薦。 ・会員・連携会員の辞職の承認に同意。
開催 状況	2024年10月21日、10月31日（メール審議）、11月26日（メール審議）、11月28日、12月5日（メール審議）、12月20日、2025年1月23日、2月13日、2月27日、3月31日、4月9日、4月14日、4月15日、5月30日、6月30日、7月28日、8月14日（メール審議）、8月29日、9月5日（メール審議）、9月22日（メール審議）、9月26日

(3) 幹事会附置委員会



外部評価対応委員会					
委員長	光石 衛	副委員長	磯 博康	幹事	三枝 信子、日比谷 潤子
主な活動	審議内容				
	<ul style="list-style-type: none"> 外部評価対応委員会委員から外部評価有識者に対し、令和6（2024）年度年次報告書等に基づき、令和5（2023）年10月～令和6（2024）年9月の日本学術会議の活動状況について説明 外部評価有識者からの意見聴取及び意見交換 2025年4月総会において、青山藤詞郎外部評価有識者座長より外部評価書について説明 				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	2025年3月10日				
今後の課題等	2024年10月～2025年9月の日本学術会議の活動状況に関する外部評価のための準備				

広報委員会					
委員長	磯 博康	副委員長	中村 征樹	幹事	狩野 光伸、永井 由佳里
主な活動	審議内容				
	<ul style="list-style-type: none"> 役員を選出 				

	<ul style="list-style-type: none"> ・広報委員会の運営方針、広報方針の決定 ・分科会の設置 ・広報・コミュニケーションのプロフェッショナル人材をアドバイザー・学術調査員として委嘱・採用
	意思の表出（※見込み含む）
	なし
	開催シンポジウム等
	なし
開催状況	2025年10月～11月に第3回を開催予定
今後の課題等	ホームページの改善や動画・SNSを活用した情報発信、「学術の動向」がこれまで果たしてきた役割も踏まえた今後の情報発信のあり方、SSH（スーパーサイエンスハイスクール）との連携について検討を進める。

広報委員会（「学術の動向」編集分科会）					
委員長	高山 弘太郎	副委員長	岩井 紀子	幹事	
主な活動	審議内容				
	<ul style="list-style-type: none"> ・「学術の動向」の編集に関する各種検討を行った。 ・「学術の動向」を通じた情報発信の進め方について検討を行った。 				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	第5回（2025年1月27日）、第6回（2025年5月1日）				
今後の課題等	休刊となった「学術の動向」に関して、今後の新たな情報発信のあり方について幅広い検討を行う。				

地方学術会議委員会					
委員長	三枝 信子	副委員長	内田 誠一	幹事	加納 圭
主な活動	審議内容				
	地方学術会議の今後の進め方及び「日本学術会議 in 石川」の開催について等の審議を行った。				

	意思の表出（※見込み含む）
	なし
	開催シンポジウム等
	なし
開催状況	2024年10月28日
今後の課題等	今後の地方学術会議の進め方（開催形式、開催地、開催サイクル、開催内容）及び第26期アクションプランを踏まえた地方学術会議のあり方について議論を行う。

財務委員会					
委員長	三枝信子	副委員長		幹事	
主な活動	審議内容				
	<ul style="list-style-type: none"> ・学術会議に係る予算執行のうち重要な事項（審議に係る予算執行）について審議を行うため設置。主に各年度の予算配分及び予算執行管理を行う。 ・今期は委員会を2回開催し、令和7年度審議等予算の配分の決定や令和6年度決算及び令和7年度の予算執行について議論を行った。 				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	2025年3月12日、6月25日（いずれもオンライン開催）				
今後の課題等	会員と事務局間で緊密な連携を図り、予算執行状況を適宜情報共有して予算逼迫を防ぐとともに、必要に応じて再配分を行うなど、効率的かつ効果的な予算執行を行う。				

科学的助言等対応委員会					
委員長	磯 博康	副委員長	山田 八千子	幹事	小林 武彦、 森 初果
主な活動	審議内容				
	<ul style="list-style-type: none"> ・意思の表出の標準スケジュールの提示、意思の表出の質の確保のための自律的かつ厳格な査読の実施など各部役員・各委員長への周知、意思の表出の進捗状況の見える化（進捗状況表の作成・一元管理） ・意思の表出を希望する分科会等から申し出のあった検討課題や提言の骨子に対する助言（過去10年間の意思の表出との関連調査を含む） 				

	<ul style="list-style-type: none"> ・意思の表出案の査読又は承認手続き ・意思の表出の作成を担った分科会等役員の責任において作成したフォローアップ・レポート等報告の授受
	意思の表出（※見込み含む）
	なし
	開催シンポジウム等
	なし
開催状況	なし ※個別の意思の表出事案に対する助言、査読、承認手続きに関するメール審議を随時実施
今後の課題等	第26期最終年は、意思の表出の件数が急増するため、意思の表出の案の査読、承認手続き等を機動的に行うことが求められる。同時に、これらの意思の表出が、説得力のある質の高いものとなることは重要であり、本委員会としては、分野横断的観点、総合的・俯瞰的な視野に立ち、引き続き、自律的かつ厳格な査読・承認手続きを行っていく。

(4) 部

第一部

第二部

第三部

第 一 部			
部長	吉田 文	副部長	大久保 規子 (2025年3月末まで) 只野 雅人 (2025年4月以降)
幹事	小田中 直樹、西山 慶彦		
主要な活動	審議内容		
	会員任命問題に関する件、日本学術会議のあり方に関する件、人文・社会科学の役割と振興に関する件、第一部の国際活動に関する件、「意思の表出」に関する件、第一部の予算執行に関する件など		
	意思の表出 (※見込み含む)		
	報告「災害対応と復興政策のための社会的モニタリングと復興アーカイブの実質化を目指して」社会学委員会災害を克服する地域社会と社会的モニタリング検討分科会(2025年9月末公表見込み)		
	開催シンポジウム等		
	公開シンポジウム「AI時代に「対話」の意味を考える—熟議がつむぐ知と社会」(2025年8月20日、函館市亀田交流プラザ・オンライン併用)		
開催状況	第5回 (2024年10月22日、対面・オンライン併用) 第6回 (2025年3月7日～2025年3月27日、メール審議) 第7回 (2025年4月1日、オンライン) 第8回 (2025年4月15日、対面・オンライン併用) 第9回 (2025年8月9日・10日、対面・オンライン併用)		
今後の課題等	第1編 1. (第一部) に記したとおり		

第 二 部			
部長	神田 玲子 (2025年9月18日まで)	副部長	尾崎 紀夫
幹事	奥野 恭史、堀 正敏		
主要な活動	審議内容		
	<p>第二部が関与する学術領域である生命科学は、生命を理解する知を体系化し、その基盤を構築するとともに、人類の福祉・社会の進歩に貢献することを目的とする学問である。第26期の1年目には、9つの分野別委員会の下に79の分科会を、第二部附置の分科会として生命科学系学術雑誌問題検討分科会と第二部生命科学ジェンダー・ダイバーシティ分科会を設置し、生物学、医学、農学に関連した広い分野に関する問題の審議が行った。2年目には、分科会が審議を進めるとともに、公開シンポジウムの開催や科学的助言の策定準備を積極的に行った。</p> <p>こうした科学的助言のための検討やシンポジウム開催に当たり、生命科学系学協会との連携が行われてきたが、今後は生命科学に関わる課題全般の議論においても、学協会との連携を強化するため、新たに「生命科学系の学協会連合体との円卓会議」を立ちあげた。具体的には学術論文誌や財政など学協会の共通の課題から、研究力や若手育成といった科学技術全体にかかわる課題、さらには学術会議と学協会との関わり方について議論をする予定である。また前年に引き続き夏季部会の地域開催を実施し、ホストとなった北海道大学と共同で公開シンポジウム「次の新興・再興感染症にどう備えるか」を開催した。</p>		
	意思の表出（※見込み含む）		
	各分科会の審議の進捗により、食品制度、脳科学研究、加熱タバコ、DNA親子鑑定、大学教育の品質保証（薬学）、高等学校の生物教育をはじめ、様々なテーマに関する提言・見解・報告が策定中であり、第26期中に委員会または分科会として科学的助言を発出予定。		
	開催シンポジウム等		
26期2年目の1年間に、様々なテーマの公開シンポジウムを40件開催（前年は17件）し、科学者コミュニティおよび国民との対話を進めた。			
開催状況	部会は、2024年10月22日、2025年4月15日、同年8月7、8日（夏季部会）の計3回開催した。また二部役員と分野別委員会委員長で構成される拡大役員会の会合を、生命科学系の学協会連合体との円卓会議として2回開催した（2025年2月24日、同年8月30日）。		
今後の課題等	第二部が対象とする生命科学は、医療、看護、食料など人類の健康と福祉に直結し、さらにヒトを含めた生物の深い理解を通して、人類を包含する生態系、地球環境の維持へも重要な知見を提供する。生命科学の学術としての健全な発展のために、それぞれの専門分野にとらわれない横断的審議を行って、俯瞰的視野と実効性を備えた意思の表出につなげた		

	い。特に、第二部が連携している学協会連合体との連携を組織的に行うことで強化し、学術コミュニティが社会との対話や社会的問題の解決に貢献した実績を積み上げていきたい。
--	---

第 三 部			
部長	沖 大幹	副部長	北川 尚美
幹事	奥村 幸子、関谷 毅		
主要な活動	審議内容		
	日本学術会議のあり方に関して、全体の議論と並行して、第三部でも議論を行うとともに、理学・工学系学協会との連携についても議論を行った。さらに科学的助言機能の強化に向けて、第三部内の査読プロセスなどについて議論を重ね、第 26 期に公表を予定する意思の表出への適切な対応について確認、意見交換を行った。部会における少人数に分かれての議論や WG での議論を経て博士人材育成の課題と施策について検討する理工系博士人材育成分科会を設置し、研究力強化・人材育成に関する重要テーマについても活動強化を行っている。		
	意思の表出（※見込み含む）		
	第三部関連分野別委員会から、提言 1 件を表出済。そのほか、提言 6 件、見解 13 件、報告 8 件を発出予定。		
	開催シンポジウム等		
第三部、分野別委員会又は関連分科会等主催によるシンポジウムの開催は、31 件。 2025 年 8 月 7 日に、第三部、東北大学及び東北地区会議が主催する公開シンポジウム「研究者になって世界を駆け巡ろうⅡ～研究者の卵たちと共に未来を描く～」をハイブリッド方式で開催した。世界を駆け巡り問題解決に取り組んでいる研究者から、想いと思い描く未来を紹介し、次世代を担う学生たちに研究者の魅力と経験を伝えるとともに、グループディスカッションでは、参加者の高校生等と交流する機会を持った。参加者は約 230 名（現地参加者約 180 名、オンライン参加者約 50 名）。			
開催状況	<ul style="list-style-type: none"> ・第三部会：2024 年 10 月 22 日、2025 年 4 月 15 日、8 月 7 日～8 日に開催。なお、8 月 7 日～8 日は、東北大学を開催拠点とした地方開催部会であり、併せて上記の公開シンポジウムも開催。 ・第三部役員と副会長によって構成される拡大役員会を 2024 年 11 月 28 日、2025 年 1 月 30 日、3 月 31 日、5 月 30 日、8 月 29 日、9 月 26 日（予定）に開催。各分野別委員会委員長も含む拡大役員会を 2024 年 12 月 20 日、2025 年 2 月 27 日、6 月 30 日に開催。なお、2 月 27 日は理学・工学系学協会連絡協議会を同時開催。 		
今後の課題等	第三部傘下の分野別委員会、分科会、小委員会は今期の発足時にある程度整理・統合され、概ね適切に運営されてきている。意思の表出や公開シンポジウム、委員会運営、連携会員の分科会所属率など活動の質保証という観点から、第三部役員会や分野別委員会相互のコミュニケーション・情報共有をより一層効果的に行う。博士人材育成に関しては、分野毎の現状も踏まえた課題の整理と執るべきアクション（施策）についてまとめ、公表する。		

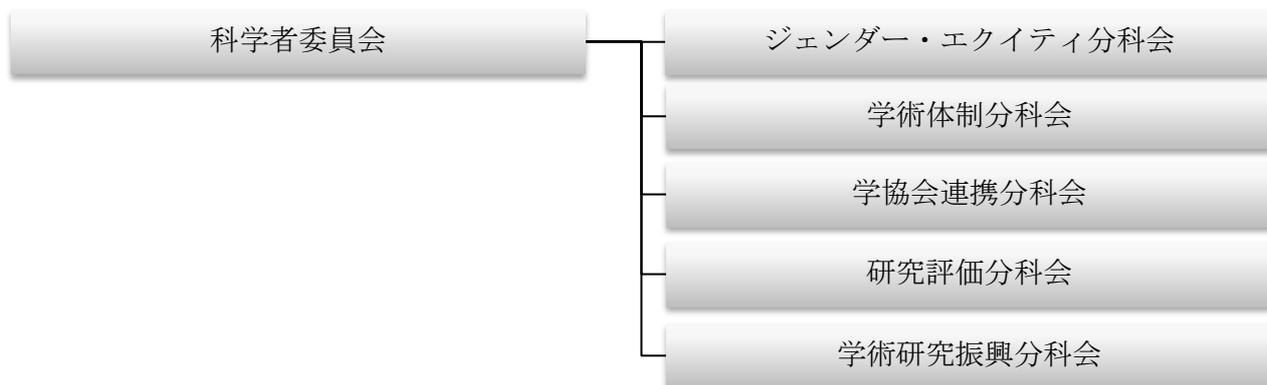
(5) 機能別委員会

①選考委員会

選考委員会

選考委員会					
委員長	光石 衛	副委員長	三枝 信子	幹事	吉田 文、神田 玲子
主な活動	審議内容				
	・定年により退任する会員の後任となる補欠の会員候補者の選考について、補欠の会員候補者名簿を作成し、幹事会に提出した。[1月23日、9月26日(予定)]				
	意思の表出(※見込み含む)				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	2025年1月23日、4月10日※メール、9月26日(予定)				
今後の課題等					

②科学者委員会



科学者委員会					
委員長	三枝 信子	副委員長	尾崎 紀夫	幹事	西山 慶彦、関谷 毅
主な活動	審議内容				
	科学者の連携に関して、日本学術会議協力学術研究団体の指定、地区会議との連携などの審議を行うとともに、委員会に設置されている5分科会をとりまとめている。2024年10月～2025年8月までに協力学術研究団体は29団体を新たに指定し、地区会議においては9回の学術講演会の開催があった。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	開催シンポジウム等				
	<学術フォーラム> なし <学術講演会> <ul style="list-style-type: none"> ・九州・沖縄地区会議学術講演会「世界遺産・奄美群島固有の生態系と文化的多様性～次代へつなぐアマミの宝～」2024年10月9日 ・北海道地区会議学術講演会「北海道から多文化共生を考える」2024年11月17日 ・東北地区会議学術講演会「東北地方の持続可能な食料生産のこれから～畜産業、水産業」2024年11月30日 ・中国・四国地区会議学術講演会「社会的課題と学術統合による研究と教育」2024年11月30日 ・中部地区会議学術講演会「性はどうやって決まる？」2024年12月6日 ・北海道地区会議学術講演会「次の新興・再興感染症にどう備えるか」2025年8月7日（第二部会と共催） ・東北地区会議学術講演会「研究者になって世界を駆け巡ろうⅡ～研究者の卵た 				

	ちと共に未来を描く～」2025年8月7日（第三部会と共催） ・北海道地区会議学術講演会「AI時代に「対話」の意味を考えるー熟議がつむぐ知と社会」2025年8月10日（第一部会と共催） ・近畿地区会議学術講演会「社会の持続可能性と水問題」2025年9月13日
開催状況	2024年11月11日、12月12日、2025年2月20日、3月27日、4月8日、4月30日、6月11日、8月7日 ※メール審議を計8回開催
今後の課題等	

科学者委員会（ジェンダー・エクイティ分科会）					
委員長	高橋 裕子	副委員長	森 初果	幹事	島岡 まな、 熊谷 晋一郎
主な活動	審議内容				
	「第6次男女共同参画基本計画小分科会」、および「包括的反差別法小分科会」を設置し、各小分科会での活動を踏まえて、ジェンダー・エクイティ分科会より提言を発出するための準備を行った。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	1）第6次男女共同参画基本計画に向けた提言「社会と学術界におけるジェンダー平等・公正の実現を目指してー2030年に向けた課題ー」（2025年秋発出見込み） 2）提言「包括的反差別法の制定に向けてー多種多様な差別を解消するためにー」（2026年春までに発出予定）				
開催状況	開催シンポジウム等				
	・公開シンポジウム「ジェンダー・エクイティへの取り組みーナショナルセンターの役割と将来への期待ー」2024年10月10日（オンライン） ・公開シンポジウム「第6次男女共同参画基本計画に向けた日本学術会議の期待」2024年12月22日（オンライン）				
今後の課題等	上記「2つの「提言」発出後、シンポジウム開催等によるフォローアップを行う。				

科学者委員会（学術体制分科会）					
委員長	林 和弘	副委員長	中村 征樹	幹事	杉本 舞
主な活動	審議内容				
	・アカデミアの将来と科学技術・イノベーション政策に資する議論を踏まえて第7期科学技術・イノベーション基本計画に向けて取りまとめた提言を第192回日本学術会議総会[2024年10月21日開催]にて披露し、会員との対話を行った。				

	<ul style="list-style-type: none"> ・同提言を第 376 回幹事会[2024 年 11 月 28 日開催]にて披露し、記者会見対応を行った。 ・同提言を内閣府総合科学技術・イノベーション会議の基本計画専門調査会（第 2 回）[2025 年 1 月 17 日開催]にて三石会長から披露し（林委員長同席）、第 7 期基本計画の議論に役立てた。 <p>https://www8.cao.go.jp/cstp/tyousakai/kihon7/2kai/2kai.html</p>
	意思の表出（※見込み含む）
	提言 第 7 期科学技術・イノベーション基本計画に向けての提言 https://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-26-t376.pdf
	開催シンポジウム等
開催状況	
今後の課題等	本提言以降に出された提言や見解との連携、ならびに、それと合わせた政策へ反映の検討

科学者委員会（学協会連携分科会）					
委員長	三枝 信子	副委員長	西山 慶彦	幹事	三尾 裕子、村山 美穂
主な活動	審議内容				
	第 25 期の学協会連携分科会の活動について報告を行い、第 26 期の日本学術会議と学協会との連携を進める取組、特に多数の学協会を束ねる学協会連合との連携強化の可能性や、協力学術研究団体からの要望について議論した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	第 1 回（2024 年 6 月 19 日）、第 2 回（2025 年 6 月 6 日）				
今後の課題等	第 26 期アクションプランへの当委員会からの貢献を含め、日本学術会議と学協会とのより良い連携の進め方について議論を進める。				

科学者委員会（研究評価分科会）					
委員長	尾崎 紀夫	副委員長	関谷 毅	幹事	林 隆之、柚崎 通介
主な活動	審議内容				
	<p>研究評価分科会は、第7期科学技術・イノベーション基本計画に向けた意見発出について審議を重ねた。具体的な議論のため検討ワーキングを設置し、その内容を基に、分科会の意見を「提言」として正式に発出する方針で合意した。</p> <p>当該提言は、学術体制分科会が発出する「第7期科学技術・イノベーション基本計画に向けた提言」の中で、研究評価に関する専門的な各論として位置付けられる。</p> <p>提言の要旨として、特に3つの重要な論点を盛り込む方針が確認された。第一に、研究評価改革が単なる議論から具体的な行動へと移行している国際的な潮流を的確に捉えること。第二に、質の向上が求められているピアレビュー評価への懸念に対応すること。そして最後に、日本国内においても定量的指標の過度な利用がもたらす弊害に対し、明確に注意を喚起することである。</p>				
	意思の表出（※見込み含む）				
	提言「研究の活性化へ向けた研究評価の具体的な改善方策（仮）」を2025年中に発出予定。				
	開催シンポジウム等				
なし					
開催状況	2025年1月21日、2025年9月3日				
今後の課題等	2025年中の提言発出の実現。提言発出後に関係省庁との意見交換等のアクションを通じて、提言内容の具現化。				

科学者委員会（学術研究振興分科会）					
委員長	森田 一樹	副委員長	山本 晴子	幹事	山崎 典子、早川 誠
主な活動	審議内容				
	<ol style="list-style-type: none"> 提言「未来の学術振興構想（2023年版）」のフォローアップ 学術フォーラム参加者・提案機関へのアンケート調査、提言改訂の必要性 提言「未来の学術振興構想（2026年版）」の策定準備 「学術の中長期研究戦略」の追加提案・改訂の募集、評価・審査プロセス 				
	意思の表出（※見込み含む）				
	提言「未来の学術振興構想（2026年版）」2026年夏頃公表予定 (2025年4月1日「学術の中長期研究戦略」公募開始、同10月1日締切予定)				
	開催シンポジウム等				

	<p>学術フォーラム「未来の学術振興構想－実現に向けて－」ハイブリッド開催 (日本学術会議講堂・オンライン 2024年10月4日)</p>
開催状況	<p>第3回、第4回、第5回 オンライン開催 (2024年11月28日、2025年1月17日、 2025年3月18日)</p> <p>第6回、第7回 オンライン開催予定 (2025年8月28日、2025年9月24日)</p>
今後の課題等	<p>他組織等との連携による提言「未来の学術振興構想(2023年版)」のフォローアップを検討し、引き続き提言「未来の学術振興構想(2026年版)」の2026年夏頃の公表を目標に策定を進める。</p>

③科学と社会委員会

科学と社会委員会

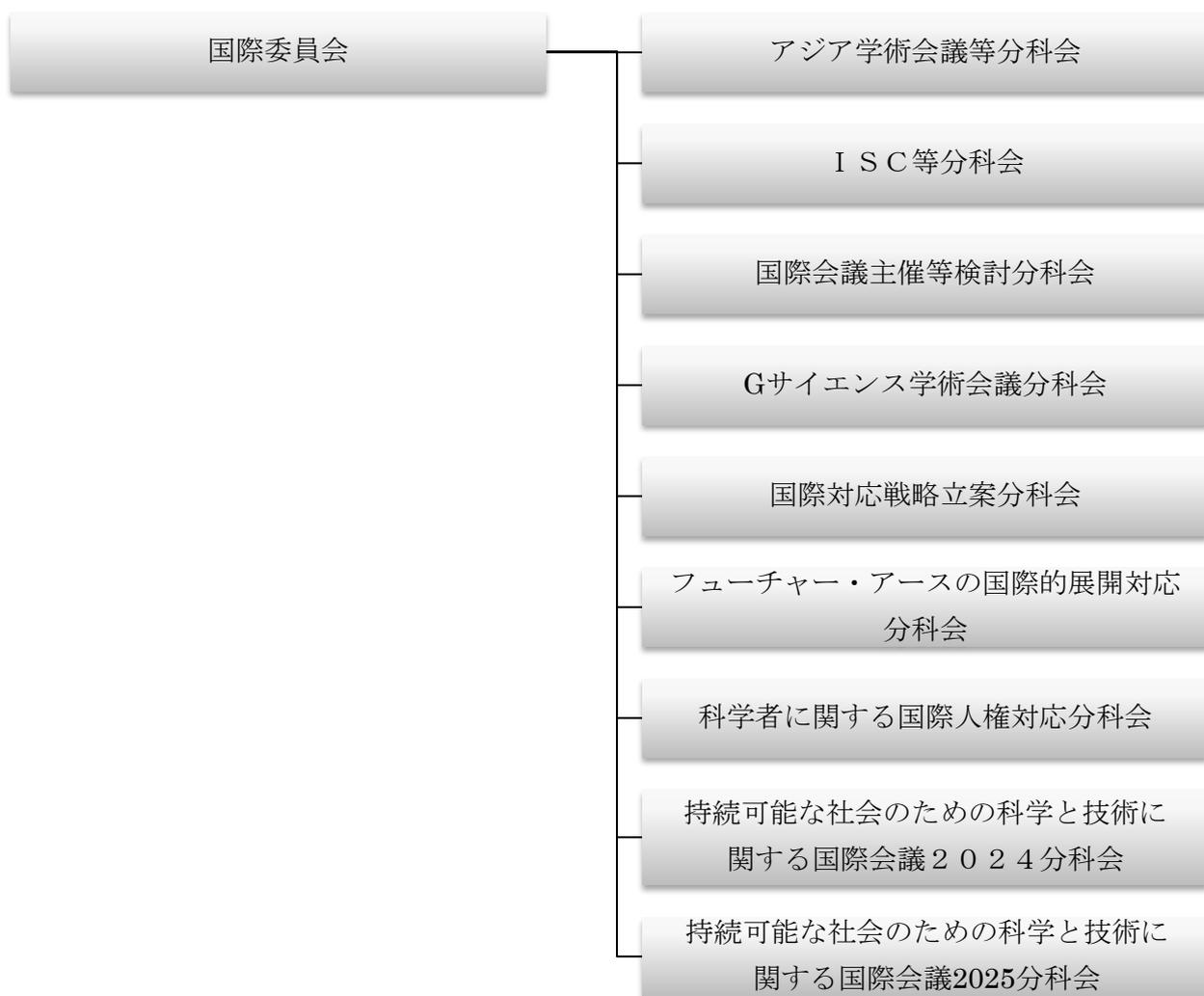
年次報告検討分科会

科学と社会委員会					
委員長	磯 博康	副委員長	中村 征樹	幹事	五斗 進、多々納 裕一
主な活動	審議内容				
	<ul style="list-style-type: none"> ・サイエンスアゴラの後援に関する審議依頼（1件） ・サイエンスカフェの提案（6件）について確認 				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	なし				
今後の課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・市民との交流 こども霞が関見学デーにおいて、学術会議庁舎内で小中学生や幼児を対象にしたサイエンスカフェやミニゲームなどを実施、SSH（スーパーサイエンスハイスクール）等との連携活動 ・国会議員に対して直接的な意見を伝えていく方法の検討 ・意思の表出のフォローアップ・レポート、インパクト・レポートの活用 ・社会のニーズに合致した意思の表出に向けて、多様な意見を取り込む方策の検討 				

科学と社会委員会（年次報告検討分科会）					
委員長	磯 博康	副委員長	大久保 規子（～2025年3月） 只野 雅人（2025年4月～）	幹事	奥村 幸子
主な活動	審議内容				
	<ul style="list-style-type: none"> ・年次報告（令和6（2024）年10月から令和7（2025）年9月まで）の作成方針の決定：「第1編 総論」「活動記録」への「意思の表出一覧」の追加等 ・上記作成方針等に基づき各執筆者が作成した年次報告原稿の取りまとめ、確認等 				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	なし				

開催状況	2024年10月3日、2025年7月31日
今後の課題等	10月27日、28日の総会に間に合うように適宜修正等を行う。

④国際委員会



国際委員会					
委員長	日比谷 潤子	副委員長	沖 大幹	幹事	小田中 直樹、 堀 正敏
主な活動	<p>審議内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本委員会は、日本学術会議における国際活動の調整及びその他学術会議の国際的対応に関することについて審議している。 ・具体的には、国内外で開催される学術に関する国際会議への代表派遣、国内における国際会議の共同主催、アジア学術会議、持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議、Gサイエンス学術会議等について審議するとともに、国際学術交流事業の実施に関する内規、各国アカデミーとの交流の活性化、今後の国際活動のあり方などについて審議している。 ・第26期は、第25期で議論し第184回総会（2022年4月）で報告された「日本学術会議の国際戦略～国際活動のさらなる強化に向けて～」(対象期間は第26期（2026年9月まで）を踏まえ、地球規模課題等への対応について、各国アカデミ 				

	<p>一や国際学術団体等との交流や連携強化、アジア地域におけるリーダーシップの発揮、国内外に向けた情報発信の強化を掲げているほか、日本学術会議第26期アクションプランに基づき国際活動のさらなる強化を目指している。</p> <p>・同アクションプランのうち、「ナショナル・アカデミーとしての国際的プレゼンス向上」について、海外のナショナル・アカデミー等との連携を強化し、日本学術会議の国際活動への助言等を行うことを目的とする第二回国際アドバイザーボードの開催に向けて、現在、海外アカデミー等と調整中である。</p>
	意思の表出（※見込み含む）
	なし
	開催シンポジウム等
	なし
開催状況	2024年10月18日※メール、11月27日※メール、12月19日※メール、2025年1月23日※メール、2月19日、3月28日※メール、4月11日※メール、5月29日※メール、6月27日※メール、7月25日※メール、8月28日※メール、9月25日※メール
今後の課題等	国際活動の強化や各分科会の今後の課題等を踏まえた検討。

国際委員会（アジア学術会議等分科会）					
委員長	澁澤 栄	副委員長	佐竹 健治	幹事	—
主な活動	審議内容				
	<p>・本分科会は、アジア学術会議（Science Council of Asia：SCA）の在り方等の検討及びその活動の推進に関する事並びにアジア科学アカデミー・科学協会連合（The Association of Academies and Societies of Sciences in Asia：AASSA）への対応に関する事について審議している。</p> <p>・「令和7年度アジア学術会議に関する国際会議等への代表者の派遣の基本方針」を策定の上、第24回アジア学術会議パキスタン会合等への代表派遣者等について審議するとともに、講演会 AASSA WISE シンポジウム（“Women in STEM”）の開催について審議した。</p>				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
公開シンポジウム AASSA WISE シンポジウム（“Women in STEM”）（2025年8月4日～8月6日）					

開催状況	2024年12月9日※メール、2025年2月18日※メール、7月10日※メール、8月15日※メール、9月12日※メール
今後の課題等	第24回アジア学術会議パキスタン会合の開催準備及び各種調整等。

国際委員会（ISC等分科会）					
委員長	日比谷 潤子	副委員長	高田 保之	幹事	後藤 由季子、 北村 友人
主な活動	審議内容				
	<ul style="list-style-type: none"> ・本分科会は、国際学術会議（International Science Council：ISC）やインターアカデミー・パートナーシップ（Inter Academy Partnership：IAP）等への対応について審議している。 ・ISCには、2021年10月以降、執行部に日本人役員2名が参画している。本分科会では、両役員の参加を得て、日本の科学者がグローバルな課題に関する議論に関与し、国際的な活動をリードし貢献できる場として、ISCの活動に積極的に参加すべく意見交換を行った。また、ISC加盟の国際学術団体に役員等として参画する会員等の交流・連携を促進するための会合（プラットフォーム会合）を2025年2月20日にオンラインで開催した。 ・日本学術会議若手アカデミーのIAP Young Affiliateへの加入申請に関し、メール審議を行い、承認した。若手アカデミーは2025年7月に加入が承認され、2025年12月のIAP総会に参加する予定。 ・ISC及びIAPの新規プロジェクトや共同声明等に関するワーキンググループに参画する委員として、日本人科学者を推薦した。 				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
なし					
開催状況	2023年12月28日、2024年1月26日※メール、2月8日※メール				
今後の課題等	2026年半ばに行われるISC役員選挙への対応、ISCやIAPとの連携強化等。				

国際委員会（国際会議主催等検討分科会）					
委員長	日比谷 潤子	副委員長	荒井 秀典	幹事	岩井 紀子、 中村 卓司
主な活動	審議内容				

	<ul style="list-style-type: none"> ・本分科会は、国内で開催される各分野の学術に関する国際会議において日本学術会議が主催することについての審議及び開催に関すること並びに後援について審議している。 ・2026年度共同主催国際会議候補を審議し、同候補は2025年2月の幹事会で決定された。 ・国際会議の後援について審議した。
	意思の表出（※見込み含む）
	なし
	開催シンポジウム等
	期間中5件の共同主催国際会議を開催した。
開催状況	2024年10月8日※メール、11月15日※メール、 2025年1月22日、3月17日※メール、8月15日※メール
今後の課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・10月から申請を受け付ける2027年度共同主催国際会議についての審議。 ・後援申請についての対応。 ・「日本学術会議が共同主催する国際会議におけるロシアの研究機関等から参加を希望する者についての取扱い（2022年8月1日日本学術会議第329回幹事会決定）」について、状況の変化に応じた機動的な対応。

国際委員会（Gサイエンス学術会議分科会）					
委員長	日比谷 潤子	副委員長	—	幹事	—
主な活動	審議内容				
	<ul style="list-style-type: none"> ・本分科会は、G7サミット参加各国等のアカデミーが、G7サミット参加各国の政府首脳に向けて科学的見地から政策提言を行うことを目的としたGサイエンス学術会議でとりまとめられる共同声明について審議している。 ・カナダ・オタワにおいて2025年5月に開催されたGサイエンス学術会議2025に際し、共同声明案の内容等について審議した。 				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	2025年2月12日				

今後の課題等	フランス・パリにおいて 2026 年に開催予定である Gサイエンス学術会議 2026 に向けた、共同声明案の内容等に関する審議及び検討。
--------	--

国際委員会（国際対応戦略立案分科会）					
委員長	日比谷 潤子	副委員長	沖 大幹	幹事	—
主な活動	審議内容				
	<ul style="list-style-type: none"> ・本分科会は日本学術会議が加入している国際学術団体の見直しと、日本学術会議の国際対応戦略に関することについて審議している。具体的には「国際学術交流事業の実施に関する内規」に基づき、加入国際学術団体の見直しのための調査を実施している。第 26 期では、42 団体の加入国際学術団体の活動調査票等を確認し、外部有識者の参加も得て、それぞれの加入継続の要否について議論を行った。結果、全団体において脱退するという判断には至らず、加入を継続することとなった。 ・日本学術会議が国際学術団体に加入し、活動する意義や成果について、国民に分かりやすく発信するための工夫についても審議し、ホームページの改善等を行っている。 				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	2025 年 6 月 20 日、8 月 26 日				
今後の課題等	各加入国際学術団体の活動調査票及びヒアリングに基づく、加入国際学術団体の見直し審査の実施、各加入国際学術団体の活動成果の発信方法に関する検討。				

国際委員会（フューチャー・アースの国際的展開対応分科会）					
委員長	谷口 真人	副委員長	馬奈木 俊介	幹事	谷本 浩志、 山内 太郎
主な活動	審議内容				
	<ul style="list-style-type: none"> ・本分科会は、日本学術会議が推進しているフューチャー・アースプログラムに関し、その国際的な展開と対応に関することについて審議している。 ・具体的にはフューチャー・アースの国際本部事務局の運営、フューチャー・アース主催の国際会議への日本学術会議代表者の派遣及び同会議への海外からの研究者の招へいについて審議した。 				
	意思の表出（※見込み含む）				

	なし
	開催シンポジウム等
	なし
開催状況	2025年2月7日、3月31日※メール、9月11日※メール
今後の課題等	フューチャー・アース代表派遣及び招へい方針にのっとったフューチャー・アースの国際的展開への対応。

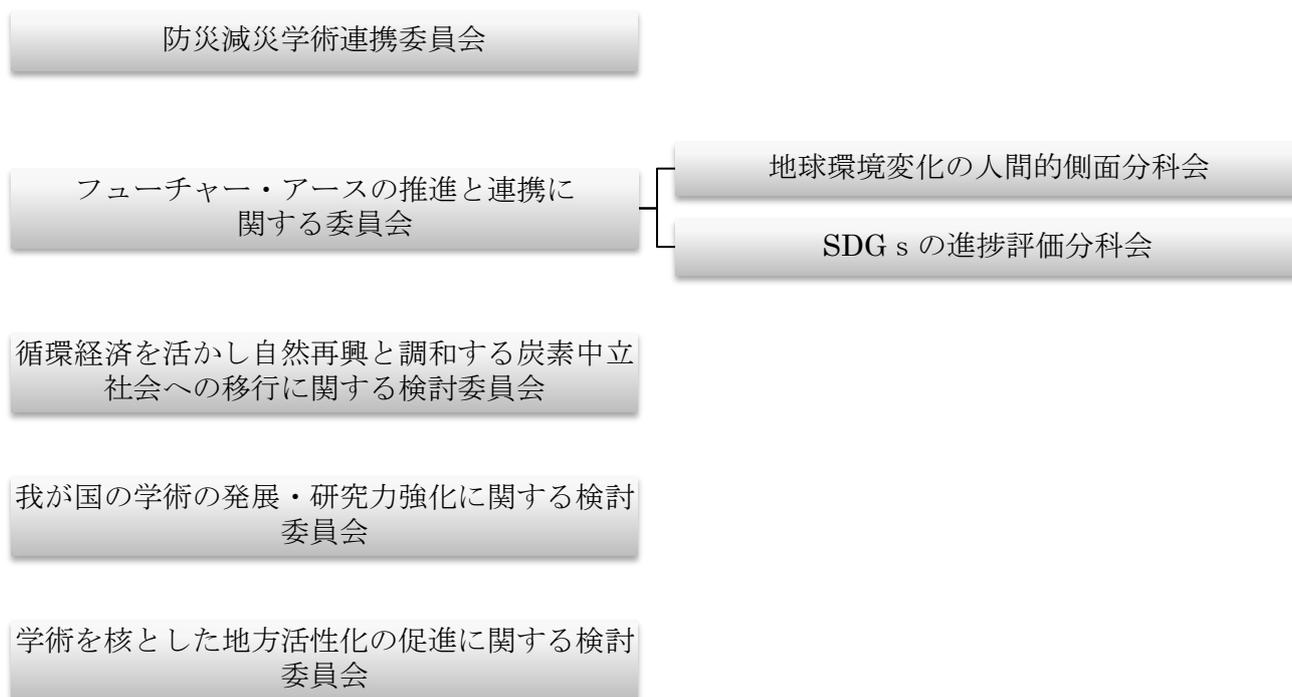
国際委員会（科学者に関する国際人権対応分科会）					
委員長	日比谷 潤子	副委員長	山口 香	幹事	—
主な活動	審議内容				
	<ul style="list-style-type: none"> ・本分科会は、科学者に関する国際的な人権状況及び問題を調査審議し、併せてアカデミー及び学術団体の国際人権ネットワーク（The International Human Rights Network of Academies and Scholarly Societies）への対応に関する事項を審議している。 ・第26期においては、分科会における審議事項の整理、審査基準の見直し、国際人権ネットワークから届くアクション・アラートへの対応等について議論した。 ・2025年9月9日から11日にノルウェー・オスロにて開催の第15回国際人権ネットワーク隔年総会への派遣者について審議し、南野佳代委員の派遣を決定した。 				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	2025年5月1日※メール、9月1日※メール				
今後の課題等	科学者に関する国際的な人権状況及び問題とアクション・アラートへの対応。				

国際委員会（持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議2024分科会）					
委員長	加納 圭	副委員長	標葉 隆馬	幹事	岸村 顕広
主な活動	審議内容				
	<ul style="list-style-type: none"> ・本分科会は、持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議2024を開催するために必要な企画立案及び実施準備に関することについて審議することを目的としている。 				

	<p>・2024年度の同会議は、会議テーマを「持続可能なイノベーション創出のためのエコシステム～2040年の科学・学術と社会を見据えて～」に定め、2025年2月3日にハイブリッド形式により開催した。</p>
	意思の表出（※見込み含む）
	なし
	開催シンポジウム等
	2025年2月3日「持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議2024」開催
開催状況	2025年2月3日
	—

国際委員会（持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議2025分科会）					
委員長	磯 博康	副委員長	奥村 幸子	幹事	大垣 昌夫、 狩野 光伸
主な活動	審議内容				
	<p>・本分科会は、持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議2025を開催するために必要な企画立案及び実施準備に関することについて審議することを目的としている。</p> <p>・2025年度の同会議は、2026年2月11日、12日にハイブリッド形式による開催を予定している。</p> <p>・会議テーマを「将来の学術を担う若手研究者を中心とした研究力強化と頭脳循環を目指して」に定め、本分科会において、プログラムの企画立案及び登壇者候補者との連絡調整等の実施準備を進めている。</p>				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	2025年5月26日、9月8日				
今後の課題等	持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議2025の開催準備を遅滞なく進める。				

(6) 課題別委員会



防災減災学術連携委員会					
委員長	竹内 徹	副委員長	目黒 公郎	幹事	永野 正行、山本 佳世子
主な活動	審議内容（※審議結果からの主要な意見、今後の審議予定課題などを含む）				
	防災減災の重要事項に関して、分野横断的に審議し、意思の表出を目指している。防災学術連携体と連携しシンポジウムなどを開催すると共に、政府の防災推進国民会議の一員として、関係省庁や関係機関との連携を図っている。				
	意思の表出（※予定含む）				
	2025年度中に見解「能登半島地震・豪雨災害の教訓に基づく広域地域災害への備え」を表出予定。（査読中）				
	開催シンポジウム等（※予定含む）				
	<ul style="list-style-type: none"> ・世界防災フォーラム（2025年3月8日－9日）公開シンポジウム「2つの提言：壊滅的災害へのそなえを考える～1995 阪神・淡路、2011 東日本、2024 能登半島の教訓に学ぶ～」(土木工学・建築学委員会IRDR分科会と共同開催) ・日本学術会議in石川：大災害からの復興と持続的社会的モデルを目指して～半島地域からの問題提起（2025年8月2日） ・第7回「防災に関する日本学術会議・学協会・府省庁の連絡会」-能登半島地震・豪雨災害の教訓に基づく広域地域災害への備え-(2025年8月19日) 				
開催状況	第3回：2024年8月22日（学協会、府省庁との連絡会） 第4回：2024年12月27日 第5回（メール審議）：2025年1月17日～1月22日				

	第6回：2025年4月9日 第7回：2025年6月2日 第8回（メール審議）：2025年7月15日～7月24日
今後の課題等	日本では、巨大地震の発生とともに、地球温暖化による気候災害のリスクが高まっている。分野横断的な議論を行い、防災減災に資する意思の表出を目指す。

フューチャー・アースの推進と連携に関する委員会					
委員長	沖 大幹	副委員長	亀山 康子	幹事	近藤 康久、張 勁
主な活動	審議内容				
	研究、イノベーション、そして社会との協働により持続可能な社会への転換を目指す国際的な研究ネットワークである Future Earth の国内における推進と連携について審議する。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	予定なし				
	開催シンポジウム等				
2025年11月1日（予定）公開シンポジウム「プラネタリーヘルスの視点で捉える気候変動と災害：地域社会の役割と挑戦」（環境学委員会・健康・生活科学委員会合同環境リスク分科会、防災減災学術連携委員会ほかと共同主催）					
2025年11月29日（予定）学術フォーラム「Future Earth と地球環境激変の10年：私たちはどこまで来たのか？これからどうすべきか？」（環境学委員会・地球惑星科学委員会と共同主催）					
開催状況	第4回：2024年11月28日～12月9日※メール 第5回：2025年5月20日 第6回：2025年7月15日～7月24日※メール				
今後の課題等	社会へ向けた情報発信及びステークホルダーとの協働に向けた関係者リストの作成と公開				

フューチャー・アースの推進と連携に関する委員会（地球環境変化の人的側面分科会）					
委員長	谷口 真人	副委員長	山下 潤	幹事	豊田 光世、渡辺 浩平
主な活動	審議内容				
	1. 地球環境変化の人的側面に係る課題の抽出と対応 2. 持続性国際プログラムや機関等との連携と社会貢献				
	意思の表出（※見込み含む）				
	審議して決定				

	開催シンポジウム等 シンポジウム「複合的地球環境問題へのヒューマンディメンションからの問い」： 2025年8月2日 分科会で審議後、2026年3月にシンポジウムを開催予定
開催状況	第2回：2024年12月4日 第3回：2025年4月11日 第4回：2025年8月2日
今後の課題等	Future Earth、SDGs等の持続性国際プログラムを成功させる上で地球環境変化の人的側面研究・教育の深化と振興の重要性は益々高まっており、シンポジウムを通じて明らかにした論点を、第5回以降の分科会で精査した上で、意思の表出に向けた審議を進める。

フューチャー・アースの推進と連携に関する委員会（SDGsの進捗評価分科会）					
委員長	蟹江 憲史	副委員長		幹事	
主な活動	審議内容				
	2025年に実施された日本の自主的国家レビュー（VNR）について、このプロセスに学術的な貢献を以下に行うべきかを審議した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	パブコメ実施の際に各委員がインプットをおこなう事とした。				
	開催シンポジウム等				
開催状況	オンライン（2025年3月）				
今後の課題等	VNR後のSDGsへの対応について、学術界の貢献分野や方策について				

循環経済を活かし自然再興と調和する炭素中立社会への移行に関する検討委員会					
委員長	森口 祐一	副委員長	城山 英明	幹事	鈴木 朋子、野口 和彦
主な活動	審議内容				
	炭素中立（カーボンニュートラル）、循環経済（サーキュラーエコノミー）、自然再興（ネイチャーポジティブ）は、いずれも極めて多岐にわたる観点から検討すべきテーマであるが、本委員会では、特に「2050年カーボンニュートラル」の実現という喫緊の課題に対応するため、循環型で自然資本を持続可能に活用する社会を				

	<p>目指すという視点に基づき、サーキュラーエコノミー及びネイチャーポジティブとの関係性や必要な施策等の諸課題を明らかにする。</p>
	<p>意思の表出（※見込み含む）</p>
	<p>2025年夏～秋頃の発出を目標に、誰に向けたものかを意識し、俯瞰的かつ具体的な提言案の作成を進め、2025年6月末に査読に付し、本報告時点で修正中。</p>
	<p>開催シンポジウム等</p>
	<p>「循環経済を活かし自然再興と調和する炭素中立社会への移行」をテーマに、2025年3月12日に学術フォーラムを開催。提言の発出後を見据えた公開行事企画について検討中。</p>
開催状況	<p>前回報告期間中（2023年10月～2024年9月）に第1回～第4回を開催 第5回：2024年10月29日、第6回：2024年11月27日 第7回：2024年12月19日、第8回：2025年1月29日 第9回：2025年2月21日、第10回：2025年3月26日 第11回：2025年4月16日、第12回：2025年5月20日 第13回：2025年5月22日、第14回：2025年7月17日 第15回：2025年8月20日、第16回：2025年9月11日 カーボンニュートラル連絡会議との意見交換会 第1回：2025年5月15日、第2回：5月20日、第3回：5月21日</p>
今後の課題等	<p>国民に向けたわかりやすい内容の発信や、発出後の提言の「社会実装」活動を意識したフォローアップ活動の企画</p>

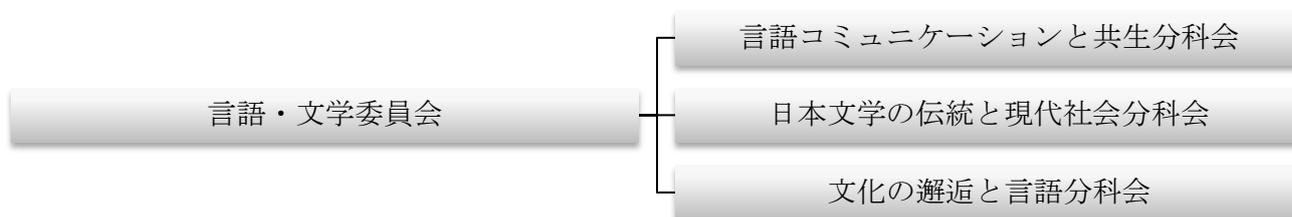
我が国の学術の発展・研究力強化に関する検討委員会					
委員長	林 隆之	副委員長	西山 慶彦	幹事	川口 慎介、 両角 亜希子
主な活動	審議内容				
	<p>分野別委員会のヒアリング（物理学、材料工学、基礎医学、社会学）を行い、研究力の現状と課題を整理した。それらを踏まえ、分野横断的課題として、研究者の雇用安定化とキャリアパス改善（雇い止め問題、若手PIの独立支援等）、財政基盤の見直し（基盤資金と競争的資金の拡充とバランスの確保等）、研究教育の成果最大化を追求するマネジメント（研究官僚主義の回避、専門人材確保）、高度専門人材育成の中核としての大学院教育改革を議論した。審議の中間的状況は、2025年7月16日に開催されたCSTI科学技術・イノベーション基本計画専門調査会において報告した。</p>				
	意思の表出（※見込み含む）				
	2025年12月までの発出を目標に、提言案をまとめる予定。				
	開催シンポジウム等				
無し					

開催状況	第2回 2024年11月18日、第3回 2024年12月4日、 第4回 2024年12月23日、第5回 2025年1月20日、 第6回 2025年2月26日、第7回 2025年3月26日、 第8回 2025年4月11日、第9回 2025年6月16日、 第10回 2025年7月3日、第11回 2025年7月9日
今後の課題等	提言案の作成を進める。

学術を核とした地方活性化の促進に関する検討委員会					
委員長	西 弘嗣	副委員長	西川 正純	幹事	田井 明、那須 清吾
主な活動	審議内容（※審議結果からの主要な意見、今後の審議予定課題などを含む）				
	学術を核とした地方活性化の好事例を収集・整理し、共通する視点や課題を抽出すると同時に、学術を活用することで地方活性化をより広範囲で促進する道筋を検討し、効果的な政策等を明らかにする。				
	意思の表出（※予定含む）				
	2025年秋頃の発出を目標に、提言を取りまとめる予定。				
	開催シンポジウム等（※予定含む）				
開催状況	第1回：2025年2月6日 オンライン会議にて開催 _ 第2回：2025年2月28日 オンライン会議にて開催 _ 第3回：2025年4月25日 オンライン会議にて開催 _ 第4回：2025年5月13日 オンライン会議にて開催 _				
今後の課題等	提言作成のための準備を行う。事前に外部との意見を行っており、終了後に提言の提出を行う予定である。				

(7) 分野別委員会

①言語・文学委員会



言語・文学委員会					
委員長	原田 範行	副委員長	平田 オリザ	幹事	植木 朝子、定延 利之
主な活動	審議内容				
	日本学術会議の設置趣旨に則り、言語（日本語、外国語、言語一般）および文学（日本文学、諸外国の文学、文学一般）について審議を行い、わが国のこの分野に関する研究や教育、文化的活動の興隆を期して、適切に意思の発出を行う。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	26期2年目にあたる今年度は、本委員会の審議項目について、各分科会の活動を中心としながら情報の共有と討議を進めた。3つの分科会のうち、既に言語コミュニケーションと共生分科会では、意思の表出（見解）へ向けて具体的に準備を進めている。				
開催状況	開催シンポジウム等				
	言語コミュニケーションと共生分科会および日本文学の伝統と現代社会分科会では、いずれも今期3年目でのシンポジウム開催へ向けて具体的な内容と日程を調整中である。文化の邂逅と言語分科会も、外国語教育に関するシンポジウム等の開催を検討中である。				
開催状況	2回開催（2024年10月23日、2025年4月16日）				
今後の課題等	26期の2年目から3年目にかけて、意思の表出やシンポジウム開催等、審議内容の社会的発信が求められるが、生成A Iの利活用といった言語・文学をめぐる社会的環境の変化を十分に把握し、他分野とのいっそうの交流や情報共有の促進をはかりたい。				

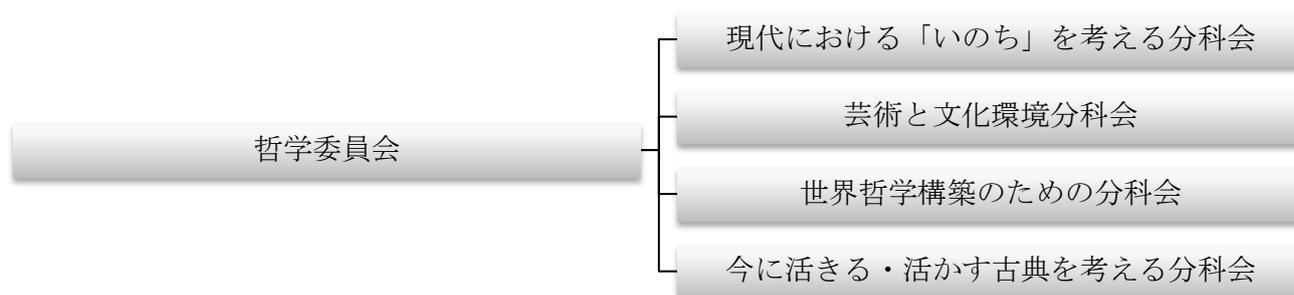
言語・文学委員会（言語コミュニケーションと共生分科会）					
委員長	定延 利之	副委員長	平田 オリザ、 庵 功雄、傳 康晴	幹事	林 良子
主な活動	審議内容				
	以下の報告を踏まえて言語コミュニケーションと共生に関する検討を行った（但し[7][8]は予定）：[1] 平田オリザ氏（芸術文化観光専門職大学「共生のための演劇」、[2] 関水徹平氏（明治学院大学）「『ひきこもり』経験におけるコミュニケーションの困難さ」、[3] 岩田夏穂氏（武蔵野大学）・三部光太郎氏（明治学院大学）「『ひきこもり』支援の場において活動への参加を可能にするもの」、[4] 三木那由他氏（大阪大学）「コミュニケーションにおける不正義の諸相」、[5] 酒井奈緒美氏（国立障害者リハビリテーションセンター研究所）「流暢性障害（吃音）の実態：支援者の立場から」、[6] 斉藤圭祐氏（NPO 法人全国言友会連絡協議会）「吃音があっても、豊かに生きる～吃音のある人への社会的支援への取り組み～」、[7] 狩俣繁久氏（琉球大学名誉教授）「(仮題) 弱小方言（シマクトゥバ）が抱える課題について」、[8] 福永由佳氏（国立国語研究所）「(仮題) 在日外国人の言語生活と課題」。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	意思（提言）の表出の申出書を骨子と共に提出（2025年4月4日）、科学的助言等対応委員会から助言を受け（同年6月23日）、「見解」の発出を準備中である。				
	開催シンポジウム等 無し。				
開催状況	（丸数字は分科会の開催回を示す。）：⑤ 2024年12月21日（オンライン） ⑥ 2025年2月9日（ハイブリッド）、⑦ 同年3月5日（オンライン）、⑧ 同年7月5日（ハイブリッド）、⑨ 同年9月7日（予定）（オンライン）。				
今後の課題等	「見解」の完成とシンポジウムの開催を課題とする。				

言語・文学委員会（日本文学の伝統と現代社会分科会）					
委員長	植木 朝子	副委員長	原田 範行	幹事	海野 圭介
主な活動	審議内容				
	<ul style="list-style-type: none"> ・第2回・第3回分科会では、各委員が分科会の設置目的と自身の専門分野をからめたプレゼンテーションと社会への発信方法についての提案を行った。 ・第4回分科会では、前2回を踏まえ、活動の2本の柱（①他領域との関わり、人間の身体性や行動など多様な視座から文学の意義を伝えること、②情報学などの領域と連携しつつ、デジタル・アーカイブ、データ作成の支援となるような提言を行うこと）を定めた。柱①に関連してシンポジウム開催を計画することとした。 ・第5回分科会では柱②に関連して会員による発表と意見交換を行った。 				
意思の表出（※見込み含む）					

	なし
	開催シンポジウム等
	2025年1月25日(日) シンポジウム「日本文学と藍」(予定) 於京都芸術大学
開催状況	第2回分科会 2024年10月18日(金) 13時～15時10分(オンライン開催) 第3回分科会 2024年12月27日(金) 10時～12時15分(オンライン開催) 第4回分科会 2025年3月24日(金) 10時～11時5分(オンライン開催) 第5回分科会 2025年6月15日(日) 13時～15時15分(オンライン開催)
今後の課題等	柱①に関しては上記シンポジウムに向けて準備を進める。柱②に関しては分科会での発表、意見交換を通じて、意義ある社会発信に向けての議論を深める。

言語・文学委員会・哲学委員会合同(文化の邂逅と言語分科会)					
委員長	原田 範行	副委員長	河野 哲也	幹事	伊藤 たかね、糸川 麻里生
主な活動	審議内容				
	言語・文学を基盤に据えた異文化間交流や多様な文化的国際交流の進化・発展は、国際社会におけるわが国の重要かつ喫緊の課題であり、①国際情勢や言語情報に関わる現況を踏まえた、言語文化交流に関する新たな指針の策定、②この指針の実現のための実践的な言語文化交流の具体的な方策についての検討、を主たる審議内容とする。哲学委員会とも連携しつつ審議を行う。				
	意思の表出(※見込み含む)				
	26期における意思の表出は予定していない。2020年8月に発出した「大学入試における英語試験のあり方についての提言」(提言)以降の課題を整理しつつ、言語文化交流のさまざまな具体的可能性を明確にする作業を進めている。				
	開催シンポジウム等				
言語文化交流の可能性を探りつつ、言語教育の現況と今後を討議する公開シンポジウムを26期3年目に開催すべく、内容や日程等を調整中である。					
開催状況	2024年7月に分科会設置が承認され、2024年10月12日に第1回分科会を開催。その後、言語文化交流の可能性などについて、同報メールでの意見交換を重ねている。				
今後の課題等	公開シンポジウム開催へ向けて、言語文化交流のあり方全般と言語教育の可能性という2つの課題を整理統合すべく、引き続き協議を進める予定である。				

②哲学委員会



哲学委員会					
委員長	河野 哲也	副委員長	吉水 千鶴子	幹事	奥田 太郎、中村 征樹
主な活動	審議内容				
	2025年における公開シンポジウム、学術フォーラムの日程、テーマ、登壇者、分科会の活動状況について協議した。10月5日に、学術フォーラム(ハイブリッド開催)では、「米国科学技術政策の転換、その影響を考える」を開催することにした。12月21日の公開シンポジウム(ハイブリッド開催)では、ソーシャルメディアによって変容した現代の人間関係を踏まえ、むしろ分断が進む社会を対話によっていかに再構築するかを議論することに決定した。				
	意思の表出(※見込み含む)				
	哲学委員会として意思の表出を行う具体的な予定はない。				
開催状況	開催シンポジウム等				
	2024年10月26日 公開シンポジウム「脳組織を人工的につくることの意味を考える～科学者と哲学・倫理学・宗教学者の対話から～」(オンライン開催)				
開催状況	2024年10月22日(哲学委員会：日本学術会議、ハイブリッド)、11月30日(哲学委員会、合同分科会：オンライン)、2025年4月15日(哲学委員会：対面)、5月19日(哲学委員会、拡大役員会：オンライン)				
今後の課題等	哲学委員会会員は、様々な人文社会・生命・自然科学分野の分科会(科学技術史、アジア研究、子どもの権利、生活習慣病、言語文化、環境思想教育)に積極的に参加し、多様な分野をつなげる発言を行ってきた。また、公開シンポジウム、学術フォーラムにおいて哲学カフェなどを実施し、双方向的でインタラクティブなアウトリーチ活動に力を入れ、第一部夏季部会においても哲学委員会の主導で会員と一般の参加者で哲学カフェを行い、大きな反響を呼んだ。				

哲学委員会（現代における「いのち」を考える分科会）					
委員長	土井 健司	副委員長	香川 知晶	幹事	川端 美季
主な活動	審議内容				
	現代日本社会における安楽死・尊厳死のあり方について分科会として「見解」を執筆すること決め、今期これまでの専門家による諸報告を参考にしつつ執筆についての計画、スケジュールを確認し実施しているところである。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	「見解」を表出する見込み				
	開催シンポジウム等				
なし					
開催状況	<p>2024年10月17日（第6回）専門家による報告、京都大学大学院法学研究科教授高山佳奈子「刑法学から見た安楽死、尊厳死」を主軸とした審議。</p> <p>2024年12月4日から12日（第7回）はメール審議（委員長の交代）</p> <p>2024年12月22日（第8回）連携会員（特任）2名（有馬斉氏、本田まり氏）の追加選任、審議テーマに関わる意思の表出について。</p> <p>2025年3月4日（第9回）意思の表出について「見解」の作成と定める。</p> <p>2025年5月12日（第10回）専門家による報告、西村ユミ委員、参考人として秋下雅弘会員、澤芳樹会員よりそれぞれ報告をいただき、審議。</p> <p>2025年6月10日（第11回）新しく斯波真理子会員（第二部）を分科会委員として追加。また「見解」の執筆方法、スケジュールの審議、確認。</p>				
今後の課題等	スケジュールに則って「見解」の執筆を進めて行くこと。				

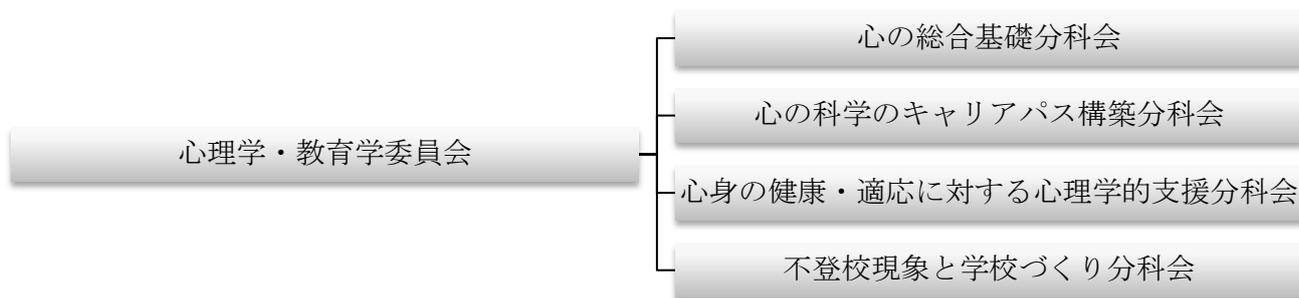
哲学委員会（芸術と文化環境分科会）					
委員長	吉岡 洋	副委員長	上原 麻有子	幹事	澁谷 政子
主な活動	審議内容				
	<ul style="list-style-type: none"> ・分野横断的なトピックについて、対面を基本とした公開シンポジウムの検討。 ・シンポジウムという形以外の、広く社会に還元できるような発信方法の模索。 ・様々なニーズや困難を抱えている人にとっての文化活動の役割の検討。 				
	意思の表出（※見込み含む）				

	現段階では予定なし。
	開催シンポジウム等
	検討中。
開催状況	
今後の課題等	予定の調整が困難だったため分科会がなかなか開催できなかったが、今後新しいテーマや活動形態に向けて公開シンポジウムのテーマや開催方法等を検討中。

哲学委員会（世界哲学構築のための分科会）					
委員長	河野 哲也	副委員長	納富 信留	幹事	伊藤 亜紗
主な活動	審議内容				
	本「世界哲学」分科会の目的・趣旨は、「世界哲学」の理念を学術的に整備・涵養しながら、そのプラットフォームとなる国際的な連携を構築し、FISP (la Fédération Internationale des Sociétés de Philosophie) による世界哲学会 (World Congress of Philosophy: WCP) などを通して、その理念を国内的・世界的に発信・浸透することにある。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
分科会が主催ではないが、会員と連携会員が参加して、「世界哲学と古典学」という全体テーマで日中哲学フォーラム（日本哲学会・中国社会科学院主催、2025年8月16～17日、北京）を実施した。またFISPが主催するオープンセミナー「World Philosophy and Dialogue」（2025年9月12日・16日、東京大学；2026年3月、京都大学）を共催ないし後援する予定である。					
開催状況	2024年12月22日、2025年8月26日※メール連絡・審議				
今後の課題等	2028年に東京で開催される第26回WCPに向けて、世界哲学の理念を整備・涵養し、国内外で、これをテーマとしたセミナー、講演会、シンポジウム、出版を、日本哲学系諸学会連合やFISPと連携して行なっていく。				

哲学委員会・心理学・教育学委員会合同（今に生きる・活かす古典を考える分科会）					
委員長	加藤 隆宏	副委員長	頼住 光子	幹事	八尾 史
主な活動	審議内容				
	<p>本分科会は、文学、教育の専門分野の協力を得て、高校生、教員、市民への調査と対話を通して「古典」の役割と活用方法を審議し、オンラインやデジタルデータを活用した古典と接する機会の創出をボトムアップで提言することを目指している。今年度は東京都高等学校公民科「倫理」「公共」研究会（略称：都倫研）と連携し、意見交換会などを行った。また、外部から参考人を招聘して講演会を行い、学習指導要領や大学共通テストにおける古典の活用の可能性について詳細に検討した。</p>				
	意思の表出（※見込み含む）				
	「見解」の表出に向けて準備を進めている。（申出書提出済）				
	開催シンポジウム等				
2025年1月11日 都倫研・古典分科会合同ミーティング 2025年3月20日 学術講演会（國學院大學教授澤田浩一氏）					
開催状況	第3回 2024年11月30日（合同分科会） 第4回 2024年12月13日 第5回 2025年3月20日 第6回 2025年5月10日 第7回 2025年7月28日				
今後の課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの活動の総括し、「見解」表出の準備を進める。 ・高校での出張授業などを通じ、現場の教員、生徒などたちと古典教育をめぐる諸課題を共有する。 ・これまで都倫研メンバーが所属する都内の学校を中心に連携してきたが、この活動を東京都以外の道府県に拡大していく。 				

③心理学・教育学委員会



心理学・教育学委員会					
委員長	坂田 省吾	副委員長	勝野 正章	幹事	明和 政子、西岡 加名恵
主な活動	審議内容				
	心理学・教育学委員会が中心となって活動する4つの分科会は意思の表出のための審議やシンポジウム開催の計画・実施等で活発に活動していることを確認している。2025年8月9日・10日開催の第一部夏季部会の世話役を本委員会の美馬のゆり委員が務めた。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	第26期中に意思の表出ができるように各分科会内で議論が進んでいる。				
	開催シンポジウム等				
開催状況	2025年7月26日「学校の公共性を問い直す」				
	2025年9月7日「高校心理学教育と心理学（者）との効果的なつながりを育むために教室での心理学シリーズ1」				
開催状況	第4回 2024年10月22日 ハイブリッド開催 第5回 2025年4月15日 ハイブリッド開催				
今後の課題等	今後の学術会議の活動に向けた議論が重要になる。				

心理学・教育学委員会（心の総合基礎分科会）					
委員長	坂田 省吾	副委員長	齋木 潤	幹事	川合 伸幸、綾部 早穂
主な活動	審議内容				
	意思の表出として「見解」の作成に向けての議論を進め、同時に公開シンポジウム開催に向けても意見交換をしている。				

	意思の表出（※見込み含む）
	見解「国立心理科学研究所（仮称）構想の推進」を表出するべく議論を進めている。
	開催シンポジウム等
	公開シンポジウム開催に向けて議論中
開催状況	第3回 2025年3月17日 オンライン会議 第4回 2025年9月6日 対面会議・東北学院大学
今後の課題等	見解を国民および関係省庁等に広く知ってもらうための活動と公開シンポジウムの開催

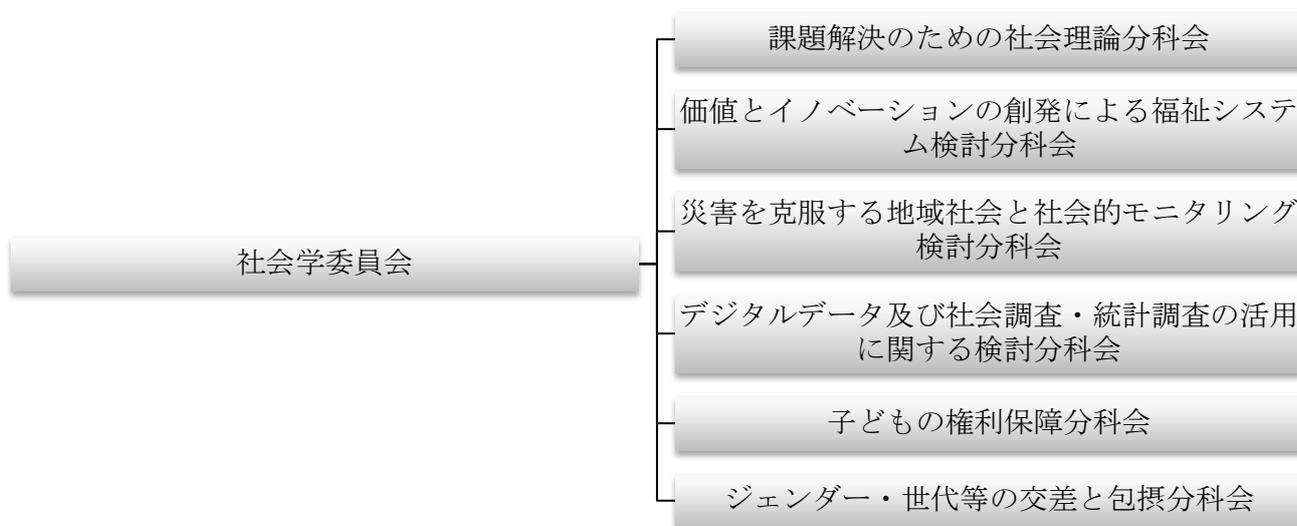
心理学・教育学委員会（心の科学のキャリアパス構築分科会）					
委員長	河原 純一郎	副委員長	蒲池 みゆき	幹事	伊丸岡 俊秀、高瀬 堅吉
主な活動	審議内容				
	第3回分科会では、楠見委員の話題提供に基づき意見交換を行うとともに、高大接続（入口）側および学部卒・大学院修了後の社会との接続（出口）側での進捗を共有した。第4回分科会では意思の表出の申出書についてメール審議し、承認された。第5回分科会では意思の表出案と内容について議論した。第6回分科会では意思の表出の申出書についてメール審議し、承認された。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	7月3日、意思の表出 申出書 報告「心についての科学教育の未来像～よりよい社会を実現するために～」を提出し、7月22日に科学的助言等対応委員会から助言書による回答を得た。現在はこれに対応中である。				
	開催シンポジウム等				
9月7日(日)13:40-15:20, 東北学院大学五橋キャンパス（日本心理学会第89回大会内）で公開シンポジウム「高校心理学教育と心理学（者）との効果的なつながりを育むために教室での心理学シリーズ1」を開催予定である。					
開催状況	<ul style="list-style-type: none"> ・第3回(2025年1月29日、ビデオ会議) ・第4回(2025年3月17-26日、掲示板での意見交換、メール決議) ・第5回(2025年4月17日、ビデオ会議) ・第6回(2025年5月28日-6月6日、掲示板での意見交換、メール決議) 				
今後の課題等	科学的助言等対応委員会から得た助言書をもとに、意思の表出（報告）を完成させるため、回答に対応する。				

心理学・教育学委員会・社会学委員会・法学委員会・臨床医学委員会・健康・生活科学委員会合同 (心身の健康・適応に対する心理学的支援分科会)					
委員長	嶋田 洋徳	副委員長	熊野 宏昭	幹事	佐々木 淳、佐藤 徳
主な活動	審議内容				
	分科会では、前期に引き続き、公認心理師制度を取り巻く最新情報の共有を行った。公認心理師は、保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働の主要5分野における活動を行っているが、その内容や専門性の発揮の仕方、具体的な社会貢献に関する実態は不明瞭な点が多い。そのため、厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部精神・障害保健課公認心理師制度推進室、主要5分野の各エキスパート研究・実践者、公認心理師職能団体の代表者を交えた公開シンポジウムを行い(2024年9月)、それを踏まえて、意思の表出に向けた議論を行った。				
	意思の表出(※見込み含む)				
	第26期中に意思の表出ができるように議論の準備を行っている。				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	2024年11月25日 オンライン開催				
今後の課題等	公認心理師の主要5分野の各特徴に応じたエビデンスに基づく具体的な社会貢献のあり方に関して引き続き検討する必要がある。				

心理学・教育学委員会(不登校現象と学校づくり分科会)					
委員長	西岡 加名恵	副委員長	酒井 朗	幹事	勝野 正章、山名 淳、伊藤 美奈子
主な活動	審議内容				
	<ul style="list-style-type: none"> ・本分科会は、不登校をめぐる研究や実践の蓄積を集約するとともに、今後、求められる「学校」の概念、ならびに学校づくりの方向性について審議している。 ・第3回・第4回の分科会においては本分科会で扱うべき論点を検討するとともに、公開シンポジウムの企画に関して審議した。 				
	意思の表出(※見込み含む)				
	第26期中に「記録」をまとめ、第27期に意思の表出を行う見込みである。				
	開催シンポジウム等				
	2024年12月15日 公開シンポジウム『学びの多様化学校』の学校づくりに学ぶ(オンライン開催)				
	2025年3月16日 公開シンポジウム「不登校現象に関する研究の到達点」(オン				

	ライン開催) 2025年7月26日 公開シンポジウム「学校の公共性を問い直す」(オンライン開催)
開催状況	第3回 2024年12月21日 オンライン開催 第4回 2025年3月16日 オンライン開催
今後の課題等	今後、「報告」の執筆を進め、分科会にて検討する。また、「報告(案)」について広く意見を募るような公開シンポジウムを開催することを検討している。

④社会学委員会



社会学委員会					
委員長	白波瀬 佐和子	副委員長	和氣 純子	幹事	有田 伸、阿部 彩
主な活動	審議内容				
	本委員会では、去る6月11日の日本学術会議法案の成立を受け、今後の日本学術会議の在り方について引き続き議論すると共に、社会学委員会の8つの分科会活動について状況を共有し、社会学コンソーシアムと共催企画についての進捗報告を受けた。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	第4回：2024年10月21日（水）11：30～12：15 対面開催 第5回：2025年4月14日（月）12：00～13：00 対面開催				
今後の課題等	今後の日本学術会議のあり方を隣接分野とも積極的に連携し検討していく。				

社会学委員会（課題解決のための社会理論分科会）					
委員長	遠藤 薫	副委員長	山田 真茂留	幹事	有田 伸、筒井 淳也
主な活動	審議内容				
	現代山積する社会的諸課題に対して、社会理論は大いに貢献しうるが、同時に、様々な他分野（人文社会科学系・理工学や医学など）との連携および一般市民や高校生などへのアウトリーチも重要である。そのために必要な具体的活動について、審議を行なった。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	特に予定はない。				
	開催シンポジウム等				
2025年11月に、公開シンポジウム「社会学のアウトリーチ」を開催予定					
開催状況	第3回委員会 2025年2月27日 15:00～17:00 第4回委員会 2025年7月26日 17:00～19:00				
今後の課題等	審議内容を踏まえて、他分野との連携および社会へのアウトリーチの具体的実践を実現する。				

社会学委員会（価値とイノベーションの創発による福祉システム検討分科会）					
委員長	和氣 純子	副委員長	金子 光一	幹事	木下 武徳、永田 祐
主な活動	審議内容				
	旧来型の福祉システムでは対応が困難な課題の増大に鑑み、包括性、多様性、当事者性、協働性、持続可能性等の価値の検討をふまえ、情報通信技術や人工知能などのイノベーションにより創発される新たな福祉システムのあり様を検討する。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	令和7年度中に報告「価値とイノベーションの創発による福祉システムの共創」を発出する予定である。				
	開催シンポジウム等				
2025年1月11日にシンポジウム「価値とイノベーションの創発による福祉システムの構築」をオンラインで開催した。申込者405名、当日参加者173名。					
開催状況	2025年1月11日 第4回分科会を開催。 2025年7月13日 第5回分科会を開催。				
今後の課題等	2025年1月11日開催のシンポジウム後に実施したアンケートをふまえ、令和7				

	年度に報告「価値とイノベーションの創発による福祉システムの共創」の発出をめざすとともに、報告をもとに2回目のシンポジウムを開催し、意見交換する。
--	--

社会学委員会（災害を克服する地域社会と社会的モニタリング検討分科会）					
委員長	山下 祐介	副委員長	町村 敬志	幹事	池田 恵子、中澤 秀雄
主な活動	審議内容				
	本分科会では、東日本大震災に代表される災害事象に加え、パンデミックによる災禍等を視野に入れ、それらを地域社会及びそこに暮らす住民がどう受け止め、次の世代に受け渡していくかを長期的体系的に検討するものである。内閣府防災庁設置準備室等関係機関・関係者にヒアリングを行い、報告案を作成、防災学術連携体や外部有識者・アドバイザーと共有し、検討を行った。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	報告「災害対応と復興政策のための社会的モニタリングと復興アーカイブの実質化を目指して」を提出、現在査読中である。				
	開催シンポジウム等				
	シンポジウム開催を引き続き検討中。				
開催状況	分科会開催：2024年10月14日、2025年1月15日、2月20日※、3月28日、4月22日、5月20日（オンライン開催、※ハイブリット開催）				
今後の課題等	上記報告の内容を広く世に問うとともに、相次ぐ災害、防災庁設置にむけた具体的な動きなど、引き続きの情報収集とそれに対する適切な分析発信に努めていく。				

社会学委員会（デジタルデータ及び社会調査・統計調査の活用に関する検討分科会）					
委員長	浅川 達人	副委員長	瀧川 裕貴	幹事	玉野 和志、村上 あかね
主な活動	審議内容				
	1. 第25期が作成を進めた「報告 社会調査・統計調査データの政策的な活用のために」を基に、本分科会で協議して「記録」に変更して公表した。				
	2. 生成 AI を含むデジタルデータの活用について、現状を把握し、問題点を検討し、ガイドラインの作成に取り組むことを決め、専門家へのヒアリングを行った。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	「報告 社会統計・統計調査データの政策的な活用のために」について議論し、「記録」に変更して公表した。				
	開催シンポジウム等				
	公開シンポジウム「デジタルデータ及び社会調査・統計調査の活用：方法と課題」を2025年7月19日（土）13:00～17:10に開催した。				

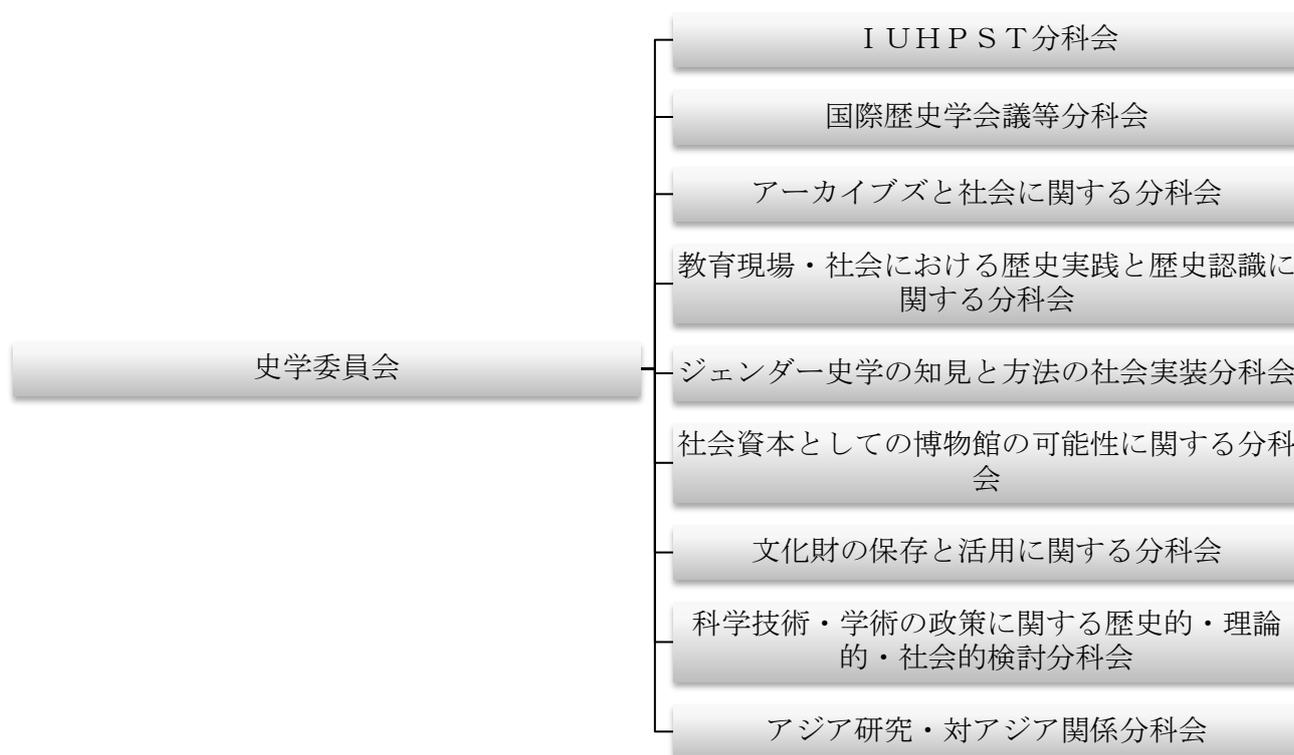
開催状況	2024年11月19日：オンライン会議開催。2025年7月19日：公開シンポジウム開催。
今後の課題等	従来主流であった社会調査（対面、留置、郵送、電話など）以外の方法によるデータ収集について、さらに数名の専門家に対してヒアリングを行う予定である。

社会学委員会・哲学委員会・心理学・教育学委員会・法学委員会・経済学委員会合同（子どもの権利保障分科会）					
委員長	阿部 彩	副委員長	河野 哲也	幹事	木村 草太
主な活動	審議内容				
	本分科会は、3つのワーキング・グループ（子どもデータ、親権・意見表明権、学校教育）にて個別の課題について議論を進めている。また、情報学委員会・心理学・教育学委員会合同教育データ利活用分科会が表出する予定である「教育データの利活用のさらなる促進に向けて」を、子どもの権利の観点から本分科会にて検討し、意見交換の上、賛同した。また、本分科会の取り組みとして、「子どもの権利から教員養成カリキュラムを検討する（仮題）」と題するシンポジウム等を企画することを決定した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等 2025年度後半に行う予定。				
開催状況	3つのワーキング・グループにてそれぞれの分野での議論を深め、2024年12月に全体分科会を開催して分科会としての今後の活動案を決定した。				
今後の課題等	シンポジウムの成果の効果的な発信を検討する必要がある。				

社会学委員会（ジェンダー・世代等の交差と包摂分科会）					
委員長	白波瀬 佐和子	副委員長	大沢 真理	幹事	河野 銀子、住居 広士
主な活動	審議内容				
	本分科会では「見解」を表出し、公開シンポジウムを開催することを決定した。それぞれ2つのワーキングを組織して作業を進め、見解案のテーマは性別情報に着目したジェンダー統計、公開シンポジウムはジェンダー主流化、とした。7月末には、「見解案 ジェンダー統計充実に向けた性別情報の意義」として第一案を取りまとめた。				

	意思の表出（※見込み含む）
	なし
	開催シンポジウム等
	なし
開催状況	第2回：2024年10月30日（月）15：00～17：00 オンライン開催 第3回：2025年3月10日（月）14：00～15：15 ハイブリッド開催
今後の課題等	他の委員会での関連テーマ分科会からも意見徴収をし見解案をまとめ、第一回査読結果を受けて対応している最中である。さまざまな意見がある中、一つの見解として表出できるよう鋭意努力中である。

⑤史学委員会



史学委員会					
委員長	大橋 幸泰	副委員長	芳賀 満	幹事	松本 直子、 吉澤 誠一郎
主な活動	審議内容				
	今期、史学委員会のもっとも大きな課題は、アーカイブズと社会に関する分科会と協力して、日本学術会議資料の保全と公開を少しでも前に進めることであった。その進め方について、ボランティアで保全活動にあたっている方々と意見を交換するとともに、第一部会員とも現状の情報を共有し、日本学術会議資料の国立公文書館への移管を強く要望した。その結果、その実現に向けて動き始めた。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
・公開シンポジウム「歴史教育シンポジウム「歴史総合」をめぐって(8)歴史総合・日本史探究・世界史探究の史資料を使う」(2024年10月27日開催、日本歴史学協会と共催、対面・オンライン併用)					

	・公開シンポジウム「第30回史料保存利用問題シンポジウム 危機にある「戦争関連資料」—歴史的文化遺産として残すために—」(2025年6月28日開催、日本歴史学協会と共催、対面・オンライン併用)
開催状況	第4回委員会、2024年10月21日対面・オンライン併用開催 第5回委員会、2025年4月14日対面・オンライン併用開催
今後の課題等	日本学術会議資料の国立公文書館への移管を継続的に進めるためには、そのルールづくりが不可欠である。それをどのように構築するかが課題となる。そのために、同資料が歴史的に重要であるとの認識の共有とその恒久的保全を求める活動を、アーカイブズと社会に関する分科会と協力しながら行うことが必要である。

史学委員会 (IUHPST 分科会)					
委員長	隠岐 さや香	副委員長	溝口 元	幹事	佐野 正博
主な活動	審議内容				
	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 国際科学史・技術史・科学基礎論連合 (IUHPST/DHST 及び IUHPST/DLMPST) への日本からの代表派遣・運営協力や日本の当該分野の国際発信・研究と教育振興のための情報共有および審議を行った。DHST 評議員選挙に杉本舞委員を擁立し得票率一位で当選を果たした。 				
	意思の表出 (※見込み含む)				
	検討中				
	開催シンポジウム等				
	検討中				
開催状況	第4回 2024年11月13日 第5回 2025年6月9日				
今後の課題等	IUHPST において日本の一層の貢献を図りつつ、同組織の動向を受けて国内向けに意思の表出をするかどうか検討していく。日本から DLMPST に派遣する後継者を探す。				

史学委員会 (国際歴史学会議等分科会)					
委員長	吉澤 誠一郎	副委員長	小関 隆	幹事	浅田 進史、松方 冬子
主な活動	審議内容				
	<ul style="list-style-type: none"> ・国際歴史学会議 100 周年記念会への対応について ・日韓歴史家会議の運営について 				
	意思の表出 (※見込み含む)				

	予定なし
	開催シンポジウム等
	2024年10月26日に国際研究集会(Crossings and Connections: East Asia and the World)を帝京大学八王子キャンパスで開催した。
開催状況	2025年1月11日、オンライン開催。
今後の課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・2026年8月開催予定の国際歴史学会議 100周年記念会(ライブツィヒ)において、日本国内委員会の組織によるセッションを成功させる。 ・「歴史学の国際化とは何か」をめぐる議論を活性化する。

史学委員会（アーカイブズと社会に関する分科会）					
委員長	大橋 幸泰	副委員長	太田 尚宏、 奥村 弘	幹事	岸本 覚、 西田 かほる
主な活動	審議内容				
	<p>主に二つの活動を行った。第一は、前期に発出した提言「新型コロナウイルス感染症のパンデミックをめぐる資料、記録、記憶の保全と継承のために」のフォローアップ。第二は、史学委員会と協力して、日本学術会議資料の保全と公開を進めるため、「意思の表出」の提出を目指すこと。特に後者については、草稿作成の準備に入る段階まで達したが、日本学術会議資料の国立公文書館への移管を進めるとの情報が入ったため、「意思の表出」の提出は取り止めた。ただし、過去の日本学術会議資料のみならず、本資料が将来にわたって確実に継承されていくためには、そのルールづくりが不可欠である。そこで、今後、「意思の表出」のために準備した草稿をもとに、幹事会・事務局に対して、日本学術会議資料が歴史的に重要であるとの認識の共有と、その恒久的保全を求める要望書を新たに作成することを考えている。</p>				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
開催状況	開催シンポジウム等				
	公開シンポジウム「第30回史料保存利用問題シンポジウム 危機にある「戦争関連資料」—歴史的文化遗产として残すために—」（2025年6月28日開催、日本歴史学協会と共催、対面・オンライン併用）				
開催状況	第3回分科会、2024年12月22日オンライン開催 第4回分科会、2025年4月6日オンライン開催 第5回分科会、2025年9月28日オンライン開催(予定)				

今後の課題等	日本学術会議資料が歴史的に重要であるとの認識の共有と、その恒久的保全を求める要望書を作成することが当面の課題である。また、当初、課題にあがっていた大学におけるアーカイブズ教育の充実については、教育現場・社会における歴史実践と歴史認識に関する分科会と協力して、行っていきたい。
--------	---

史学委員会（教育現場・社会における歴史実践と歴史認識に関する分科会）					
委員長	大橋 幸泰	副委員長	鈴木 茂	幹事	三時 眞貴子、 中村 元哉
主な活動	審議内容				
	歴史実践・歴史認識をめぐる問題の論点整理を行いながら、「意思の表出」の可能性を探っている。分科会では多様な論点が指摘されたので、それぞれの議論を深めるために、①歴史教育の現場、②歴史学と市民との接合、③アーカイブズ教育、の3つのワーキンググループに分かれて、論点整理の作業を継続中である。なお、アーカイブズ教育については、アーカイブズと社会に関する分科会の協力を得ながら議論を進めている。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
開催状況	開催シンポジウム等				
	公開シンポジウム「歴史教育シンポジウム「歴史総合」をめぐって(8)歴史総合・日本史探究・世界史探究の史資料を使う」(2024年10月27日開催、日本歴史学協会と共催、対面・オンライン併用)				
今後の課題等	上記3つのワーキンググループにおける議論とともに、歴史を学ぶとはどういうことかという根本的な論点を含めて、「意思の表出」まで到達できるかどうか模索中である。たとえ「意思の表出」が困難であっても、「報告」という形で、これまで議論したことをまとめたいと考えている。				

史学委員会（ジェンダー史学の知見と方法の社会実装分科会）					
委員長	長 志珠絵	副委員長	高橋 裕子	幹事	來田 亨子、小浜 正子
主な活動	審議内容				
	高校歴史教育の課題、地方自治体の男女共同参画の啓蒙冊子状況、社会実装・実践としての高大連携歴史教育研究会の活動等をめぐって、会員から3報告を得て意見交換を行い、見解案に向けた構想及び知見を深めるとともに、特に社会実装・実践としての課題を含め、意思の表出としての見解案の骨子、検討を進めた。				

	意思の表出（※見込み含む）
	「見解」について審議・作成中
	開催シンポジウム等
	年度末に予定
開催状況	2024年11月24日、2025年4月12日（日）、2025年7月13日、2025年9月4日にそれぞれ26期本分科会の会議（Zoom）第3回～第6回として開催
今後の課題等	「見解」の提出及び高大連携学会のジェンダー史部会等と連携してフォローアップをはかる

史学委員会（社会資本としての博物館の可能性に関する分科会）					
委員長	芳賀 満	副委員長	木俣 元一	幹事	金沢 文緒、橋本 佳延
主な活動	審議内容				
	1. 社会における博物館のあり方に関する重要事項の審議 2. 特に公的扶助により個人の幸福を保障すべき文化的社会資本としての多様な博物館のあり方の審議 に関すること				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	幹部による議論を進めている。				
今後の課題等	博物館は、過去を保存・解釈する義務を果たしつつも、眼前の現代社会の諸課題にどのように対応すべきか。				

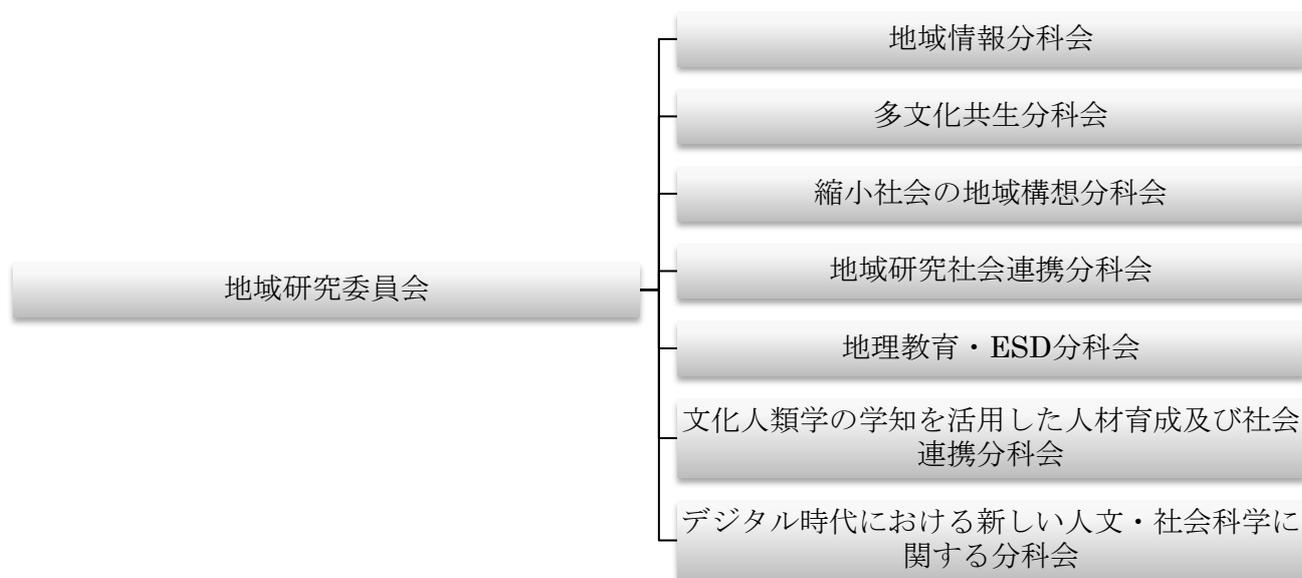
史学委員会（文化財の保存と活用に関する分科会）					
委員長	松本 直子	副委員長	宮路 淳子	幹事	松田 陽、辻田 淳一郎
主な活動	審議内容				
	人口減少や気候変動が予測されるこれからの社会において文化財をめぐる状況の改善にいかん資することができるか、さまざまな専門分野の委員からの問題提起を基に意見交換を行った。これまでの分科会の成果と課題を踏まえ、本分科会が行うべき活動について検討した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	見解等の提出を視野にいれて検討している。				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	第3回分科会 2025年3月11日オンライン開催 第4回分科会 2025年9月16日オンライン開催予定				
今後の課題等	シンポジウム実施や出版物刊行など、分科会として今後実施する企画を具体的に検討する。				

史学委員会・哲学委員会合同（科学技術・学術の政策に関する歴史的・理論的・社会的検討分科会）					
委員長	中村 征樹	副委員長	杉本 舞	幹事	隠岐 さや香、野内 玲
主な活動	審議内容				
	本分科会では、科学技術・学術の健全な発展とその有効な活用を可能とする科学技術・学術の政策のあり方について審議を行っている。第26期においては、科学技術・イノベーション政策のあり方、医療技術と倫理、および大学の自治とガバナンスをテーマとして取り上げることとし、ワーキンググループを作成して検討を行うこととした。今期中に公開シンポジウム等を実施することを予定している。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	第3回 2025年9月19日				

今後の課題等	科学技術・学術政策に関わる上記テーマに関する審議を踏まえたうえで、具体的にどのような形でシンポジウムを企画するかについては、今後の検討課題である。
--------	---

史学委員会・地域研究委員会・哲学委員会・言語・文学委員会合同（アジア研究・対アジア関係分科会）					
委員長	川島 真	副委員長	吉澤 誠一郎	幹事	三重野 文晴、 加藤 隆宏
主な活動	審議内容				
	25期の活動を踏まえた今期の活動の方向づけを審議し、コロナ禍後の新たな状況を踏まえたアジア研究の直面する課題				
	意思の表出（※見込み含む）				
	今期は行わない。コロナ禍後のアジア研究は、一部の国における権威主義体制の強化、また日本国内でのアジア系十分の増大などにより大きく変化していることなど、大きな研究環境の変化に直面している。それらの問題を摘出して記録に残し、この分科会が継続するのであれば以後の活動に活かしていく。				
	開催シンポジウム等				
	特になし				
開催状況	第26期第二回分科会（2025年7月25日） 第26期第三回分科会（2025年12月を予定）				
今後の課題等	引き続き日本のアジア研究の置かれている状況の変化について情報共有を図る。				

⑥地域研究委員会



地域研究委員会					
委員長	小長谷 有紀	副委員長	矢野 桂司	幹事	宇山 智彦、三尾 裕子
主な活動	審議内容				
	分科会単位で行われる意思の表出について、内容とプロセスを共有したうえで、査読を分担することとした。分野別委員会に固有の課題について審議する以前に、学術会議そのものの行方に関する議論が必要であった。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	意思の表出は分科会で行う。				
開催状況	開催シンポジウム等				
	シンポジウムは分科会で行う。				
開催状況	第26期・第1回（2023年10月4日） 第26期・第2回（2023年11月6日） 第26期・第3回（2024年4月23日） 第26期・第4回（2024年10月21日） 第26期・第5回（2025年4月15日）				
今後の課題等	各分科会で実施するシンポジウムに関して分科会を超えて協力すること。				

地域研究委員会（地域情報分科会）					
委員長	矢野 桂司	副委員長	中谷 友樹	幹事	伊藤 香織、埴淵 知哉
主な活動	審議内容				
	<p>本分科会では、様々な分野を横断する地域情報を的確に収集・管理・分析・統合・発信していく持続的な仕組みを構築するための議論を行う。また、代表的な地域情報の地図、地名、地域情報を扱う地理情報システム（GIS）などに関する国内的・国際的な社会的理解を促進するための技術的、制度的、倫理的、教育的な課題に関しても議論を進める。その目的のために、地域情報に関わる国内外の学協会や関連機関と連携し、膨大かつ多様な地域情報に関わる国際的な様々な課題を検討し、政策的な提言を行う。そして、第 25 期に提案した未来の学術振興構想のフォローアップを実施する。</p> <p>また、地名・UNGEEN 小委員会の審議を踏まえ、見解の意思の表出に向けて議論を展開する。</p>				
	意思の表出（※見込み含む）				
	地名に関する見解を 2026 年 3 月末を目標に発出する計画である。				
	開催シンポジウム等				
<p>以下の公開シンポジウムを実施した。</p> <p>●公開シンポジウム「人流ビッグデータがもたらす新しい未来像」、開催日 2025/ 3/ 1（土）13:00-17:00 場所オンライン開催（約 250 名参加） 主催：日本学術会議地域研究委員会地域情報分科会、共催：一般社団法人地理情報システム学会、一般社団法人人文地理学会、後援：地理学連携機構、公益社団法人日本地理学会</p> <p>●公開シンポジウム「地名標準化の現状と課題—UNGEEN の活動を理解し日本の地名を考える—」開催日 2025/ 5/24（土）13:00-17:15、場所オンライン開催（約 180 名参加） 主催：日本学術会議地域研究委員会地域情報分科会、地球惑星科学委員会 IGU 分科会、共催：日本学術会議地域研究委員会地域情報分科会地名・UNGEEN 小委員会、地理学連携機構、後援：公益社団法人日本地理学会、一般社団法人人文地理学会</p>					
開催状況	<p>第 26 期・第 2 回（2024 年 11 月 29 日）地域情報分科会</p> <p>第 26 期・第 3 回（メール審議）地域情報分科会</p> <p>第 26 期・第 3 回（2025 年 1 月 13 日）地域情報分科会地名・UNGEEN 小委員会</p>				
今後の課題等	地名に関する意思の表出に向けて、関連省庁などとの意見交換を継続的に行う必要がある。				

地域研究委員会（多文化共生分科会）					
委員長	竹沢 泰子	副委員長	吉村 真子	幹事	稲葉 奈々子、 上杉 富之
主な活動	審議内容				
	<p>政府等に求められる人種差別撤廃のための取組について、オンラインにて参考人を招聘し、質疑応答を行った。</p> <p>多文化共生の特に次世代の高等教育（大学）のあり方について、一般社会に向けた公開シンポジウムに向けて審議した。</p> <p>参議院選挙の前後に顕在化した排外主義について、分科会としての取り組み方について審議した。</p>				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
開催状況	開催シンポジウム等				
	2025年1月25日「阪神・淡路大震災30年と次世代の多文化共生～問われる日本の教育と若者の未来～」(ハイブリッド開催、於：関西外国語大学)				
	2026年2月1日（予定、東京都教育委員会とコラボの予定、ハイブリッド開催）				
今後の課題等	排外主義・人種差別に関して分科会としてシンポジウムなどの形態で社会発信を予定。				

地域研究委員会（縮小社会の地域構想分科会）					
委員長	中澤 高志	副委員長	小池 司朗	幹事	片岡 博美、近藤 章夫
主な活動	審議内容				
	<p>本分科会の審議内容は、社会の規模縮小と多様性の増大に起因する諸課題に対してレジリエンスの高い地域のあり方について、ソフト・ハードの両面から構想することである。2025年度は、人口減少と東京一極集中、地域生活圏、産業立地と地域政策、多文化共生の4つのワーキンググループを設置し、公開シンポジウムの開催と意思の表出に向けて審議を重ねてきた。</p>				
	意思の表出（※見込み含む）				
	意思の表出「報告」の発出を準備している。申出書を提出し、それに対する助言を受けており、現在「報告（案）」を作成中である。				

	開催シンポジウム等 なし。なお、2025年10月11日（土）に経済地理学会北東支部と共同主催で、公開シンポジウム「縮小社会における地域の持続可能性」を開催する。
開催状況	第4回分科会（2025年4月3日、オンライン開催） 第5回分科会（2025年6月25日、オンライン開催） 第6回分科会（2025年9月16日予定、オンライン開催） 第7回分科会（2025年10月11日予定、ハイブリッド開催）
今後の課題等	公開シンポジウムを開催後、速やかに「報告（案）」を提出し、査読を受ける。「報告」の発出が認められれば、そのフォローアップに務める。

地域研究委員会（地域研究社会連携分科会）					
委員長	宇山 智彦	副委員長	川島 真	幹事	梅屋 潔、幡谷 則子
主な活動	審議内容				
	地域研究の社会連携に関する外部ヒアリングを、外務省・文部科学省の担当者から行うとともに、これまでに行った分科会委員の報告・アンケートや以前の期の関連分科会の活動も踏まえながら、意思の表出の準備を進めた。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	報告「不安定化する世界における地域研究の社会連携体制の構築：現状と課題」（仮称）				
	開催シンポジウム等 なし				
開催状況	第3回 2025年6月30日※オンライン				
今後の課題等	上記報告を2026年3月までに発出し、地域研究の社会連携について、研究者・実務家・関連諸機関・団体等の議論を喚起し、連携体制の構築につなげていく。				

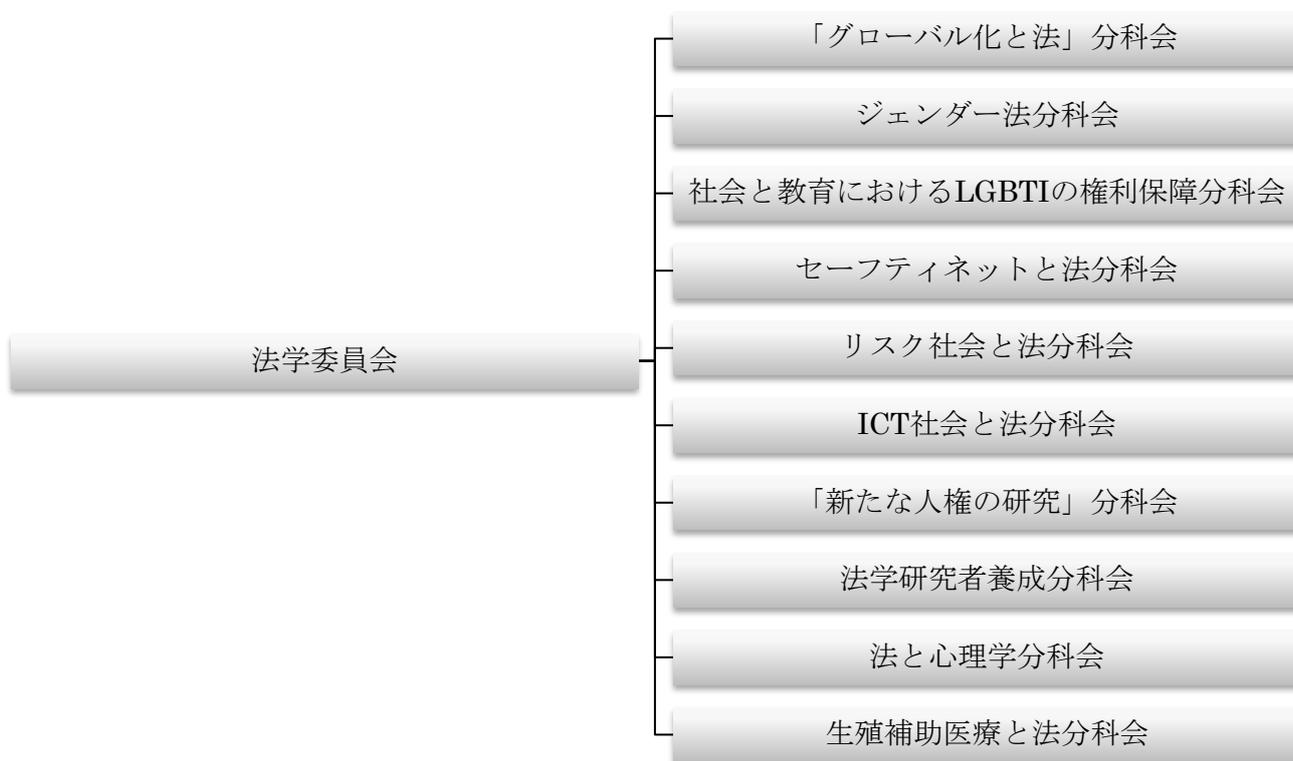
地域研究委員会・地球惑星科学委員会合同（地理教育・ESD分科会）					
委員長	井田 仁康	副委員長	村山 朝子、 由井 義通	幹事	久保 純子、 山野 博哉
主な活動	審議内容				
	地理教育・ESD分科会は、学校地理教育小委員会と国際理解教育の社会実装小委員会とを設置し、学校教育の地理においてESDの推進を図り、SDGsを含む持続可能な社会・地球へ向けての教育について小学校から高等学校、大学までの一貫した地理教育および社会への発信について審議する。				

	意思の表出（※見込み含む）
	2つの小委員会で審議された内容を分科会で検討し、提案としてまとめる。2026年3月に見解を表出予定である。
	開催シンポジウム等
	・公開シンポジウム「初等教育における世界的な視野の獲得について」（日本地理学会と共同主催）2025年3月20日（於駒澤大学） ・公開シンポジウム「地球的課題解決のための資質・能力を育成する地理教育—小学校・中学校・高等学校までの一貫カリキュラムに向けて—」（日本地理学会と共同主催）2025年9月21日（於弘前大学）
開催状況	第3回 2025年1月6日 第1回国際理解教育の社会実装小委員会 2025年1月6日 第4回 2025年7月24日
今後の課題等	2025年9月シンポジウムでの議論をふまえ、公表予定時期までに「見解」をまとめることである。

地域研究委員会（文化人類学の学知を活用した人材育成及び社会連携分科会）					
委員長	伊藤 泰信	副委員長	平田 貞代	幹事	小川 さやか、木村 周平
主な活動	審議内容				
	本分科会は、人文社会科学領域の学知を、民間企業や公共セクターなどの実務に活用しようとする動きが日本でも始まりつつあることに鑑み、文化人類学をはじめとする人文社会科学領域の学知を、アカデミアに閉じず、日本社会における社会人／企業人の人材育成（リカレント教育）や社会連携にいかんにか活用し得るかについて、多角的に審議し、社会発信を行うことを目的としている。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
なし					
開催状況	第1回（2024年10月31日、オンライン）では、各自の関心や活動の要望について情報共有を行った。第2回（2025年2月17日、オンライン）では、一般社団法人デサイロ（De-Silo）、第3回（2025年3月10日、オンライン）では、大阪大学フォーサイト株式会社における、人文・社会科学の学知の活用をめぐる取り組みについて、それぞれ活発な議論が行われた。				
今後の課題等	人文・社会科学の学知の活用をめぐる関連する／先行する取り組みの紹介・共有を通して本分科会の議論の土台をつくっていくこととする。				

地域研究委員会・言語・文学委員会・哲学委員会・心理学・教育学委員会・社会学委員会・史学委員会・法学委員会・経営学委員会・情報学委員会合同（デジタル時代における新しい人文・社会科学に関する分科会分科会）					
委員長	永崎 研宣	副委員長	矢野 桂司	幹事	平田 貞代、後藤 真
主な活動	審議内容				
	人文・社会科学に関して、デジタル時代の新しい展開について総合的な議論を行う。特に、デジタル技術の特質を人文・社会科学に適切に活用できるようにするための方策を検討する。特に、質的研究にかかる研究データの扱いについて議論を深めた。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	見解の表出に向けて文書を作成することを決定し、現在は執筆を進行中である。				
	開催シンポジウム等				
シンポジウム開催について合意が得られ、その内容について検討を行っている段階である。					
開催状況	第26期・第3回（2025年3月30日）分科会をオンラインで開催した。				
今後の課題等	見解の作成とシンポジウムの開催の準備を通じて議論を深める予定である。				

⑦法学委員会



法学委員会					
委員長	川嶋 四郎	副委員長	島岡 まな	幹事	山田 八千子、小畑 郁
主な活動	審議内容				
	<p>法学委員会は、学術会議任命拒否問題や日本学術会議のあり方（特に、法人化の問題等）等について、活発な意見交換を行い、2025年4月開催の総会において内閣府提出に係る日本学術会議法案の修正に向けた決議の提案等に関する意見交換等を頻繁かつ活発に行った。</p> <p>なお、法学委員会の複数の構成会員は、法人化課題に対する日学の対応に関して積極的な貢献を行った。</p>				
	意思の表出（※見込み含む）				
<p>法学委員会としては、予定なし。</p> <p>ただし、第25期の期首に3名の会員任命が拒否された法学委員会として、第25期に引き続き、日本学術会議が推薦した候補者を内閣総理大臣が会員に任命しないことは、法律の趣旨のみならず法律の明文の規定にも適合しない事態であるから、速やかな説明だけではなく、即時の任命が必要である旨の再確認を行った。</p> <p>また、法人化問題については、上記日本学術会議法案に対する「評価」や「意見」</p>					

	<p>等を日本学術会議 HP で公表し、法案修正のための基本指針を提供した。その後、第 194 回日本学術会議総会（2025 年 4 月 15 日）において投票により可決された 2 つの決議（「日本学術会議法案の修正について」および「次世代につなぐ日本学術会議の継続と発展に向けて～政府による日本学術会議法案の国会提出にあたって」）について、両決議の実現に向けた活動の必要性とその具体的内容、会員間の意見交換の必要性と条件整備の重要性などについて、意見交換を行った。</p> <p>特に、決議「日本学術会議法案の修正について」の趣旨に適うかたちの活動を、法学委員会が行うことを確認した。</p> <p>その後、衆参両議院による上記法案の可決成立を受けて、衆参両院の内閣委員会の附帯決議をどうみるか、新法の下で問題となる論点や法学委員会の関与のあり方等、および、今後のスケジュール等について、意見交換を行った。</p> <p>開催シンポジウム等</p> <p>第 14 回基礎法学総合シンポジウム「婚姻は、いかなる意味で、どこまで『契約』なのか—歴史・比較・展望—」（2024 年 7 月 20 日（土））を基礎法系学会連合と共催した（既出）。</p> <p>「STEM 分野の未来を支える多様性とは：教育・探究・キャリアをつなぐ対話—理系の男女差を解決する鍵は、小中教育？家庭？地域？」を共催する。</p> <p>（開催予定日：2026 年 2 月 21 日、日本学術会議講堂）</p>
<p>開催状況</p>	<p>開催回数：11 回（ウェブ開催。ただし、総会時の開催はハイブリッド形式で開催。回数表記は、第 26 期の通算による。）</p> <p>第 4 回 2024 年 10 月 21 日</p> <p>第 5 回 2025 年 2 月 23 日</p> <p>第 6 回 2025 年 3 月 17 日</p> <p>第 7 回 2025 年 3 月 23 日</p> <p>第 8 回 2025 年 3 月 28 日</p> <p>第 9 回 2025 年 4 月 4 日</p> <p>第 10 回 2025 年 4 月 15 日</p> <p>第 11 回 2025 年 4 月 16 日</p> <p>第 12 回 2025 年 5 月 5 日</p> <p>第 13 回 2025 年 7 月 3 日</p> <p>第 14 回 2025 年 7 月 10 日</p>
<p>今後の課題等</p>	<p>今後も引き続き、法学委員会およびその分科会等の運営を推進するとともに、上記再確認事項等をも踏まえ、法人化後の諸課題に対して、法学委員会およびその構成員として様々なかたちで積極的に関与して行きたい。</p>

法学委員会（ジェンダー法分科会）					
委員長	島岡 まな	副委員長	南野 佳代	幹事	石田 京子、安田 拓人
主な活動	審議内容				
	<ul style="list-style-type: none"> ・政治学委員会民主主義の深化と退行に関する比較政治分科会と共同での「見解」発出に向けて活動した。 ・科学者委員会ジェンダー・エクイティ分科会による「第6次男女共同参画基本計画に係る提言」及び「包括的反差別法に向けた提言」発出へ協力した。 				
	意思の表出（※見込み含む）				
	見解「女性の政治参画を進めるための制度改革と環境整備について」（発出見込み）				
	開催シンポジウム等				
	<ul style="list-style-type: none"> ・国際シンポジウム「LGBTQの権利保障をめぐる法整備の現状と課題」（2024年10月27日（日）オンライン開催）を法学委員会社会と教育におけるLGBTIの権利保障分科会、科学者委員会ジェンダー・エクイティ分科会と共同主催。 ・公開シンポジウム「第6次男女共同参画基本計画に向けた日本学術会議の期待」（2024年12月22日（日）オンライン開催）を科学者委員会ジェンダー・エクイティ分科会、第一部総合ジェンダー分科会、第二部生命科学ジェンダー・ダイバーシティ分科会、第三部理工学ジェンダー・ダイバーシティ分科会、史学委員会ジェンダー史学の知見と方法の社会実装分科会と共同主催。 				
開催状況	<ul style="list-style-type: none"> ・2024年12月9日（月）（オンライン） ・2025年5月13日（水）（政治学委員会民主主義の深化と退行に関する比較政治分科会（第26期第4回）との合同会議、オンライン） 				
今後の課題等	見解発出後のフォローアップ（公開シンポジウムの共同主催等）				

法学委員会（社会と教育におけるLGBTIの権利保障分科会）					
委員長	三成 美保	副委員長	南野 佳代	幹事	鈴木 賢、大河内 美紀
主な活動	審議内容				
	LGBTI（性的マイノリティ）の権利保障に関して、国際比較を通じ、日本の法的・政策的課題を検討する。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	見解「性的マイノリティの権利保障をめざして（Ⅲ）——司法判断の進展をふまえて」と見解「婚姻の平等実現に向けた民法改正への提言～相次ぐ違憲判決をふまえて～」を2026年3月に発出予定である。				
	開催シンポジウム等				
	2024年10月27日「国際シンポジウム：LGBTQの権利保障をめぐる法整備の現状と課題」を開催した。				

	以下に動画 URL を掲載： https://www.scj.go.jp/ja/event/2024/370-s-1027.html 2025 年 11 月に「婚姻平等」に関するシンポジウムを予定している。
開催状況	第 3 回 2025 年 7 月 13 日 見解の発出について 第 4 回 2025 年 9 月（予定）見解案の検討・シンポジウム準備について
今後の課題等	シンポジウム開催及び見解 2 件の準備。

法学委員会（セーフティネットと法分科会）					
委員長	丸谷 浩介	副委員長	石田 道彦	幹事	廣瀬 真理子、 高田 清恵
主な活動	審議内容				
	研究領域、構成員の問題意識に沿ってセーフティネット概念をどのように把握しているのかについて、意見交換を行っている。それが法とセーフティネットとのかかわりにおいて、期待されるセーフティネットの分野と領域、それらに対して法に期待される役割について共通理解を得るべく、審議を行っている。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	予定なし				
	開催シンポジウム等				
	未定				
開催状況	第 2 回 2025 年 5 月 10 日 第 3 回 2025 年 8 月 31 日				
今後の課題等	分科会構成員の研究領域が多様であるため、最終的な意思表示に向けた検討の軸をどのように設定すべきかが直近の課題である。問題意識の共有と方向性の決定のためにシンポジウム等をどのような形式にすべきかが中期的課題である。				

法学委員会（リスク社会と法分科会）					
委員長	大塚 直	副委員長	中山 竜一	幹事	林 秀弥、島村 健
主な活動	審議内容				
	現代社会は、科学技術が発達する中、多様なリスクに囲まれたリスク社会であり、我々は科学技術の恩恵を受けるとともに、種々のリスクに曝されている。これに関して、近時、欧州ではデジタルとグリーンという二大分野でリスクに対する法的対応が進行している。本報告では、化学物質、医療、サイバー空間とフィジカル空間の融合、自動運転、原子力発電、気候変動、生物多様性喪失、東京一極集中などの様々な現代的リスクに対し、法学を中心としつつ、政策を含めつつ、				

	各種リスクを横断して、その抑止がどのようになされるべきか、どのような場合には受容せざるを得ないのかを考察する。
	意思の表出（※見込み含む）
	審議とともに、進行中
	開催シンポジウム等
	審議の区切りができた段階で開催の予定
開催状況	2024年11月17日：第3回 2025年1月13日：第4回 2025年2月2日：第5回 2025年4月13日：第6回 2025年6月8日：第7回 2025年8月11日：第8回
今後の課題等	多様なリスクをカテゴリーに分けて対応すること。

法学委員会（ICT社会と法分科会）					
委員長	川嶋 四郎	副委員長	林 秀弥	幹事	木下 麻奈子、川和 功子
主な活動	審議内容（※審議結果からの主要な意見、今後の審議予定課題などを含む）				
	各自の問題意識の共通項を見い出しつつ、特定の分野・論点に限定せず、立法政策的な観点を含めて幅広く検討することを確認したうえで、本分科会が開催を予定しているシンポジウムの具体的内容について検討してきた。				
	意思の表出（※予定含む）				
	見解等、意思の表出は予定していない。				
	開催シンポジウム等（※予定含む）				
	シンポジウムの開催を予定している。				
開催状況	開催回数3回： 2024年7月7日 2024年10月5日 2025年3月29日				

今後の課題等	シンポジウムの内容を具体化したい。
--------	-------------------

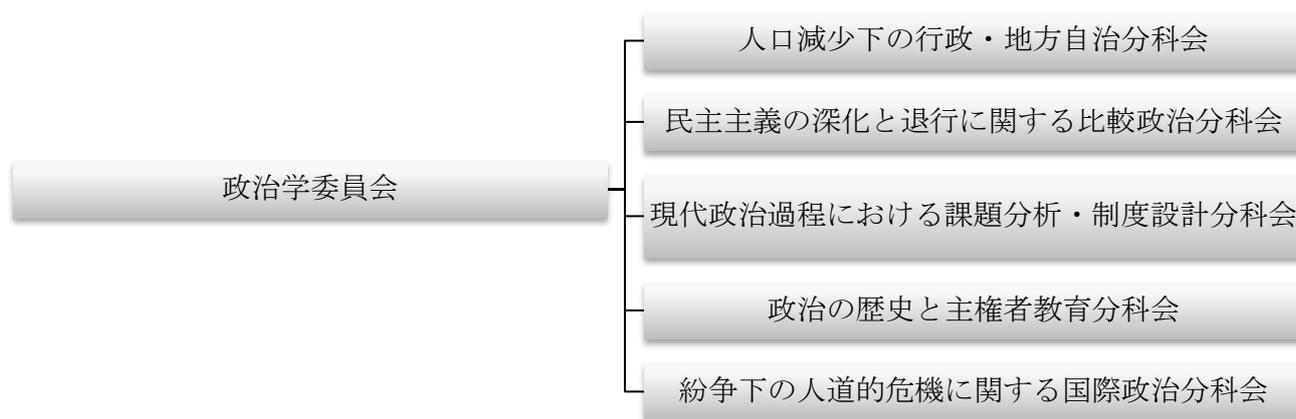
法学委員会（「新たな人権の研究」分科会）					
委員長	只野 雅人	副委員長	小畑 郁、葛野 尋之	幹事	林 真貴子
主な活動	審議内容				
	<ul style="list-style-type: none"> ・内外の新たな人権状況を踏まえつつ、関連分野の研究や人権をめぐる実務の動向を検討し、新たな人権の課題と可能性について、意思の表出を目指している。 ・今年度は、①総論（人権問題の位相）、②各論（人権問題の現況）、③立法による具体化・救済手段といった意思の表出（報告）という構成を念頭に、他分野や実務家からの問題提起もふまえ、検討を進めた。 				
	意思の表出（※見込み含む）				
	<ul style="list-style-type: none"> ・今期中の意思の表出（報告）を予定している。 ・構成は上述の①②③を予定している。 				
開催シンポジウム等	開催シンポジウム等				
	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の成果をふまえ、今期中のシンポジウム開催の可能性を検討している 				
催状況	<p>開催回数3回（いずれもオンライン）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第3回（2024年12月27日）：「無実を求める権利」「誤判を免れる権利」と刑事再審制度改革 ・第4回（2025年3月2日）：人権の私人間適用 ・第5回（2025年7月13日）：「言語権」／国家人権機関設置をめぐる動向 				
今後の課題等	上記構成案の②③に関し、実務家との対話も交えつつ、なお検討が不十分な点について議論を進めてゆく。				

法学委員会（法学研究者養成分科会）					
委員長	川嶋 四郎	副委員長	片山 直也	幹事	本庄 武、橋本 祐子
主な活動	審議内容（※審議結果からの主要な意見、今後の審議予定課題などを含む）				
	<p>平成23年〔2011年〕9月22日付『法学研究者養成の危機打開の方策－法学教育・研究の再構築を目指して』（第1部、法学委員会法学系大学院分科会提言）の検討を行うことや、法学研究者養成に関する分野別の現状把握が必要であることなどが確認したうえで、今後、アンケート調査などを実施し、法学研究者養成の方策を考える。</p>				
	意思の表出（※予定含む）				

	意思の表出は考えていない。
	開催シンポジウム等（※予定含む）
	シンポジウムを開催する予定。
開催状況	開催回数 2 回 2024 年 11 月 24 日 2025 年 3 月 26 日
今後の課題等	シンポジウムの内容を具体化する。

法学委員会・心理学・教育学委員会合同（法と心理学分科会）					
委員長	笠井 修	副委員長	仲 真紀子	幹事	豊崎 七絵、笹倉 香奈
主な活動	審議内容				
	「法実務と心理学」をテーマとして、種々の法分野の法適用に対する心理学の応用につき、①「法実務と法理論から見た心理学」、②「心理学から見た法理論」の各観点から共同研究を進めている。 第 26 期 2 年目は、第 3 回～第 6 回の会議を開催し（第 6 回は予定）、法学・心理学相互の研究報告と議論を行ってきた。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	各法分野における心理学の応用成果について意見表出を予定しており、調整中である。				
開催状況	開催シンポジウム等				
	第 26 期の研究成果の公表としてシンポジウムの開催を予定している（2026 年 9 月）。心理学分野の学会との共催の形で、上記①②の 2 部構成のもと、研究成果を発表する予定である。				
今後の課題等	法と心理学の学際的な研究を深め、新たな成果をまとめ発表することとする。第 9 回までの会議を予定しており、研究成果の蓄積を見込んでいる。				

⑧政治学委員会



政治学委員会					
委員長	鈴木 基史	副委員長	谷口 尚子	幹事	城山 英明 早川 誠
主な活動	審議内容				
	<p>・26期の政治学委員会は、同委員会の具体的な活動を担う、設置された以下の5つの分科会が円滑に活動を行えるように審議した。各分科会活動に関しては当該分科会の報告書を参照のこと。また、本報告書の開催シンポジウム等の欄に記されているように、政治学委員会として2件の公開シンポジウムと1件の国際学会における論文プレゼンテーションのパネルを提供した。</p> <p>政治の歴史と主権者教育分科会 人口減少下の行政・地方自治分科会 現代政治過程における課題分析・制度設計分科会 民主主義の深化と退行に関する比較政治分科会 紛争下の人道的危機に関する国際政治分科会</p>				
	意思の表出（※見込み含む）				
	<p>・見解「女性の政治参画を進めるための制度改革と環境整備について」 発出分科会：民主主義の深化と退行に関する比較政治分科会 法学委員会ジェンダー法分科会 発出時期：2025年後半（対応委員会受理番号：26-012）</p>				
	開催シンポジウム等				
<p>・公開シンポジウム「未来を創る主権者教育」 主催：政治学委員会 日時：2025年3月19日（火）オンライン ・公開シンポジウム「第18回情報学シンポジウムー生成AIとICTが拓く未来：</p>					

	<p>市民参加型デモクラシーとまちづくり」</p> <p>主催： 政治学委員会、情報学委員会</p> <p>日時： 2025年7月18日（金）ハイブリッド</p> <p>・国際学会への貢献</p> <p>Panel, “The Politics of Aging Societies in East Asia,” 2025 World Congress of the International Political Science Association, Seoul, South Korea, July 13-16, 2025.</p> <p>共催： 政治学委員会</p> <p>日時： 2025年7月14日（月）対面開催</p>
開催状況	1回の公式会合： 2025年4月15日（火）対面開催
今後の課題等	上記の5分科会の活動が設置案に即して円滑に行われるように調整し、適宜助言しつつ、政治学委員会として活動すべき課題については別途対応する予定である。

政治学委員会（人口減少下の行政・地方自治分科会）					
委員長	原田 久	副委員長	入江 容子	幹事	伊藤 正次、嶋田 暁文
主な活動	審議内容				
	人口減少下で行政・地方自治が果たすべき役割について意見交換を行った上で、日本地方自治学会との共催で行うシンポジウムの内容・登壇者について審議を行った。また、地域研究委員会縮小社会の地域構想分科会が開催するシンポジウムにおける連携・協力の在り方について審議を行った。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	「人口減少下の地域福祉と地方自治」（2025年11月15日、長野県立大学にて開催予定）				
開催状況	第3回：2024年10月13日（日）10時～12時、Zoom会議 第4回：2025年7月6日（日）10時～11時、Zoom会議				
今後の課題等	関連する分科会と連携・協力しつつ、人口減少時代の公共サービスの担い手という観点からシンポジウムを開催し、社会的貢献を行うことを今後の課題としたい。				

政治学委員会（民主主義の深化と退行に関する比較政治分科会）					
委員長	大串 和雄	副委員長	粕谷 祐子	幹事	遠藤 貢、久保 慶一
主な活動	審議内容				
	「民主主義の深化」に関しては、女性の政治参画小委員会を中心として見解案（下記「意思の表出」を参照）の検討を進め、法学委員会ジェンダー法分科会との合同分科会を経て、2025年6月に事務局に提出した。「民主主義の退行」に関しては、公開シンポジウム（下記「開催シンポジウム等」を参照）を開催するとともに、ハンガリー、ジョージア、ベネズエラ、グアテマラ、ペルーに関する研究会を実施して、民主主義退行のプロセスに関して考察を深めた。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	法学委員会ジェンダー法分科会と共同で見解「女性の政治参画を進めるための制度改革と環境整備について」を提出した（本稿執筆時点で査読中）。				
	開催シンポジウム等				
「2024年実施選挙と政党体制」（2025年6月29日、オンライン開催、日本比較政治学会と共同主催）					
開催状況	分科会 2024年12月26日、2025年5月13日（ジェンダー法分科会と合同） 小委員会 2024年11月13日、2025年4月2日、2025年4月18日				
今後の課題等	見解を発出したのちに、政党などの関係諸機関向けの説明会を開催する。また、公開シンポジウムを開催し、関係諸機関や市民との意見交換を進め、社会的合意形成を目指す。社会的インパクトの測定にあたっては、関係諸機関からフィードバックを集め、メディア掲載を取りまとめる。また民主主義の退行に関わる一連の公開シンポジウムと内部の研究会を踏まえて、記録を作成する。				

政治学委員会（現代政治過程における課題分析・制度設計分科会）					
委員長	谷口 尚子	副委員長	内山 融	幹事	井田 正道、中谷 美穂
主な活動	審議内容				
	現代政治過程における課題とその解決のための制度設計について審議した。特に健全な選挙や民主主義を脅かすような活動や情報環境の影響に焦点をあて、制度的是正策や若者への教育のあり方について検討した。これらの点に関するシンポジウムの企画・運営を行った。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	特になし。				
	開催シンポジウム等				
・2025年3月19日（水）に政治学委員会主催のオンライン・シンポジウム「未来を創る主権者教育」が開催され、本分科会メンバーが報告や討論を行った。					

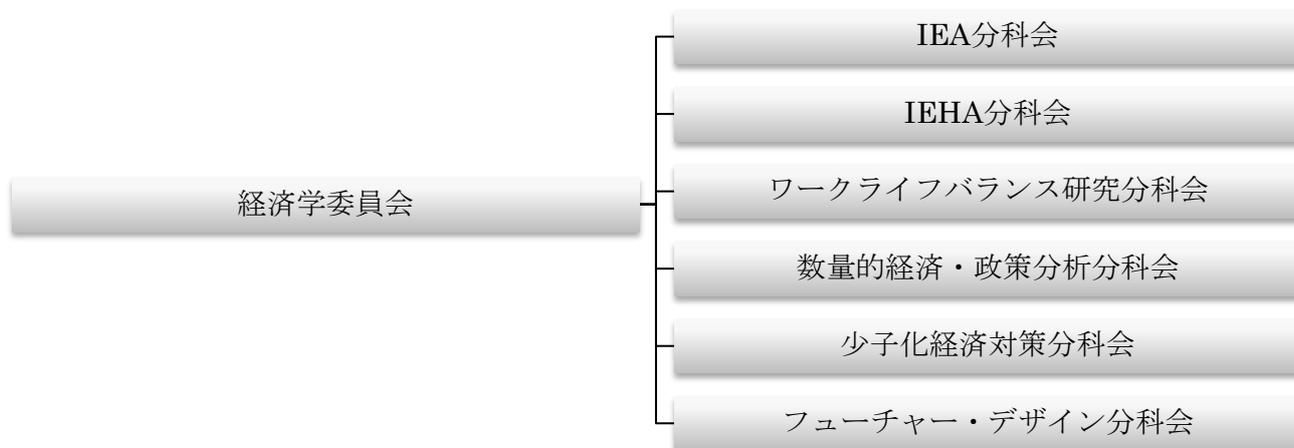
開催状況	第1回分科会：2025年3月19日（水）17：00～18：00 オンライン開催
今後の課題等	高校における主権者教育の実践を続け、自治体等との連携も探る。また、健全な選挙や情報環境のあり方を検討するシンポジウムを企画する。

政治学委員会（政治の歴史と主権者教育分科会）					
委員長	早川 誠	副委員長	田村 哲樹	幹事	中澤 俊輔
主な活動	審議内容				
	<ul style="list-style-type: none"> ・2024年2月提出の委員候補者名簿がその後承認されたことを受け、第1回・第2回公式会合を開催し、シンポジウムないし研究会等の年度内開催に向けて議論を進めている。 ・政治学委員会主催シンポジウムに本分科会会員が登壇した。 				
	意思の表出（※見込み含む）				
	・特になし。				
開催状況	開催シンポジウム等				
	<ul style="list-style-type: none"> ・2025年3月19日（水）に政治学委員会主催のオンライン・シンポジウム「未来を創る主権者教育」が開催され、本分科会メンバーから2名が登壇した。 				
開催状況	第1回分科会：2024年12月17日（火）15：00～16：00 オンライン開催 第2回分科会：2025年8月22日（金）13：00～16：00 日本学術会議会議室				
今後の課題等	新規参加の分科会員が多いため、日本学術会議に関する法令の改正状況を共有しつつ、分科会活動の内容を定めていくことが課題となっている。				

政治学委員会（紛争下の人道的危機に関する国際政治分科会）					
委員長	鈴木 基史	副委員長	石田 淳	幹事	都丸 潤子、栗栖 薫子
主な活動	審議内容				
	<p>武力紛争の勃発と残虐化の原因を解明し、その解決の条件を探るという喫緊の国際課題に取り組み、俯瞰的、分野横断的な観点から、単独の学協会では代替できない研究を実施することを本分科会の目的としている。対象期間では、その結果をシンポジウム等として公表することを審議し、そのうち以下を実施した。2024年10月5日には公開シンポジウム「迷走する国際秩序と人道危機」https://www.sci.go.jp/ja/event/2024/368-s-1005.htmlを開催し、その成果を英語による編著書として公刊することを決定し、その詳細を審議した。2025年度には、公開シンポジウム「戦後80年の国境横断ガバナンスの形成と変容—開放と閉鎖の相克—」を2025年9月27日に青山学院大学青山キャンパスにて開催することを決定し、その詳細な実施要領について審議した。</p>				
	意思の表出（※見込み含む）				

	特になし。
	開催シンポジウム等
	<ul style="list-style-type: none"> ・公開シンポジウム「迷走する国際秩序と人道危機」2024年10月5日、東京大学駒場キャンパスおよびオンライン、https://www.scj.go.jp/ja/event/2024/368-s-1005.html ・公開シンポジウム「戦後80年の国境横断ガバナンスの形成と変容—開放と閉鎖の相克—」2025年9月27日、青山学院大学青山キャンパスおよびオンライン
開催状況	<ul style="list-style-type: none"> ・1回の公式ハイブリッド会合： 2024年11月16日（札幌コンベンションセンター） ・2回の公式オンライン会合： 2025年3月11日・7月28日
今後の課題等	上記のシンポジウムを開催し、その結果を具体的な研究成果としてまとめる準備を進めつつ、その後継となる活動を分科会設置案に即して実施する予定である。

⑨経済学委員会



経済学委員会					
委員長	大垣 昌夫	副委員長	依田 高典	幹事	臼井 恵美子、 森口 千晶
主な活動	審議内容				
	<p>期間中に第3回、第4回の経済学委員会が開催された。第3回の委員会では、意思の表出、その審査について、締切が第25期に比べて早まる等の留意点を確認した。第4回の委員会は2025年4月16日に開催され、翌日の総会で日本学術会議法案についての話し合いや投票が予想されており、学術会議の将来にとって重要なことであるだけに、経済学委員会は委員会としての法案に対する態度などは決めず、会員個人の考えと良心に従って発言や投票を行うことを決定した。</p>				
	意思の表出（※見込み含む）				
	<ol style="list-style-type: none"> ワークライフバランス研究分科会が「女性活躍を支える家族のウェルビーイングとワークライフバランスの実現」の見解の申出書を科学的助言等対応委員会に提出済。 少子化経済対策分科会が「少子化対策に関する提言（仮称）」の科学的助言等対応委員会への申出書提出に向け調整中。 				
開催状況	開催シンポジウム等				
	<p>公開シンポジウム「フューチャー・デザイン2025」 主催：フューチャー・デザイン分科会、一般財団法人キヤノングローバル戦略研究所 日時：2025年9月13日（土）10:00～17:25、9月14日（日）9:30～13:00 オンライン開催</p>				
開催状況	2024年10月22日（ハイブリッド開催）、2025年4月16日（ハイブリッド開催）				

今後の課題等	2つの分科会から意思の表出が予定されているので経済学委員会として迅速かつ十分な査読を行うこと。
--------	---

経済学委員会 (IEA 分科会)					
委員長	澤田 康幸	副委員長	グレーヴァ 香子	幹事	竹内 あい
主な活動	審議内容				
	<p>IEA (International Economic Association) は、経済学の分野において各国の代表的な経済学会をメンバーとする国際組織であって、第二次大戦後、一貫して経済学に関する国際的な共同研究と研究情報の交流機構として、重要な役割を果たしてきた。活動の2本柱は3年に一度開催される世界大会と、随時開催される円卓会議であるが、その成果は経済学の標準的な参照文献として利用され、古典的な地位を確立した出版物も数多い。本分科会の目的は、日本の様々な経済学会との連携や、世界大会に関する組織的な協力や情報提供の中核となり、IEAを含む国際学会等の活動を支援することである。</p> <p>国際学術団体活動状況 (内規第11条 活動報告) に従って、加入国際学術団体に関する調査票への記入内容をメール審議によって決定し、回答した。</p>				
	意思の表出 (※見込み含む)				
	特になし				
	開催シンポジウム等				
<p>次回の IEA・World Congress は2026年6月22-26日 (ベオグラード) を予定している。2025年度に、学術会議の「代表派遣会議の募集」に応募し、グループ 国際代表派遣 (学術会議・国際業務) を行う予定である。</p>					
開催状況	2025年5月28日～29日 (メール審議)				
今後の課題等	人文社会科学において経済学は国際性の高い分野の一つであり、今後も IEA との関係強化を通じて、日本の国際的プレゼンスの向上に務めることが重要である。				

経済学委員会 (IEHA 分科会)					
委員長	城山 智子	副委員長	なし	幹事	高槻 泰郎
主な活動	審議内容				
	<p>IEHA 分科会は経済史分野の国際学術団体である International Economic History Association (IEHA) と日本の経済史学界の間の連携を主な役割としている。26期第二回ミーティングでは、2028年の World Economic History Congress (WEHC) について、ウルグアイのモンテビデオで開催されることになった旨、城</p>				

	<p>山委員長より説明がなされた。その他、IEHAのExecutive Committee (EC)の後任として、本分科会幹事の高槻泰郎氏を推薦することについて確認がなされた。2025年4月のIEHA理事会で、高槻氏のEC就任(二期6年)が承認された。同年7月には、WEHC2025(於ルンド、スウェーデン)が開催され、本分科会委員長の城山智子氏が、日本代表として総会に出席した。</p>
	<p>意思の表出(※見込み含む)</p>
	<p>なし</p>
	<p>開催シンポジウム等</p>
	<p>なし</p>
開催状況	<p>2025年3月27日 26期第二回ミーティング(オンライン)</p>
今後の課題等	<p>経済史は自然科学・人文社会科学の諸分野の中で、国際学界における日本のプレゼンスが大きい分野であり、IEHAでは中国と共にアジアを代表している。今後も、若手研究者の積極的な参加を求めつつ、こうした重要な地位を維持することが求められる。</p>

経済学委員会(ワークライフバランス研究分科会)					
委員長	白井 恵美子	副委員長	角谷 快彦	幹事	安井 健悟、菅野 早紀
主な活動	審議内容				
	公開シンポジウムの内容および登壇者について審議するとともに、ワークライフバランスに関する研究成果を報告、今後の政策的な方向性について議論した。				
	意思の表出(※見込み含む)				
	今期中に意思の表出のとりまとめを目指している。				
	開催シンポジウム等				
公開シンポジウム「女性活躍を支える家族のウェルビーイングとワークライフバランスの実現」(主催:経済学委員会ワークライフバランス研究分科会)2025年11月22日開催予定					
開催状況	2025年2月25日(オンライン)				
今後の課題	上記のシンポジウムを開催し、その成果をもとに意思表示の準備を推進し、見解をとりまとめていく。				

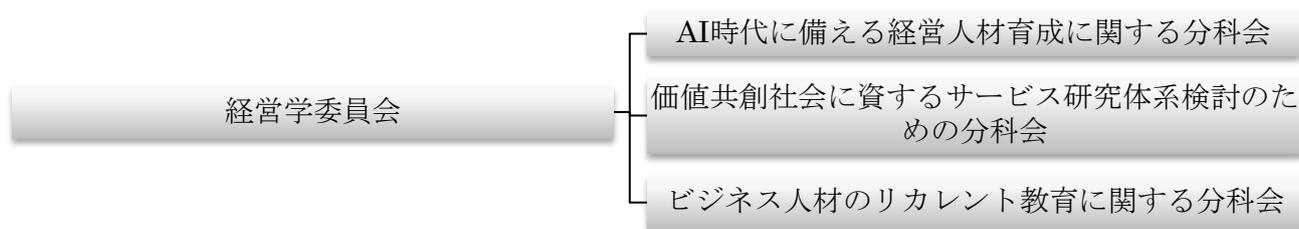
経済学委員会（数量的経済・政策分析分科会）					
委員長	宇南山 卓	副委員長	小原 美紀	幹事	高槻 泰郎、中村 さやか
主な活動	審議内容				
	<ul style="list-style-type: none"> ・日本経済学会年次大会におけるチュートリアルセッションの提供について ・その他分科会での活動について 				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
日本経済学会においてチュートリアルセッションの開催（2025年5月25日）					
開催状況	2024年10月19日12:30-14時（ハイブリッド開催） 2025年5月25日12-13時（ハイブリッド開催）				
今後の課題等	政策ニーズを把握するためのヒアリングの開催 チュートリアルセッションの今後についての検討				

経済学委員会（少子化経済対策分科会）					
委員長	上東 貴志	副委員長	中室 牧子	幹事	松尾 美和
主な活動	審議内容				
	<p>少子化は我が国最大の社会課題の一つであり、政府も現在対策を進めているが、これまで抜本的な対策は取られていない。日本学術会議においても少子化は様々な形で議論されており、現在、少子化対策としての具体的な提言に対する社会的必要性は極めて高くなっている。本分科会の目的は、経済学的観点から効果的かつ実行可能であり、さらに、分野横断的観点を踏まえ、社会的に受容可能な、少子化対策としての経済政策を（その有無も含めて）提言することである。</p> <p>本分科会では、第27期中の提言に向けて、提言の構成や同時期に計画しているシンポジウムの開催について審議した。</p>				
	意思の表出（※見込み含む）				
	第27期中に提言を行う計画である。				
	開催シンポジウム等				
第27期中にシンポジウムを行う計画である。					

開催状況	2025年2月25日(火) (オンライン開催)
今後の課題等	第27期中の提言に向けて、提言内容の具体性を高め、社会貢献に繋がる内容することが重要である。

経済学委員会・環境学委員会合同 (フューチャー・デザイン分科会)					
委員長	西條 辰義	副委員長	阿尻 雅文	幹事	中川 善典
主な活動	審議内容				
	2024年9月に開催された国連のフューチャー・サミットについて、田崎智宏氏(国立環境研究所) (「解説と論考:「未来サミット」に至る経緯と「未来のための協定」と「将来世代に関する宣言」の特徴)と一原雅子氏(京都大学) (「UN Summit of the Future & Action Days 参加報告」)の発表を受けてフューチャー・デザイン(FD)としてUNとどう関わりをもつのかについて議論。				
	意思の表出 (※見込み含む)				
	予定無し				
	開催シンポジウム等				
2025年9月13-14日にフューチャー・デザイン2025を実施予定。キーノートはウェールズ・トリニティ・セント・デイビット大学名誉副学長、ウェールズ元環境・教育大臣ジェーン・デイヴィッドソン氏と木城町総合計画・総合戦略の策定にFD実践を活用する木城町役場地域政策課まちづくり推進係の文田恵子氏。					
開催状況	2024年11月22日				
今後の課題等	月に2回ほど開催しているFDワークショップを分科会の会合にすること。				

⑩経営学委員会



経営学委員会					
委員長	野口 晃弘	副委員長	戸谷 圭子	幹事	原 拓志
主な活動	審議内容				
	今期中に意思の表出を目指している「AI時代に備える経営人材育成に関する分科会」、「価値共創社会に資するサービス研究体系検討のための分科会」のために査読体制を準備するとともに、新たに設置した「ビジネス人材のリカレント教育に関する分科会」を含め、学術フォーラムや公開シンポジウム開催に向けた準備状況を確認した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	（見込み）見解「AI活用時代における経営教育の変革」AI時代に備える経営人材育成に関する分科会				
	（見込み）提言「サービス化社会における共創価値の尺度について（仮題）」価値共創社会に資するサービス研究体系検討のための分科会				
開催状況	開催シンポジウム等				
	学術フォーラム「AI活用時代における経営教育の変革」（2025年3月1日）				
開催状況	2024年10月22日、2025年4月15日				
今後の課題等	今期中の意思の表出に取り組んでいる分科会においては、それを実現すること。				

経営学委員会（AI時代に備える経営人材育成に関する分科会）					
委員長	原 良憲	副委員長	鈴木 久敏	幹事	佐々木 郁子 椿 美智子
主な活動	審議内容				
	2030年に向けた人口減少・AI活用時代における経営教育の変革に向けての意思の表出を行うため、4つのWG（①社会像WG、②ビジネスWG、③高度専門職人材WG、④教育WG）による討議を行い、審議を進めた。				
	意思の表出（※見込み含む）				

	見解「AI活用時代における経営人材・経営専門人材育成の変革」を近日中に表出予定。
	開催シンポジウム等
	学術フォーラム「AI活用時代における経営教育の変革」(2025年3月1日)を日本学術会議講堂にて開催。
開催状況	第26期第3回(2024.12.23)、第4回(2025.3.1)、第5回(2025.8.26)開催。 勉強会(2024.10.4)、(2025.5.12)、(2025.7.28)オンライン開催
今後の課題等	2030年に向けた人とAI・ITの役割分担を明確化し、経営教育ガイドラインの明確化や認証制度の変革に関して提言する。

経営学委員会・健康・生活科学委員会・総合工学委員会合同(価値共創社会に資するサービス研究体系検討のための分科会)					
委員長	戸谷 圭子	副委員長	持丸 正明	幹事	山口 景子
主な活動	審議内容				
	サービス学が取り扱う範囲、本分科会で議論する論点について討議を行い、識者の講演、委員によるディスカッションを実施。議論を踏まえて、本分科会の意見表出を、サービス共創価値の尺度に関する「見解」として行うことを決定した。それに伴い、共創価値尺度に関する幅広い調査と意見表出の原案作成を目的とした小委員会「サービス価値共創尺度小委員会」を設置、2025年8月14日に第一回を開催した。				
	意思の表出(※見込み含む)				
	見解(2026年3月末見込み)				
	開催シンポジウム等				
2026年前半を見込んでいるが詳細日程は未定					
開催状況	(1)2024年10月17日、(2)2024年12月25日、(3)2025年3月29日、				
今後の課題等	共創価値に関連する尺度について見解で触れる範囲の検討 尺度の測定手法についての検討				

経営学委員会（ビジネス人材のリカレント教育に関する分科会）					
委員長	森田 雅也	副委員長	二神 枝保	幹事	櫻田 涼子
主な活動	審議内容				
	経営学教育は、新卒採用される人材だけでなく、すでにビジネスにおいて活動している人材も対象とし、彼（女）らのリカレント教育やリスキリングに一層力を入れる必要があるという認識のもと、ビジネス人材のリカレント教育の内容や教育方法のあり方を審議している。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	予定なし				
	開催シンポジウム等				
	2026年9月に公開シンポジウム開催を検討中				
開催状況	第1回 2024年12月27日（オンライン開催） 第2回 2025年9月17日：（オンライン開催予定）				
今後の課題等	2026年9月のシンポジウムの開催に向けて、分科会での審議を進めるとともに、外部からの登壇者の人選を行っていく予定である。				

⑪基礎生物学委員会



基礎生物学委員会					
委員長	小林 武彦	副委員長	岡田 眞里子	幹事	杉本 慶子、岩崎 博史
主な活動	審議内容				
	基礎生物学委員会では 13 の分科会を設置して、統合生物学委員会と合同で主に以下の活動を行ってきた。 <ul style="list-style-type: none"> ・生物学分野の諸問題についての意見交換 ・基礎生物学委員会、統合生物学委員会所属の分科会の活動内容の共有 ・日本学術会議の法人化についての意見交換 				
	意思の表出（※見込み含む）				
	予定なし				
	開催シンポジウム等				
予定なし					

開催状況	2024年10月22日 2025年4月15日
今後の課題等	分科会との効率的な連携をはかるための仕組み作り

基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同（動物科学分科会）					
委員長	深津 武馬	副委員長	志賀 向子	幹事	入江 直樹
主な活動	審議内容				
	動物科学の普及や啓発、情報発信に資するシンポジウムの開催について審議した。一般社団法人国立沖縄自然史博物館設立準備委員会の活動について引き続き支援していくことを確認した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
<ul style="list-style-type: none"> ・日本学術会議公開シンポジウム「動物科学の最前線：めくるめく多様性を科学する(3)」を2025年2月15日（土）13:00-16:00にZoomオンライン開催（参加登録者579名） ・日本学術会議公開シンポジウム「動物科学の最前線：めくるめく多様性を科学する(4)」を2026年2月15日（日）13:00-16:00にZoomオンライン開催予定 					
開催状況	2025年6月25日第2回分科会（Zoomオンライン）				
今後の課題等	動物科学の普及や啓発、情報発信に資する活動を行っていく。				

基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同（生物物理学分科会）					
委員長	上田 昌宏	副委員長	坂内 博子	幹事	南後 恵理子
主な活動	審議内容				
	<ul style="list-style-type: none"> ・本分科会委員長の変更と承認。 ・IUPAB分科会主催の第21回国際生物物理会議（IUPAB2024）の報告。 ・「未来の学術振興構想（2023年版）」の改訂にむけた「生命科学クロスオーバー研究旗艦拠点の設立」の提案準備。 ・公開シンポジウムの開催に向けた対応について。 				
	意思の表出（※見込み含む）				
	「生命科学クロスオーバー研究旗艦拠点の設立」の改訂版を表出。				
	開催シンポジウム等				
バイオインフォマティクス分科会、IUPAB分科会、生物物理学分科会の合同で公開シンポジウム「人工知能で生命を追求する データ駆動による生命の理解～細胞から人の動きまで～」を開催（2025年1月9日）。					

開催状況	<ul style="list-style-type: none"> 2025年1月9日 10:00-12:00 ハイブリッド開催 2025年8月6日- 9月4日メール審議 2025年9月5日 13:00-15:00 オンライン開催
今後の課題等	次回の公開シンポジウムの開催準備

基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同 (IUBS 分科会)					
委員長	西田 治文	副委員長	渡辺 京子	幹事	高田 まゆら、川北 篤
主な活動	審議内容				
	2026年のIUBS総会(インド)準備、新役員候補。CBD COPに関し環境省と協働。国立沖縄自然史博物館設立。IUBS-INQUAによる若手奨励国際WS開催。				
	意思の表出(※見込み含む)				
	予定していない。				
	開催シンポジウム等				
環境省との共同シンポジウムについて検討中。					
開催状況	第一回分科会 2024年12月6日 以下いずれもZOOM開催 第二回分科会 2025年4月18日 第三回分科会 2025年9月中に開催予定				
今後の課題等	IUBSの国内活動を引き続き拡大すること。特に生物学的な知識と倫理感の提供を環境省や学会連合と共同推進すること。IUBS派遣国代表委員の交代。				

基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同 (IUPAB 分科会)					
委員長	野地 博行	副委員長	西坂 崇之	幹事	林 久美子
主な活動	審議内容				
	<ul style="list-style-type: none"> IUPAB分科会主催の第21回国際生物物理会議(IUPAB2024)の報告。 IUPAB/ABA Biophysics satellite 2025の報告。 「未来の学術振興構想(2023年版)」の改訂にむけ生物物理学分科会が主導して準備する「生命科学クロスオーバー研究旗艦拠点の設立」の提案に協力。 公開シンポジウムの開催に向けた対応について。 				
	意思の表出(※見込み含む)				
	「生命科学クロスオーバー研究旗艦拠点の設立」の改訂版を表出。				
	開催シンポジウム等				
バイオインフォマティクス分科会、IUPAB分科会、生物物理学分科会の合同で公開シンポジウム「人工知能で生命を追求する データ駆動による生命の理解～細胞から人の動きまで～」を開催(2025年1月9日)。					
開催状況	<ul style="list-style-type: none"> 2025年1月9日 10:00-12:00 オンライン開催 2025年8月6日- 9月4日メール審議 2025年9月5日 13:00-15:00 オンライン開催 				
今後の課題等	次回IUPAB大会(2027年ベルリン大会)への協力				

基礎生物学委員会・統合生物学委員会・基礎医学委員会合同（ゲノム科学分科会）					
委員長	徳永 勝士	副委員長	伊藤 隆司	幹事	有田 正規、 建石 真公子
主な活動	審議内容				
	2025年12月に開催する公開シンポジウムに関連して、ゲノム・オミクス情報、臨床情報などや試料の共有・利活用推進の重要性と課題について、倫理・法律・社会面も含めて議論している。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	公開シンポジウムの成果を提言にまとめる案について検討中。				
	開催シンポジウム等				
	2025年12月20日 公開シンポジウム開催				
開催状況	2025年3月10日 分科会 オンライン開催 2025年8月30日 分科会 オンライン開催				
今後の課題等					

基礎生物学委員会・心理学・教育学委員会・基礎医学委員会・臨床医学委員会合同（生物リズム分科会）					
委員長	深田 吉孝	副委員長	三島 和夫	幹事	志賀 向子、遠藤 求
主な活動	審議内容				
	第26期・第2回分科会を2024年12月10日にオンライン形式で開催し、一般社会において広く興味を持たれる睡眠・冬眠と生物リズムを中心テーマとした公開シンポジウムの開催について審議した。前回の第1回分科会において組織されたワーキンググループから提出された具体案をもとにして、基礎的な内容から未来社会への応用を含め、高校生にもわかりやすい内容で講演者のジェンダーバランス等にも配慮したシンポジウム最終案をまとめた。開催日は、高校生や大学生も参加しやすい春休み期間中に設定することにした。また、日本学術会議総会における議論の内容が連携会員にフィードバックされにくいという指摘に基づき、第26期第二回総会における重要議題を委員長から紹介し、意見交換を行った。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	公開シンポジウム「睡眠・冬眠と体内時計 ～生物リズムの進化から未来社会を考える～」を2025年3月29日（土）13:00-15:50にZoomを用いたウェビナー形式で開催し、女性2名を含む5名の講演者（うち2名は本分科会委員）が講演した。236名の一般視聴者（最大接続数）の中から多くの質問を受け付け、講演者との間で活発な意見交換が行なわれた。事後アンケート（138名回答）では講演内容に満				

	足との回答が9割以上を占めた。
開催状況	第2回分科会 2024年12月10日 17:30-19:30 Zoomによるオンライン開催
今後の課題等	地球の昼夜環境への適応の研究は人類の現代生活に重要な課題であることを再認識し、公開シンポジウムなどを通して一般社会との双方向性の議論を更に進める。 また、日本時間生物学会が編集する刊行物「生き物とリズムの事典」(朝倉書店)への編集協力を引き続き行ってゆく。

基礎生物学委員会・統合生物学委員会・農学委員会合同 (植物科学分科会)					
委員長	杉本 慶子	副委員長	佐藤 豊	幹事	上田 貴志、吉田 聡子
主な活動	審議内容				
	一般社会への啓蒙活動及び他の分科会との連携、若手世代の植物科学分野への導きと次世代育成、世界における日本の植物研究者の立ち位置や分野の動向並びに今後の課題について議論した。				
	意思の表出 (※見込み含む)				
	予定なし				
	開催シンポジウム等				
	予定なし				
開催状況	2025年3月3日(月) オンライン開催				
今後の課題等	上述の審議内容について引き続き具体的な対応策を協議する。				

基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同 (生物科学分科会)					
委員長	小林 武彦	副委員長	原田 慶恵	幹事	入江 直樹、松永 幸大
主な活動	審議内容				
	・高等学校の生物教育における重要用語の改訂作業				
	意思の表出 (※見込み含む)				
	報告「高等学校の生物教育における重要用語の選定について」を2025年内に発出予定				
	開催シンポジウム等				

	なし
開催状況	2025年2月21日
今後の課題等	報告の発出、指導要領の検討

基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同（海洋生物学分科会）					
委員長	原田 尚美	副委員長	安田 仁奈	幹事	堀 正和、山野 博哉
主な活動	審議内容				
	第26期の活動方針（3回シリーズで公開シンポジウムを開催する）について確認し、具体的なシンポジウムの内容を審議する。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	第26期中に他分科会との共同による意見の表出を目指している。				
	開催シンポジウム等				
第1回「海洋生物と気候変動：現状と課題」（2025年11月10日開催予定）、 第2回「海洋生物と気候変動：解決と適応」（2026年3月8日（日）開催予定） 第3回「海洋生物と気候変動：考えるべき倫理」2026年6月7日（日）開催予定					
開催状況	第26期第1回（2024年3月21日）、第26期第2回（2024年9月3日）、第26期第3回（2024年11月15日）				
今後の課題等	一般市民との対話の促進により実社会での問題解決を目指し活動をするのが求められる。				

基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同（細胞生物学分科会）					
委員長	森 和俊	副委員長	渡辺 雅彦	幹事	岡田 由紀
主な活動	審議内容				
	意思の表出（※見込み含む）				
	開催シンポジウム等				
第14回形態科学シンポジウムを2025年8月23日（土）に東京大学医科学研究所講堂において、基礎医学委員会形態・細胞生物医科学分科会と合同で開催し、現地で約20名、オンラインで約60名の高校生が参加した。					

開催状況	2025年8月23日(土)に東京大学医科学研究所で分科会を現地・オンライン開催した。
今後の課題等	2年後の形態科学シンポジウムを企画していく。

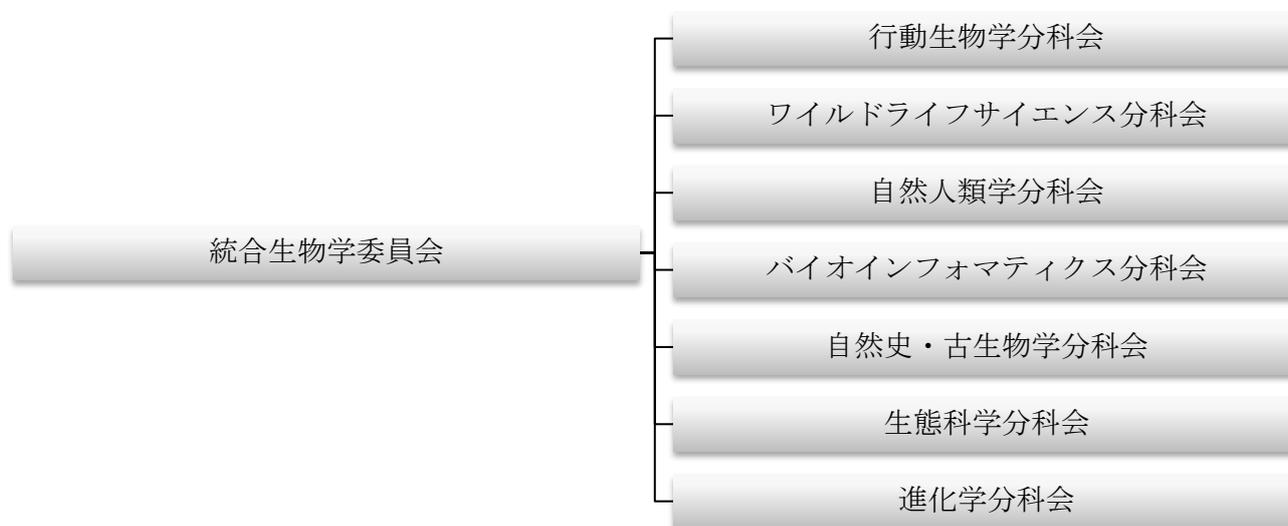
基礎生物学委員会・統合生物学委員会・農学委員会・基礎医学委員会合同(遺伝資源分科会)					
委員長	城石 俊彦	副委員長	有田 正規	幹事	佐藤 豊
主な活動	審議内容				
	遺伝資源のデジタル配列情報(DSI)の利用から得られる利益を資源提供国に還元すべきとする意見が資源提供国から提案され、生物多様性条約(CBD)締約国会議(COP)において議論されている。本分科会では、学術の進展を図る立場からこの問題についてさまざまな視点から審議した。また、我が国の遺伝資源の保護と利活用の促進に向けた議論を行った。				
	意思の表出(※見込み含む)				
	なし				
	開催シンポジウム等				
なし					
開催状況	2025年2月27日(木)10:00~12:00にオンライン形式で第26期第4回分科会を開催し、(1)COP16の報告と今後の課題について審議した。また、(2)日本独自の遺伝資源である生薬・漢方についての情報を共有した。				
今後の課題等	2024年10月コロンビアで開催されたCOP16では、利益配分メカニズムとして国際基金の設立や学術界からの供出金は適用外となるなど、学術研究を守る立場からは一定の成果があった。今後の実施に向けて注視していく必要がある。また、DSI以外でも、遺伝資源の保護と利活用の促進に関する議論を継続する。				

基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同(遺伝学分科会)					
委員長	颯田 葉子	副委員長	山本 卓	幹事	平田 たつみ、入江 直樹
主な活動	審議内容				
	中等教育における遺伝学(生物学)に関する審議 特に、委員によるアンケート調査の結果により現在の高等学校の生徒が置かれている状況を知る等の調査結果の検討を行った。				
	意思の表出(※見込み含む)				
	遺伝学分科会として、高校における生物学の選択者の減少や、入試における生物の扱いや難易度、生物学教科書の問題、生物学リテラシーの重要性、などについて広く意見交換を行ない、報告の骨子案の作成に関する意見交換を行なった。(2025年7月30日:意見の表出の申出書を提出)				
	開催シンポジウム等				
なし					

	無し
開催状況	第3回 2024年2月13日(金) Zoomによるオンライン会議 第4回 2025年6月11日(火) Zoomによるオンライン会議 第5回 2025年9月下旬 Zoomによるオンライン会議(予定)
今後の課題等	引き続き、高校における生物の選択者の減少や、それに伴う生物教師の採用数減少、入試における生物の扱いや難易度などについて報告書をまとめる方向で議論を行う。

基礎生物学委員会・統合生物学委員会・農学委員会・基礎医学委員会・臨床医学委員会合同 (総合微生物科学分科会)					
委員長	小柳 義夫	副委員長	関崎 勉	幹事	岡村 好子
主な活動	審議内容				
	総合微生物科学分科会・IUMS 分科会、日本微生物学連盟理事会合同会議(2025年7月15日WEB開催)で本分科会の活動を検討するとともに、今後の方針を議論した。病原微生物、環境微生物、微生物データベース等に関する課題の抽出と施策の検討および、情報発信等についての活動を行っている。				
	意思の表出(※見込み含む)				
	なし				
	開催シンポジウム等				
2025年7月28日から8月2日に東京大学農学部弥生講堂での「微生物ウィーク2025」講演会の後援を行った。また、2025年10月29日に浜松市で開催予定の日本ウイルス学会・日本微生物学連盟協賛合同シンポジウムの準備を行っている。					
開催状況	2025年7月15日に日本微生物連盟(総合微生物科学分科会(第26期)IUMS分科会(第26期)、日本微生物学連盟加盟学術団体 http://fmsj.umin.jp/index.html)の合同WEB会議を開催した。				
今後の課題等	一般社会においてもウイルスなどの微生物感染症への危惧や温暖化に伴う微生物叢の変動など微生物科学に注目が集まるなかで、一方、特に米国を中心にワクチンに関するSNS等を通じた不正確な情報が流布し、それらへの対処に苦慮している。社会における微生物に関する基本理解が難しい状況から、日本微生物学連盟加盟学術団体ともに高校生などを主な対象にしたアウトリーチ活動を行っている。				

⑫統合生物学委員会



統合生物学委員会					
委員長	北島 薫	副委員長	五斗 進	幹事	池邊 このみ、村山 美穂
主な活動	審議内容				
	基礎生物学委員会と合同設置の分科会の7つの親委員会として、分科会委員長らとの情報共有を行い、また、基礎生物学委員会と合同委員会を開催して、連携会員との情報共有や、生物学を取り巻く共通の課題についての議論を進めた。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	委員会としては、意思の表出は行わないが、親委員会が環境学委員会と合同設置の自然環境分科会からは意思の表出の予定があり協力をしている。				
	開催シンポジウム等				
委員会が主催の公開シンポジウムは 2025 年 1 月 9 日に開催し、今年度（4 月以降）は開催していない。所属分科会はシンポジウムなどを開催している。					
開催状況	2024 年 10 月と 2025 年 4 月に、基礎生物学委員会とハイブリッド方式で合同開催。				
今後の課題等	第二部の他の分野別委員会との連携を進める必要がある。				

統合生物学委員会・心理学・教育学委員会・基礎生物学委員会合同（行動生物学分科会）					
委員長	辻 和希	副委員長	明和 政子	幹事	相馬 雅代、 飛龍 志津子
主な活動	審議内容				
	・26期第2回審議会を機械工学委員会ロボット学分科会と合同で開催し、以下の観点に関して議論をした。社会性生物とロボットの違い・共通性，エージェントの共存，自他の区別と拡自行動，情動・欲望とフィードバック。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
開催シンポジウム等	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	2025年8月5日(火) 10:30～12:00 にハイブリッド開催した				
今後の課題等	AI 使用のメリット・デメリットを含め、今後もロボット工学分野とは議論を継続する。				

統合生物学委員会・基礎生物学委員会合同（ワイルドライフサイエンス分科会）					
委員長	村山 美穂	副委員長	山越 言	幹事	大沼 あゆみ
主な活動	審議内容				
	人間と野生生物との調和的共存を図るためのワイルドライフサイエンスという新たな学問領域の確立とその社会的普及のため、公開シンポジウムを計画し 2024 年に実施した。2026 年に予定している次回の公開シンポジウム等のテーマについても審議した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
開催シンポジウム等	開催シンポジウム等				
	公開シンポジウム「増大する野生動物と人間の軋轢：これからの鳥獣管理と人間社会を考える」を 2024 年 11 月 24 日に開催。				
開催状況	2025 年 7 月 7 日 第 4 回				
今後の課題等	生息域内外での保全の意義やワンヘルスの概念を浸透させ、多様な分野の専門家の経験や知識によって、俯瞰的、分野横断的な視点から社会的な実践につなげることをめざす。				

統合生物学委員会・基礎生物学委員会合同（自然人類学分科会）					
委員長	海部 陽介	副委員長	村山 美穂	幹事	松本 晶子、山内 太郎
主な活動	審議内容				
	<ul style="list-style-type: none"> ・公開シンポジウム「人間にとって学習とは何か？」を開催した。 ・2026年2月に開催予定の高校生向けシンポジウム企画について協議した。 ・未来の学術振興構想（2023年版）採択課題『「人類史」総合研究体制の構築』（No.10 グランドビジョン②）において掲げた、人類学関連学会の連合体構想の実現に向けた具体的プランを協議した。 				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
公開シンポジウム「人間にとって学習とは何か？」を2025年3月20日に東京大学理学部2号館講堂にてハイブリッド開催。参加人数303名（対面75名、オンライン228名）。事後アンケート結果は、たいへんよかった、あるいはよかったが93.5%を占めた（回答93件）。					
開催状況	第3回分科会（2025年3月20日）				
今後の課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・上述の人類学関連学会の連合体の実現。 ・自然人類学からみた人間とその行動および多様性の本質理解へ向けた、社会発信および次世代研究者層の充実と振興。 				

統合生物学委員会・基礎生物学委員会・農学委員会・基礎医学委員会・薬学委員会・情報学委員会合同（バイオインフォマティクス分科会）					
委員長	諏訪 牧子	副委員長	五斗 進	幹事	有田 正規、岡田 眞里子
主な活動	審議内容				
	<ul style="list-style-type: none"> ・生命科学DBをオープンアクセス可能にし、新しい生命科学に大きく寄与し推進するための方針・方策を検討。（①持続可能なDBの基盤整備、②DBを基にした次世代生命科学の推進、③人材育成の方策）・提言としてまとめる方向性を確認。 				
	意思の表出（※見込み含む）				
	26期末に提言「生命科学データのオープンな流通と活用推進に向けて」（仮題）表出予定。				
	開催シンポジウム等				
2025年1月9日（木）公開シンポジウム「人工知能で生命を追求する データ駆動による生命の理解—細胞から人の動きまで—」。アカデミアや企業研究者による講演。300人超の申し込みがあり高い注目度。（生物物理学分科会と合同開催）					

開催状況	2025年 第26期 第2回分科会：1月9日 11:00～12:00（対面・オンライン併用） 2025年 第26期 第3回分科会：5月19日 14:00～15:00（オンライン）
今後の課題等	・提言表出に向け議論を深めて文章の取りまとめ。（メール会議活用予定） ・2027年、DDBJ 40周年に向け国際会議の記念講演会が予定されており、本分科会として準備段階から関与予定。

統合生物学委員会・基礎生物学委員会・地球惑星科学委員会合同（自然史・古生物学分科会）					
委員長	大路 樹生	副委員長	西田 治文	幹事	黒柳 あずみ、 久保田 好美
主な活動	審議内容				
	国立自然史博物館設立計画への支援、自然史系標本の保全、自然史財法案の再検討、自然史系博物館における学芸員制度に関する議論と公開シンポジウム開催計画などについて。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	特になし。				
	開催シンポジウム等				
	2025年11月22日に本分科会他多数の分科会、学会連合等が共催となり「国立自然史博物館設立をめざして」をウェビナーの形で開催する。				
開催状況	2025年4月18日に本分科会をオンラインで開催。				
今後の課題等	11月のシンポジウムで議論される国立自然史博物館の支援の具体的方法の検討と、自然史標本の保全に関する議論を行っていく。				

統合生物学委員会・基礎生物学委員会合同（生態科学分科会）					
委員長	森 章	副委員長	石川 麻乃	幹事	中野 伸一、藤井 一至
主な活動	審議内容				
	第26期第2-3回目の分科会においては、他分科会や学協会との合同シンポジウムについて、開催後の報告や今後の予定について議論があった。また、分科会委員より、IPBESに関する動向共有がなされた。第25期時の未来の学術振興構想について、フォローアップと今後の方向性の議論を行った。また、他分科会との協働、学際的な活動を行う方向性について、意見の発出の可能性を含めて意見交換が行われた。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	当分科会において議論検討を継続する				
	開催シンポジウム等				
	あり（他分科会との共同開催予定）				

開催状況	2024年9月2日および2025年4月21日、第2回及び第3回の分科会をオンラインで開催した。
今後の課題等	他分科会と協働したシンポジウムの開催について検討を行う。また、当分科会としての意思の表出について、議論を継続して行う予定である。

統合生物学委員会・基礎生物学委員会合同（進化学分科会）					
委員長	村上 哲明	副委員長	深津 武馬	幹事	石川 麻乃、 入江 直樹
主な活動	審議内容				
	第26期第1回目の分科会においては、幹事メンバーの選出を行い、委員構成についても議論した。また、国立自然史博物館構想の実現に向けて、他の分科会とも連携し、それを推進するための講演会を開催すること等に注力する方針を決定した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	特になし。				
	開催シンポジウム等				
自然史・古生物学分科会、動物科学分科会、植物科学分科会、海洋生物学分科会、IUBS分科会などと共催で2025年11月22日（土）に公開シンポジウム「国立自然史博物館設立をめざして ―自然史資料の保全、自然史科学の発展と将来への礎」を開催予定					
開催状況	2024年12月23日、第1回目の分科会をオンラインで開催 第2回目の分科会を2025年中にオンラインにて開催予定				
今後の課題等	国立自然史博物館の実現に向けて具体的な支援の方策等について、他の分科会とも協議を重ねる必要がある。				

⑬農学委員会



農学委員会					
委員長	中嶋 康博	副委員長	土井 元章	幹事	後藤 英司、渡辺 京子
主な活動	審議内容				
	<ul style="list-style-type: none"> ・食料科学委員会との合同の公開シンポジウム開催 ・関連学協会および全国農学系学部長会議との連携 				
	意思の表出（※見込み含む）				
	現在のところ無し				
	開催シンポジウム等				
	無し				
開催状況	2024年10月17日・オンライン 2025年4月13日・オンライン				
今後の課題等	分科会間の連携の促進				

農学委員会（植物保護科学分科会）					
委員長	渡辺 京子	副委員長	松本 宏	幹事	松田 一彦、林 謙一郎
主な活動	審議内容				
	植物保護の普及および情報発信に資するシンポジウムについて審議し、2025年11月29日（土）に「今求められる水田の地力向上と病害虫・雑草防除を考える」を開催することとした。土壌科学分科会と共同する意思の表出（今期）のほか、来期にむけて植物保護分野、特に有機栽培に関する意思の表出について審議した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	土壌科学分科会、IUSS 分科会と「Soil Health（土壌の健康）：国民的理解と持続可能な管理のイノベーションの推進」を今期中に発出を予定している。				
	開催シンポジウム等				
	① 公開シンポジウム「わたしたちの食をまもる植物保護科学の未来」2025年3月11日（火）を日本農薬学会とハイブリッド開催した。				
	② 公開シンポジウム「総合的病害虫・雑草管理の課題と望まれる新技術」を植物保護科学連合と2024年11月30日（土）にオンライン開催した。				
開催状況	2024年11月30日（土）、2025年5月9日（金）、6月20日（金）にオンライン会議、2025年2月21日（金）にメール審議を行った。				
今後の課題等	他の分科会、関連学会、教育・研究機関などと協力し、有機栽培に資する科学的・社会的な情勢等に関する意見交換を行う。				

農学委員会・食料科学委員会合同（IUSS 分科会）					
委員長	犬伏 和之	副委員長	信濃 卓郎	幹事	藤井 一至
主な活動	審議内容				
	2024年度代表派遣（IUSS 中間会議・2024年10月中国・南京）報告：IUSS 名誉会員として小崎 隆連携会員（元 IUSS 会長）が選出				
	2025年度代表派遣（土壌の安全保障に関する国際会議・2025年7月カナダ）分科会 HP の英訳・充実と IUSS とのリンクによる情報発信の強化 iuss-planet-iuss.org				
	2026年度開催予定の「世界土壌科学会議(WCSS)・南京（日本からのシンポジウム提案5課題が採択）」、「国際窒素会議（INIC）・京都国際会議場」、「低 pH における植物土壌相互作用国際会議（PSILpH）・岐阜ほか」等への支援体制				
	IUSS 会長の来日招聘に合わせた情報交換会の企画推進 ISC プラットフォーム会議に参加し意見交換 米国科学アカデミー、インド農業科学アカデミー会議に参加し意見交換				
意思の表出（※見込み含む）					
土壌科学分科会が提案する「Soil Health（土壌の健康）：国民的理解と持続可能な管理のイノベーションの推進」の意思表出に連携して支援する。					
開催シンポジウム等					

	土壌科学分科会と連携して公開シンポジウム「Soil Health（土壌の健康）とは？土壌の健康の理解・維持向上・共有」を開催した（2025年7月、日本学術会議、ハイブリッド）。
開催状況	第4回分科会：2025年3月6日（木）東京（ハイブリッド） 第5回分科会：2025年7月25日（金）東京（ハイブリッド） 第6回分科会：2025年9月18日（木）新潟（ハイブリッド）
今後の課題等	2024年に設立100周年を迎えたIUSSやわが国からのIUSS役員および参加90か国や国内IUSS関連18学協会と連携して、世界の土壌に関する諸課題（土壌侵食・土壌劣化、温暖化・砂漠化対策など）に取り組むとともに、貴重な有限資源である土壌の大切さへの国民の理解を推進する。

農学委員会・基礎生物学委員会・食料科学委員会・基礎医学委員会・臨床医学委員会合同（IUMS分科会）					
委員長	野田 岳志	副委員長	春日 文子	幹事	渡辺 登喜子
主な活動	審議内容				
	総合微生物科学分科会と連携をとりながら、日本微生物学連盟の国内・国際活動やシンポジウム開催計画を議論した。日本学術連盟と連携し、我が国のIUMSに対する取組みについて議論した。IUMSへの理事の推薦とIUMS2030日本開催の可否に関して議論した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等 他分科会と合同シンポジウムを開催することを見据えてテーマを募集している。				
開催状況	2025年7月15日（Web会議・総合微生物学分科会および日本微生物連盟との合同会議）				
今後の課題等	IUMSへの理事の推薦とIUMS2030日本開催の可否に関して引き続き議論する。				

農学委員会（農学分科会）					
委員長	土井 元章	副委員長	下野 裕之	幹事	本間 香貴、彦坂 晶子
主な活動	審議内容				
	生産農学に関する中長期的課題、特に「気候変動と農業の持続可能性」について、委員からの話題提供に基づき審議を行っている。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
開催シンポジウム等					

	なし
開催状況	2024年11月29日、2025年1月15日、2025年3月26日、2025年5月1日、2025年6月30日 すべてオンライン会議
今後の課題等	審議内容と関連する一般公開シンポジウムを2026年3月28日（土）に関連学協会と連携して開催すべく、準備中である。

農学委員会（農業生産環境工学分科会）					
委員長	後藤 英司	副委員長	荊木 康臣	幹事	谷 晃、遠藤 良輔
主な活動	審議内容				
	今期は施設園芸のグリーン化・高機能化、気候変動に対する農業適応策、生産環境の資源循環に関する内容を審議する。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	2025年6月27日に公開シンポジウム「BVOC研究の新展開－進化論から新規計測法、大気質影響までの最新の知見－」を開催した（オンライン）。2025年9月16日に公開シンポジウム「Speaking Plant Approach 2.0 ～農業生産現場実装と学術の次なる挑戦～」を愛媛大学で開催する。				
開催状況	2025年3月6日に第2回分科会を開催した（オンライン）。				
今後の課題等	2025年10月以降に計画している公開シンポジウムの内容を具体化する。				

農学委員会（林学分科会）					
委員長	杉山 淳司	副委員長	香坂 玲	幹事	井上 真理子、五十田 博
主な活動	審議内容				
	林学、木質科学、生態学、環境学などの広義の林学分野を中心に、建築学（三部）、環境経済学（一部）の研究者とも連携し、森林の多面的機能とその持続的維持管理のあり方や、木材利用の推進とその課題について議論した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				

	公開シンポジウム「これからの森林管理－木材生産と生態系保全の両立を目指して－」を2025年6月7日オンライン開催
開催状況	第4回委員会(2025年1月23日)オンライン開催。
今後の課題等	2026年度前半に、木材利用の拡大の社会的意義や課題に関する公開シンポジウムをオンライン開催する。

農学委員会（応用昆虫学分科会）					
委員長	池田 素子	副委員長	阿部 芳久	幹事	大門 高明、天竺桂 弘子
主な活動	審議内容				
	意思の表出「日本の高等教育における昆虫学教育のあり方（仮）」に向けての調査をワーキングで進めている。日本昆虫科学連合と共同主催する次年度の公開シンポジウムについて審議を行った。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	昆虫研究は持続的社會基盤の構築に貢献するとともに、新たな研究領域の創出にも寄与する。そこで本分科会は、「日本の高等教育における昆虫学教育のあり方（仮）」を見解または報告としてとりまとめ、今期中に発出する予定。				
	開催シンポジウム等				
	2025年6月28日に、公開シンポジウム「昆虫科学はおもしろい～国際昆虫学会議を終えて未来の昆虫科学者たちへ～」をウェビナーによりオンライン開催した。参加者数は252名（講演者等15名を含む）。				
開催状況	10月～3月までに分科会を開催予定。				
今後の課題等	2026年度の公開シンポジウム実施案を策定する。「日本の高等教育における昆虫学教育のあり方（仮）」を立案して昆虫学教育の課題と方向性を示す。				

農学委員会（土壌科学分科会）					
委員長	波多野 隆介	副委員長	渡辺 京子	幹事	川東 正幸、山口 紀子
主な活動	審議内容				
	1) Soil Health 小委員会の役員を決定した（委員長：矢内純太、副委員長：金子信博、幹事：当真要）				
	2) Soil Health（土壌の健康）に関する「意思の表出」について、「報告」を発出する旨を決定した。				
	3) Soil Health（土壌の健康）に関する「公開シンポジウム」の開催を決定した。				
	4) Soil Health の社会実装のために、他分野、他機関との連携について審議し、懇談会および公開シンポジウムを年度内に開催することを決定した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	報告「Soil Health（土壌の健康）：国民的理解と持続可能な管理のイノベーションの推進」（IUSS 分科会、植物保護科学分科会と共同、2026年3月発出予定）				

	開催シンポジウム等 公開シンポジウム「Soil Health とは? : 土壌の健康の理解・維持向上・共有」 (IUSS 分科会と共同、2025年7月26日、日本学術会議講堂)
開催状況	分科会 第3回 (2025年3月6日、東京、ハイブリッド)、第4回 (IUSS 分科会と合同 2025年7月25日、東京、ハイブリッド)、第5回 (2025年9月18日新潟、ハイブリッドの予定)。 Soil Health 小委員会 第1回 (2025年1月7日、オンライン)、第2回 (2025年7月23日、オンライン)、懇談会 (2024年11月4, 7, 19, 27日、2025年5月20日オンライン)
今後の課題等	Soil Health に関する「報告」に基づき、どのように他分野、他機関と連携を進めるかが課題である。2025年10月以降、農学、教育学、法学、環境学の関係各位を招聘して意見交換するとともに、土壌教育に関する公開シンポジウムの開催を予定している。

農学委員会 (育種学分科会)					
委員長	磯部 祥子	副委員長	岩田 洋佳	幹事	門田 有希
主な活動	審議内容				
	育種学に関する情報発信として、育種学の将来を見据えたウェブセミナーと公開シンポジウムの構想が協議され、異分野連携や社会との接点を意識した内容が重視された。				
	意思の表出 (※見込み含む)				
	予定なし				
	開催シンポジウム等 2025年3月16日に農学会および日本農学アカデミーと共催で「気候変動下の食料生産の確保に向けた研究最前線」として公開シンポジウムの開催をハイブリット形式で行った。2025年6月20日に「多様な育種のかたち I ~水産/作物編~」として第1回ウェビナーを開催した。				
開催状況	2024年12月19日に第4回分科会を開催 2025年4月3日に第5回分科会を開催				
今後の課題等	ウェビナーシリーズとシンポジウム開催について引き続き協議を行う。				

農学委員会 (農業経済学分科会)					
委員長	中嶋 康博	副委員長	立川 雅司	幹事	清原 昭子、白鳥 佐紀子、 八木 洋憲
主な活動	審議内容				
	現代の食料・農業・農村問題を解決するための農業経済学の学術的な展開可能性に関する事項				

	意思の表出（※見込み含む）
	現在のところ無し
	開催シンポジウム等
	なし
開催状況	2025年3月6日 オンライン開催 2025年9月19日 オンライン開催
今後の課題等	学際的な観点も含めた新たな農業経済学の教育研究の枠組みを検討とその内容を踏まえたシンポジウムの開催

農学委員会（地域総合農学分科会）					
委員長	仁科 弘重	副委員長		幹事	弓削 こずえ、武山 絵美
主な活動	審議内容				
	1. シンポジウムの内容を審議している。 2. 「報告」を発出することとし、内容を審議している。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	「報告」を発出する。				
	開催シンポジウム等 第1回シンポジウム「人口減少社会における小規模分散型社会の実現－地域総合農学の視点から－」を2025年6月6日（金）にオンラインで開催し、300名弱の参加者があった。				
開催状況	分科会を7回開催した（2024年11月11日（月）、12月26日（木）、2025年2月6日（木）、4月7日（月）、6月13日（金）、8月12日（火）、9月11日（木））。				
今後の課題等	第2回のシンポジウムを開催し、「報告」を発出する。				

農学委員会・食料科学委員会合同（産業生物バイオテクノロジー分科会）					
委員長	磯部 祥子	副委員長	立川 雅司	幹事	吉田 薫、丸山 明子
主な活動	審議内容				
	ゲノム編集技術に対する考え方について、国内企業関係者や関連団体と意見交換を行った。また、ゲノム編集技術に関する分科会としての見解の構成および執筆体制について審議した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	2026年7月頃にゲノム編集技術に関する見解を発出することで準備中。				
	開催シンポジウム等				

	2025年6月27日にはウェビナーシリーズの第1回として、「ゲノム編集食品～世界はどのように規制しているのか？」の演題で立川雅司副委員長が講演を行った。
開催状況	2024年12月4日に第4回分科会を開催 2025年4月3日に第5回分科会を開催 2025年7月6日に第6回分科会を開催
今後の課題等	見解の発出と情報発信について引き続き協議を行う。

⑭食料科学委員会



食料科学委員会					
委員長	高山 弘太郎	副委員長	大越 和加	幹事	竹中 麻子、 西川 正純
主な活動	審議内容				
	<ul style="list-style-type: none"> ・食料の持続可能な生産、保管、加工、流通、消費などに関する学術課題について審議した。 ・農学委員会と合同で委員会を開催し、農学全般にわたる横断的な情報共有と意見交換を行った。 ・食料科学委員会に関連する意思の表出について検討した。 				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
開催状況	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	第3回（2024年10月17日）、第4回（2025年4月13日） いずれも農学委員会と合同開催				

今後の課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・食料システム（食料の生産、保管、加工、流通、消費に関わる活動）に関する課題について引き続き議論する。 ・農学委員会と連携して農学分野全般に関わる公開シンポジウム等の実施について引き続き検討する。 ・関連学協会（農学会など）との連携について検討する。
--------	---

食料科学委員会（水産学分会）					
委員長	大越 和加	副委員長	八木 信行	幹事	脇田 和美、高須賀 明典
主な活動	審議内容				
	海洋の環境と生態系、そして社会情勢が変化する中で、水産業の持続可能な発展について中長期的視点で審議を継続した。大きな変化の中で強靱で柔軟なレジリエントな水産業の構築を目指し、そのための新しい評価基準について議論を行った。魅力ある、明るい水産業の未来について議論を行った。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
公開シンポジウム「地球規模の変化に対応したレジリエントな水産業—水産業を評価するための基準を考え直す—」を2025年3月14日に開催した。					
開催状況	26期第3回（2024年10月25日）、第4回（2025年3月14日）、第5回（2025年6月6日）開催、第6回（2025年9月19日）開催予定				
今後の課題等	大きく変化する海洋環境や生態系、そして社会情勢に対応したレジリエントな水産業構築に向けて新しい価値の創出を目指す。様々な視点から新しい水産業構築に向けて議論し、公開シンポジウム等を開催して多様なステークホルダーに提案、議論を展開する。				

食料科学委員会・農学委員会・健康・生活科学委員会合同（IUNS 分会）					
委員長	竹中 麻子	副委員長	稲垣 暢也	幹事	池田 彩子、家光 素行
主な活動	審議内容				
	<ul style="list-style-type: none"> ・IUNS Awards 2025（フェロー、リビング・レジェンド賞、ネビン・S・スクリムショー博士賞）の候補者推薦について審議した。 ・2025年8月にパリ（フランス）で開催予定の第23回IUNS国際栄養学会議（ICN）におけるシンポジウム開催について審議した。 ・2029年のICNの開催候補国への投票について審議した。 				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				

	<ul style="list-style-type: none"> ・国際シンポジウム「アジア若手研究者が切り拓く食品・栄養研究の最前線」(2025年5月24日、名古屋、ハイブリッド) 主催 ・第23回 IUNS 国際栄養学会議 (ICN) におけるシンポジウム” Cutting-edge nutritional research by promising young Japanese researchers” (2025年8月26日、フランス (パリ)) 後援
開催状況	2025年8月23日※メール、2025年9月開催予定
今後の課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の食品・栄養学のリーダーシップ育成について検討を行う。 ・IUNS に日本からの役員候補者の推薦を行う。 ・IUNS における日本のプレゼンスを高め、最先端の研究成果を世界に発信する。

食料科学委員会 (畜産学分会)					
委員長	木村 直子	副委員長	栗田 浩	幹事	笠嶋 快周、後藤 貴文、安尾しのぶ
主な活動	審議内容				
	意思の表出 (畜産学に関連した教育・研究の課題、あらゆる危機に備える畜産学の在り方など) についての協議し、公開シンポジウムの準備を行った。				
	意思の表出 (※見込み含む)				
	意思の表出の申出書の作成途中。				
	開催シンポジウム等				
公開シンポジウム「日本在来馬は、どこから来て、どこへ行くのか？」(2025年3月15日、参加者約224名)、「続・動物の繁殖の研究ってこんなに広がるの!？」(2025年5月17日、参加者約130名)をオンライン開催した。公開シンポジウム「持続可能な畜産を目指して～温暖化を防止する技術の最前線～」を2025年9月14日に、岐阜大学にてハイブリット開催する予定。					
開催状況	分科会は、第4回(2024年10月16日)、第5回(2025年1月27日)、第6回(2025年5月12日)、の3回開催した。				
今後の課題等	意思の表出について、第26期中に発出可能かも含め、第7回(2025年9月14日)にて協議する予定。				

食料科学委員会・農学委員会合同 (CIGR 分科会)					
委員長	澁澤 栄	副委員長	高山 弘太郎	幹事	飯田 訓久、福田 弘和
主な活動	審議内容				
	国際農業工学会 (CIGR) に関して、わが国としての対応を審議する。また、わが国が CIGR を通して世界の食料生産・環境問題の解決に貢献する活動を推進し、国際的な視点で農業工学とその技術の進歩発展に資する活動を推進する。				
	意思の表出 (※見込み含む)				

	<p>複雑で多面的な農業の課題を効果的に解決するため、農業生産システムをデジタル空間上に精密に再現した“デジタルツイン農場”の活用について意思の表出を予定している。</p> <p>開催シンポジウム等</p> <p>CIGR 第6回世界会議（2024.5.19-5.23、韓国）に澁澤・二宮ほか多数出席、理事会（2024.5.19）にてAIのWG提案、継続審議。2025年9月16日に愛媛大学において公開シンポジウム「Speaking Plant Approach 2.0 ～農業生産現場実装と学術の次なる挑戦～」を開催。</p>
開催状況	
今後の課題等	<ul style="list-style-type: none"> ● 日本が主導している CIGR Working Group「Plant Factory and Intelligent Greenhouse」を Technical Section に昇格させること。日本の強みであるスマート農業研究において世界をリードする方策を検討する。 ● CIGR World Congress 2026（イタリア、トリノ市、2026年6月24日～26日）での若手研究者派遣、国際連携、サイエンス・コミュニケーション、CIGR ジャーナル投稿、関連する国際学会に関する情報共有、標準化などを推進する。

食料科学委員会・農学委員会合同（PSA分科会）						
委員長	（未定）世話人 大越 和加	副委員長	（未定）	幹事	（未定）	
主な活動	審議内容					
	太平洋学術協会の主な活動である太平洋学術会議がコロナ禍以来、延期が続いている。執行理事会メンバーと随時連絡を取り合い太平洋学術協会の動向について確認を行ったが、協会の活動は不活発で、対応分科会としては実りある活動は望めなかった。					
	意思の表出（※見込み含む）					
	なし					
	開催シンポジウム等					
なし						
開催状況	太平洋学術協会の活動が不活発だったため、対応分科会としての実りある開催は望めなかった。随時、太平洋学術協会執行理事会との連絡を試み活動について確認を行った。					
今後の課題等	太平洋学術協会の今後の活動内容を確認し、日本の対応分科会としての連携等、審議する。太平洋学術協会の最も主要な活動である PSC（太平洋学術会議）が 2025 年 11 月に 9 年ぶりに開催される見込みとなったため、今後の学際的な研究活動について意見交換を行うとともに、畑井メダル顕彰事業について審議する。					

食料科学委員会・農学委員会合同（東日本大震災に係る食料問題分科会）					
委員長	中嶋 康博	副委員長	西川 正純	幹事	関谷 直也、小山 良太、 八木 信行
主な活動	審議内容				
	東日本大震災に係る食料問題の解決と地域の振興に係る事項				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	2025年1月26日 オンライン開催				
今後の課題等	東日本大震災からの復興の上にさらなる地域振興へ進むにあたり、農林水産業をめぐる複合的な課題を検討し、そこで明らかになった事項をテーマにして現地において公開シンポジウムを開催する。				

食料科学委員会・基礎医学委員会合同（獣医学分科会）					
委員長	堀 正敏	副委員長	石塚 真由美	幹事	池田 正浩、志水 泰武
主な活動	審議内容				
	<p>今期は、2024年3月に発生した機能性表示食品による健康被害の事故を鑑みて、わが国の機能性食品に係わる制度に対する討議を行い、その内容を基礎に、提言「わが国の機能性食品制度に関わる課題とその対応」を発出準備中である。また、少子化と高齢化が進む中、50年後を見据えた我が国の獣医学が担うべき社会的役割とその対応について関係省庁や財団、大学などと意見交換し、提言「わが国における獣医学の担う社会的役割の長期展望とその対応」を作成中である。</p>				
	意思の表出（※見込み含む）				
	<p>提言「わが国の機能性食品制度に関わる課題とその対応」を発出準備中。 提言「わが国における獣医学の担う社会的役割の長期展望とその対応」を作成中</p>				
	開催シンポジウム等				
	<p>2024年4月27日 公開シンポジウム『「紅麴サプリ食品事故」から考える ～サプリメント、機能性表示食品とは？～』（Web開催） 2024年11月30日 公開シンポジウム「動物の安楽死を考える」（Web開催）（日本法獣医学会との共催）</p>				
開催状況	すべて Web 開催 2024年2月17日 第1回会議、2024年3月29日 第2回会議、2024年5月28日 第3回会議、2024年8月21日 第4回会議、2025年1月6日 第5回会議、2025年4月1日 第6回会議、2025年7月2日 第7回会議。このほかに有志による臨時会議を2025年2月19日にハイブリッド開催し、厚生労働省との				

	意見交換会を非公式委員会として 2025 年 8 月 5 日に開催した
今後の課題等	提言「わが国における獣医学の担う社会的役割の長期展望とその対応」を 2026 年 3 月までに提出することが重要であり、期内での提言の発出を実現したい。

食料科学委員会・農学委員会合同（食の安全分科会）					
委員長	堀 正敏	副委員長	石塚 真由美	幹事	木村 直子、松田 二子
主な活動	審議内容				
	本分科会では、自然科学、農業経済、社会科学による食の安全に関する科学—行政—社会の連携構築に関わる審議を行なっている。今期は、2024 年 3 月に発生した機能性表示食品による健康被害の事故を鑑みて、わが国の機能性食品に係わる制度に対する討議を行った。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	提言「わが国の機能性食品制度に関わる課題とその対応」を作出し現在査読中。				
	開催シンポジウム等				
2024 年 4 月 27 日 公開シンポジウム『紅麴サプリ食品事故』から考える ～サプリメント、機能性表示食品とは？～（Web 開催）					
2024 年 11 月 30 日 公開シンポジウム「動物の安楽死を考える」（Web 開催）（日本法獣医学会との共催）					
開催状況	すべて Web 開催 2024 年 2 月 17 日 第 1 回会議、2024 年 3 月 29 日 第 2 回会議、2024 年 5 月 16 日 第 3 回会議（Web 開催）、2024 年 7 月 23 日 第 4 回 会議（Web 開催）、2025 年 1 月 14 日 第 5 回会議（Web 開催）、2025 年 4 月 1 日 第 6 回 会議（Web 開催）、2025 年 8 月 25 日 第 7 回 会議（Web 開催）				
今後の課題等	提言「わが国の機能性食品制度に関わる課題とその対応」のフォローアップ活動を期内に実現することが肝要である。				

食料科学委員会・農学委員会合同（農芸化学分科会）					
委員長	竹中 麻子	副委員長	東原 和成	幹事	室田 佳恵子、小川 剛伸
主な活動	審議内容				
	・サイエンスカフェおよび公開シンポジウム等の啓発活動について検討した。 ・「わが国の機能性食品制度に関わる課題とその対応」に関する意思の表出について検討した				
	意思の表出（※見込み含む）				
	・「わが国の機能性食品制度に関わる課題とその対応」（提言、査読中）。				
	開催シンポジウム等				
・サイエンスカフェ in 徳島「徳島発のバイオテクノロジー：阿波晩茶とコオロギの魅力」（2024 年 11 月 24 日、徳島大学 フューチャーセンター）					
・サイエンスカフェ in 仙台「おいしさ。その正体、放射光ではかれます。」（2025					

	年 6 月 21 日、東北大学 青葉山新キャンパス青葉山コモンズ)
開催状況	2024 年 11 月 22 日※メール、2025 年 1 月 7 日※メール、2025 年 8 月 15 日※メール、2025 年 9 月開催予定
今後の課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・意思の表出の準備を進める。 ・分科会主催のシンポジウムを開催する。 ・サイエンスカフェの共同主催を今後も積極的に行っていく。 ・農芸化学分野が抱える課題等について議論する。

食料科学委員会・農学委員会合同（農業情報システム学分科会）					
委員長	高山 弘太郎	副委員長	澁澤 栄	幹事	彦坂 晶子 福田 弘和
主な活動	審議内容				
	<ul style="list-style-type: none"> ・農林水産業のイノベーションの基盤となる農業情報の創成とその社会実装をめざした技術開発に関する課題の審議を行った。 ・カーボンニュートラルに資するスマート農業、安全・安心が担保されたスマートフードチェーン及びそれらの自動化・ロボット化について審議・検討した。 ・オープンデータ化・スタートアップ総合支援・カーボンニュートラルへの取り組み戦略・ISO におけるスマート農業に関する IWA 47 に関する検討を行った。 				
	意思の表出（※見込み含む）				
	あり				
	開催シンポジウム等				
<ul style="list-style-type: none"> ・公開シンポジウム「Speaking Plant Approach 2.0 ～農業生産現場実装と学術の次なる挑戦～」2025 年 9 月 16 日（火）、場所：愛媛大学農学部 大講義室（オンライン併用）を開催予定である。 					
開催状況	・2025 年 9 月 16 日の公開シンポジウム開催時に登壇委員による意見交換を行う予定				
今後の課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・農業のオープンデータ化、スタートアップ総合支援、カーボンニュートラルへの取り組み戦略、ISO におけるスマート農業に関する IWA 47 について引き続き検討を行う。 ・公開シンポジウムのテーマとなっている植物生体情報の農業活用に関する項目を審議内容に加える。 				

⑮基礎医学委員会



基礎医学委員会					
委員長	五十嵐 和彦	副委員長	柚崎 通介	幹事	西谷 陽子、 山田 泰広
主な活動	審議内容				
	分科会設置状況について確認し、各分科会の活動状況の確認を行った。「我が国の学術の発展・研究力強化に関する検討委員会」からのヒアリングに向けて、基礎医学委員会に加えて臨床医学委員会、歯学委員会、薬学委員会に意見聴取を行い、資料をまとめた上で 2024 年 12 月 4 日にヒアリングを受け、研究者および技術者のキャリアパス整備の重要性などについて意見を提出した。4月の委員会では研究力強化に関して、企業と大学の人材交流、基礎医学領域に特有の問題を中心に意見交換の場を設ける必要性などについて意見交換を行った。脳倫理に関する見解、健康食品・機能性食品に関する提言について、査読を行った。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	脳倫理に関する見解（改訂中）				
	開催シンポジウム等				
無し					

開催状況	2024年10月22日、2024年11月21日メール、2025年4月15日、2025年7月3日メール
今後の課題等	人材育成について、基礎医学領域に特有の問題を中心に意見交換の場を設ける必要性がある

基礎医学委員会 (IUPS 分科会)					
委員長	赤羽 悟美	副委員長	久保 義弘	幹事	岡村 康司 中條 浩一
主な活動	審議内容				
	<p>1. 令和7(2025)年度の代表派遣会議である IUPS Congress 2025 (Frankfurt, ドイツ) に向けた申請候補者として、中條浩一委員を選出し、採択された。</p> <p>2. IUPS Congress 2025 で開催される IUPS 総会に日本から参加する代議員 (delegate) として、IUPS 理事の岡村委員と久保委員以外から、中條委員、日比野委員、赤羽委員長、平野勝也氏、西谷友重氏、鯉淵典之氏、の6名を選定した。</p> <p>3. IUPS のメンタープログラムの議論を活発化するため、花田礼子氏 (大分大学) を第26期の連携会員 (特任) として申請し、承認された (発令: 2025年4月1日)。</p> <p>4. IUPS Congress 2029/2033 の開催国として日本が立候補する可能性について議論した。日本生理学会執行部も交えて検討し、日比野浩委員を大会長候補者として IUPS Congress 2029 に立候補することを決定した。IUPS Congress 2025 で開催された総会において代議員の投票により、IUPS Congress 2029 を、日本生理学会がホストを務め日本 (神戸) で開催することが決定した。</p> <p>5. IUPS Congress 2025 で開催された総会において代議員の投票により、IUPS 次期執行部および理事 (2025-2029) を決定した。日本からは、久保義弘委員が IUPS President に、岡村康司委員が IUPS Council (Chair of Commission VI - Molecular & Cellular Physiology) に選出された。</p>				
	意思の表出 (※見込み含む)				
	なし				
開催状況	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	第26期第2回 IUPS 分科会委員会: 2024年12月18日 オンラインにて開催した。次回の IUPS 分科会は、2025年11月にオンラインにて開催する予定。				
今後の課題等	IUPS Congress 2029 (2029年7月, 神戸, 日本) を成功させることにより、日本のプレゼンスを示し、世界の生理学研究の最先端を牽引するべく、一致協力する。IUPS の東南アジアやアフリカ地域における生理学の研究・教育の支援プログラムに協力し貢献する。				

基礎医学委員会 (IUBMB 分科会)					
委員長	五十嵐 和彦	副委員長		幹事	
主な活動	審議内容				
	五十嵐委員を委員長に任命することが承認された。五十嵐委員より、9月26日から28日にオーストラリア・メルボルンにて開催された大会に、日本代議員として本間光一氏(帝京大学)、本橋委員、五十嵐委員が出席したこと、および次期会長に Sandhya Visweswariah 氏(インド)が選出された旨の報告があった。				
	意思の表出(※見込み含む)				
	無し				
	開催シンポジウム等				
	無し				
開催状況	2024年11月6日(水)16:00~16:35 パシフィコ横浜ノース 第15会場(G320)にて開催(出席者:五十嵐和彦、門松健治、菊池章、斉藤典子、水島昇)				
今後の課題等	生化学会と連携して IUBMB および FAOBMB の運営により強くコミットしていく。研究活性化や若手研究者の支援等について、生化学会等の各委員会と連携し、会員との意見交換を進めていく。				

基礎医学委員会 (IUPHAR 分科会)					
委員長	古屋敷 智之	副委員長	小泉 修一	幹事	黒川 洵子、村松 里衣子
主な活動	審議内容				
	国際薬理学連合(IUPHAR)の各分科会(薬物標的命名及びデータベース構築、神経・精神薬理学、免疫薬理学、薬理学教育、電子教科書編纂の各分科会)やアジア太平洋薬理学連合(APFP)執行部からの参画委員の報告に基づき、IUPHAR など諸外国の薬理学会との合同会議等での連携について協議した。IUPHAR での我が国のイニシアティブを維持向上させるため、IUPHAR への働きかけと施策の検討を継続すること、国内の薬理科学関連学協会の統合的連携を継続し国際対応基盤を強化すること、既設のウェブサイト「国際交流ひろば」を充実させて IUPHAR 活動をさらに周知している。				
	意思の表出(※見込み含む)				
	予定なし				
	開催シンポジウム等				
	2024年11月7日~9日に韓国済州島にて韓日薬理学合同セミナーを開催した。2024年12月1日~4日に豪州メルボルンにて開催された豪州薬理毒性学会(ASCEPT)・APFP・豪州薬学会連合(APSA)合同大会にて、萩原正敏博士が特別講演に、黒川洵子博士が循環器疾患における性差に関するシンポジウムに招聘された。2025年3月17日~19日に千葉にて開催された第130回日本解剖学会総				

	会・第 102 回日本生理学会大会・第 98 回日本薬理学会年会（APPW2025）合同大会にて、IUPHAR 理事長の Francesca Levi-Schaffer 博士と豪州薬理毒性学会 ASCEPT 前理事長の Kevin Pflieger 博士による特別講演を開催するとともに、IUPHAR、日本薬理学会、本分科会のコアメンバーが対面で意見交換を行い、薬理学・創薬科学分野における国際活動の現状を確認するとともに、日本の薬理学・創薬科学の強みと国際的な役割を改めて共有した。
開催状況	2025 年 1 月 7 日（火）にオンラインにて分科会を開催した。
今後の課題等	今期の活動方針として以下の柱を設定して活動を行ってきたが、これらは重要課題として今後も継続して検討していく：（1）IUPHAR を基軸とした国際的プレゼンスの維持・向上と国際的人材の育成。（2）生命科学における薬理科学の位置づけの確立と、基礎生命科学からの創薬、医療に関わる我が国の薬理科学関連学協会の統合的な連携の構築による国際対応基盤の強化。（3）総合的な薬理科学の視点から、生命科学とその応用分野及び国際保健、国際対応に関わる意思の表出。

基礎科学委員会（ICLAS 分科会）					
委員長	入来 篤史	副委員長	末松 誠	幹事	山崎 由美子
主な活動	審議内容				
	<ul style="list-style-type: none"> ● 予定されている動物愛護法改正への対応として、日本実験動物学会（JALAS）や日本学術会議実験動物分科会との連携強化を図っている ● 広く国際競争的資金獲得の要件となっている AAALAC International による動物実験施設の認証などの国際標準への対応が日本国内で進んでいない現状と今後の方策について検討を続けている。 ● 国際学術会議の諸活動への、会員としての ICLAS の参画形態について検討した。 				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	ICLAS 理事会での緊急審議事項などにつき、随時即応対応審議した。				
今後の課題等	<ul style="list-style-type: none"> ● ICLAS が主導する形で複数の国際組織に亘って策定中の「国際動物実験ガイドライン」に掛かり、日本が主導して非西欧的な価値観や社会状況を反映するための具体的方策を検討する。 ● 2026 年度に予定されている ICLAS 創立 70 周年記念事業に掛かり、創立に大きく貢献した日本の役割を果たすべく、その有効な参画形態を検討する。 				

基礎医学委員会・臨床医学委員会合同（アディクション分科会）					
委員長	西谷 陽子	副委員長	池田 和隆	幹事	南 雅文、住谷 昌彦
主な活動	審議内容				
	<p>・市民公開講座プログラム「アディクションの克服に向けて」（2024年5月26日）の報告、オピオイド鎮痛薬の全国アンケート調査、政府の骨太の方針に依存症の研究を行うことの明記などの情報共有を行った。</p> <p>・未来の学術振興構想（GV 7-48「アディクション学の創成および発展」）改訂、Addiction 誌へのポジションペーパーの投稿について議論がなされた。</p>				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし。				
	開催シンポジウム等				
なし。					
開催状況	・2025年2月5日、2025年7月30日				
今後の課題等	日本におけるアディクションに関する研究を推進するための後押しが必要である。				

基礎医学委員会（形態・細胞生物医科学分科会）					
委員長	渡辺 雅彦	副委員長	仲嶋 一範	幹事	澤本 和延、武川 睦寛
主な活動	審議内容				
	<p>高校生を対象とした生命科学の面白さを伝える形態科学シンポジウムを、基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同細胞生物医科学分科会と合同で2025年において開催する。</p>				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
<p>2025年8月23日（14時～17時）、東京大学医科学研究所講堂において「第14回形態科学シンポジウム：生命科学の魅力を語る高校生のための集い—分子の視点で解き明かす病気のメカニズム—」を、武川委員を世話人として開催した。事前参加登録者は210名（対面参加50名、オンライン参加者160名）であった。</p>					
開催状況	2025年8月23日（12:30-13:10）、今期第2回目となる分科会をハイブリッド会議にて開催した（現地参加7名、オンライン参加7名、欠席3名）。				
今後の課題等	2027年開催に向け、第15回形態科学シンポジウムの準備を進めることが確認された。				

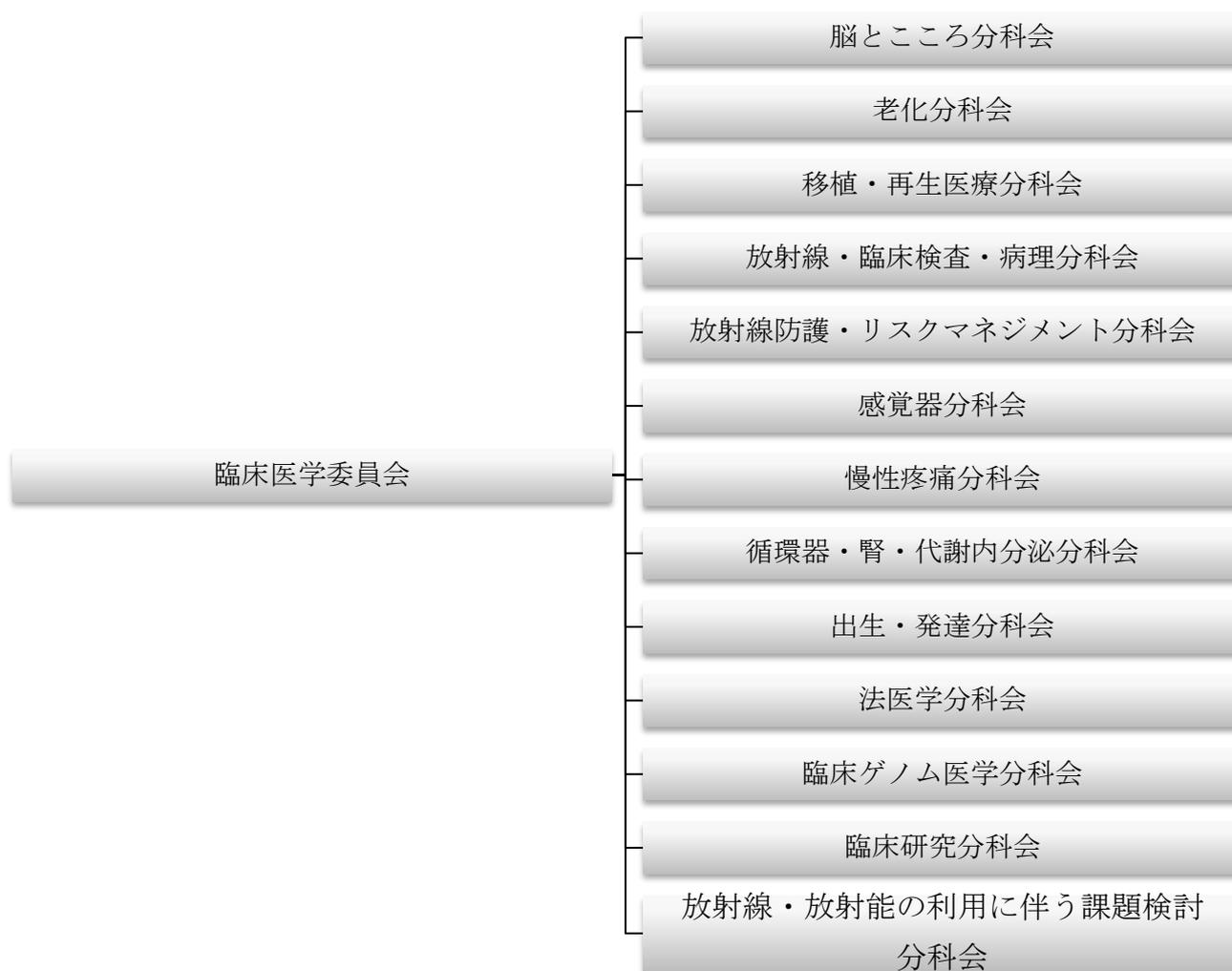
基礎医学委員会（神経科学分科会）					
委員長	柚崎 通介	副委員長	藤山 文乃	幹事	上口 裕之、渡辺 雅彦
主な活動	審議内容				
	1. 脳研究倫理の見解について 2. 研究力強化について 3. グランドビジョンの update について、の3点を議論した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	1. について、脳研究倫理についての見解を 2025 年度中に発出する見込みである。				
	開催シンポジウム等 2025 年 7 月 27 日（日） 討論会「私たちが望む未来の脳科学—これからの研究環境を共に」を朱鷺メッセ（日本神経科学大会）で開催した。 https://neuroscience2025.jnss.org/special.html#sp08				
開催状況	2025 年 7 月 26 日 第 3 回分科会（ハイブリッド：出席 17 名、欠席 6 名）を開催。				
今後の課題等	2. については学協会（脳科学関連学会連合）や、日本学術会議科学者委員会学術体制分科会や我が国の学術の発展・研究力強化に関する検討委員会等と連携して継続して活動を行う。 3. については脳神経科学に関連した 10 本のグランドビジョンについて、各学協会と連携して継続して討議し、統合する方向で改訂に協力する。さらにロードマップへの掲載を目指す。				

基礎医学委員会（機能医科学分科会）					
委員長	金井 好克	副委員長	岡村 康司	幹事	西谷 友重、日比野 浩
主な活動	審議内容				
	機能医科学に関わる諸問題を抽出し、主に機能医科学の概念の更新と再構築、研究・教育環境の整備、人材育成、学際的・国際的連携などに関して、関連学協会と連携しながら分野横断的な議論をおこなっている。具体的には、環境と健康の統合的理解を目指し、生命科学の基盤強化、若手研究者の育成、博士号の質向上、予算戦略の推進、学協会との連携や社会への発信を通じた新たな研究提言などについて議論している。さらに、2026 年 1 月頃の開催を目標に、公開シンポジウムの計画を進めている。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	予定なし				
	開催シンポジウム等 第 130 回日本解剖学会・第 102 回日本生理学会・第 98 回日本薬理学会合同大会（APPW2025：2025 年 3 月 17 日～19 日）において、日本学術会議機能医科学分科会連携シンポジウム「基礎医学研究から拓く次世代ヘルスケア」を開催し、多くの関心を集めた(https://www.aeplan.jp/appw2025/static/static/program/)。				
開催状況	2024 年 12 月 25 日（水）にオンラインにて分科会を開催した。				
今後の課題等	今期の審議内容として以下の柱を設定して検討を行っているが、これらは機能医科学に関わる重要課題として今後も継続して検討していく：（1）持続的発展を担う				

	環境の整備・人材育成。(2)長期的視野での学際的研究の推進。(3)関連学協会・研究者コミュニティの連携。(4)国際学術協力の推進。
--	---

基礎医学委員会・基礎生物学委員会・統合生物学委員会・食料科学委員会・臨床医学委員会・薬学委員会合同（動物実験分科会）					
委員長	加藤 総夫	副委員長	金井 正美	幹事	城石 俊彦
主な活動	審議内容				
	オンライン分科会会合において、(1)環境省「実験動物取扱いの実態に関する調査」結果の分析、(2)動物愛護管理法改正の動向、および、(3)2026年に「動物実験の2006年体制」から20年を迎えるにあたり、その発端となった学術会議としての対応などについて意見交換した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし。				
	開催シンポジウム等				
	なし。				
開催状況	2025年2月6日第26期第2回会合をオンライン開催した。				
今後の課題等	2026年に「動物実験の2006年体制」の発足から20年を迎えるにあたり、2023年に表出した報告「動物実験実施に関する共通基本指針の策定を中心とした機関管理制度の充実について（ https://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-25-h230926-4.pdf ）」等を踏まえ、2026年中に公開シンポジウムを開催すべきであることについて合意した。				

⑩臨床医学委員会



臨床医学委員会					
委員長	山本 晴子	副委員長	野出 孝一	幹事	秋下 雅弘 斯波 真理子
主な活動	審議内容				
	臨床医学委員会では、臨床医学に関する様々な学問的課題について審議することとしている。学問領域が広範囲であることから、13の分科会を設置して、分科会ごとの活動を中心としている。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	複数の分科会が今期中の意思の表出について予定している。				
主な活動	開催シンポジウム等				
	複数の分科会がシンポジウム等の開催について予定している。				

開催状況	2023年10月4日に第1回（ハイブリッド形式）、2024年6月25日に第2回委員会（ウェブ会議形式）、2025年5月29日に第3回委員会（ウェブ会議形式）を開催した。
今後の課題等	今後も年1、2回開催し、各分科会の活動等を見守りつつ、問題があれば議論していく予定。

臨床医学委員会（脳とこころ分科会）					
委員長	高橋 良輔	副委員長	加藤 忠史	幹事	古屋敷 智之、 林 由起子
主な活動	審議内容				
	未来の学術振興構想のグランドビジョン改訂にあたって、「学術の中長期戦略」No.38の改訂案に関して、日本脳科学関連学会連合との共同提出を検討している。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	基礎医学員会神経科学分科会、臨床医学委員会移植・再生医療分科会と共同作成の「脳科学研究とその臨床応用に関わる倫理的課題」見解案の分野別委員会による査読が2025年8月時点で終了している。				
開催状況	開催シンポジウム等				
	なし。				
開催状況	2024年7月31日（水）20：00-21：00 第26期・第1回分科会ウェブ開催 2025年9月中に第2回分科会開催予定				
今後の課題等	日本脳科学関連学会連合との連携を推進する方策を検討したい。				

臨床医学委員会・健康・生活科学委員会合同（老化分科会）					
委員長	荒井 秀典	副委員長	秋下 雅弘	幹事	飯島 勝矢
主な活動	審議内容				
	今期（26期）のテーマの軸として「高齢者の自立・自律・ウェルビーイング」を掲げ、高齢化が進む中、社会の変化に応じた高齢者がどのように「自律・自立した生活」を送ることができるのかを、学際的（人文科学、経済学、法学、医学、工学分野の会員、連携会員）に議論することにより、人生100年時代に対する対応策を議論する必要がある。よって、本分科会から過去に発出された提言及び見解（4回分）において、多様なステークホルダーにどの程度認知され、社会に影響を及ぼしたかを今回検証する。社会に対してどのような影響を及ぼしたのかについてのアンケート調査を実施し（2025年9月実施予定）、報告を提出する予定である。また、その結果を踏まえ、高齢者の自律・自立をテーマとしたシンポジウムを開催する方向で検討している。				
	意思の表出（※見込み含む）				

	<p>今までの提言や見解（第 21 期、22 期、24 期、25 期：以下、詳細）に対する多方面へのオンライン形式アンケートを実施し、その「報告」という形で出す予定。</p> <p>① 【第 21 期】よりよい高齢社会の実現を目指して -老年学・老年医学の立場から- （2011 年 7 月 21 日 発出）</p> <p>② 【第 22 期】超高齢社会のフロントランナー日本：これからの日本の医学・医療のあり方 （2014 年 9 月 30 日 発出）</p> <p>③ 【第 24 期】活力ある超高齢社会の構築に向けて -これからの日本の医学・医療、そして社会のあり方- （2020 年 9 月 11 日 発出）</p> <p>④ 【第 25 期】ウィズコロナを見据えたレジリエントな、かつ安心感ある地域づくりと医療ケア体制の再構築 （2023 年 9 月 27 日 発出）</p>
	開催シンポジウム等
	無し
開催状況	<p>① 幹事会ミーティング（2024 年 10 月 31 日 11 時～12 時 オンライン）</p> <p>② 全体会議（2024 年 12 月 25 日 10 時～11 時 オンライン）</p> <p>③ 幹事会ミーティング：アンケート調査打ち合わせ（2025 年 6 月 18 日 9 時～10 時 オンライン）※調査協力者 2 名も含む</p>
今後の課題等	前述のように、多方面の関係団体にオンライン調査が実施できるように、その基盤（Google form 形式）は完成しており、2025 年 9 月に実施予定である。

臨床医学委員会（移植・再生医療分科会）					
委員長	澤 芳樹	副委員長	岡野 栄之	幹事	岡田 潔
主な活動	審議内容				
	移植医療分野においては、世界と比較して普及が遅れている原因や方策等について議論した。また、再生医療分野においては、現行制度の問題点や世界との競争力向上のための方策等について議論した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	分科会で議論した内容を「報告」としてまとめ、公表する見込み。				
	開催シンポジウム等				
	現時点で予定なし。				
開催状況	<p>2024 年 12 月 9 日 第 26 期・第 2 回分科会 Web 開催</p> <p>2025 年 7 月 16 日 第 26 期・第 3 回分科会 Web 開催</p>				
今後の課題等	「報告」公表を目指し、準備をすすめる。				

臨床医学委員会（放射線・臨床検査・病理分科会）					
委員長	金井 弥栄	副委員長	相田 典子	幹事	矢富 裕
主な活動	審議内容				
	医療機関の中央部門である放射線医学・臨床検査学・病理学の横断的審議により、研究開発推進と医療提供体制の充実を目指している。本年度は技師と医師の協業のあり方を議論した。放射線医学領域では日本医学放射線学会・日本放射線科専門医会・日本診療放射線技師会が共同で、病理学領域では日本病理学会と日本臨床衛生検査技師会が共同で、技師が行える範囲と協業のあり方についてガイドライン等をまとめている。臨床検査学領域では、超音波検査等の領域で技師の権限を拡大できる可能性がある。3部門の現況について情報共有し、協業が技師の技量とモチベーションを高め、医療の質の向上に貢献していることを確認した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	第 25 期に発出した見解「医療従事者の職業被ばくに係る放射線管理の改善に向けて」の具現化のため、放射線審議会メンバーと日本医学放射線学会に協力要請を行い、安全研修ビデオとガイドラインの作成に着手している。				
	開催シンポジウム等				
	該当なし				
開催状況	2025年2月13日 11:00-12:00 放射線医学ワーキンググループ会合 web 開催 2025年3月10日 19:00-20:30 病理学ワーキンググループ会合 web 開催 2025年3月26日 19:00-20:30 分科会全体会合 web 開催 2025年4月16日 17:00-17:30 臨床検査学ワーキンググループ委員と日本臨床検査医学会理事長との懇談会 web 開催				
今後の課題等	各中央診療部門で成分化されている技師等との協業に関する指針を収集し、未整備の領域を洗い出す。中山智祥委員が大会長を務める日本医療検査科学会第 57 回大会（2025年10月3-5日）のシンポジウムにおいて、病理医・放射線医・臨床検査医・臨床検査技師が意見交換する。技師と医師が連携した教育・研修体制構築が重要であることを、分科会から対外的に発信していく。				

臨床医学委員会（放射線防護・リスクマネジメント分科会）					
委員長	神谷 研二	副委員長	島田 義也	幹事	井上 優介、細谷 紀子
主な活動	審議内容				
	なし				
	意思の表出（※見込み含む）				
	今期中の意思の表出を目指す。				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	なし				

今後の課題等	リスクコミュニケーションに関する医療や学校教育（初等、中等、高等教育、及び医療専門職教育）、及び学会等の情報を収集する必要がある。
--------	---

臨床医学委員会（感覚器分科会）					
委員長	寺崎 浩子	副委員長	山嵜 達也	幹事	五味 文、松本 有
主な活動	審議内容				
	1) 今後の感覚器分科会の在り方と学会の立ち位置について 2) 令和7年度中の公開シンポジウムの開催に向けた検討 シンポジウムの演題は下記のとおりとし、会員・連携会員等で役割分担を決定することとした。 1. 加齢による機能障害；のどの加齢、眼の加齢 2. 認知機能と感覚器疾患；難聴、視力低下 3. 感覚機能障害の回復治療最先端；人工聴覚器、光遺伝学を用いた視覚再生意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	2026年2月14日に「みる・きく・はなすの老化と視覚・聴覚最先端治療」と題し、感覚神経分野の連携会員、会員、日本眼科学会、日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会の会員が参加して、公開シンポジウムを開催する予定である。				
	開催状況				
開催状況	2025年5月30日 ※オンライン				
今後の課題等	加速する高齢化に対し、国民に広く啓発を行うとともに、老化分科会とも共同して、早期発見、さらには先制医療を進めるための方策を具体化する。				

臨床医学委員会（慢性疼痛分科会）					
委員長	中村 雅也	副委員長	住谷 昌彦	幹事	
主な活動	審議内容				
	・ 市民公開セミナー「知ってほしい運動器疼痛・疾患の対策と実践」を開催した。 ・ 重症運動器疼痛に対する三次予防に関する取り組みを充実させるための啓蒙活動の方針について協議した。 ・ 関連学術団体との交流について検討した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし（2023年9月27日見解を發出済み）				
	開催シンポジウム等				
	市民公開セミナー（2025年2月16日）				
開催状況	2024年10月11日※メール、2025年2月16日※WEB 会合				
今後の課題等	・ 一次予防～三次予防に層別化した慢性疼痛対策の取り組みに関する専門家の協議を深める機会を創出する ・ 一般市民が慢性疼痛について理解を深めるための市民公開セミナーを企画する				

臨床医学委員会（循環器・腎・代謝内分泌分科会）					
委員長	野出 孝一	副委員長	斯波 真理子	幹事	金子 英弘、水野 篤
主な活動	審議内容				
	日本における診療科を超えて、循環器・腎・代謝症候群（CKM）をどのように取り扱うか、制度・学術・産業領域からの多角的な視点で検討を行っている。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	27期の2027年に提言の表出を考えている。				
	開催シンポジウム等				
	<p>2025年4月27日（日）公開シンポジウム「心腎代謝症候群（CKMS）について多角的に考察する～産官学によるCKMS対策に関する政策提言に向けて～」を開催した。</p> <p>2025年6月20日（金）日本腎臓学会/日本学術会議 循環器・腎・代謝内分泌分科会合同企画シンポジウム「腎臓を取り巻く臓器連関」を開催した。</p> <p>2025年9月13日（土）学術フォーラム「多層多軸連関で捉えて対策する心血管・腎・代謝症候群」開催予定。</p> <p>2026年3月20～22日の日本循環器学会学術集会で当分科会との合同シンポジウムを開催予定。</p>				
開催状況	2025年1月25日第1回会合（参加者が分散したため4回に分けて実施した）。				
今後の課題等	<p>9月の学術フォーラムで多層多軸連関でどのようなことを意見の表出するべきなのかを整理する。</p> <p>人文社会系の研究者の関与の在り方が重要であると考えている。</p>				

臨床医学委員会・健康・生活科学委員会合同（出生・発達分科会）					
委員長	高橋 尚人	副委員長	古庄 知己	幹事	武藤 香織、石崎 優子
主な活動	審議内容				
	<ul style="list-style-type: none"> ・「現代の新生児医療における臨床倫理の考え方と医学的意思決定の方法」の見解発出に向けてオンラインにて審議を行っている。 ・会議を頻回に繰り返し、議論を行っている。 				
	意思の表出（※見込み含む）				
	発出予定は第26期の終了前。2026年1月から2月の見込み				
	開催シンポジウム等				
	公開シンポジウムを2026年3月開催予定				

開催状況	会議（2024年10月16日、10月30日、12月17日、2025年1月30日、3月27日、4月10日、5月28日、6月25日、7月17日、31日、8月19日）
今後の課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・見解の最終的な取りまとめ ・公開シンポジウムの準備

臨床医学委員会・基礎医学委員会合同（法医学分科会）					
委員長	西谷 陽子	副委員長	藤田 眞幸	幹事	橋本 優子、松本 博志
主な活動	審議内容				
	2025年4月28日に第26期・第1回分科会をオンライン会議にて開催した。特任連携会員を選出し、第24期で実施した進路選択に関わるアンケート、ならびに第25期にて発出した報告「法医学を専攻する医師（法医）の確保と育成に向けて」の確認と意見交換が行われた。今後は法医学の現状と海外状況を確認し、今後関係団体とヒアリングや意見交換を行うこととなった。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし。				
開催状況	2025年4月28日				
	法医学の現状と海外状況を確認し、今後関係団体とヒアリングや意見交換等を行う。				

臨床医学委員会（臨床ゲノム医学分科会）					
委員長	戸田 達史	副委員長	櫻井 晃洋	幹事	田中 敏博
主な活動	審議内容				
	臨床ゲノム医学分科会では、研究指針の統合、全ゲノム解析の進展とその臨床応用、がんゲノム医療の発展、遺伝学的検査の保険診療化、遺伝子検査ビジネス、生殖遺伝学の倫理、DNA親子鑑定の問題など、主に臨床ゲノム医学の現在の「問題」の抽出を行ってきた。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	前期にシンポジウムも開催したDNA親子鑑定の案件について、2024年秋に行った分科会で「見解」で出すことが決定され、「意思の表出申出書」を提出した。その後「科学的助言等対応委員会」での助言が届き、「見解」でなく「報告」として表出するようにとの指示であった。メール審議を経て「報告」DNA親子鑑定の実用化がもたらす家族間の揺らぎと法的・社会的課題、として2025年6月に提出した。現在査読中である。				
開催状況	開催シンポジウム等				

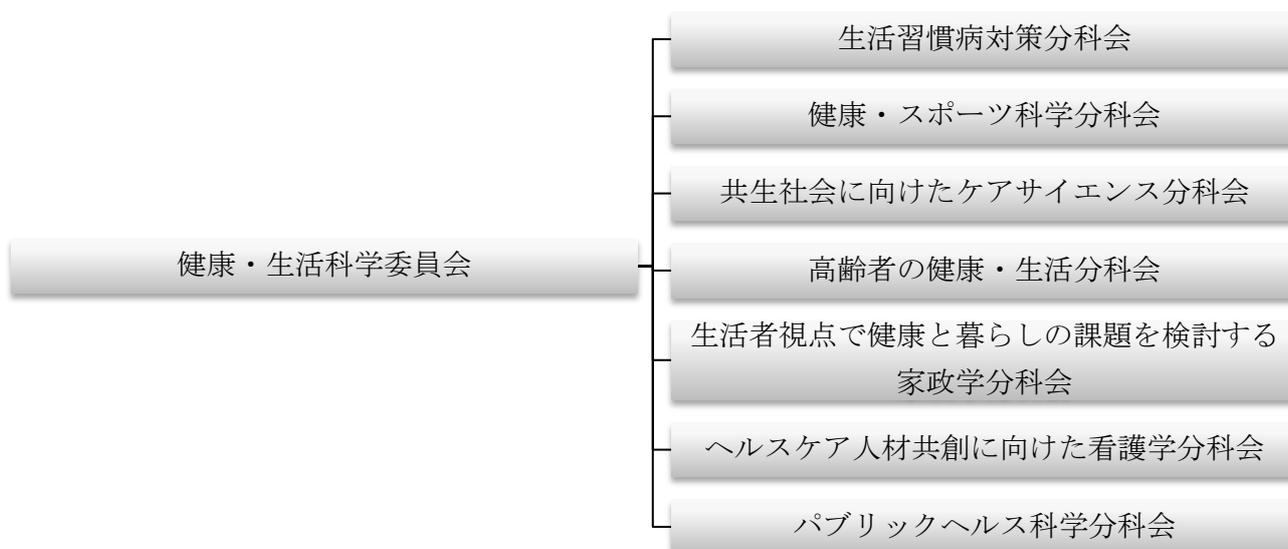
	2022年9月25日公開シンポジウム「DNA親子鑑定の実用化がもたらす家族観のゆらぎと法的・社会的課題」
開催状況	2024年10月22日オンライン開催
今後の課題等	今回の意思表出は、現時点で特定の結論を提示するものではなく、一般人に知っていただき社会的な議論を喚起することを目的とする。

臨床医学委員会（臨床研究分科会）					
委員長	山本 晴子	副委員長	金子 祐子	幹事	未定
主な活動	審議内容				
	日本の臨床研究の推進・強化のための方策や、医療・医学分野の特徴を踏まえた臨床研究体制の整備に係る審議を行っている。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	26期末頃に意思の表出を予定している。				
	開催シンポジウム等				
	2025年中の開催を予定している。				
開催状況	2024年4月15日、同年7月4日に開催した（いずれもウェブ会議形式）。				
今後の課題等	今年度中にシンポジウムの開催に向けた議論を行い、来年度にシンポジウムを開催し、その上で意見を取りまとめる予定である。				

臨床医学委員会・総合工学委員会合同（放射線・放射能の利用に伴う課題検討分科会）					
委員長	中野 隆史	副委員長	櫻井 博儀	幹事	西尾 禎治 唐澤 久美子
主な活動	審議内容				
	がんの制圧に向けて、治療成績の良好なQOLの高い治療法である粒子線治療（陽子線治療、重粒子線治療およびBNCT療法）は今後の需要が高く見込まれ、国際的な治療技術開発競争の渦中にある。この粒子線がん治療研究開発及びその社会実装について国際的な競争力の強化支援に関する審議を俯瞰的かつ分野横断的に行い、現状の課題と対策について、見解として社会に発出する。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	見解：粒子線がん治療産学共同研究および社会実装の国際的競争力強化に向けて（仮称）を発出予定				
	開催シンポジウム等				

	未定（見解発出後、開催に向けて前向きに検討予定）
開催状況	<ul style="list-style-type: none"> 1) 2024年12月4日 第1回小委員会（web会議）を開催 2) 2025年1月20日、第2回分科会（web会議）を開催 3) 2025年2月21日、第2回小委員会（web会議）を開催 4) 2025年7月18～27日、第3回分科会（メール会議）を開催 5) 2025年7月31日、第3回小委員会（web会議）を開催 6) 2025年8月25日、第4回分科会（web会議）を開催
今後の課題等	見解作成の小委員会により、当該課題と対策を整理し文章を取りまとめているが、専門的な内容をどの程度の学術レベルで記述するのが適切かについて検討している。

⑰健康・生活科学委員会



健康・生活科学委員会					
委員長	西村 ユミ	副委員長	杉山 久仁子	幹事	玉腰 暁子 熊谷 晋一郎
主な活動	審議内容				
	定期的に委員会を開催し、7分科会の活動の進捗を共有するとともに、公開シンポジウム、学術フォーラム、及び意思表示の共同発出について相談した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	委員会としては特になし				
	開催シンポジウム等				
	委員会としては特になし				
開催状況	計4回の開催：2024年11月17日、2025年1月27日、4月6日、7月20日（オンライン開催）				
今後の課題等	7分科会のうち6分科会が意思表示（提言、見解等）の発出を準備しつつある。委員会を超えた活動も多数あり、発出後にも共同して提言先に共有し、提言等の実現に向けた活動をすることが課題である。				

健康・生活科学委員会・臨床医学委員会合同（生活習慣病対策分科会）					
委員長	野出 孝一	副委員長	郡山 千早	幹事	池田 彩子、八谷 寛
主な活動	審議内容				
	提言の内容について審議を行った。それに関連し、公開シンポジウムの計画や各部へのヒアリング、提言の進め方について議論を行った。				

	意思の表出（※見込み含む）
	2026年3月（見込み）に「生活習慣病予防のさらなる推進に資する適切な用語・専門職及び多職種連携教育（仮題）」の「提言」を発出予定（申出書承認済み）
	開催シンポジウム等
	2024年12月22日公開シンポジウム「ライフコース・多職種の関わる生活習慣病予防」（第9回日本糖尿病・生活習慣病ヒューマンデータ学会共催） 2025年2月24日学術フォーラム「成人病から生活習慣病、そして今後～疾病予防をさらに進めるために～」 2025年5月24日公開シンポジウム「生活習慣がその発症・進行に関与する疾病予防のための最適な社会環境づくりと多様な担い手による支援」（第61回日本循環器病予防学会共催）
開催状況	2025年4月8日（オンライン）第3回分科会委員会 コアメンバーによる会議は随時行った。
今後の課題等	提言作成の完成

健康・生活科学委員会（健康・スポーツ科学分科会）					
委員長	山口 香	副委員長	宮地 元彦	幹事	家光 素行、 中村 真理子
主な活動	審議内容				
	スポーツを取り巻く環境は著しく変化しており、「スポーツとは何か」という根源的な問いに改めて向き合い、議論をする。具体的には、「スポーツを取り巻く情報とテクノロジー」「身体に介入する科学の入口としてのスポーツのあり方」「社会的資源としてのアスリートの価値や活用」について審議した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	開催シンポジウム等				
	「スポーツとは何か」という根源的な問いに改めて向き合い、議論をしていくため、全3回の公開シンポジウム開催を予定している。 2025年6月21日第1回公開シンポジウム「スポーツとは何か～スポーツを取り巻く情報とテクノロジー～」を開催した。				
開催状況	2024年12月5日第2回分科会開催 2025年2月3日第3回分科会開催 2025年3月20日第4回分科会開催 2025年6月21日第5回分科会開催 2025年7月24日第6回分科会開催				
今後の課題等	部会での審議や公開シンポジウムでの議論を踏まえ、どのような形で意思の表出につなげていくのかが課題である。				

健康・生活科学委員会・臨床医学委員会合同（共生社会に向けたケアサイエンス分科会）					
委員長	熊谷 晋一郎	副委員長	森山 美知子	幹事	山田 あすか、 山川 みやえ
主な活動	審議内容				
	<ul style="list-style-type: none"> ・2024年11月24日第1回公開シンポジウム『わたしたちごと』としてのケア～家族だけでも、専門家だけでもなく』を開催。 ・2025年2月23日第4回ケアサイエンス分科会を開催し、見解の構成と執筆者案に関する検討、意思の表出の申出書の内容確認、第2回シンポジウムの構成と登壇者案の検討を行った。 ・2025年4月21日第5回ケアサイエンス分科会を開催し、第3回シンポジウム（学術フォーラム）の内容に関する検討、見解の構成と執筆分担に関する検討、第2回シンポジウムの後援依頼・運営確認などを行った。 ・2025年6月22日第2回公開シンポジウム「ケア・イノベーションの最前動向」を開催。 ・2025年8月1日、3日に学術フォーラムの準備を兼ねた勉強会開催 ・2025年9月30日見解「ケア共同社会の実現に向けたケアサイエンスの展望」（案）第一稿完成予定。 ・2025年12月21日に開催予定の日本学術会議主催学術フォーラム「ケアの多様性・包摂性・公平性・持続可能性」が承認。 				
	意思の表出（※見込み含む）				
	・2025年中に意思の表出（見解）を発出。				
	開催シンポジウム等				
開催状況	第4回 2025年2月23日、第5回 2025年4月21日				
今後の課題等					

健康・生活科学委員会（高齢者の健康・生活分科会）					
委員長	森山 美知子	副委員長	住居 広士	幹事	飯島 勝矢、 伊香賀 俊治
主な活動	審議内容				
	<p>超高齢化社会において、障害を有しても社会で安心して生き生きと活動できるよう、最新の科学的知見による障害特性に応じた環境整備、住環境や交通・就労環境の構築による「エイジフレンドリーシティ（Age-friendly cities and communities）」の実現に向け、建築工学、健康科学、環境学、情報学等による学際領域が研究成果を融合させ、産業界と共にイノベーションを起こすための提言について話し合った。</p>				
	意思の表出（※見込み含む）				
	第26期中に見解あるいは報告を発出予定				

	開催シンポジウム等 2025年3月1日（土）に第1回公開シンポジウム「高齢者の健康と生活に与える環境の影響：学際領域の研究成果を融合」を実施した。 令和8年2月7日（土）に学術フォーラム「高齢者に優しいまちづくり：現場・自治体から学ぶ」を実施する予定
開催状況	合計2回開催した。2024年10月28日（オンライン）、2025年3月1日（オンライン）
今後の課題等	提言の発出を目指し、それを受けた学術フォーラムを開催し、自治体関係者や一般市民への周知を図る。

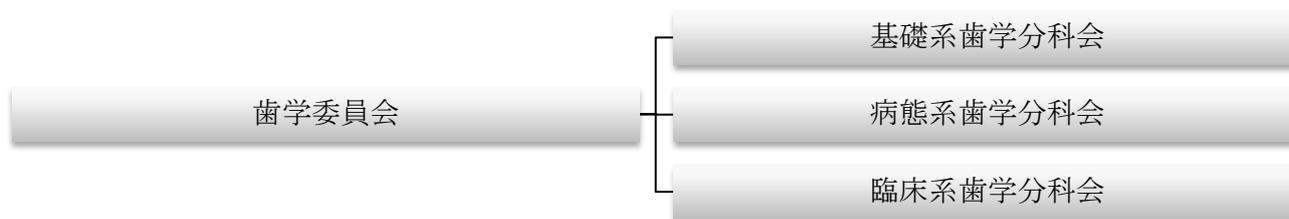
健康・生活科学委員会（生活者視点で健康と暮らしの課題を検討する家政学分科会）					
委員長	杉山 久仁子	副委員長	守随 香	幹事	佐藤 裕紀子、宮崎 陽子
主な活動	審議内容				
	前期に発出した子育て支援に関する「報告」の内容を、生活科学系コンソーシアムと共有し、さらなる議論を進めるためにシンポジウムの開催や、子どもの育ちを支援するための教育に関する課題について審議した結果を「報告」にまとめる予定。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	第26期中の発出を予定				
	開催シンポジウム等				
	生活科学系コンソーシアム主催で2024年12月22日に「子育てと子どもの育ちを支援する社会を実現するための課題について考える」をテーマとしたシンポジウムを開催。2025年12月には日本学術会議公開シンポジウムの開催を検討中。				
開催状況	2024年11月25日、12月13日、2025年2月17日、3月21日、8月27日				
今後の課題等	子育て支援という視点で、持続可能な生活を実現するために、学校教育及び生涯教育における課題とそのための対策について検討する。				

健康・生活科学委員会（ヘルスケア人材共創に向けた看護学分科会）					
委員長	西村 ユミ	副委員長	森山 美知子	幹事	大久保 暢子 仲上 豪二郎
主な活動	審議内容				
	人口減少・偏在社会における医療専門職（ヘルスケア人材）の地域、所属機関、専門領域の偏在が、すべての国民への医療・ケアの提供を困難にしている。これを解決するために、ヘルスケア人材のモデル実践と教育制度・方法を提案する。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	見解「人口減少・人口偏在社会に求められるヘルスケア人材」（予定）				
	開催シンポジウム等				
	2025年9月28日「人口減少・人口偏在社会に求められるヘルスケア人材：第2回」				

開催状況	計3回開催：2025年1月13日、5月4日、9月3日（オンライン開催）
今後の課題等	見解の発出プロセスを発出先と共有し、提案内容を実現させることが課題である。

健康・生活科学委員会（パブリックヘルス科学分科会）					
委員長	玉腰 暁子	副委員長	森 晃爾	幹事	田高 悦子
主な活動	審議内容				
	主に喫煙対策と公衆衛生人材の育成に関する活動について審議。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	2026年1月に見解「加熱式タバコ使用を含めた喫煙行動の調査・モニタリングの必要性について」を発出予定。 食料科学委員会・農学委員会合同食の安全分科会とともに提言「わが国の機能性食品制度に関わる課題とその対応」を発出予定。				
	開催シンポジウム等				
2024年10月に日本公衆衛生学会総会（北海道札幌市）において、「サステナビリ ティな社会を創るために公衆衛生はどうあるべきか」と題して、シンポジウムを開 催					
開催状況	2024年10月30日（ハイブリッド）、2025年2月19日、3月3日。 その他、「わが国の機能性食品制度に関わる課題とその対応」に関してメールを活 用して意見交換。				
今後の課題等					

⑩歯学委員会



歯学委員会					
委員長	村上 伸也	副委員長	森山 啓司	幹事	樋田 京子
主な活動	審議内容				
	基礎系歯学分科会、臨床系歯学分科会、病態系歯学分科会の3分科会を継続設置し、歯学領域横断的な活動を行った。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	報告「歯学分野の研究力の推移、および歯学領域が抱える課題」を、上記3分科会と連携し発出の予定。				
	開催シンポジウム等				
以下の公開シンポジウムを分科会と連携し開催した。 「バイオマテリアル・生態医工学の研究開発戦略」2024年10月29日 「女性理系研究者が拓く未来—歯学から芽生える新たな可能性」：2024年10月30日（公益社団法人 日本矯正歯科学会と共催） 「あごと顔の発生と進化」 2024年11月2日（一般社団法人 歯科基礎医学会と共催） 「国民皆歯科健診の意義を考える」：2025年5月17日（特定非営利活動法人 日本口腔科学会と共催） 「マテリアルとライフの融合サイエンス」2025年9月5日（一般社団法人 歯科基礎医学会と共催）					
開催状況	第26期 第5回歯学委員会（2024年10月22日） 第26期 第6回歯学委員会（2025年4月28日）				
今後の課題等	上記意思の表出を終える。次年度の公開シンポジウム開催準備を進める。 これからの日本学術会議における歯学委員会の活動につき、議論を進める。				

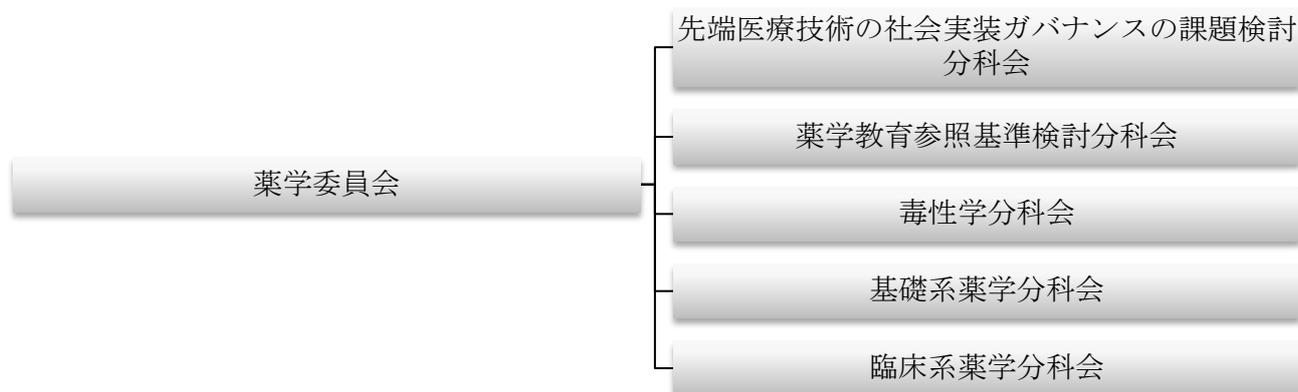
歯学委員会（基礎系歯学分科会）					
委員長	樋田 京子	副委員長	石丸 直澄	幹事	井関 祥子 美島 健二
主な活動	審議内容				
	基礎系歯学の学術の現状認識を踏まえて、今後の歯学・口腔科学の基礎系領域の学術のあり方、展望および情報発信に関する課題を協議した。 当分科会が主体となるシンポジウム企画について協議した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	歯学委員会，病態系歯学分科会，臨床系歯学分科会と合同で報告「歯学分野の研究力の推移、および歯学領域が抱える課題」を発出予定				
	開催シンポジウム等				
<ul style="list-style-type: none"> ・公開シンポジウム「女性理系研究者が拓く未来—歯学から芽生える新たな可能性」：2024年10月30日（公益社団法人 日本矯正歯科学会と共催） ・公開シンポジウム「あごと顔の発生と進化」2024年11月2日（第66回歯科基礎医学会学術大会と共催） ・公開シンポジウム「国民皆歯科健診の意義を考える」：2025年5月17日（特定非営利活動法人 日本口腔科学会と共催） ・公開シンポジウム「マテリアルとライフの融合サイエンス」：2025年9月5日（歯科基礎医学会と共催） 					
開催状況	26期 第2回分科会を2025年3月4日にWeb開催した。 委員長，副委員長，幹事で，上記報告作成に向けてオンライン会議、メール会議を数回開催した。				
今後の課題等	日本学術会議の法人化について関係者と情報共有するとともに、基礎歯学・口腔科学研究および学術のあり方および展望を協議し、幅広い学術分野との横断的連携を促進する。				

歯学委員会（病態系歯学分科会）					
委員長	村上 伸也	副委員長	中村 誠司	幹事	後藤 多津子 原田 浩之
主な活動	審議内容				
	下記、意思の表出ならびに公開シンポジウムの開催につき立案し、審議した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	報告「歯学分野の研究力の推移、および歯学領域が抱える課題」を、歯学委員会と連携し発出の予定。				
	開催シンポジウム等				
「女性理系研究者が拓く未来—歯学から芽生える新たな可能性」：2024年10月30日（公益社団法人 日本矯正歯科学会と共催）					

	「国民皆歯科健診の意義を考える」：2025年5月17日（特定非営利活動法人 日本口腔科学会学と共催） 「マテリアルとライフの融合サイエンス」2025年9月5日（一般社団法人 歯科基礎医学会と共催）
開催状況	第26期第2回病態系歯学分科会 オンライン会議 2025年3月11日
今後の課題等	上記意思の表出を終える。次年度の公開シンポジウム開催準備を進める。 医科歯科連携の強化を推進する。

歯学委員会（臨床系歯学分科会）					
委員長	森山 啓司	副委員長	林 美加子	幹事	江草 宏
主な活動	審議内容				
	今期の意思の表出（報告）、ならびに、公開シンポジウムの開催について審議を行った。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	報告「歯学分野の研究力の推移、および歯学領域が抱える課題」を、歯学委員会と共同で発出する見込み。				
	開催シンポジウム等				
	<ul style="list-style-type: none"> ● 公開シンポジウム「女性理系研究者が拓く未来—歯学から芽生える新たな可能性」：2024年10月30日（公益社団法人 日本矯正歯科学会と共催） ● 公開シンポジウム「国民皆歯科健診の意義を考える」：2025年5月17日（特定非営利活動法人 日本口腔科学会学と共催） 				
開催状況	2025年3月31日 第2回臨床系歯学分科会開催（Zoom会議）				
今後の課題等	日本学術会議の法人化について関係者と情報共有するとともに、臨床系歯学領域の活動のあり方について議論を深める。				

⑱薬学委員会



薬学委員会					
委員長	奥田 真弘	副委員長	山崎 真巳	幹事	奥野 恭史、眞鍋 史乃
主な活動	審議内容				
	薬学委員会では、薬学に関する様々な学問的課題について審議している。第 26 期 2 年目は 5 つの分科会が継続し、課題毎に検討を進めている。				
	意思の表出 (※見込み含む)				
	なし				
	開催シンポジウム等				
公開シンポジウム「人口減少・人口偏在社会に求められるヘルスケア人材：第 2 回」(健康・生活科学委員会ヘルスケア人材共創に向けた看護学分科会、健康・生活科学委員会・臨床医学委員会合同共生社会に向けたケアサイエンス分科会、健康・生活科学委員会・臨床医学委員会合同生活習慣病対策分科会、健康・生活科学委員会パブリックヘルス科学分科会、歯学委員会と合同)					
開催状況	開催なし				
今後の課題等	薬学領域がかかえる諸課題について関連他領域との連携を図りながら、学術的側面から検討を行い、社会に向けて情報発信を目指す。				

薬学委員会・政治学委員会・基礎医学委員会・総合工学委員会・機械工学委員会・材料工学委員会 合同 (先端医療技術の社会実装ガバナンスの課題検討分科会)					
委員長	加納 信吾	副委員長	関野 祐子	幹事	城山 英明、林 裕子
主な活動	審議内容				

	<p>先端医療技術の利用ルールを迅速に整備していくための「仕組みづくり」について多面的に議論し、社会実装におけるガバナンスとルール組成の在り方について審議している。2023年9月に発出した提言「革新的医療製品の評価技術を迅速に適格性認定するための5つの提言」の実現を図るべく、活動を継続している。</p>
	<p>意思の表出（※見込み含む）</p>
	<p>・検討中。</p>
	<p>開催シンポジウム等</p>
	<p>・昨年に続きレギュラトリーサイエンス学会年次大会にて、シンポジウム「日本における Drug Development Tool の適格性認定策定に向けて」（2時間）にて、委員2名が分科会を代表して、提言の背景と提言内容を説明する（2025年9月5日）</p>
開催状況	<p>2025年8月18日（WEB会議）（上記シンポジウム参加者のみ） 2025年9月の上記シンポジウムの結果を受けて、第1回を開催予定。</p>
今後の課題等	<p>提言実現に向けた行政関係者との情報交換、新たな課題としての動物実験代替法等の新興評価技術の適格性認定システムの設定と適用への提言の強化。</p>

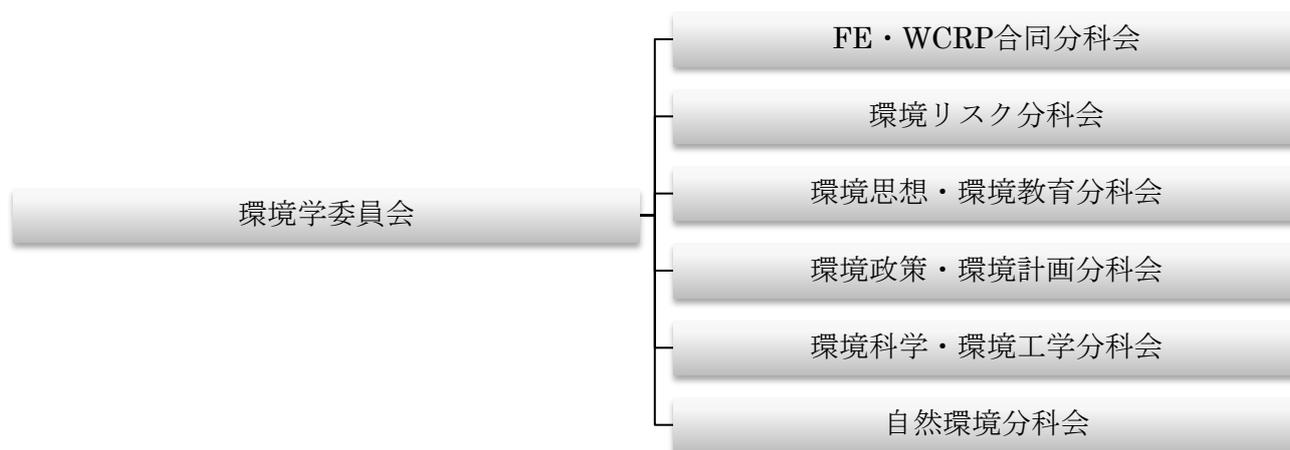
薬学委員会（薬学教育参照基準検討分科会）					
委員長	太田 茂	副委員長	入江 徹美	幹事	堤 康央、石井 伊都子
主な活動	審議内容				
	薬学分野における教育課程編成上の参照基準を作成している。既に薬学教育課程の中で4年制教育については日本学術会議から報告の形式で表出しているため、今回は6年制教育も併せ薬学教育全般の参照基準作成を目指している。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	今期中に「報告」としての表出を目指している。				
	開催シンポジウム等				
	特になし				
開催状況	2024年10月1日 オンライン開催 報告案の作成について				
今後の課題等	今期中に作成を終了すべく検討している。				

薬学委員会・食料科学委員会・基礎医学委員会合同（毒性学分科会）					
委員長	菅野 純	副委員長	山崎 真巳	幹事	上田 佳代、石塚 真由美
主な活動	審議内容				
	<ul style="list-style-type: none"> 第 26 期の「分科会」の設置方針の変更に伴い、学際性を強調しての活動方針について論議を重ね、野原恵子先生の参加を取り付けた。 「毒性学」関連の意思の表出等に関しての方針や内容について議論された。 日本毒性学会における WEB サイト運営等の補助の有効活用について論議した。 				
	意思の表出（※見込み含む）				
	未定				
	開催シンポジウム等				
リスク分科会とのフォーラムの共同開催 「環境化学物質の健康影響：その理解と健康をまもる生活環境の維持に向けて」 2025 年 12 月 18 日（木）					
開催状況	2025 年 3 月 6 日（オンライン） 2025 年 11 月 予定（オンライン）				
今後の課題等	前期からのシンポジウム（子どもの毒性学等）の継承と、広い視野からの立案。				

薬学委員会（基礎系薬学分科会）					
委員長	眞鍋 史乃	副委員長	藤田 直也	幹事	井上 豪、中島 美紀
主な活動	審議内容				
	研究力強化、創薬力強化に向けたシンポジウム開催（2026 年 2 月頃予定）を行う。 10 月頃に準備のための会議を行う予定。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
なし					
開催状況	メール会議（2/20）を行い、シンポジウム開催に向けて審議を行った。				
今後の課題等					

薬学委員会（臨床系薬学分科会）					
委員長	奥野 恭史	副委員長	大谷 壽一	幹事	石井 伊都子、奥田 真弘
主な活動	審議内容				
	1. 役員の選出：委員長、副委員長、幹事を選出した。				
	2. 分科会方針に関する意見交換：薬学の臨床的問題を明文化し、医療 DX を重要技術の一例として解決に向けた意思の表出をまとめる方向で議論を進めることになった。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	今年度は特になし				
	開催シンポジウム等				
	公開シンポジウムを2月頃開催予定				
開催状況	2025年2月7日（WEB会議）				
今後の課題等	本年9月頃にかけて分科会を開催し、情報収集と議論を行った上で、第26期中の意思の表出を目指すことになった。				

⑩環境学委員会



環境学委員会					
委員長	森口 祐一	副委員長	池邊 このみ	幹事	島村 健、下田 吉之
主な活動	審議内容				
	環境学委員会は、分野別委員会では唯一、第一部～第三部横断的な委員会であり、各部の会員、連携会員が協力し、学際的な議論を展開している。それらは既存の学会や審議会等ではカバーしきれない貴重な取組みであり、分野別委員会の機能強化に向けて、今後一層、各種政策の統合的な推進に資する提案や自由度の高い取組みが求められる。環境政策の中心化の一助となり、省庁間の情報共有・連携の強化や科学（エビデンス）統合の一翼として、環境諮問委員会的な役割を目指す。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	当委員会が主管の分科会から複数の報告の表出準備を進めるとともに、他の分野別委員会主管の分科会との合同での表出にも積極的に参画している。				
	開催シンポジウム等				
他の分野別委員会参加の分科会から移管し通算第37回となる学協会連合での講演会を含め、公開シンポジウムを本報告期間中に4件開催。2025年10月以降開催予定の学術フォーラムに積極的に応募し、複数採択済み。					
開催状況	<p>前回活動報告期間（2023年10月～2024年9月）に第1回～第5回を開催</p> <p>第6回：秋の総会会期中の2024年10月23日に開催</p> <p>第7回：春の総会会期中の2025年4月16日に開催し、分科会の活動報告、意思の表出や公開行事の開催予定の共有、関連する課題別委員会の状況報告を行った。</p>				
今後の課題等	連携会員含め分科会の委員長全員が本委員会の構成員として加わる形としており、他の分野別委員会が主管のものも含め、各分科会のシンポジウム開催、意思の表出の検討状況、フォローアップについて、密な情報共有を維持する。				

環境学委員会・地球惑星科学委員会合同（FE・WCRP 合同分科会）					
委員長	春日 文子	副委員長	中村 尚	幹事	張 勁、金谷 有剛
主な活動	審議内容				
	本分科会は、フューチャー・アース(FE)と世界気候研究計画(WCRP) に関わる 11 の小委員会を設置し、これらプログラムの情報を共有し、主要な研究テーマに関して検討と審議を行う。CLIVAR 小委員会の見延庄士郎委員を 2025 年 9 月の代表派遣に推薦し、また第 3 回分科会では CLIVAR 小委員会の委員追加を決定した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	未定				
	開催シンポジウム等				
<ul style="list-style-type: none"> ・ WCRP: 2024 年 10 月 27 日 - 11 月 1 日、東京、第 6 回 WCRP 再解析国際会議 ・ IGAC: 2024 年 11 月 11 日、Azerbaijan・Baku、UNFCCC COP29, Earth Information Day 2024 等 ・ Future Earth Coasts: 2024 年 12 月 7 - 8 日、富山、IOC-WESTPAC "Asian Marginal Seas" program と共同 Workshop ・ APARC: 2025 年 5 月 27 日、幕張、日本地球惑星科学連合大会 APARC セッション ・ IMBeR: 2025 年 6 月 23 - 26 日、東京、Ecosystem Studies of Subarctic and Arctic Seas (ESSAS) Open Science Meeting2025 ・ CLIVAR、IMBeR: 2025 年 7 月 8 日、東京、CLIVAR-IMBeR 共同研究集会 ・ WCRP: 2025 年 7 月 12 日、東京、日本学術会議学術フォーラム ・ APARC: 2025 年 7 月 15-18 日、韓国・釜山、WCRP LHA EPESC・APARC LEADER 合同ワークショップ ・ CLIVAR: 2025 年 9 月、インドネシア・テンパサール、pan CLIVAR 会合（代表派遣） 					
開催状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第 2 回分科会：2024 年 12 月 26 日 ・ 第 3 回分科会（メール審議）：2025 年 8 月 26 日（可決日） ・ 第 1 回 GEWEX 小委員会：2024 年 10 月 16 日 ・ 第 1 回 SOLAS 小委員会：2024 年 12 月 16 日 ・ 第 2 回 GEWEX 小委員会：2025 年 2 月 26 日 ・ 第 1 回 IMBeR 小委員会：2025 年 3 月 18 日 ・ 第 2 回 APARC 小委員会：2025 年 7 月 8 日 ・ 第 3 回 iLEAPS 小委員会：2025 年 7 月 25 日 ・ 第 3 回 CLIVAR 小委員会：2025 年 7 月 28 日 ・ 第 2 回 GLP 小委員会（2025 年 9 月 16 日開催予定）、GLP 小委員会勉強会（計 8 回開催：2025 年 1 月～9 月） 				
今後の課題等	2025 年 11 月 29 日に学術フォーラムを開催し、FE の 10 年間の振り返りならびに今後の展望について広く議論する。				

環境学委員会・健康・生活科学委員会合同（環境リスク分科会）					
委員長	中村 桂子	副委員長	浅見 真理	幹事	小熊 久美子、橋爪 真弘
主な活動	審議内容				
	「リスク教育の専門家の育成」「プラスチックのガバナンス」「プラネタリーヘルス」の3論点とし、エビデンスと社会合意に基づいた意思決定を支える諸科学の発展、国際社会との協力、専門家の育成の観点から審議と情報共有を行った。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	「プラネタリーヘルス：気候危機に直面する社会におけるウェルビーイング向上にむけて」（仮題）として「報告」を準備中。発出は2026年3月頃を目標とする。				
	開催シンポジウム等				
	2024年11月9日 公開シンポジウム「プラネタリーヘルスのフレームワークで築く人類と地球の持続可能な共生社会」／2025年3月21日 公開シンポジウム「環境リスクと正義」				
開催状況	2024年12月5日 オンライン／2025年3月21日 ハイブリッド／5月29日 オンライン／9月8日 ハイブリッド				
今後の課題等	「報告」の作成にあたっては、他の分科会等との情報交換、市民行政民間との意見交換をふまえてとりまとめを行う。				

環境学委員会（環境思想・環境教育分科会）					
委員長	豊田 光世	副委員長	浅利 美鈴	幹事	井上 真理子、大浦 由美
主な活動	審議内容				
	環境思想・環境教育をめぐり、環境問題に対する関心の低さ、環境問題について対話する場の少なさ、体験や学びが内在化されない、グローバル・日本・ローカルの間の乖離などが課題である。多様なステークホルダーの参画による環境思想・環境教育の課題の整理と議論の深掘りが重要であることから、シンポジウムにおける対話を土台に環境思想・環境教育の新たな方向性を検討している。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	分科会の議論の成果は、書籍等の形で発信することを検討している。				
	開催シンポジウム等				
	公開シンポジウム「多世代・多分野交流による環境・SDGs 教育会議～環境問題に関心のない人をどのように巻き込んでいくのか」を2025年3月7～8日に開催				
開催状況	第1回2024年4月9日、第2回2024年5月23日、第3回2024年7月31日、第4回2024年9月4日、第5回2024年10月4日、第6回2024年11月11日、第7回2024年12月5日、第8回2025年2月25日、第9回2025年3月8日、第10				

	回 2025 年 4 月 21 日
今後の課題等	公開シンポジウムの成果の分析と発信（レポート、書籍等を検討）

環境学委員会（環境政策・環境計画分科会）					
委員長	大塚 直	副委員長	浅見 真理	幹事	村上 暁信、島村 建
主な活動	審議内容（※審議結果からの主要な意見、今後の審議予定課題などを含む）				
	委員の関心のあるトピックとして、政策統合、ウェルビーイングとの関係、ネイチャーポジティブ、TNFD、環境ラベル、第三者認証、産業構造との関係、消費者行動、実社会のステークホルダーがどう影響するか、ESG 投資、経済指標のグローバル化、などのキーワードが提示された。政策統合、ネイチャーポジティブ、気候変動を中心に、他のトピックも取り上げつつ議論をしている。				
	意思の表出（※予定含む）				
	法学委員会「リスク社会と法」分科会と連名で報告を表出する。				
	開催シンポジウム等（※予定含む）				
	開催予定				
開催状況	第 1 回：2024 年 3 月 21 日 第 2 回：2024 年 7 月 29 日 第 3 回：2024 年 11 月 30 日 第 4 回：2025 年 2 月 17 日 第 5 回：2025 年 5 月 28 日 第 6 回：2025 年 7 月 30 日 第 7 回：2025 年 9 月開催予定				
今後の課題等	意思の表出「報告」の作成にあたっては、他の分科会等との情報交換をふまえてとりまとめを行う。				

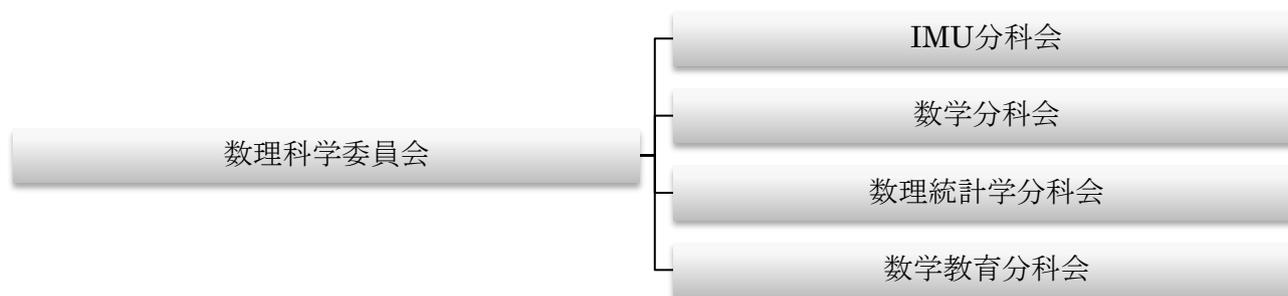
環境学委員会（環境科学・環境工学分科会）					
委員長	北川 尚美	副委員長	森口 祐一	幹事	恒川 篤史、藤岡 沙都子
主な活動	審議内容（※審議結果からの主要な意見、今後の審議予定課題などを含む）				
	1. 目指す 1 つのテーマに対して、多様な分野の専門家が議論を行い、実現可能な形を作り上げるための方法論 2. シンポジウムやワークショップを利用して、国民、特に次世代を担う若者たちと双方向での議論を進めるための方法論 に係る審議に関すること				
	意思の表出（※予定含む）				
	今期は、環境、教育、技術という 3 つの大きなテーマを取り上げ、双方向の対話、市民と若手、総合知といった視点から議論を深め、公開シンポジウムや意思の表				

	出に繋げていく。
	開催シンポジウム等（※予定含む）
	2024年5月28日：公開シンポジウム「第36回環境工学連合講演会」を開催 2025年5月27日：公開シンポジウム「第37回環境工学連合講演会」を開催 （分科会に設置された環境工学連合小委員会が企画、運営。会場＋オンライン参加者数：第36回411名、第37回499名） 2025年12月1日：公開シンポジウム「カーボンニュートラルに向けた熱エネルギー分野の可能性」を開催予定
開催状況	第1回分科会：2024年2月20日 第2回分科会：2024年5月29日 第1回勉強会：2024年7月2日「教育(1)」 第2回勉強会：2024年7月29日「都市と自然(1)」 第3回勉強会：2024年9月3日「技術と社会(1)」 第3回分科会：2024年9月17日～19日メール審議 第4回分科会：2025年1月21日～23日メール審議 第5回分科会：2025年4月7日 第6回分科会：2025年5月14日～20日メール審議 第4回勉強会：2025年5月26日「都市と自然(2)」 第5回勉強会：2025年6月6日「教育(2)」 第7回分科会：2025年7月17日～23日メール審議 第8回分科会：2025年9月9日～15日メール審議
今後の課題等	議論を深めるために、定期的な勉強会をオンラインで行うこととした。①教育、②都市と自然、③技術と社会、の3つのテーマを順に取り上げ、2件の話題提供を頂いた後にフリーディスカッションを行う勉強会を5回実施した。各テーマでの課題やそれらの共通点などが明確になりつつある。今後、記録としてまとめていく予定である。

環境学委員会・統合生物学委員会合同（自然環境分科会）					
委員長	池邊 このみ	副委員長	北島 薫、 森口 祐一	幹事	大黒 俊哉、田島 夏与、 森本 淳子
主な活動	審議内容（※審議結果からの主要な意見、今後の審議予定課題などを含む）				
	2030年目標であるネイチャーポジティブ、2050年目標である自然共生社会の実現に向けて、地球環境問題の解決とウェルビーイング向上の同時達成が求められているとの問題意識を共有した。これを受け、目標達成にむけて核となる「自然-人間」関係について、様々な学術分野での新たな展開や最近の動向を概観し、再構築・深化・強化のための道筋を展望するためのシンポジウムを企画することとした。開催内容の具体案について、第4回分科会にて審議予定である。				
	意思の表出（※予定含む）				

	シンポジウムの成果を学会誌掲載の形式で公表する(意思の表出はしない予定)。
	開催シンポジウム等 (※予定含む)
	「ウェルビーイングの視点からとらえる人と自然のかかわり(仮)」の開催準備中。
開催状況	第2回:2025年1月16日開催, 第3回:2025年4月11日開催, 第4回:2025年9月29日開催予定。全てオンライン開催。
今後の課題等	シンポジウム登壇者選出、開催形式(オンライン・ハイブリッド)の検討など。

②1 数理科学委員会



数理科学委員会					
委員長	齋藤 政彦	副委員長	伊藤 由佳理	幹事	小菌 英雄、望月 拓郎
主な活動	審議内容				
	<ul style="list-style-type: none"> ・日本数学会理事会が ICM 招致委員会の設立を正式に決定した事を受け、今後、数学分科会、IMU 分科会と協力して招致活動を進める事とした。 ・大阪公立大学数学研究所の共同利用・共同研究拠点の認定更新についての要望書を数理科学委員長名で発行する事を承認した。 ・京都大学数理科学研究所運営委員・専門委員の推薦を行った。 ・数学・数理科学の振興と、産業界・他分野との連携を深めるために、第 26 期中に意思の表出するために、WG を設置し検討する事とした。 ・明治大学現象数理学研究拠点 (MIMS) の共同利用・共同研究拠点の認定更新についての要望書を数理科学委員長名で発行する事を承認した。 				
	意思の表出 (※見込み含む)				
	第 26 期に数学・数理科学の振興と他分野・産業の連携について意思の表出を行う予定である。				
	開催シンポジウム等				
	・第 26 期におけるシンポジウムは具体化に向けて、検討中。				
開催状況	2024 年 12 月 8 日 (日) ※メール、2025 年 2 月 8 日 (土)、2025 年 3 月 22 日 (土)、2025 年 7 月 22 日 (火)、2025 年 8 月 14 日 (木) ※メール				
今後の課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・学術の中長期研究戦略のフォローアップと数学・数理科学の振興策の検討 ・数学・数理科学関係の予算の把握 ・ICM (国際数学会議) の招致を含めた IMU (国際数学連合) およびそのほかの国際対応の検討 				

数理科学委員会 (IMU 分科会)					
委員長	小菌 英雄	副委員長	齋藤 政彦	幹事	清水 扇丈
主な活動	審議内容				
	<ul style="list-style-type: none"> ・ ICM2026 の各賞のノミネートを検討し、提案した。 ・ ICM2030 招致の可能性について議論した。 ・ ICM2030 招致委員会を日本数学会の中に設立した。 ・ IMU の理事その他の委員の推薦について検討した。 ・ ICM2026 において Japan Forum を開催することとした。 ・ IMU2026 総会に出席する日本の代表 5 名について検討した。 				
	意思の表出 (※見込み含む)				
	予定していない。				
	開催シンポジウム等				
開催状況	第 2 回 : 2025 年 2 月 8 日 第 3 回 : 2025 年 7 月 22 日				
今後の課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・ IMC2026 (米国フィラデルフィア開催) に向けた取り組み ・ ICM2030 の日本開催に向けた 準備 				

数理科学委員会 (数学分科会)					
委員長	齋藤 政彦	副委員長	伊藤 由佳理	幹事	小菌 英雄、望月 拓郎
主な活動	審議内容				
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本数学会理事会が ICM 招致委員会の設立を正式に決定した事を受け、今後、数理科学委員会および IMU 分科会とも協力して招致活動を進める事とした。 ・ 数学・数理科学の振興と、産業界・他分野との連携を深めるために、第 26 期中に意思の表出するために、WG を設置し検討する事とした。 				
	意思の表出 (※見込み含む)				
	第 26 期に数学・数理科学の振興と他分野・産業の連携について意思の表出を行う予定である。				
	開催シンポジウム等				
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第 26 期におけるシンポジウムは具体化に向けて、検討中。 				
開催状況	2025 年 2 月 8 日、2025 年 3 月 22 日、2025 年 7 月 22 日、2025 年 8 月 12 日※メール				
今後の課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学術の中長期研究戦略のフォローアップと数学・数理科学の振興策の検討 ・ 数学・数理科学関係の予算の把握 				

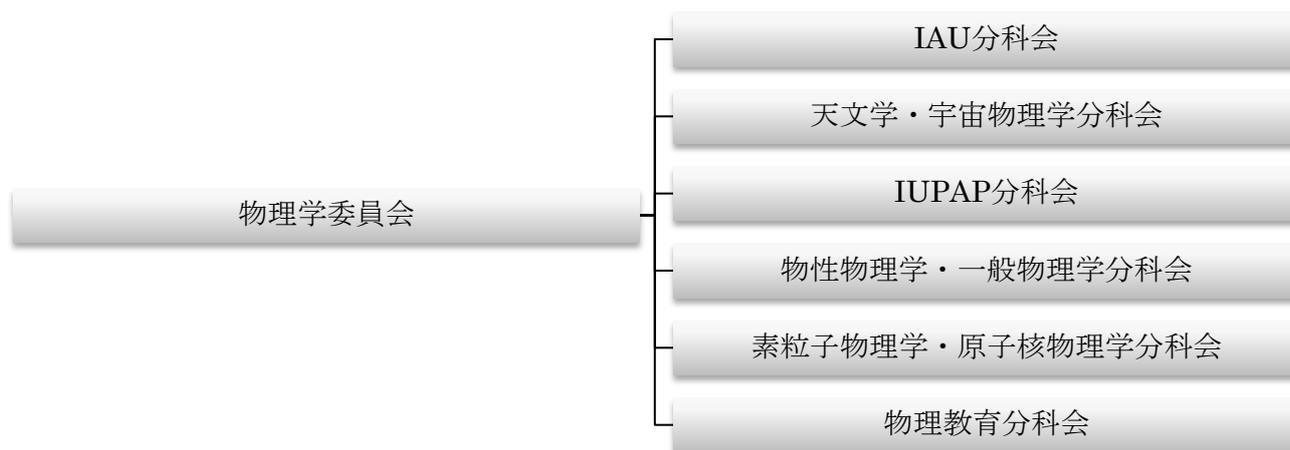
	・ ICM（国際数学者会議）の招致を含めた IMU（国際数学連合）およびそのほかの国際対応の検討
--	--

数理科学委員会（数理統計学分科会）					
委員長	青嶋 誠	副委員長	松井 知子	幹事	南 美穂子、佐藤 忠彦
主な活動	審議内容				
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第 25 期策定の学術の中長期研究戦略「異分野・社会との連携のための共通言語「データサイエンス」の学際的な研究・教育拠点の形成」及び見解「大学における数理・データサイエンス・AI 教育の中での統計科学の教育について」の内容実現に向けた具体的な方策について議論した。 ・ 上記に関連して、AI 時代における統計科学の役割をテーマとするシンポジウムの開催が議論され、実行委員会が発足した。 				
	意思の表出（※見込み含む）				
	2023 年 9 月 26 日に見解「大学における数理・データサイエンス・AI 教育の中での統計科学の教育について」を表出したばかりなので、今期は予定していない。				
	開催シンポジウム等				
2026 年 2 月 17 日に公開シンポジウム「AI 時代における統計科学・データサイエンスの役割と挑戦 —公平性、信頼性、解釈可能性、AI ガバナンスの観点から」を開催する予定である。					
開催状況	第 2 回：2025 年 2 月 20 日				
今後の課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第 25 期策定の学術の中長期研究戦略及び見解の実現のため、関係教育研究組織との連携を強化する。 ・ シンポジウムの開催にあたり、関係学協会との連携および講演者との事前調整を通じ、円滑な開催に向けた準備を推進する。 				

数理科学委員会（数学教育分科会）					
委員長	伊藤 由佳理	副委員長	清水 美憲	幹事	川添 充、西村 圭一
主な活動	審議内容				
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第 1 回 委員長・副委員長・幹事を決定した。清水美憲委員より、ICME についての説明をしてもらった。2024 年 7 月の ICMI には、西村圭一委員が代表として出席する ・ 第 2 回（1）ICME-15(シドニー)、大学数学教育フォーラム（ハノイ）の報告、（2）次期学習指導要領改訂に向けて、（3）国際数学デーのイベント開催。呼びかけのウェブページを作成し、日本数学会の HP からリンクを張ってもらった。 https://sites.google.com/view/idm314japan/%E3%83%9B%E3%83%BC%E3%83%A0 ・ 第 3 回 提言作成に向けた WG を結成し、承認を得た。また文科省からの要請も 				

	ある理系の女子学生を増やすための案を練るため、女子学生向けのサマーキャンプについての活動報告を受けた。
	意思の表出 (※見込み含む)
	次期の学習指導要領改訂に向けての提言を提出する予定
	開催シンポジウム等
	2026年2月に、物理学委員会と合同で数理科学委員会として、女子中高生の数理教育に関するフォーラムを開催予定
開催状況	第1回：2024年1月20日 第2回：2025年1月17日 第3回：2025年6月12日
今後の課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・提言作成に向けてWGで議論して執筆する。 ・フォーラムや提言執筆のため、高校生や大学生向けの数学の啓蒙活動について調査する。(具体的には、参考人として話していただく)

⑫物理学委員会



物理学委員会					
委員長	腰原 伸也	副委員長	櫻井 博儀	幹事	杉山 直、森 初果
主な活動	審議内容				
	<p>日本学術会議アクションプランに基づく活動方針に向け、シンポジウムワーキングでも迅速な意思決定に努めている。特に水素エネルギー特化シンポジウムは、化学、総合工学等幅広いインパクトを心掛けている。また物理学俯瞰シンポジウムに関しても、11月に開催が決定し、最終プログラムの調整中である。またSTEAM分野、理工系教育関連分科会との合同のシンポジウムないしフォーラムの開催申請も準備中である。学術会議法改正に関する状況は、メールなどで随時報告を行い委員会で検討を実施している。加えて、依頼のあった研究所委員の選出、課題別委員会でのヒアリングへの対応なども行った。</p>				
	意思の表出（※見込み含む）				
	未定				
	開催シンポジウム等				
<p>以下の5つを計画し、(1)は2025年8月1日に開催した。</p> <p>(1) カーボンニュートラルに関する、水素エネルギーに特化した公開シンポジウム</p> <p>(2) 物理学の多様性が日本の科学技術の将来展開に果たす役割</p> <p>(3) 理工系女性人材の育成に向けた物理・理科教育の役割</p> <p>(4) 天文宇宙科学関係の研究推進に関連して、分野横断的な将来計画の推進に関する意見交換のための拡大公開分科会あるいはシンポジウム</p> <p>(5) 素粒子・原子核研究分野を中心とする基礎物理学研究分野に関し、長期的視点・社会への出口を意識し、幅広い視点からの検討を行うシンポジウム</p>					

開催状況	第9回：メール審議（2024年11月11日－13日）、第10回：メール審議（2024年11月25日－27日）、第11回：2025年1月11日、第12回：2025年6月8日
今後の課題等	分野が非常に広範であるため、委員会内の意思疎通の促進を継続的に推進する。このためのシンポジウムを2025年11月に開催する。特に分野・部をまたいだ連携・意見交換を意識して準備を行う予定である。その上で、大規模観測施設など物理学が果たす、他分野と連携した新しい学術展開構想の検討も行う。

物理学委員会（IAU分科会）					
委員長	渡部 潤一	副委員長	生田 ちさと	幹事	藤澤 健太、長尾 透
主な活動	審議内容				
	<ul style="list-style-type: none"> ・ IAU 会員申請について資格を確認の上、承認し、IAU へ推薦を行った ・ IAU の各種活動についての情報共有を行った ・ 天文学・宇宙物理学分科会と協力し、日本天文学会員に向けたオンラインの活動説明会を実施した（2025年3月27日） 				
	意思の表出（※見込み含む）				
	未定				
	開催シンポジウム等				
	天文学・宇宙物理学分科会と共に、研究推進に関連して、大学共同利用機関・コミュニティと協力し、分野横断的な将来計画の推進に関する意見交換のための拡大公開分科会あるいはシンポジウムを企画検討中				
開催状況	第4回 2025年1月20日、第5回：2025年7月29日				
今後の課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・ IAU 会員の申請・推薦を引き続き行う ・ IAU の種々の活動に連携し、国内からの積極的な参加を促すと共に分科会活動に関する積極的な広報を行う ・ (天文学・宇宙物理学分科会と共に) 商用宇宙空間利用の天文学への影響を検討 				

物理学委員会（天文学・宇宙物理学分科会）					
委員長	奥村 幸子	副委員長	浅井 歩	幹事	藤澤 健太、長尾 透
主な活動	審議内容				
	役員決定と新たな委員の承認後、第25期末に決定・公表された「未来の学術振興構想」の概要と決定の経緯を確認し、今後の天文学・宇宙物理学の推進とどのように関連づけられるか等の議論を行った。さらに、天文学・宇宙物理学を俯瞰した観点で「分野全体の発展に資する将来計画」をどのように推進していくかの議論を開始した。また、大学共同利用機関等の主要研究機関の動向について報告を受け、情報共有を行った。IAU分科会と協力して、日本天文学会員にむけたオンラインの活動説明会を実施した（2025年3月27日）。				
	意思の表出（※見込み含む）				

	未定
	開催シンポジウム等
	研究推進に関連して、大学共同利用機関・コミュニティと協力し、分野横断的な将来計画の推進に関する意見交換のための拡大公開分科会あるいはシンポジウムを企画検討中。
開催状況	第4回：2025年1月20日、第5回：2025年7月29日
今後の課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・大学共同利用機関とコミュニティの良好な関係を含む研究推進体制の構築 ・分科会活動に関する積極的な広報

物理学委員会・総合工学委員会合同（IUPAP分科会）					
委員長	藤澤 彰英	副委員長	常行 真司	幹事	美濃島 薫
主な活動	審議内容				
	<ul style="list-style-type: none"> ・IUPAPの活動に対する日本全体として各物理学分野間の対応の取りまとめ。各コミッション委員の推薦およびIUPAP事業に関する調整、推進などを行っている。 ・IUPAP本部や総会（2024年10月、次回2025年10月）などに対応。 ・2024年10月の総会にて、IUPAP総会にて委員改選が行われ、日本学術会議からの推薦に基づいては新たに日本から16名がコミッション役員や委員が選出された ・第1回分科会（2024年10月30日）において、委員長、副委員長、幹事を決定した。また5名の委員が追加され、10月のIUPAP総会の結果に応じて、現在、委員12名およびオブザーバー7名の19名で本分科会は構成されている。 				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	今後IUPAPイベントに合わせ検討中。				
	開催状況	第1回分科会 2024年10月30日 メール審議を基本とし、次期IUPAP委員推薦など重要事項の議論のため、2025年のIUPAP総会（2025年10月31日開催）後、第2回分科会をzoomにて開催予定。			
今後の課題等	IUPAP総会、イベントへの対応、次期IUPAP委員推薦の実施。				

物理学委員会（物性物理学・一般物理学分科会）					
委員長	常行 真司	副委員長	寺崎 一郎	幹事	石坂 香子、藤澤 彰英
主な活動	審議内容				
	<ul style="list-style-type: none"> ・学術会議の状況報告（各種委員会、法人化問題）、物理学委員会の分野俯瞰・横断的シンポジウム、他の分野別委員会や分科会等との連携活動など、第26期の活動に関する意見交換、新メンバーの追加（物理学委員会の審議を経て2024年3月 				

	<p>25 日幹事会で 2 名の委員追加承認)、物性委員会への幹事推薦 (2 名を推薦し、物性委員会で承認)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・選出拠点計画申請書等への賛同書についての報告、物性研究所協議会委員の候補選出、水素エネルギーに関するシンポジウム、プラズマサイエンスに関する見解のフォローアップに関する意見交換。 ・日本学術会議のあり方に関する検討状況、「未来の学術振興構想 (2023 年版)」の改訂方針と今後の予定、我が国の学術の発展・研究力強化に関する検討委員会、第三部博士人材育成 WG、水素連携シンポジウム、分野俯瞰・学術横断的シンポジウムに関する報告と意見交換
	意思の表出 (※見込み含む)
	未定
	開催シンポジウム等
	カーボンニュートラルに関する、水素エネルギーに特化した公開シンポジウム「カーボンニュートラルに向けた水素の多面的な利活用～第 1 回水素を作る～」を物理学委員会、材料工学委員会、化学委員会、総合工学委員会で組織委員会を立ち上げて、2025 年 8 月 1 日に開催。
開催状況	第 3 回 : 2025 年 3 月 24 日
今後の課題等	未来の学術振興構想に関する意見交換、研究力強化や研究評価に関する議論、他の分野別委員会や分科会等との連携活動

物理学委員会 (素粒子物理学・原子核物理学分科会)					
委員長	櫻井 博儀	副委員長	市川 温子	幹事	青木 慎也、中村 哲
主な活動	審議内容				
	<ul style="list-style-type: none"> ・2024 年 11 月 18 日の「我が国の学術の発展・研究力強化に関する検討委員会」に向けた資料作成のため、素核分野のコミュニティにアンケート調査を実施し、調査結果が資料に反映された。 ・世界の加速器および関連分野のコミュニティでは、カーボンニュートラルを意識して活動しており、25 期に引き続き、「カーボンニュートラル (ネットゼロ) に関する連絡会議」に本分科会から委員を委嘱した。 ・第 2 回は 2025 年 9-10 月以降に実施し、未来の学術振興構想に関する報告、長期的視点・社会への出口を意識した、幅広い視点からの検討を行うためのシンポジウムの開催などを議論する予定。 				
	意思の表出 (※見込み含む)				
	未定				
	開催シンポジウム等				
	素粒子・原子核研究分野の長期的視点・社会への出口を意識した、幅広い視点からの検討を行うためのシンポジウムについて 26 期中の開催を検討				

開催状況	第1回：2024年3月22日
今後の課題等	まずは、我が国の、加速器などを利用する素粒子・原子核物理学を発展させるため、学術会議としてできることを議論し、具体的な活動計画を練り上げる。

物理学委員会（物理教育分科会）					
委員長	新永 浩子	副委員長	横山 広美	幹事	笠 潤平、藤井 良一
主な活動	審議内容				
	2025年7月23日に開催された第7回分科会では、物理分野と同様にダイバーシティの改善が強く求められている数学分野における、学校現場での現状や具体的な取り組みについて理解を深めるため、お茶の水女子大学附属高等学校の十九浦先生にご講演いただき、活発な議論が行われた。				
	理工系分野におけるダイバーシティの課題は、物理に限らず、数学や工学を含む他の分野にも共通して存在している。こうした課題認識を共有する中で、これまでに構想してきたシンポジウムを発展的に位置づけ、より広範な分野の関係者を交えて議論を深める場として、日本学術会議フォーラムへの応募を目指すこととした。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	未定				
	開催シンポジウム等				
分野を横断した、ダイバーシティに着目したフォーラムの開催を8月末に申請。					
開催状況	第4回：2024年10月7日、第5回：2024年12月27日、第6回：2025年3月31日、第7回：2025年7月23日				
今後の課題等	今後、理工系分野におけるジェンダーギャップ解消に向けて、STEAM分野、理工系教育関連分科会、関係部会の委員と連携しながら、合同フォーラムの開催実現を目指して議論を進めていく。				

⑬地球惑星科学委員会



地球惑星科学委員会					
委員長	佐竹 健治	副委員長	小口 高	幹事	倉本 圭、藪田 ひかる
主な活動	審議内容（※審議結果からの主要な意見、今後の審議予定課題などを含む）				
	<p>地球惑星科学分野における諸課題について審議するとともに、傘下の分科会の活動を統括する。また、地球惑星科学コミュニティの代表組織である日本地球惑星科学連合（JpGU）及び関連学協会長会議、大学等の教育研究機関と全国地球惑星科学系専攻長・学科長会議、国立大学共同利用・共同研究拠点等と連携し、地球惑星科学分野の発展を支援する。</p> <p>今期は、本委員会は会員のみとして、前期まで設置されていた企画分科会は設置しないこととした。また、国際関連の小委員会についても、関連学協会に対応可能なものは設置の可否を検討することとした。連携会員の情報交換のため、2023年11月18日に説明会を、12月28日及び2024年12月27日に合同分科会を、2025年5月24日に説明会を開催した。</p> <p>2024年5月に開催された日本地球惑星科学連合2024年大会において、ユニオンセッションU-10「日本学術会議とJpGU」を開催した。</p> <p>2025年5月に開催された日本地球惑星科学連合2025年大会において、ユニオンセッションU-14「地球惑星科学の進むべき道12:地球惑星科学分野の将来構想」を開催した。</p>				
	意思の表出（※予定含む）				
	なし				

	開催シンポジウム等（※予定含む）
	なし
開催状況	第1回：2023年10月4日 第2回：2023年10月27日 第3回：2023年11月24日 第4回：2024年4月24日 第5回：2024年5月27日 第6回：2024年9月24日 第7回：2025年2月19日 第8回：2025年4月16日 第9回：2025年5月24日 第10回：2025年5月26日
今後の課題等	

地球惑星科学委員会（地球惑星科学国際連携分科会）					
委員長	中村 卓司	副委員長	塩川 和夫	幹事	三枝 信子、掛川 武
主な活動	審議内容				
	地球惑星科学分野の国際活動の振興、国際対応の委員会、分科会、直属小委員会等との連絡・調整に関する諸事項を審議する。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
2024年5月 日本地球惑星科学連合2024年大会において、ユニオンセッションU-10「日本学術会議とJpGU」を、地球惑星科学委員会・関連分科会とともに開催。 2025年7月12日に学術フォーラム「急激に変わりゆく地球環境と国際情勢：地球惑星科学の国際連携・国際協調」を開催。 2025年7月28日に公開シンポジウム「地球温暖化は南極をどのように変えるか？」-日豪共同研究の新展開-を開催。					
開催状況	第1回：2023年10月27日、第2回：2023年12月1日、第3回：2023年12月28日（地球惑星科学委員会5分科会の合同の会合として開催）、第4回：2024年10月11日、第5回：2024年12月26日、第6回：2025年2月27日、第7回、第8回：メール審議、第9回：2024年7月12日 IMA小委員会：第1回：2023年12月1日、第2回：2024年5月14日、第3回：2024年12月19日、第4回：2025年5月23日 INQUA小委員会：第1回：2024年1月19日、第2回：2024年9月4日、第3回：2025年8月22日 COSPAR小委員：第1回：2024年1月17日、第2回：2025年9月24日、 SCOSTEP-STPP小委員会、第1回：2023年11月13日、第2回：2024年5月16日、				

	<p>第3回：2024年11月19日、第4回：2025年5月22日</p> <p>SCAR小委員会:第1回：2023年12月27日、第2回：2024年7月8日、 第3回：2025年2月26日、第4回：2025年2月28日(IASC小委員会と合同)</p> <p>IASC小委員会:第1回：2023年12月25日、第2回：2024年7月19日 第3回：2025年2月28日(SCAR小委員会との合同)、第4回：2025年2月28日、 第5回：メール審議</p>
今後の課題等	国際学術団体に対応する分科会・小委員会の間で情報共有を行うとともに、加盟学術団体としての予算確保等諸問題に向けて議論を行う。

地球惑星科学委員会 (IGU 分科会)					
委員長	鈴木 康弘	副委員長	山崎 孝史	幹事	飯島 慈裕、山田 育穂
主な活動	審議内容				
	<p>国際地理学連合 (IGU) は国際学術会議 (ISC) との連携を強め、SDGs、Future Earth、ESD 等に関する様々な活動を行っている。本分科会はその活動を支援する。ICA 小委員会及び IAG 小委員会を継続設置して連携する。地名小委員会は第一部地域研究委員会地域情報分科会の下に移されたが、引き続き地理学の視点から検討する。</p> <p>1)第35回 IGC2024 ダブリン大会(Aug.24-30,2024)に参加した。Geomorphology and Society や Islands をはじめとする研究委員会を強化。春山成子 (三重大学名誉教授)、海津正倫 (名古屋大学名誉教授) が学会賞を受賞した。</p> <p>2)カイロにおけるテーマ会議 "Geo-Spatial Technology, Global Changes & Sustainability"(Apr.12-19, 2025)に参加し、議論した。</p> <p>3)イスタンブールにおける Regional Conference 2026 にセッション提案を行った。</p> <p>4)地理学連携機構、日本地理学会、人文地理学会等との連携を深めるため当該学会に国際連携のための委員会設置を促した。</p> <p>5)IGU の Regional Conference の日本への誘致の可能性を探る活動を開始した。</p> <p>6)日本における地理学研究成果 (Highlights) の国際発信力強化を進めた。</p> <p>7)アジア地理学会、日韓中地理学会等に関与し、後者の2026年11月開催を支援。</p> <p>8) ISC のアジア・パシフィック会議のアドバイザーボードを務める IGU 前会長の氷見山氏から ISC 活動の情報を入手し、国際連携を議論した。</p>				
	意思の表出 (※見込み含む)				
	・今後の方針を議論した。				
	開催シンポジウム等				
・公開シンポジウム開催に向けた議論を開始した					
開催状況	第1回：2023年10月10日、第2回：2023年11月16日、第3回：2023年12月6日～14日(メール審議)、第4回：2024年3月17日、第5回：2024年10月18日、第6回：2025年1月31日～2月3日(メール審議)、第7回：2025年7月18日				

今後の課題等	ISC や国連と連携し、気候変動や持続可能性、民族多様性等の問題に対する議論に参加する。地理教育とも連携して Future Earth、ESD、SDGs へ貢献する。2026 年 IGU Regional Conference (Istanbul)へ積極参加する。日本からの国際発信力強化に努め、日本大会誘致の可能性についても検討する。
--------	--

地球惑星科学委員会 (IUGG 分科会)					
委員長	佐竹 健治	副委員長	古屋 正人	幹事	久家 慶子、升本 順夫
主な活動	審議内容 (※審議結果からの主要な意見、今後の審議予定課題などを含む)				
	IUGG に関する国際連携、関連する測地学・地球物理学の振興、普及及び社会貢献に関する諸事項に係る審議に関すること				
	意思の表出 (※予定含む)				
	なし				
	開催シンポジウム等 (※予定含む)				
	なし				
開催状況	第1回：2023年11月14日 第2回：2024年10月24日				
今後の課題等	前期まで本分科会の下に設置してきた IAGA、IAPSO、IASPEI、IAVCEI 小委員会について、今期は小委員会を設置せず、関連学会の委員会等で対応することとした。IAMAS 小委員会は今後設置予定。				

地球惑星委員会 (IUGS 分科会)					
委員長	掛川 武	副委員長	西 弘嗣	幹事	黒柳 あずみ、齋藤 文紀
主な活動	審議内容				
	IUGS 分科会の小委員会の活動内容と委員の承認。IGC2028 への対応。IUGS の国内活動指針や報告。国際課題に対する日本の意見集約、発信。				
	意思の表出 (※見込み含む)				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	2024年11月14日 Geohazard International Symposium				
開催状況	IUGS 分科会(2024年11月8日、2025年3月13日、6月20日), IGCP 小委員会(2024年10月4日), ICS 小委員会(2025年6月3日)				
今後の課題等	IUGS の各種委員会や Task Group 活動支援。IUGS の各種委員の推薦、日本における活動の窓口。IUGS が抱える国際課題に対する日本としての意見発信。				

地球惑星科学委員会（地球・惑星圏分科会）					
委員長	倉本 圭	副委員長	中村 卓司	幹事	癸生川 陽子、古屋 正人
主な活動	審議内容				
	未来の学術振興構想等大型研究計画、衛星地球観測、地球惑星科学のオープンサイエンスに係る審議を行う。日本地球惑星科学連合とともに地球惑星科学分野のロードマップ・大型計画の改訂に向け検討を進めた。衛星地球観測について、地球観測衛星将来構想小委員会において幅広い専門家を含めて議論を進めた。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	地球観測衛星の在り方について(検討中)				
	開催シンポジウム等				
	研究会「気候変動の最新科学研究」衛星地球観測コンソーシアム(CONSEO)と共催（2024年10月23日） 日本地球惑星科学連合 2025年大会ユニオンセッション U-14「地球惑星科学の進むべき道12：地球惑星科学分野の将来構想」（2025年5月）				
開催状況	地球・惑星圏分科会 2024年10月15～17日※メール、2024年12月27日 地球観測衛星将来構想小委員会 2025年6月17日				
今後の課題等	地球惑星科学分野の国内外動向と大型計画の新提案を踏まえ、分野ロードマップ・衛星地球観測の将来構想の改訂を進める。				

地球惑星科学委員会（地球・人間圏分科会）					
委員長	小口 高	副委員長	長谷部 徳子	幹事	伊藤 香織、由井 義通
主な活動	審議内容（※審議結果からの主要な意見、今後の審議予定課題などを含む）				
	1. 地球・人間圏科学の発展と分野連携 2. 全球と地域の環境変動 3. 社会の持続可能性と防災 に係る審議に関すること				
	意思の表出（※予定含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等（※予定含む）				
	2025年1月15日に公開シンポジウム「阪神淡路大震災30年：その後の日本社会をいかに変えたか」を実施した。2025年度中にネイチャー・ベースド・ソリューションに関する公開シンポジウムの開催を予定している。社会水文学小委員会が企画に関与した第2回国際社会水文学会議が2025年7月に東京大学で開催された。				
開催状況	第3回：2024年12月27日 第4回：2025年1月15日				

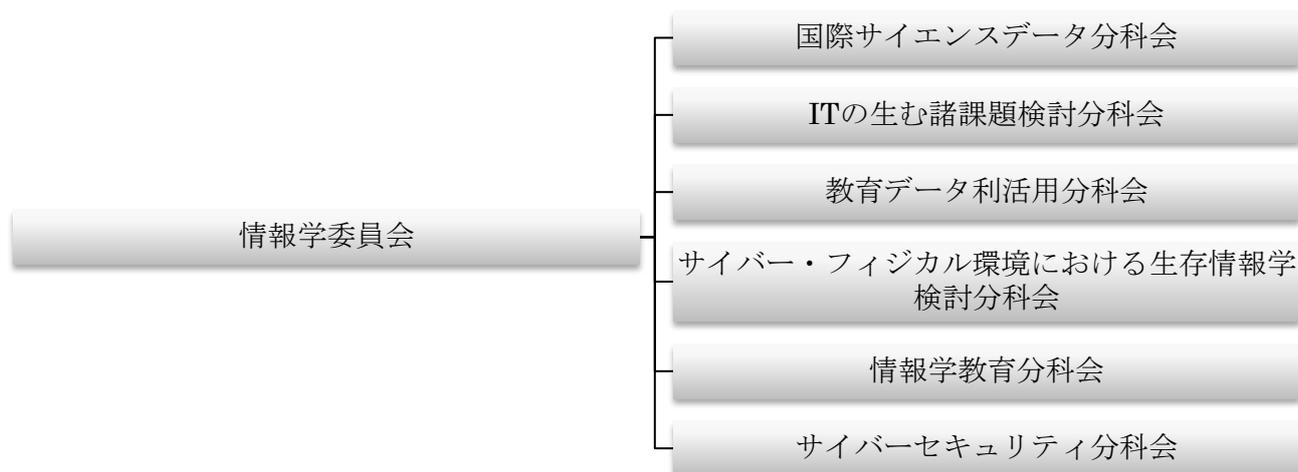
	*社会水文学小委員会は2024年10月1日と2025年3月2日に開催
今後の課題等	2026年度にも審議内容を踏まえた公開シンポジウムを行う可能性を検討中。

地球惑星科学委員会（地球惑星科学社会貢献分科会）	
委員長	佐竹 健治
副委員長	藪田 ひかる
幹事	片岡 香子、谷本 浩志
主な活動	<p>審議内容（※審議結果からの主要な意見、今後の審議予定課題などを含む）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 原子力災害対策への放射性物質拡散予測の積極的な利活用 2. 危機における学術からの情報発信の仕組み 3. 地球惑星科学と社会の関係に係る審議に関すること <p>意思の表出（※予定含む）</p> <p>なし</p> <p>開催シンポジウム等（※予定含む）</p> <p>2024年5月に開催された日本地球惑星科学連合2024年大会において、ユニオンセッションU-10「日本学術会議とJpGU」を、地球惑星科学委員会・関連分科会とともに開催した。</p>
開催状況	<p>第1回：2023年12月28日</p> <p>第2回：2024年1月26日～2月4日（メール審議）</p> <p>第3回：2024年6月19日</p> <p>第4回：2024年12月27日（他3分科会との合同会議）</p> <p>第5回；2024年12月27日</p> <p>第6回：2025年8月15日</p>
今後の課題等	審議内容1について、前期に発出した見解のフォローアップとして、原子力規制庁の担当者と協議中。審議内容2、3について、他分野の専門家も交えて議論を継続する。

地球惑星科学委員会（地球惑星科学次世代育成分科会）	
委員長	堀 利栄
副委員長	西 弘嗣
幹事	掛川 武、張 勁
主な活動	<p>審議内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 意思の表出について検討 2. 次世代教育課題（生成AI問題・大学院博士の充足率及び女性/留学生率・高等教育実態把握等についてアンケートを実施・拡大分科会で意見交換を実施） 3. 初等中等教育諸問題について（現役地学高等学校教員に話題提供を依頼・実施） <p>意思の表出（※見込み含む）</p> <p>今期の表出なし</p>

	開催シンポジウム等
	2024年5月に開催された日本地球惑星科学連合2024年大会において、ユニオンセッションU-10「日本学術会議とJpGU」を、地球惑星科学委員会・関連分科会とともに開催。また、地球惑星系学科長・専攻長会議と合同の拡大分科会と関係大学へのアンケート調査を毎年実施。2026年度前半において地球惑星科学教育に関するシンポジウムを企画・検討中
開催状況	第1回：2023年12月28日 第2回：2024年3月3日 第3回：2024年6月3日 第4回：2024年7月8日地球惑星系学科長・専攻長会議合同拡大分科会 第5回：2024年12月27日 第6回：2025年3月28日 第7回：2025年10月8日地球惑星系学科長・専攻長会議合同拡大分科会（予定）
今後の課題等	全国地球惑星系学科長・専攻長会議における意見交換及びアンケート調査結果に基づいた次世代育成への問題点の抽出、および関連学協会と連携した地球惑星科学教育問題に関するシンポジウムの開催

⑭情報学委員会



情報学委員会					
委員長	下條 真司	副委員長	高田 広章	幹事	黒橋 禎夫、佐古 和恵
主な活動	審議内容（※審議結果からの主要な意見、今後の審議予定課題などを含む）				
	生成 AI 及び量子コンピュータについての議論を行い、生成 AI については、提言を上程した。				
	情報学シンポジウムのテーマについて、議論した。生成 AI とオープンガバメントをテーマに、7/17, 18 にハイブリッドで開催した。17日は377名、18日は259名の参加者を迎えた。1月に量子コンピューティングの提言を受けたシンポジウムを開催予定。				
	意思の表出（※予定含む）				
	生成 AI については、上程。量子コンピューティングをテーマとした意思の表出についてほぼ完成。				
	開催シンポジウム等（※予定含む）				
開催状況	情報学シンポジウム（7月5日）				
	第1回：2023年10月4日				
	第2回：メール審議（2023年10月25日～11月2日）				
	第3回：メール審議（2023年11月8日～11月16日）				
	第4回：メール審議（2023年11月20日～11月29日）				
	第5回：メール審議（2023年12月12日～12月20日）				
	第6回：メール審議（2024年1月4日～1月12日）				
	第7回：メール審議（2024年1月30日～2月7日）				
	第8回：2024年4月12日				
	第9回：2024年7月5日				
第10回：2024年10月22日					
今後の課題等					

情報学委員会（国際サイエンスデータ分科会）					
委員長	村山 泰啓	副委員長	芦野 俊宏	幹事	井上 純哉、近藤 康久
主な活動	審議内容				
	本分科会は、国際学術会議（ISC）直轄の組織 CODATA、WDS の2つの国際委員会への国内対応活動を行うとともに、ISC 等国際コミュニティでのオープンサイエンス活動の国際動向を踏まえて新たな時代の学術エコシステム、学術データのあり方についての我が国における考え方を議論・検討して、日本学術会議の国際学術交流活動に貢献しつつ、上記を含めて国内外の幅広いサイエンスデータのあり方・実践等に関する議論を行い、国際会議や意思の表出等を目指した活動を行う。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	将来的な国際的視点でのサイエンスデータ活動のあり方の提言について検討中				
	開催シンポジウム等				
WDS アジア・オセアニアシンポジウム（2025年9月8-9日、ハイブリッド・北京）開催がWDS国際科学委員会にて承認され、本分科会・各小委員会委員らが、WDS・CODATA国際事務局長、WDS国際科学委員会議長らとともに組織委員会等に参画、日本・中国・加・豪・マレーシア・NZ・カタール、バングラデシュ等アジア各国から対面・オンラインあわせて延べ約160名の参加を得て成功裏に開催された。国内では第12回WDS国内シンポジウム（2025年3月24日）を開催した。					
開催状況	<p>CODATA小委員会：第2回：2024年12月2日、第3回：2025年5月9日</p> <p>WDS小委員会：第3回：2025年3月24日</p> <p>CODATA国際総会・役員改選：2024年10月30-31日（スペイン）にて、本分科会の芦野俊宏副委員長が執行役員としてExecutive Committeeに出席、12月小委員会にて報告を行った。5月小委員会において、次回総会（2025年10月17-18日、豪州）に向けて、大武美保子CODATA小委員会幹事を代表として選出し、また今期で再任制限を迎える芦野俊宏副委員長に代わる役員候補として南山泰之准教授（東京大学社会科学研究所）をノミネートすることを決議した。</p> <p>WDS国際科学委員会（開催場所無記載はオンライン）：2024年10月17日（ハイブリッド・加ビクトリア）、12月17日、2025年2月21日、4月15日、6月17日、8月19日。WDS Action Plan 2025-27を策定・公開した（2025年3月）。委員2名任期満了のため国際選挙で新たにインド、豪州より新規選出（2024年6月）。計11回の国際Webinarを開催し、またWDS ECR-Network（WDS若手研究者組織）の共同議長に、東京大学澁谷遊野准教授が国際選挙にて選出された。</p>				
今後の課題等					

情報学委員会（ITの生む諸課題検討分科会）					
委員長	喜連川 優	副委員長	相澤 清晴	幹事	黒橋 禎夫、大場 みち子
主な活動	審議内容				
	IT分野の技術の急速な進展に伴い生じる多様な諸課題を網羅的かつ深度をもって検討することを活動の目的とする。近年、生成系AIの出現をはじめとする技術革新は社会に大きな影響をもたらしており、特にLLM（大規模言語モデル）から派生する課題は、単独の学協会の範疇を超え、法学者をはじめとする多様な専門家の俯瞰的な議論が求められている。特許や財産権のような領域では、分野横断的な視点での議論の深化も不可欠である。本分科会は、これらの複雑で多面的な課題を俯瞰的に、かつ分野横断的な視点で取り組み、単独の学協会では代替できない、多角的かつ実践的な議論の場を提供することで、ITの未来をより良く形成するための方向性を模索する活動を予定している。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	IT分野の技術進展に伴う多様な諸課題について、適切なあり方の意思の表出を予定している。				
	開催シンポジウム等				
7月17日10時00分～17時10分 シンポジウム「生成AIを受容・活用する社会の実現に向けて」を開催した。					
開催状況	第1回：2024年1月5日 第2回：メール審議（2024年1月22日～1月31日） 第3回：メール審議（2024年4月10日～4月18日） 第4回：2024年7月5日（委員長交代：東野委員長→喜連川委員長） 第5回：2025年4月17日（シンポジウムテーマ・内容の検討） 第6回：2025年7月17日（今後の分科会テーマの検討）				
今後の課題等					

情報学委員会・心理学・教育学委員会合同（教育データ利活用分科会）					
委員長	緒方 広明	副委員長	美馬 のゆり	幹事	柴山 悦哉、相原 玲二
主な活動	審議内容（※審議結果からの主要な意見、今後の審議予定課題などを含む）				
	教育・学習活動に関するデータを有効活用して、エビデンスに基づく教育及びそのデータを活用した研究を推進することは、より良い未来を築くために重要な課題である。特に、新型コロナの影響でオンライン教育が普及し、行政や教育のデジタル化が強力に推進される状況においては、教育データを適切に収集・蓄積する仕組みをベースとして、エビデンスに基づいた新たな教育スタイルを確立していくことが重要になっている。そこで本分科会では以下の審議を行うことを考えている。				

	<p>1. 教育現場で教育データを収集する方法とその問題点</p> <p>2. 収集した教育データの分析・管理を進める上での問題点</p> <p>3. 教育データを共有する時の個人情報の匿名化の問題点</p> <p>4. 共有された教育データの利用方法（教育実践、研究、政策）での問題点</p>
	意思の表出（※予定含む）
	第26期は、前期に公開した記録「教育データの利活用のさらなる促進に向けた考察～データ駆動型教育への対応に向けた論点整理～」の内容を踏まえて、提言または見解としてとりまとめたと考えている。
	開催シンポジウム等（※予定含む）
	令和8年3月にシンポジウムを開催することを考えている。
開催状況	<p>第1回：2024年3月5日</p> <p>第2回：メール審議</p> <p>第3回：メール審議</p> <p>第4回：2024年6月12日</p> <p>第5回：2025年9月11日</p> <p>第6回：メール審議</p> <p>第7回：2025年3月19日</p>
今後の課題等	今期においては提言あるいは見解として意見を表出したいと考えており、意見をまとめている。

情報学委員会（サイバー・フィジカル環境における生存情報学検討分科会）					
委員長	橋本 隆子	副委員長	灘本 明代	幹事	内田 誠一、木村 朝子、 永井 由佳里、
主な活動	<p>審議内容</p> <p>サイバー・フィジカルが融合した環境において、多様な背景や価値観を持つ人々が生きる喜びを高める（Well-being）ことを目指し、情報学をさまざまな学術領域と連携し、「生存情報学」という新たな学術領域を提案する。研究課題、生存情報学への期待を委員間で共有し、シンポジウムや勉強会等を通じて、生存情報学の理解を深めて、展開を検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 第5回分科会 2024年11月11日（月）20:00～21:15（オンライン）： アンケート結果及び各委員の研究内容・生存情報学に期待することを共有 幹事団会議 2025年1月14日（火）20:00～21:00（オンライン）： 第6回分科会におけるグループワークの方法と内容を検討。 第6回分科会 2025年3月19日（月）20:00～21:00（オンライン）： ウェルビーイング、サイバー・フィジカル空間での共存、高齢者ケア、AI 倫 				

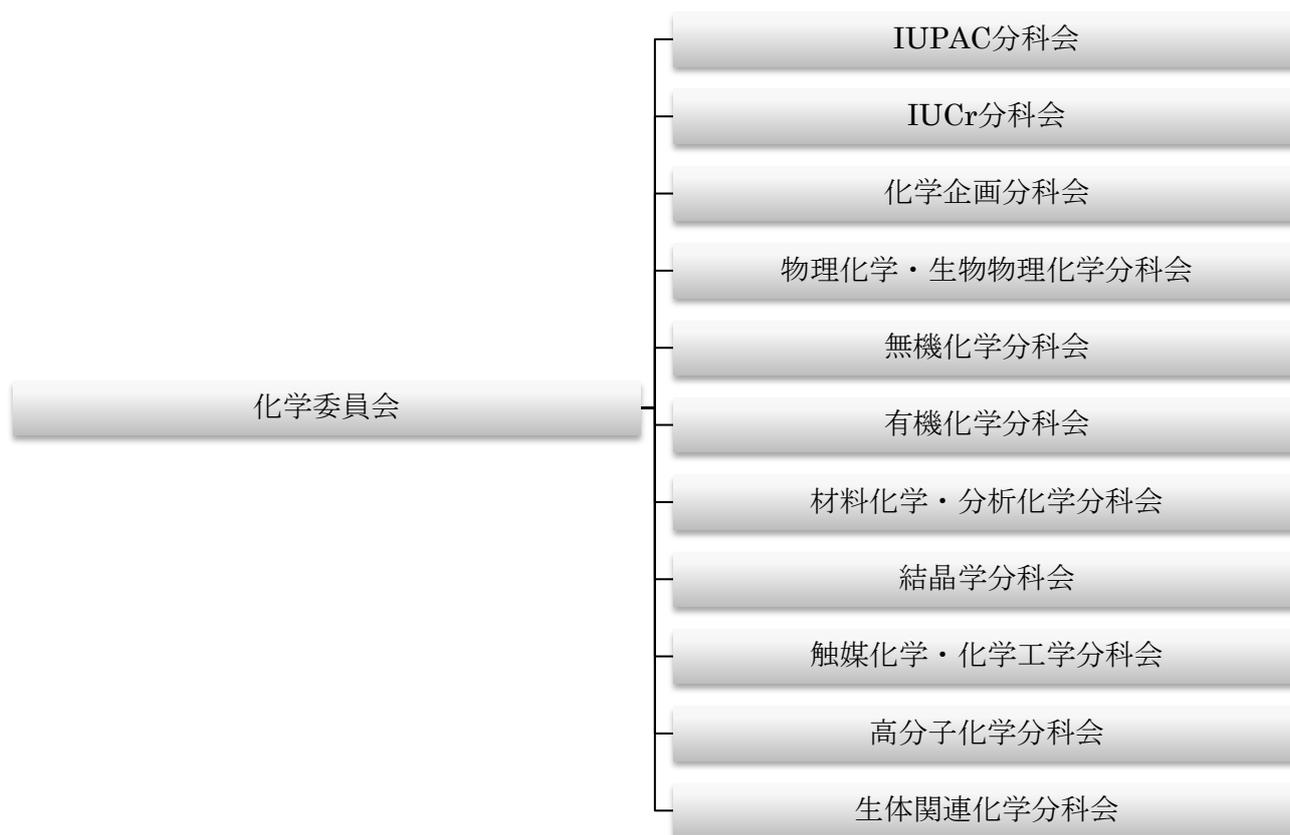
	<p>理、多様性といった生存情報学に大きく関わるトピックについてグループで議論。7月に共催予定の「デジタルデータと社会調査等」に関するシンポジウム主催を承認。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 幹事団会議 2025年5月27日 20:00~21:00 (オンライン) : 第7回分科会は7月上旬, ゲストは内田由紀子先生 (京都大学) をお願いすることに決定。テーマは「ウェルビーイングと情報学」 ・ 第6回分科会 2025年7月15日 (火) 19:00~20:00 (オンライン) : 京都大学・内田由紀子先生による心理学の立場からの「ウェルビーイングと情報学」の講演と議論。 ・ 第7回分科会 2025年9月1日 (月) 20:00~21:00 (オンライン) : 大阪大学・八木康史先生による「Society 5.0 実現化研究拠点支援事業」の講演と議論。 ・ 第8回分科会 2025年9月25日 (木) 19:00~20:00 (オンライン) : 京都大学・山下直美先生による「人と人のつながりを深化させる情報技術のデザイン」の講演と議論。 <p>意思の表出 (※見込み含む)</p> <p>分科会メンバー間で生存情報学の方向性について共通認識を持つことを優先。</p> <p>開催シンポジウム等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 公開シンポジウム「デジタルデータ及び社会調査・統計調査の活用：方法と課題」(オンライン) 日時：2025年7月19日(土) 13:00~17:10
<p>開催状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第5回分科会 2024年11月11日 (月) 20:00~21:15 (オンライン) : ・ 幹事団会議 2025年1月14日 (火) 20:00~21:00 (オンライン) : ・ 第6回分科会 2025年3月19日 (月) 20:00~21:00 (オンライン) : ・ 幹事団会議 2025年5月27日 20:00~21:00 (オンライン) : ・ 第6回分科会 2025年7月15日 (火) 19:00~20:00 (オンライン) : ・ 第7回分科会 2025年9月1日 (月) 20:00~21:00 (オンライン) : ・ 第8回分科会 2025年9月25日 (木) 19:00~20:00 (オンライン) :
<p>今後の課題等</p>	<p>第25期で表出した記録をベースに、それを発展させる形で第26期にフォーカスする社会課題、技術分野等を明確化する。生存情報学として技術が様々な分野と連携し、人と社会のウェルビーイングにどのように貢献できるかを検討する。</p>

情報学委員会（情報学教育分科会）					
委員長	中山 泰一	副委員長	徳山 豪	幹事	高岡 詠子
主な活動	審議内容				
	1. 情報教育の設計指針に基づく教育の方策の提言作成 2. 情報教育に関するシンポジウム等の開催 3. 情報教育の参照基準と設計指針の活用及び啓蒙の検討 に係る審議に関すること				
	意思の表出（※見込み含む）				
	「情報教育課程の設計指針—初等教育から高等教育まで（改訂）」について執筆中である。				
	開催シンポジウム等 2025年9月4日に、公開シンポジウム「情報教育の現状と未来～情報教育課程の設計指針の改訂について～」(北海道科学大学+オンライン)を開催した。				
開催状況	2025年1月8日 委員会開催（オンライン） 2025年7月16日 委員会開催（オンライン）				
今後の課題等	「情報教育課程の設計指針」の改訂に向けて、大学及び高校の教員組織や情報関連の学協会との意見交換を行う。文部科学省とも意見交換を行っている。				

情報学委員会（サイバーセキュリティ分科会）					
委員長	高田 広章	副委員長	佐古 和恵	幹事	松浦 幹太、岩村 誠
主な活動	審議内容				
	1. デジタルシステムの社会受容性向上 2. 新しい情報技術（AI、量子計算機）の安全性/セキュリティ上の課題 3. サイバーセキュリティ研究の法的・倫理的課題 4. 第25期に発出された見解「安全安心なデジタル社会に向けて」のフォローアップ に係る審議に関すること				
	意思の表出（※見込み含む）				
	サイバーセキュリティ研究・教育・業務推進における法的・倫理的課題をテーマに見解を発出する方向で検討を進めている。				
	開催シンポジウム等 見解の発出後に公開シンポジウムの開催を計画している。				
開催状況	第1回：2024年10月8日 第2回：2024年12月17日 第3回：2025年3月13日 第4回：2025年5月15日				

	第5回：2025年9月18日
今後の課題等	今期中に見解を発出したいと考えており、執筆を進めている。

⑤化学委員会



化学委員会					
委員長	岡本 裕巳	副委員長	三浦 佳子	幹事	鈴木 朋子、高柳 大
主な活動	審議内容				
	国内外の様々な化学関連分野を横断的に繋いで情報交換を行い、人材育成も含めた総括的かつ中長期的な問題を見出し、現状の調査や解決策の議論を行う。2024年12月に化学委員会参加の分科会の合同分科会・全体会議・講演会を開催した。2025年6月4日には、日本学術会議化学委員会、分子科学研究所、日本化学会の合同でシンポジウム「博士人材のキャリアパス多様化を加速する」をハイブリッド開催で実施し、議論を行った。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	無機化学分科会からの見解の発出を予定している。				
	開催シンポジウム等				
2025年6月4日に、日本学術会議化学委員会、分子科学研究所、日本化学会の合同でシンポジウム「化学の魅力を小中高校生に、社会に、伝える」を開催した。					
開催状況	第9回：2024年10月23日 第10回：2024年12月27日 第11回：2025年4月16日 第12回：2025年6月4日				
今後の課題等	2025年12月末に、合同分科会を開催する方向で検討する。傘下分科会の活動の連絡調整を引き続き推進する。				

化学委員会 (IUPAC 分科会)					
委員長	所 裕子	副委員長	岸村 顕広	幹事	山下 誠
主な活動	審議内容 (※審議結果からの主要な意見、今後の審議予定課題などを含む)				
	<ul style="list-style-type: none"> ・2026年6月にIUPAC事務局の移転が予定されている状況を踏まえ、日本としてどのような貢献が可能か議論を重ね、2025年3月に日本からの具体的な提案をIUPACに提出した。 ・IUPACの執行部、DivisionやStanding Committeeの活動により多く日本からのメンバーが参加できるよう、2026-2027期のIUPAC委員選挙に向けて候補者についての議論を行い、推薦手続きを行った。 ・2025年7月にマレーシア・クアラルンプールで開催されたIUPAC総会2025において、本分科会から岸村委員、竹内委員、所千晴委員、所裕子委員、長谷川委員が出席し、IUPACの今後の取り組み等に関する議論に参加した。 ・同総会の理事会にてIUPAC役員選挙が実施され、日本から推薦した多くの候補が2026-2027期のIUPAC委員に選出された。また、副会長(2026-2027期)および次期会長(2028-2029期)として日本が推薦したクリスティーン・ラスカム氏が、さらに、本分科会の長谷川美貴委員が2026-2027期の執行理事に選出された。 				
	意思の表出 (※予定含む)				
	開催シンポジウム等 (※予定含む)				
開催状況	第2回：2024年12月27日				
今後の課題等	IUPAC総会や各種活動には日本から多くの委員が参加しており、日本の存在感を高めている。2028-2029期にはラスカム氏が会長を務める予定であり、今後、日本としてIUPACの活動においてさらに存在感を高めていくことが必要である。今後も引き続き、そのための努力を続ける。				

化学委員会 (IUCr 分科会)					
委員長	中川 敦史	副委員長	佐々木 園	幹事	南後 恵理子、西堀 麻衣子
主な活動	審議内容				
	<ul style="list-style-type: none"> ・2026年8月にカナダ・カルガリーで開催予定の国際結晶学連合会議および総会(IUCr2026)に向けて、理事候補メンバー1名、22科学分科会の委員候補22名の推薦を行うとともに、Ewald賞・Bragg Prize賞等の候補者の推薦を検討した。これらの取り組みを通じて、日本としてIUCrの国際的意思決定や活動に主体的に関与していく姿勢が改めて示された。 ・「カーボンニュートラルに関する連絡会議」に参加し活動を進めるとともに、公開シンポジウム「持続可能な未来を築く物質・構造・機能 ～資源リサイクル、カーボンニュートラル、食物問題の解決へ向けて～」を7月20日に日本結晶学会との共催で開催した。また、公開シンポジウム「化学の魅力を小中高生に、社会に、伝える」(2025年6月4日、岡崎・分子科学研究所にて開催)にも参画し、若手人材育成の重要性を確認した。 				

	意思の表出（※見込み含む）
	なし
	開催シンポジウム等
	・2025年7月20日公開WEBシンポジウム「持続可能な未来を築く物質・構造・機能～資源リサイクル、カーボンニュートラル、食物問題の解決へ向けて～」(化学委員会・物理学委員会合同結晶学分科会、化学委員会IUCr分科会主催、日本結晶学会、日本結晶成長学会共催)開催。
開催状況	第3回：2024年12月27日、第4回：2025年6月4日
今後の課題等	IUCrの国際的ネットワークを通じて、日本の結晶学および関連分野の貢献度を高めるとともに、SDGs等の地球規模課題に資する活動を強化する必要がある。特に、IUCrのCommissionとの連携を通じて大型研究施設(NanoTerasu等)との結びつきを示し、国際的な研究基盤整備に対する日本の役割を積極的に発信していくことが求められる。また、活動のマンネリ化を回避し、公開シンポジウムを通じた可視化と説明責任の遂行を継続していくことが課題である。

化学委員会（化学企画分科会）					
委員長	岡本 裕巳	副委員長	三浦 佳子	幹事	鈴木 朋子、高柳 大
主な活動	審議内容				
	化学委員会の執行部として、国内外の様々な化学関連分野を横断的に繋いで情報交換を行い、人材育成も含めた総括的かつ中長期的な問題を見出し、現状の調査や解決策の議論を行う。2024年12月に化学委員会参加の分科会の合同分科会・全体会議・講演会を、2025年6月には、シンポジウム「化学の魅力を小中高校生に、社会に、伝える」をハイブリッド開催で実施し、議論を行った。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	未定				
	開催シンポジウム等				
	2025年6月4日に、学術会議化学委員会、分子科学研究所、日本化学会の合同でシンポジウム「化学の魅力を小中高校生に、社会に、伝える」を開催した。				
開催状況	第3回：2024年12月27日 第4回：2025年4月16日 第5回：2025年6月4日				
今後の課題等	2025年12月末に、合同分科会を開催する方向で検討する。傘下分科会の活動の連絡調整を引き続き推進する。				

化学委員会（物理化学・生物物理化学分科会）					
委員長	阿波 賀邦夫	副委員長	中井 浩巳	幹事	内藤 俊雄、山内 美穂
主な活動	審議内容				
	本分科会では、日本の研究力低下への危機感を共有し、これまでの会議で以下の3点について議論した。				
	① 研究環境：研究費の減少や装置の高騰を背景に、基盤的研究費の再配分や共同利用施設の強化が重要視された。最低限の研究活動を支える制度整備や、長期的視点の大型研究費制度ならびに国際共同研究の拡充も必要とされた。				
	② 研究連携：小規模な連携枠や共同提案制度の導入が提案され、若手研究者の海外派遣支援の重要性も指摘された。				
	③ 人材育成：学生の学力・意欲の低下に対応するため、初中等教育との連携や高校教員の質向上が課題とされた。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
開催状況	第2回：2024年10月1日 第3回：2024年12月27日				
今後の課題等	第4回分科会（2025年12月1日）では、「日本の研究力の現状分析と回復に向けた方策」について集中的に議論し、具体的な提案に結び付けたい。				

化学委員会（無機化学分科会）					
委員長	長谷川 美貴	副委員長	伊東 忍、一杉 太郎	幹事	北川 宏
主な活動	審議内容				
	無機化学が関わる学術および社会における課題を発見し、必要と思われる課題解決に向けた調査と見解の創出を行うことを審議している。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	「見解」の表出に向け、2025年1月に申出書を提出し現在審査中である。また、化学が関わる委員会にも連携を依頼し、情報交換を始めた。				
	開催シンポジウム等				
	2025年3月5日に第26期第4回無機化学分科会委員会で勉強会を行った。ここでは、外部講師として細野 秀雄 様（東京科学大学・栄誉教授／特命教授）、瀬戸山 亨 様（三菱ケミカル株式会社・エグゼクティブフェロー）、宮坂 力 様（桐蔭横浜大学工学部・特任教授）をお招きし、オンライン会議で御講演と今後の無機化学の学術及び社会における課題について議論した。				

開催状況	無機化学委員会を4回開催するとともに、非公式に意思の表出に向けた役員間のオンライン会議を行い、綿密な情報交換を行っている。
今後の課題等	引き続き「見解」の発出に向け調査と議論を重ねる。

化学委員会（有機化学分科会）					
委員長	石原 一彰	副委員長	山子 茂	幹事	山下 誠、矢島 知子
主な活動	審議内容				
	有機化学は、有機化合物の構造・合成・物性・用途などを扱う化学分野の基幹分野の一つであり、材料化学、高分子化学、生体関連化学など有機化合物と密接に関連する化学委員会傘下の分科会だけでなく、有機材料・生体材料の合成・物性などで物理学委員会、環境負荷低減型合成法・エコマテリアルなどで環境学委員会、さらには生物・医農薬の関連分野において第二部とも関連している。これらの委員会、分科会等と密接に協力、連携しながら、諸問題を審議し、学術の進展をはかり、もって科学と社会の健全な発展に貢献することを目的とする。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
2025年10月20日、日本学術会議講堂にて、シンポジウム「AI導入による有機・高分子化学の10年先の将来展望」を高分子化学分科会と共同で開催する予定。					
開催状況	第1回：2025年4月15日、第2回：2025年12月予定				
今後の課題等	今後の検討課題として、「選択と集中による研究費の偏り」、「捏造問題」、「博士進学率と国際競争力」、「研究費の審査方法」、「大学院生教育」、「卒業研究と大学院での研究のバランスと博士進学率」などが候補としてあがっている。				

化学委員会（材料化学・分析化学分科会）					
委員長	栄長 泰明	副委員長	玉田 薫	幹事	内藤 俊雄、齋藤 公児
主な活動	審議内容				
	これまでの「材料化学分科会」と「分析化学分科会」を統合し、社会課題の解決に向けて双方の視点から学術的議論を行う場として設置された意義を改めて共有したうえで、今後の活動の方向性について議論を行った。特に「材料化学」と「分析化学」は社会基盤を支える重要な科学分野であり、両者の連携によって新たな化学の地平が拓かれることが期待される。この認識のもと、両分野の融合が未来の科学・社会・暮らしにもたらす可能性について、多角的な議論を行うシンポジウムを開催することとした。シンポジウムでは、学術的な視点から両分野融合による				

	シナジーを明らかにするとともに、産業界からの実践的な視点も取り入れる。学术界と産業界の対話を通じて、今後の研究開発の方向性や社会実装の展望を探ることで、新しい化学の姿を描き出し、それが私たちの生活をいかに豊かにするかを共有することを目指す。
	意思の表出（※見込み含む）
	現状では予定なし
	開催シンポジウム等
	2026年3月に学術フォーラムの開催を予定。
開催状況	第3回：2024年12月11日 第4回：2024年12月27日 第5回：2025年5月19日 第6回：2025年8月7日
今後の課題等	材料化学および分析化学が関与する社会課題については、今後、具体的なテーマを絞って検討を進める。例えば少子高齢化、カーボンニュートラル、気候変動、エネルギー問題などを取り上げ、課題ごとに論点を抽出し、分野横断的な活用の仕組みを検討することで、継続的な議論を重ねていく。

化学委員会・物理学委員会合同（結晶学分科会）					
委員長	井上 豪	副委員長	山下 敦子	幹事	福島 孝典、小島 優子
主な活動	審議内容				
	<ul style="list-style-type: none"> ・「カーボンニュートラルに関する連絡会議」および「パンデミックと社会に関する連絡会議」に参加し活動を進めるとともに、公開シンポジウム「持続可能な未来を築く物質・構造・機能～資源リサイクル、カーボンニュートラル、食物問題の解決に向けて～」を7月20日に化学委員会・物理学委員会合同結晶学分科会と化学委員会 IUCr 分科会の主催、日本結晶学会と日本結晶成長学会の共催で、オンラインの公開シンポジウムとして開催した。 ・2025年6月4日には岡崎・分子科学研究所で開催された公開シンポジウム「化学の魅力を小中高校生に、社会に、伝える」に参画し、結晶学分科会としても若手人材育成を共通の課題と位置づけ、初等中等教育段階から基礎科学の魅力を広める重要性を確認した。 				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
<ul style="list-style-type: none"> ・公開 WEB シンポジウム「持続可能な未来を築く物質・構造・機能～資源リサイクル、カーボンニュートラル、食物問題の解決に向けて～」（化学委員会・物理 					

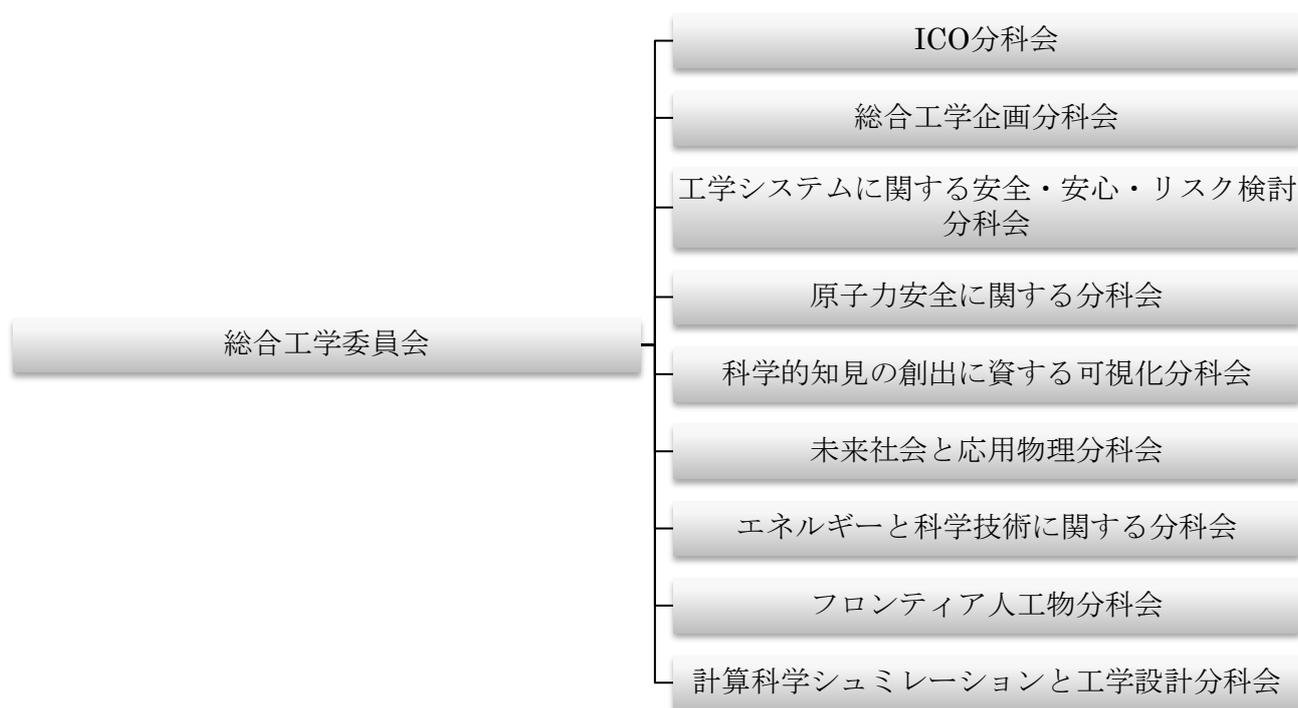
	学委員会合同結晶学分科会、化学委員会 IUCr 分科会主催、日本結晶学会、日本結晶成長学会共催) 2025 年 7 月 20 日開催。
開催状況	第 3 回 : 2024 年 12 月 27 日、第 4 回 : 2025 年 6 月 4 日
今後の課題等	結晶学を中心とする物質科学や生命科学の礎となる構造科学の重要性を若手研究者や学生に広く伝えるとともに、博士人材の育成を視野に入れた活動を継続する必要がある。特に、国際的な大型研究計画や施設との連携を明示し、公開シンポジウム等を通じた可視化を進めながら、社会への説明責任を果たしていくことが重要な課題である。

化学委員会・総合工学委員会合同 (触媒化学・化学工学分科会)					
委員長	北川 尚美	副委員長	三浦 佳子	幹事	野田 優、山内 紀子
主な活動	審議内容 (※審議結果からの主要な意見、今後の審議予定課題などを含む)				
	1. 環境・資源制約と成長を両立する化学技術 2. 社会 Vision 創成と技術・システムの社会実装 3. 産官学民連携の役割 に係る審議に関すること				
	意思の表出 (※予定含む)				
	前期に記録「Well-being を念頭においた持続可能な社会のための化学・化学工学の在り方」を環境学委員会環境科学分科会と合同で発出した。今期は、まず各委員から取り上げるべき重要なテーマについて提案してもらい、その中から議論すべきものをしぼり、ワーキング (WG) を作り定期的に議論して内容を深めていく、という方法で活動を進めることとした。そして、第 3 回分科会にて、研究者エシックス WG を立上げ、月に 1 度を目安に勉強会を行うこととし、現状の問題点の把握、その原因の考察、解決策についての議論を進めている。さらに議論を進め、意思の表出としてまとめることを目指している。				
	開催シンポジウム等 (※予定含む)				
	2025 年 12 月 1 日 : 公開シンポジウム「カーボンニュートラルに向けた熱エネルギー分野の可能性」を開催予定				
開催状況	第 1 回分科会 : 2024 年 3 月 22 日 第 2 回分科会 : メール審議 第 3 回分科会 : 2024 年 12 月 27 日 第 1 回勉強会 : 2025 年 1 月 20 日 第 2 回勉強会 : 2025 年 3 月 7 日 第 4 回分科会 : 2025 年 3 月 25 日				
今後の課題等	上記の WG の活動を継続的に続け、他の分科会との意見交換や関連機関に対するヒアリングなどを行うことで、議論を深めていく。				

化学委員会（高分子化学分科会）					
委員長	上垣外 正己	副委員長	宮田 隆志	幹事	岸村 顕広、矢島 知子
主な活動	審議内容				
	高分子を基盤とする活動を未来へ向けて拡充するため、有機化学分科会と連携してAI導入による将来展望に関するシンポジウムを開催することとし、準備を開始した。高分子学会や日本化学会との連携により、学術会議の活動を紹介する可能性について議論した。研究インテグリティ・研究セキュリティに関して、材料工学委員会で実施予定のアンケートについて議論し、学会を通じて協力することとした。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	未定				
	開催シンポジウム等				
2025年10月20日に有機化学分科会と連携して「AI導入による有機・高分子の10年先の将来展望」と題した合同公開シンポジウムを開催予定である。					
開催状況	第2回 2024年12月27日				
今後の課題等	広く他分野で使われている高分子、社会で役立っている高分子を使って、他分野との連携や社会への発信にいかに関与するかが、日本学術会議の分科会の活動として重要である。				

化学委員会（生体関連化学分科会）					
委員長	菅 裕明	副委員長	井藤 彰	幹事	大河内 美奈
主な活動	審議内容				
	生体関連化学は、化学・生物工学分野の研究者を中心に、化学分野の境界領域の開拓と発展、特に世界頭脳循環の観点から、生体関連化学と合成生物学の接点からどのような貢献ができる可能性があるか議論した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	特になし				
	開催シンポジウム等				
JSTの頭脳循環プログラム（ASPIRE）において当該領域の研究者が関与していることから、開催されるシンポジウムの後援の機会があればすることで同意した。					
開催状況	現時点では予定なし。				
今後の課題等	世界頭脳循環の観点から、合成生物学的アプローチで、バイオエネルギー分野、食糧生産等への貢献により、経済安全保障への役割を重視すべきとした。				

②⑥総合工学委員会



総合工学委員会					
委員長	玉田 薫	副委員長	宮崎 恵子	幹事	越塚 誠一、関谷 毅
主な活動	審議内容				
	第26期は、委員会メンバーとして、会員に各分科会代表1名を加えた体制を整え、当該委員会に所属する分科会ならびに小委員会活動の活性化・適正化のため、設置提案の審査・承認等の役割を果たすとともに、当該委員会の下に企画分科会を設置し、総合工学分野の次世代人材育成と国際競争力強化を主軸に議論を進めている。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	総合工学委員会所属の分科会の活動状況は極めて活発であり、意思の表出の申請が順調に進められている。現在、査読中のものが1件、査読案執筆中のものが4件（うち見解が4件）、検討中のものが5件である。これらのうち機械工学委員会との合同提案が4件、経営学委員会・健康・生活科学委員会との合同が1件あり、他委員会との連携も活発である。				
	開催シンポジウム等				
2025年6月25-27日「安全工学シンポジウム2025」（日本学術会議講堂：ハイブリッド開催）＊機械工学委員会との合同開催 共催32学協会					
2025年8月1日「カーボンニュートラルに向けた水素の多面的な利活用～第1回水素を作る～」（日本学術会議講堂：ハイブリッド開催）＊物理学委員会、材料					

	工学委員会、化学委員会、循環経済を活かし自然再興と調和する炭素中立社会への移行に関する検討委員会との合同開催 13 の学協会/大学・研究機関と連携
開催状況	第 16 回：メール審議（2024 年 10 月 1 日～2024 年 10 月 9 日） 第 17 回：メール審議（2024 年 11 月 13 日～2024 年 11 月 21 日） 第 18 回：メール審議（2025 年 3 月 13 日～2025 年 3 月 21 日） 第 19 回：2025 年 4 月 14 日 対面開催 第 20 回：メール審議（2025 年 6 月 18 日～2025 年 6 月 26 日） 第 21 回：メール審議（2025 年 7 月 17 日～2025 年 7 月 25 日）
今後の課題等	特になし

総合工学委員会（ICO 分科会）					
委員長	荒川 泰彦	副委員長	松尾 由賀利	幹事	馬場 俊彦、美濃島 薫
主な活動	審議内容				
	国際対応委員会のひとつとして、ICO（International Commission for Optics）への対応等を審議するとともに、我が国の光・量子科学技術の発展に資する活動を行う。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	予定なし				
	開催シンポジウム等				
2024 年 7 月 25 日に日本学術会議国際光デー記念シンポジウム『～量子技術とレーザー科学の最前線～』を開催（参加登録数：198 名）。2025 年 7 月 7 日に日本学術会議国際光デー記念シンポジウム『光が拓く科学技術の最前線』を開催（参加登録数：234 名）。いずれも 30 社以上の協賛企業から支援を受けた。					
開催状況	第 5 回：2025 年 4 月 15 日 第 6 回：2025 年 7 月 7 日				
今後の課題等	ICO への対応等の審議、国際光デー活動のさらなる推進、光科学技術に関する研究者の交流の促進と国民の啓発などに取り組む。				

総合工学委員会（総合工学企画分科会）					
委員長	玉田 薫	副委員長	宮崎 恵子	幹事	越塚 誠一、関谷 毅
主な活動	審議内容（※審議結果からの主要な意見、今後の審議予定課題などを含む）				
	第26 期は当該委員会の下に企画分科会を設置し、総合工学分野の次世代人材育成と国際競争力強化を主軸に議論を進めている。				
	意思の表出（※予定含む）				
	第26 期中にシンポジウムの内容について意思の表出（報告）を目指す。				
	開催シンポジウム等（※予定含む）				

	第 26 期中に総合工学分野の次世代人材育成と国際競争力強化に関連したシンポジウムあるいは学術フォーラムを開催予定。
開催状況	総合工学委員会開催時に幹事間にて他事業との関係を調整中。
今後の課題等	これまで他の分科会への協力を中心に運営していたが、今期終了までに、企画分科会主催の活動も実施する。

総合工学委員会・機械工学委員会合同（工学システムに関する安全・安心・リスク検討分科会）					
委員長	辻 佳子	副委員長	宮崎 恵子	幹事	柴山 悦哉、西田 佳史
主な活動	審議内容				
	安全は工学だけではなく、人文社会科学が深く関わっていることを念頭に、安全の理念をとりまとめる活動を行い以下の審議を行う。①変化する技術・社会における工学システムの安全とリスク検討、②工学システムに対する安心感等検討、③老朽および遺棄化学兵器の廃棄に係るリスク、④カーボンニュートラル施策の影響フレーム。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	2025 年秋に報告「先進技術システムのリスクアセスメントの構造について」、見解「老朽・遺棄化学兵器廃棄事業の節目を見据えて」、見解「カーボンニュートラル施策推進のためのリスク検討フレーム」を表出予定。				
	開催シンポジウム等				
2024 年 6 月 26 日（水）～28 日（金）「安全工学シンポジウム 2024」開催。 2025 年 6 月 25 日（水）～27 日（金）「安全工学シンポジウム 2025」開催。 なお、化学工学会が年 2 回主催している「2050 年カーボンニュートラルの道」（事前登録、参加費無料、一般公開）を後援。					
開催状況	第 1 回 2024 年 1 月 29 日、第 2 回 2024 年 2 月 29 日、第 3 回 2024 年 10 月 1 日、第 4 回 2024 年 11 月 7 日～11 月 11 日（メール審議）、第 5 回 2025 年 2 月 16 日。第 6 回 2025 年 4 月 28 日、各小委員会は別途委員会あるいは準備会を開催。				
今後の課題等	今後益々複雑多様化する社会とそれに寄与する工学システムに関する安全・安心・リスクの体系化と共に、リスク評価のフレームワークや具体的手法について検討を行い、その有効性と課題を明らかにする。				

総合工学委員会（原子力安全に関する分科会）					
委員長	関村 直人	副委員長	越塚 誠一	幹事	岩城 智香子、 小野 恭子
主な活動	審議内容				
	本分科会では原子力安全の基盤に関係する課題のうち、福島第一原子力発電所事故により環境中に放出された放射能の動態と課題、リスク情報の活用等による規制と継続的安全性向上の課題、広いステークホルダ間のコミュニケーションの課				

	<p>題について、総合的な検討を行っている。</p>
	<p>意思の表出（※見込み含む）</p>
	<p>「ALPS 処理水の海洋放出の影響評価と課題」について、「見解」を準備中である。科学的な安全性について学術的観点からの客観的な評価を行い、国際機関による評価と比較するとともに、放出決定に至る過程も含む利害関係者との関係構築や国内外への情報発信など、科学的評価の枠組みには収まりにくい課題とその解決策について取りまとめている。また、「福島第一原発事故に関わる環境モニタリングデータ・測定試料に関するアンケート調査」結果について、「記録」を取りまとめた。</p>
	<p>開催シンポジウム等</p>
	<p>2025 年 1 月には「原子力のリスクをどのように考えるか」を主題とし、原子力総合シンポジウムを開催した。400 名以上の参加者を得て、原子力規制委員及び原子力委員会からの講演を含め活発な議論が行われた。また見解に関する議論並びに人材基盤と育成を主テーマとし、国際機関の特別講演を含む原子力総合シンポジウムを 2026 年 1 月に開催する予定である。</p>
開催状況	<p>第 1 回：2024 年 1 月 22 日 第 2 回：2024 年 6 月 17 日 第 3 回：メール審議（2024 年 9 月 19 日～2024 年 9 月 27 日） 第 4 回：2025 年 1 月 20 日 第 5 回：2025 年 8 月 19 日 小委員会の開催状況 原発事故の環境影響に関する検討小委員会の開催状況 第 1 回：2024 年 4 月 11 日 第 2 回：2024 年 7 月 17 日 第 3 回：2024 年 10 月 8 日 第 4 回：2025 年 1 月 9 日 第 5 回：2025 年 7 月 11 日</p>
今後の課題等	<p>安全基盤となるべき新知見の創出と取込みについても検討を進める。</p>

総合工学委員会（科学的知見の創出に資する可視化分科会）					
委員長	小山田 耕二	副委員長	武田 秀太郎	幹事	中村 浩章、日置 尋久
主な活動	審議内容				
	<p>本分科会では、可視化技術と AI の融合の重要性を議論し、技術発展、社会応用、教育利用の目標に合意した。AI の進化による可視化の変革、教育への応用、科学的知見の社会伝達が中心議題であった。目標達成のため、XR ベース協働可視化小委員会と教育改革と可視化小委員会が設置され、提案内容が承認された。分科会</p>				

	の役割は専門分野に基づき決定され、活動は行動計画へ進む基盤が整えられた。
	意思の表出（※見込み含む）
	第25期からの申し送り事項の実現を審議し、その結果を意思表示としてまとめることを検討している。分科会での議論を基に見解を整理し、出版物の発行を予定している。
	開催シンポジウム等
	本分科会では、可視化技術とAI統合に関する公開シンポジウムを計画している。2025年4月12日に「教育改革と可視化ー生成AIの普及と向き合うAI・データサイエンス教育」、7月14日に「教育改革と可視化ー生成AI時代の人間力育成」を開催した。
開催状況	第1回：2024年3月11日、教育改革と可視化小委員会第1回：2025年1月24日、XRベース協働可視化小委員会第1回：2025年3月17日
今後の課題等	分科会は、XRベース協働可視化小委員会と、教育改革と可視化小委員会の活動開始準備を進める。前者はXRによる共同作業の可視化技術開発、後者は可視化を通じた教育改善と研究力向上を目指す。

総合工学委員会（未来社会と応用物理分科会）					
委員長	関谷 毅	副委員長	田和 圭子	幹事	玉田 薫
主な活動	審議内容				
	本分科会では、今期の活動方針に基づき、学術と社会をつなぐ多角的な議論を進めてきた。2025年9月8日には、応用物理学会と共催で公開シンポジウム「才能が芽吹く大学入試へ：日本の科学技術と大学教育のこれから」を開催し、大学入試制度と人材育成のあり方をテーマに、学長経験者や文部科学省、産業界の有識者とともに幅広い視点から議論を行った。科学に関心を持つ若者の進路形成、大学や企業における人材育成の課題、教育制度の改善可能性などが活発に取り上げられ、学術政策や教育制度に資する有益な知見が得られた。 今後は、この成果を基盤として、総合工学委員会内の他分科会や関連分野とも連携し、総合工学にふさわしい視点から社会的課題に対応する議論をさらに展開する予定である。とりわけ、学術の在り方と社会への接続を強化し、技術立国としての基盤を支える人材育成の方策を発信していくことを目指す。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	意思の表出を目指す予定であり、今後議論を進めていく。				
	開催シンポジウム等				
意思の表出を行う上で必要な情報収集を目的に、2025年9月8日に応用物理学会とともに公開シンポジウムを開催した。					

開催状況	2025年6月10日(火)～2025年6月16日(月) 公開シンポジウム開催に関するメール審議
今後の課題等	本年度は公開シンポジウムを開催し、大学入試改革と科学技術人材育成の在り方について多角的な議論を行った。その成果を踏まえ、今後は入試制度と才能育成の接点をさらに深めるとともに、総合工学委員会の他分科会や産業界・市民社会との連携を強化し、社会全体で課題を共有する仕組みを整えることが重要である。また、得られた知見を教育・学術政策への具体的提言へとつなげ、技術立国を支える人材基盤の確立に寄与していくことが課題であり、意思の表出やフォローアップを行いこれを実践していく予定である。

総合工学委員会 (エネルギーと科学技術に関する分科会)					
委員長	高田 保之	副委員長	岩城 智香子	幹事	齋藤 公児
主な活動	審議内容 (※審議結果からの主要な意見、今後の審議予定課題などを含む)				
	「持続可能な開発目標達成のための洋上風力発電開発検討小委員会」, 「カーボンニュートラル実現に向けた熱エネルギー有効利用小委員会」において活発に審議を行っている。今年度, 新たに「フュージョンエネルギー小委員会」を設置した。				
	意思の表出 (※予定含む)				
	「持続可能な開発目標達成のための洋上風力発電開発検討小委員会」, 「カーボンニュートラル実現に向けた熱エネルギー有効利用小委員会」から見解等を発出する予定である。				
	開催シンポジウム等 (※予定含む)				
	2024年11月14日に洋上風力小委員会主催で公開シンポジウム「海底地質災害と洋上風力開発」を開催した。「カーボンニュートラルに向けた熱エネルギー利用の可能性と課題 (仮)」に関するシンポジウムを2025年12月1日に開催予定。				
開催状況	第1回: 2024年3月7日, 第2回: 2024年5月15日, 第3回: メール審議 (2024年6月21日～29日), 第4回: 2025年2月26日, 第5回: メール審議 (2025年5月15日～22日), 第6回: メール審議 (2025年6月13日～17日), 第7回: メール審議 (2025年7月14日～16日), 第8回: 2025年8月20日 洋上風力小委員会 第1回: 2024年6月6日, 第2回: 2024年10月31日, 第3回: 2025年2月6日, 第4回: メール審議 (2025年6月13日～17日), 第5回: メール審議 (2025年7月14日～16日), 第6回: 2025年8月1日 熱利用小委員会 第1回: 2024年7月30日, 第2回: 2024年10月1日, 第3回: 2024年12月12日, 第4回: 2025年4月21日, 第5回: 2025年6月27日				
今後の課題等	意思の表出および「フュージョンエネルギー小委員会」における審議。				

総合工学委員会・機械工学委員会合同（フロンティア人工物分科会）					
委員長	宮崎 恵子	副委員長	佐宗 章弘	幹事	河合 宗司、川口 慎介
主な活動	審議内容（※審議結果からの主要な意見、今後の審議予定課題などを含む）				
	本分科会は、海と空・宇宙の利用技術開発と科学的解明を行うシステムであるフロンティア人工物に関する下記の議論を行っている。				
	今期本分科会方針に沿い、国際連携及び人材育成に関して審議し、特に民間航空機開発における人材国際交流等のテーマのグループ討議等も実施。				
	日本学術会議の横断的活動である CN 連絡会議の活動経過を踏まえ、前期の議論も考慮して、CN の議論を加速。				
	未来の学術振興構想について関係機関と連携し、新規及び改訂提案の審議に対応。				
	意思の表出（※予定含む）				
	二酸化炭素貯留（CCS）をテーマとして意思の表出を行う予定。				
開催状況	開催シンポジウム等（※予定含む）				
	2025 年 8 月 7 日 和歌山県立向陽高等学校にて「ながれ」のコンピュータシミュレーションと航空機開発のテーマでサイエンスカフェを開催。今後も計画中。				
今後の課題等	第 2 回：2024 年 11 月 29 日、第 3 回：2025 年 1 月 31 日、第 4 回：2025 年 3 月 21 日、第 5 回：2025 年 6 月 20 日、第 6 回：2025 年 9 月 12 日				
人材育成については、今期の他分科会の活動や前期までに表出した提言等を踏まえ、CN については前期のサイエンスカフェと関連審議等も踏まえ、進める。					

総合工学委員会・機械工学委員会合同（計算科学シミュレーションと工学設計分科会）					
委員長	金田 千穂子	副委員長	渋谷 陽二	幹事	大出 真知子、松尾 亜紀子
主な活動	審議内容				
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 計算音響学小委員会がとりまとめた見解案「新たな音響学の学術領域の創成とそれを推進するコンソーシアムの創設に向けて」と、それに先立つ申出書案を分科会で審議、承認。上記小委員会で査読結果に対応。 ・ 計算力学小委員会を中心に第14回計算力学シンポジウム開催。第15回準備開始。 ・ 計算科学を基盤とした産業競争力強化の検討小委員会では、25 期に表出した見解「計算科学を基盤とした産業競争力強化を推進する人材育成とエコシステムのあり方」のフォローアップとして各界の識者を招き、上記見解の内容に関するヒアリング・議論を重ねている。 ・ 明治大学先端数理科学インスティテュート(MIMS)の拠点認定申請（3 期目）に対する当分科会からの要望書提供の可否について審議、承認。 				
	意思の表出（※見込み含む）				
	見解「新たな音響学の学術領域の創成とそれを推進するコンソーシアムの創設に向けて」を 26 期中に表出予定。				
	開催シンポジウム等				

	<ul style="list-style-type: none"> ・第14回計算力学シンポジウムを2024年12月10日に開催。 ・第15回計算力学シンポジウムを2025年12月2日に開催予定。
開催状況	<p><u>分科会</u></p> <p>第6回：2024年12月10日 ハイブリッド開催(計算力学小委員会と合同)</p> <p>第7回：2024年12月20-27日, 2025年1月6-8日 意見交換、メール審議(見解表出のための申出書案)</p> <p>第8回：2025年7月10-16日 意見交換、メール審議(見解案)</p> <p>第9回：2025年8月6-14日 意見交換、メール審議(MIMS への要望書提供)</p> <p><u>小委員会</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・計算力学小委員会： <ul style="list-style-type: none"> 第3回：2024年12月10日 ハイブリッド開催(分科会と合同) 第4回：2025年6月24日 オンライン開催 ・計算科学を基盤とした産業競争力強化の検討小委員会 <ul style="list-style-type: none"> 第2回：2024年12月25日 オンライン開催 第3回：2025年6月20日 オンライン開催 ・計算音響学小委員会 <ul style="list-style-type: none"> 第2回：2024年12月2日 オンライン開催 第3回：2025年1月20日 オンライン開催 第4回：2025年5月9日 オンライン開催
今後の課題等	公開シンポジウムを継続的に開催するとともに、意思の表出のとりまとめを行う。

⑦機械工学委員会



機械工学委員会					
委員長	高田 保之	副委員長	佐田 豊	幹事	高木 周、田中 真美
主な活動	審議内容（※審議結果からの主要な意見、今後の審議予定課題などを含む）				
	<p>機械工学は「機械」に関わる工学を対象とした研究分野であり、およそすべての理工学分野の研究成果を「かたち」として具体化するときには不可欠となる重要な基盤的学術分野である。主な審議内容は以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 機械工学分野の学術活動全般に関する動向やあり方 2. 機械工学委員会の運営全般、分科会及び小委員会の設置・運営、シンポジウムなどの企画行事の主催および後援 3. 機械系学協会との連携、および所属分科会の活動などを通じて機械工学に対する理解を深め、その活動を産業や社会生活に反映させるための検討 				
	意思の表出（※予定含む）				
	機械工学の将来展望分科会などからの意思の表出を検討予定				
	開催シンポジウム等（※予定含む）				
所属分科会で適宜開催を検討					
開催状況	<p>第1回 2023年10月4日</p> <p>第2回 2023年10月23日～10月25日（メール審議）</p> <p>第3回 2023年10月30日～11月1日（メール審議）</p> <p>第4回 2023年11月13日～11月15日（メール審議）</p> <p>第5回 2023年12月15日～12月17日（メール審議）</p>				

	第6回 2023年12月25日～12月27日（メール審議） 第7回 2024年1月10日～1月12日（メール審議） 第8回：2024年5月10日 第9回：2025年5月26日
今後の課題等	1. 機械工学分野の学術活動全般に関する動向やあり方 2. 機械工学委員会の運営全般、分科会及び小委員会の設置・運営、シンポジウムなどの企画行事の主催および後援 3. 機械系学協会との連携 4. 会員と連携会員との円滑な連携についての検討

機械工学委員会（機械工学企画分科会）					
委員長	高田 保之	副委員長	佐田 豊	幹事	高木 周、田中 真美
主な活動	審議内容				
	機械工学委員会の運営及び活動を円滑に進めるために、機械工学の学術分野を俯瞰しつつ、機械工学委員会と関連する分科会、シンポジウムなどの企画行事などに関する事項を審議、決定する。また、機械工学委員会・関連する分科会と情報・意見交換を行い、委員会が関わる諸活動を推進する。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	なし（機械工学委員会の分科会との共同開催）				
開催状況	第1回 2023年12月9日 第2回 2024年3月27日（ハイブリッド） 第3回 2024年9月20日（ハイブリッド） 第4回：2025年3月24日				
今後の課題等	以下の審議を行う。 1. 機械工学分野の学術活動全般に関する動向やあり方 2. 機械工学委員会の運営全般、分科会及び小委員会の設置・運営、シンポジウムなどの企画行事の開催等。分科会及び小委員会の活性化について検討する。 3. 提言作成などの意思の表出に向けた検討および後援				

機械工学委員会・総合工学委員会・土木工学・建築学委員会合同（理論応用力学分科会）					
委員長	高木 周	副委員長	泉 典洋	幹事	金尾 伊織、田川 義之
主な活動	審議内容				
	以下の審議を行う。 1. 理論応用力学分野の学術研究の進展、課題及び将来動向 2. 国際組織 IUTAM の正規メンバーとしての総会、理事会、IUTAM シンポジウムな				

	<p>ど諸行事への参画方針</p> <p>3. 日本工学会・理論応用力学コンソーシアムと連携し、理論応用力学シンポジウムや理論応用力学講演会の企画、運営を行う。</p>
	意思の表出（※見込み含む）
	なし
	開催シンポジウム等
	<p>第 67 回理論応用力学講演会（2025 年 9 月 3 日～6 日に開催）</p> <p>第 10 回理論応用力学シンポジウム（2025 年 3 月 14 日に開催）</p> <p>ICTAM2024（2025 年 8 月 25 日～30 日に大邱（韓国）にて開催）</p>
開催状況	<p>第 1 回：2023 年 10 月 16 日</p> <p>第 2 回：2023 年 11 月 27～12 月 6 日（メール審議）</p> <p>第 3 回：2023 年 12 月 20～27 日（メール審議）</p> <p>第 4 回：2024 年 3 月 15 日</p> <p>第 5 回：2024 年 12 月 20～27 日（メール審議）</p> <p>第 6 回：2025 年 3 月 14 日</p> <p>IUTAM・国際連携小委員会</p> <p>第 1 回：2023 年 11 月 30 日</p> <p>第 2 回：2024 年 3 月 15 日</p> <p>第 3 回：2025 年 3 月 14 日</p> <p>理論応用力学企画小委員会</p> <p>第 1 回：2024 年 3 月 5 日</p> <p>第 2 回：2024 年 3 月 15 日 *分科会と合同開催</p> <p>第 3 回：2025 年 3 月 14 日 *分科会と合同開催</p>
今後の課題等	<p>日本工学会・理論応用力学コンソーシアムとの連携の強化</p> <p>理論応用力学国際連合(IUTAM)への継続的・積極的な関与</p> <p>日本側 IUTAM 運営委員の交代に伴う業務の引継ぎ</p> <p>アジア理論応用力学連合構築に向けた体制作り</p> <p>第 11 回理論応用力学シンポジウムの企画</p> <p>日本で活躍する外国人研究者の日本学術会議・理論応用力学分野の活動への積極的参加と若手力学研究者のネットワーク構築</p>

機械工学委員会（機械工学の将来展望分科会）					
委員長	佐田 豊	副委員長	高木 周	幹事	岩城 智香子
主な活動	<p>審議内容（※審議結果からの主要な意見、今後の審議予定課題などを含む）</p> <p>第 25 期に作成した見解（案）を分科会幹部でレビュー。見解（案）は、変革する社会における機械工学の将来の展望を（1）シンセシスの軸、（2）アナリシスの軸、（3）人文社会科学知への発展、（4）他の学術領域への融合、（5）国民との対話の必要性で論じており、査読委員のコメントに基づき修正を終えている。査読で指摘を受けた機械工学の変革の必要性、その変革の方向の具体化を更に詰めて見解をまとめたいと考えている。</p>				

	意思の表出（※予定含む）
	第25期に見解（案）を策定済みであり、今期の進め方を具体化しながら意思の表出の時期、内容を決めていく（意思の表出はしたいと考えている）
	開催シンポジウム等（※予定含む）
	分科会企画の段階ではシンポジウム開催の案があり、継続して検討していく。
開催状況	第1回：2024年3月20日 第2回は2025年5－6月頃に開催予定
今後の課題等	本分科会や表出する意見の目的・意義の再整理と具体化

機械工学委員会・総合工学委員会・電気電子工学委員会合同（IFAC分科会）					
委員長	田中 真美	副委員長	榎木 哲夫、藤崎 泰正	幹事	岩崎 誠
主な活動	審議内容				
	<p>国際自動制御連盟 IFAC (The International Federation of Automatic Control) は、制御工学分野において最も由緒正しい世界的学術団体である。IFAC の会員は国であり、現在日本は最も高い Category の会員となっている。日本学術会議は IFAC の Japan NMO (National Member Organization) となっており、本分科会が IFAC の会員としての様々な活動を行っている。具体的には、General Assembly への参加（議決権を有する）、IFAC の Officer や TC (Technical Committee) の委員の推薦・派遣、国際会議 (Conference、Symposium など) の企画・開催などを行い、国際的な学術交流に寄与している。また、制御工学に関する様々な技術課題の検討を行うとともに、自動制御に関する国内の多分野交流の場である自動制御連合講演会の企画・運営を行う。</p> <p>以上に鑑み、審議事項を要約すると以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. IFAC の Japan NMO としての活動 2. 自動制御に関連する学術的活動（含自動制御連合講演会等）に係る審議に關すること 				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
<ul style="list-style-type: none"> ・第25期と第26期の間であったが、第25期中に横浜で開催された IFAC World Congress (IFAC 2023) (参加者 3,200 名) に関する特別企画「IFAC World Congress 2023 の振り返りと今後について」が、第66回自動制御連合講演会（2023年10月7、8日仙台）にて行われた。（日本学術会議名で後援） ・8th IFAC Conference on Nonlinear Model Predictive Control (NMPC 2024) (2024年8月21日～24日、京都大学 百周年時計台記念館) が開催された。 ・IFAC JAPAN NMO が共催となり、第67回自動制御連合講演会（2024年11月23、24日姫路商工会議所）が開催された（日本学術会議名で後援）。 ・IFAC JAPAN NMO が共催となり、第68回自動制御連合講演会（2025年11月1日、2日 名古屋大）（日本学術会議名で後援予定）が開催予定。 					
開催状況	<p>第1回：2024年2月21日</p> <p>第2回：2024年11月27日～2024年12月3日（メール審議）</p> <p>第3回：2025年2月4日</p> <p>自動制御の多分野応用小委員会</p> <p>第1回：2024年5月15日 第2回：2024年11月23～24日（姫路商工会議所）</p> <p>第3回：5月28日 第4回は2025年11月1日（名古屋大）で開催予定</p>				

今後の課題等	これまでの IFAC の JAPAN NMO としての活動だけでなく、IFAC 分科会としての意思の表出を行うか、また連携可能な分科会と協力し活動を行うことなど、今後検討していく。
--------	--

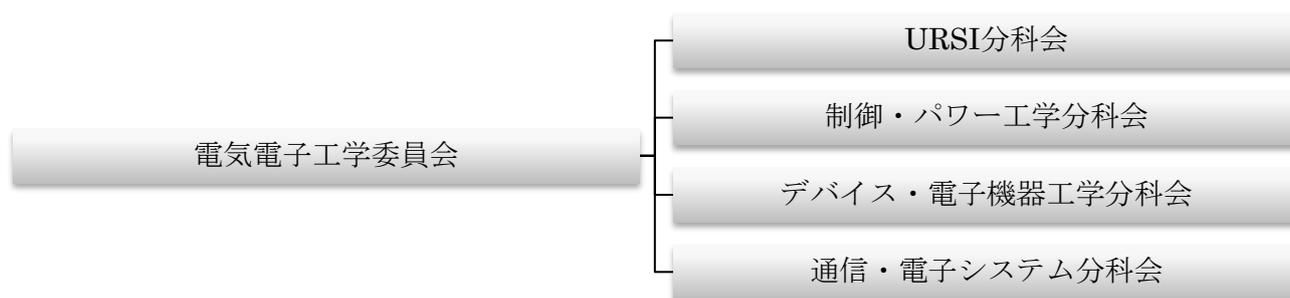
機械工学委員会 (ロボット学分科会)					
委員長	新井 史人	副委員長	田中 真美	幹事	山西 陽子、吉田 英一
主な活動	審議内容				
	<p>サイバー空間と実空間を統合し、能力拡張された知能システム（ロボット）が、社会の課題解決のために利活用されることが期待される。調査を実施し、近未来の課題を抽出し、課題解決のための何を検討しておくべきかを議論し、テクノロジーからの観点だけでなく人文社会科学などの広い視点も交えて学術が果たす役割を含めて包括的に検討する。以上をふまえ、以下の審議を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> サイバー空間と実空間を統合し、能力拡張された知能システム（ロボット）に関する未来予測についての調査・分析 未来予測に基づく課題を、工学だけでなく情報科学や人文社会科学などの他学術分野からの視点も含めて抽出 将来の予測と課題解決について、検討すべき事項を明確化するとともに提言・以下のテーマをベースとした分科会を開催する予定。 <ol style="list-style-type: none"> <u>Robotics Roadmap: Forecasting & strategic planning</u> 今後起こりうる社会課題からバックキャストし、ロードマップを議論する。 <u>Nextgen Robotics: A door to the future</u> 2-1 <u>Robotics 30s</u>、2-2 <u>Robotics 40s</u> 破壊的イノベーションにつながる挑戦的・独創的なシーズ技術（主に 30 代、40 代）を調査し、今後取り組むべき重点課題を議論する。 <u>Beyond Robotics: Social design and management</u> 既存のロボティクスの枠にとらわれず、広い視点で学術が果たす役割を議論する。 ・分科会のテーマ 1~3 を総括し、分科会や公開シンポジウムを開催する予定。必要に応じて他の分科会とも連携する予定。 ・社会へ向けた発信を目指す方針で議論するため、分科会を開催した。 第 3 回分科会では、機械工学を中心として、2050 年の社会像実現に向けた技術ロードマップ及び日本機械学会技術ロードマップの話題提供と議論した。第 4 回～第 6 回、第 8 回分科会では、ロボット学に関する話題提供と提言に向けて意見交換を行った。第 7 回、第 8 回分科会では、意思の表出の申出書の内容に関して意見交換を行い、第 9 回分科会では、統合生物学委員会・心理学・教育学委員会・基礎生物学委員会合同「行動生物学分科会」と合同で意見交換を行った。 				
	意思の表出（※見込み含む）				
予定あり					

	開催シンポジウム等
	2025年に開催を検討中
開催状況	第4回：2024年12月16日、第5回：2025年1月7日、 第6回：2025年2月18日、第7回：2025年3月17日、 第8回：2025年5月14日、 第9回：2025年8月5日（行動生物学分科会・ロボット学分科会合同会議）
今後の課題等	他の分科会とも協働し、能力拡張された知能システム（ロボット）に関する未来予測について調査・分析し、未来予測に基づく課題を、工学だけでなく情報科学や人文社会科学などの他学術分野からの視点も含めて抽出する。 情報学委員会「サイバー・フィジカル環境における生存情報学検討分科会」、総合工学委員会「科学的知見の創出に資する可視化分科会」と協働する方向で調整。

機械工学委員会（生産科学分科会）					
委員長	梅田 靖	副委員長	須藤 雅子	幹事	足立 幸志、廣野 陽子
主な活動	審議内容				
	持続可能社会を支える生産科学の課題について、第25期に調査研究し記録として報告した「持続可能社会を推進する生産科学の長期的課題と解決」をレビューし、生産の在り方、価値創造など持続可能社会を推進する生産科学の長期的課題と解決に向けた学術について議論を開始した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	予定あり（形態は未定）				
	開催シンポジウム等				
	2025年11月7日 日本学術会議講堂において学術フォーラム「循環経済の実現に向けたものづくりの役割」実施決定				
開催状況	第1回：2024年3月22日 第2回：2024年7月31日 第3回：2024年9月30日 第4回：2024年11月19日 第5回：2025年2月5日 第6回：2025年4月4日				
今後の課題等	以下の審議を行う。 1. 持続可能な製造業に資する生産学術に関する国内外関連学会、及び産業界の動向・研究の調査 2. 社会の持続可能性に貢献する製造業を見据えた生産の在り方 3. 持続可能な製造を社会実装する道筋と手段の検討 4. 持続可能な製造が社会実装されることによる社会への貢献や人類への影響について 5. 持続可能な社会における生産活動において活躍する人材について 1～5に関してシンポジウムの開催や意思の表出作成を検討していく。				

機械工学委員会・基礎医学委員会・電気電子工学委員会・材料工学委員会合同（生体医工学分科会）					
委員長	松本 健郎	副委員長	中野 貴由	幹事	安達 泰治、竹内 昌治
主な活動	審議内容				
	2024年6月4日に第1回分科会をオンライン開催、以下の項目について審議 <ul style="list-style-type: none"> ・委員長、副委員長、幹事の決定 ・今期の活動計画と方針について ・公開シンポジウムを10月末に仙台で開催することを決定、詳細について詰めた ・特任連携会員1名の推薦を決定 				
	2025年1月7日に第2回分科会をオンライン開催、以下について報告・審議： <ul style="list-style-type: none"> ・特任連携会員の紹介 ・第1回公開シンポジウム開催報告 ・「未来の学術振興構想」の紹介 ・今度の公開シンポジウムについて、どのようなテーマで進めるか？ 				
	意思の表出（※見込み含む）				
	来期に行う予定				
	開催シンポジウム等				
2024年10月29日に仙台国際センターにて、バイオマテリアル分科会と合同で公開シンポジウム「バイオマテリアル・生体医工学の研究開発戦略」を開催					
開催状況	第1回：2024年6月4日 第2回：2025年1月7日				
今後の課題等	生体医工学シンポジウムの計画の具体化など				

⑳電気電子工学委員会



機械工学委員会・基礎医学委員会・電気電子工学委員会・材料工学委員会合同（生体医工学分科会）					
委員長	松本 健郎	副委員長	中野 貴由	幹事	安達 泰治、竹内 昌治
主な活動	審議内容				
	2024年6月4日に第1回分科会をオンライン開催、以下の項目について審議 <ul style="list-style-type: none"> ・委員長、副委員長、幹事の決定 ・今期の活動計画と方針について ・公開シンポジウムを10月末に仙台で開催することを決定、詳細について詰めた ・特任連携会員1名の推薦を決定 				
	2025年1月7日に第2回分科会をオンライン開催、以下について報告・審議： <ul style="list-style-type: none"> ・特任連携会員の紹介 ・第1回公開シンポジウム開催報告 ・「未来の学術振興構想」の紹介 ・今度の公開シンポジウムについて、どのようなテーマで進めるか？ 				
	意思の表出（※見込み含む）				
	来期に行う予定				
	開催シンポジウム等				
	2024年10月29日に仙台国際センターにて、バイオマテリアル分科会と合同で公開シンポジウム「バイオマテリアル・生体医工学の研究開発戦略」を開催				
開催状況	第1回：2024年6月4日 第2回：2025年1月7日				
今後の課題等	生体医工学シンポジウムの計画の具体化など				

電気電子工学委員会 (URSI 分科会)					
委員長	八木谷 聡	副委員長	小林 一哉 (予定)	幹事	芳原 容英 (予定)
主な活動	審議内容				
	<ul style="list-style-type: none"> ・電波資源利用ハーモナイゼーション小委員会の立ち上げについて ・2025年 URSI アジア・太平洋電波科学会議 (URSI AP-RASC 2025) の開催について ・URSI AP-RASC の2028年日本招致について 				
	意思の表出 (※見込み含む)				
	なし。				
	開催シンポジウム等				
	なし。				
開催状況	<p>URSI 分科会 (第3回) : 2025年2月28日～3月10日 (メール審議)</p> <p>URSI 分科会 (第4回) : 2025年3月14日～27日 (メール審議)</p> <p>無線通信システム信号処理小委員会 (第2回) : 2024年10月26日</p> <p>無線通信システム信号処理小委員会 (第3回) : 2025年1月11日</p> <p>電波資源利用ハーモナイゼーション小委員会 (第1回) : 2025年7月31日</p> <p>電波資源利用ハーモナイゼーション小委員会 (第2回) : 2025年8月25日</p>				
今後の課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・URSI 旗艦会議への対応 <ul style="list-style-type: none"> - 「第36回 URSI 総会」 (URSI GASS 2026) ・「2025年 URSI 日本電波科学会議」 (URSI-JRSM 2025) の開催 ・2027年 IEEE AP-S/JNC-USNC-URSI 国際会議への対応 ・URSI 分科会主催シンポジウムの開催 ・「2028年 URSI アジア・太平洋電波科学会議」 (URSI AP-RASC 2028) の富山開催 				

電気電子工学委員会 (制御・パワー工学分科会)					
委員長	大崎 博之	副委員長	村上 俊之	幹事	安田 恵一郎、北 裕幸
主な活動	審議内容				
	<p>第1回分科会では、今後の活動についての意見交換を行った。また、2024年7月末の会員1名の定年退職に伴い、同年8月から新幹事団による体制に移行した。その後の分科会においては、各委員の専門分野における課題などを中心に、データ駆動型制御やロボット利用、エネルギー問題、ヒートポンプ給湯機、消費者選好の分析等について意見交換を行ってきた。また、社会における専門性の高い人材の育成についての意見交換、及びシンポジウム開催のためのテーマと内容についての議論も進めている。</p>				
	意思の表出 (※見込み含む)				
	予定なし				
	開催シンポジウム等				
	検討中 (現在関連学会との協力のもとでの開催を検討中)				

開催状況	第1回：2024年2月27日 第2回：2024年11月11日 第3回：2025年3月14日 第4回：2025年7月28日
今後の課題等	前期からの継続テーマとして電気分野におけるエネルギー問題やカーボンニュートラル関連の課題を扱うが、新たに参画いただいた委員も交え、環境・経済、および学术界・産業界など、多様な視点を織り交ぜて議論をどのように進めていくかを議論の上、公開シンポジウムの実施などにつなげていくことを考えている。

電気電子工学委員会（デバイス・電子機器工学分科会）					
委員長	大橋 弘美	副委員長	森 勇介	幹事	西澤 典彦、藤島 実
主な活動	審議内容				
	我が国の電気電子、特にデバイス分野の存在感を示すために、国際的及び学際的視点から吟味検討し、関連する学術・技術の今後のあり方についてシンポジウム開催をとおして、学術の発展に貢献することを目指す。 現状、シンポジウムを、学術的なテーマに絞るべきか、学術・技術の今後のあり方に絞るべきか、議論をしてきたが、昨今の状況をみて、次につながる活動として、どうするべきか、という課題を解決する案について意見交換を行い、2026年春のシンポジウム開催に向けた準備中である。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	シンポジウムの開催状況を、記録として残す予定。				
	開催シンポジウム等 2026年春開催予定				
開催状況	第1回：2024年3月28日 第2回：2024年12月9日（メール審議） 第3回：2025年1月8日 第4回：2025年1月23日				
今後の課題等	2026年春のシンポジウム具体化。				

電気電子工学委員会（通信・電子システム分科会）					
委員長	三瓶 政一	副委員長	山中 直明	幹事	原田 博司、中尾 彰宏
主な活動	審議内容（※審議結果からの主要な意見、今後の審議予定課題などを含む）				
	次世代携帯電話ネットワークが、社会インフラを含むあらゆるシステムのプラットフォームとして活用されようとしているなど、その適用分野がダイナミックに変わりつつあることを踏まえ、第25期に発出した見解をベースに、通信・電子シス				

	<p>テム分野のさらなる進展の方向性とそれに対する対応をさらに深掘するとともに、それを幅広く議論するための公開シンポジウムの開催についての審議を行う。</p>
	<p>意思の表出（※予定含む）</p>
	<p>見解、提言などの表出は、今期は予定なし</p>
	<p>開催シンポジウム等（※予定含む）</p>
	<p>2025年3月25日 電子情報通信学会との共同主催によるシンポジウム「国際競争力向上の戦略」を電子情報通信学会総合大会の中で開催</p>
開催状況	<p>第1回：2024年3月28日 シンポジウム開催：2025年3月25日 第2回分科会：2025年3月31日</p>
今後の課題等	<p>第25期に発出した見解の内容は、情報通信分野において重要な課題の解決に向けたものであるが、そのことが、情報通信分野、特に産業界において浸透していない点が大きな課題。産業界を含めた議論に向けた活動としてどのようなプロセスが有効かを検討する必要がある。また2025年3月25日に実施されたシンポジウムを受けて今後、国際競争力をも視野に入れたイノベーションの在り方について検討する予定である。</p>

⑳土木工学・建築学委員会



土木工学・建築学委員会					
委員長	竹内 徹	副委員長	佐々木 葉	幹事	田村 圭子、大岡 龍三
主な活動	審議内容（※審議結果からの主要な意見、今後の審議予定課題などを含む）				
	わが国において今後、国民の健全な生活を保証するための国土、都市・地域環境を維持・保全するため、最大かつ喫緊の課題である人口減少、激甚化する災害、そして地球環境問題下において「持続的で豊かな社会」を実現・維持することを最終目的とし、課題解決のための検討を行う。				
	意思の表出（※予定含む）				
	傘下の IRDR 分科会より、提言を表出予定。				
	開催シンポジウム等（※予定含む）				
	<ul style="list-style-type: none"> ・世界防災フォーラム（2025年3月8日－9日）（IRDR分科会、防災減災学術連携委員会と共同開催） ・国際シンポジウム（IRDR分科会、防災減災学術連携委員会と共同開催、2025年12月予定） 				
開催状況	第11回：2024年11月11日 第12回：2025年1月9日 第13回：2025年4月2日 第14回＋全体会：2025年6月16日				
今後の課題等	全体会や合同分科会を通じて傘下の8分科会間の情報共有を密にし、連携体制を意識しながらもそれぞれに特化した分野を深掘りした活動を実施する。				

土木工学・建築学委員会（気候変動と国土の未来分科会）					
委員長	清水 義彦	副委員長	持田 灯	幹事	有働 恵子、 平林 由希子
主な活動	審議内容				
	<p>強化する水災害対応に向けて、地球温暖化適応策としての、流域治水、グリーンインフラ、土地利用計画等の課題を、分科会内での議論を通じて共通認識を深め、課題解決に向けての科学、技術知見、視点の必要性を検討する。</p>				
	意思の表出（※見込み含む）				
	現在のところ、特になし				
	開催シンポジウム等				
	シンポジウムを開催する予定				
開催状況	<p>第3回：2024年8月21日（分科会）過去の提言の再考，第24・第25期分科会での耐水建築の議論，「流域治水に資する建築物の耐水設計検討小委員会」の活動，マルチハザードに対応可能な耐複合災害建築に関する日本建築学会の活動及び土木学会との連携について</p> <p>第4回 2024年11月5日（分科会）都市計画・まちづくりから考える気候変動下での国土のあり方，2024年9月能登半島豪雨災害に関する調査速報について</p> <p>第5回 2025年3月21日（分科会）建築耐水を進めるために今後成すべきこと，グリーンインフラ，まちづくりから考える気候変動下での国土のあり方について</p> <p>第6回 2025年6月13日（分科会）滋賀県での流域治水の取り組み，とくに制度の枠組みと合意形成について，次回（第7回）を9月29日開催予定。</p>				
今後の課題等	<p>関連する過去の提言及びこれまでの議論から，気候変動（豪雨災害）適応策の社会実装を進めるために，①リスクの提示，②リスクの把握と認識の共有，③地域ごとの多様な主体との連携体制，④土地利用形態の在り方，⑤住宅耐水対策，⑥まちづくりに的を絞る，現場の実装事例から課題を抽出して検討を進める。</p>				

土木工学・建築学委員会・情報学委員会・総合工学委員会合同（WFEO分科会）					
委員長	塚原 健一	副委員長	岸本 喜久雄	幹事	設置せず
主な活動	審議内容（※審議結果からの主要な意見、今後の審議予定課題などを含む）				
	<ul style="list-style-type: none"> ・WECC2015（京都開催）を受け、引き続き工学分野における我が国の国際的貢献度を高めるため、学会会議の関連委員会や関連学協会と協力して、WFEO（世界工学団体連盟）活動ならびにWFEOが連携する各種の国際的・地域的活動に積極的に関与、貢献する。 ・2023年10月に開催されたWFEO総会に塚原委員長及び高木委員が参加し、常設技術委員会のホスト等の可能性を検討した（WFEO総会は隔年開催のため2024年10月は開催なし）。 ・現時点で常設技術委員会のホストは困難であるが、今後、日本工学会と連携し 				

	<p>国内の工学系学協会の国際部門と連携した国際活動の活性化を図り、我が国工学界の国際分野での活動促進を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き WFE0 と連携し、女性、若手の工学界での活躍を促進する。
	意思の表出（※予定含む）
	予定なし
	開催シンポジウム等（※予定含む）
	世界エンジニアリングデー記念シンポジウム（日本工学会主催、日本学術会議後援）（2025年3月4日）
開催状況	<p>第1回：2024年12月4日</p> <p>第2回：2025年9月2日予定</p>
今後の課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・国内の工学系学協会の国際部門と連携した国際活動の活性化 ・上記課題達成のための WFE0 分科会体制の再整備 ・WFE0 常設技術委員会の設置に関する議論

土木工学・建築学委員会（インフラレジリエンス分科会）					
委員長	多々納 裕一	副委員長	高橋 良和	幹事	土屋 哲、松田 曜子
主な活動	審議内容				
	<p>気候変動、人口の減少や、技術の急激な進歩、これに伴う産業構造や地域の将来の不確実性が高まっており、多様な主体の社会的包摂の問題を考慮しながら、インフラのレジリエンスを論じる必要がある。このような観点から、不確実社会における社会的包摂に関わる問題を整理し、インフラレジリエンスのあり方を議論する。</p>				
	意思の表出（※見込み含む）				
	<p>インフラレジリエンスに関する国内外の研究動向を幅広くレビューし、十分なデータを収集・整理するとともに、ケーススタディとして能登半島地震を取り上げ、最終的に「報告」として取りまとめることを予定している。活動に当たっては、IRDR 分科会等とも連携を図り、IRDR 分科会の意思の表出にも協力する。</p>				
開催状況	開催シンポジウム等				
	今期中のシンポジウムの企画を検討する。				
開催状況	<p>第4回：2024年11月27日</p> <p>第5回：2025年3月22日</p> <p>第6回：2025年4月15日</p> <p>第7回：2025年6月16日（複合災害と人口減少時代の建築・都市・地域分科会及び IRDR 分科会との合同開催）</p>				
今後の課題等	<p>国土強靱化推進会議（内閣官房）の動向や、日米土木学会の共同プロジェクト「インフラレジリエンス」に関する成果をまずもって共有する。あわせて、関連分野の研究者や専門家に、話題提供をいただいて、多様な観点から議論を深める。それを</p>				

	ふまえて、人間を中心とする議論にインフラという社会システムをどのように組み込むか、官民連携のあり方について議論し、当分科会の特色を出したい。
--	--

土木工学・建築学委員会（複合災害と人口減少時代の建築・都市・地域分科会）	
委員長	竹内 徹
副委員長	久田 嘉章
幹事	小野 悠、平田 京子
主な活動	審議内容（※審議結果からの主要な意見、今後の審議予定課題などを含む）
	建築・土木工学・社会科学・法学を横断した分科会を構成し、地震・津波・暴風・洪水等の複合災害と人口減少を睨んだ中長期的な地域のまちづくり・インフラ整備のあり方や、土地・家屋を中心とした私有財産の移し替え、公共化の法整備の在り方、魅力あるまちづくりのデザインの在り方について協議する。
	意思の表出（※予定含む）
	防災減災学術連携委員会から発出予定の見解「能登半島地震・豪雨災害の教訓に基づく広域地域災害への備え」の執筆に協力。
	開催シンポジウム等（※予定含む）
	未定
開催状況	第4回：2024年9月30日 第5回：2024年12月12日 第6回（IRDR分科会、インフラレジリエンス分科会と共催）：2025年6月16日
今後の課題等	2024年能登半島地震、豪雨災害等の状況およびその後の復興過程を参照しながら、避難所環境の課題、避難の長期化・貧困化、道路やインフラの復旧の遅れ、集団移転を促すための法整備の難しさ、土地所有権とコミュニティの移転、不動産の区分所有の課題、首都圏から地方への知的・人的資産の再配分など、多様な観点より課題を抽出。2025年度の防災減災学術連携委員会からの意思の表出に協力するとともに、分野横断的な知見の共有、議論を行い、複合災害と人口減少を睨んだ中長期的な地域のまちづくり・インフラ整備のあり方に関し意思の表出を目指す。

土木工学・建築学委員会・環境学委員会合同（カーボンニュートラル都市分科会）	
委員長	下田 吉之
副委員長	大岡 龍三
幹事	伊藤 一秀、長澤 夏子
主な活動	審議内容
	・2050年カーボンニュートラルを目指す建築対策 ・2050年以降の超長期にわたる住宅・建築・都市の理想像 ・エンボディドカーボン ・異分野協働、国際社会への貢献・国際競争力の強化の問題
	意思の表出（※見込み含む）
	予定なし（次期に向けて準備）
	開催シンポジウム等

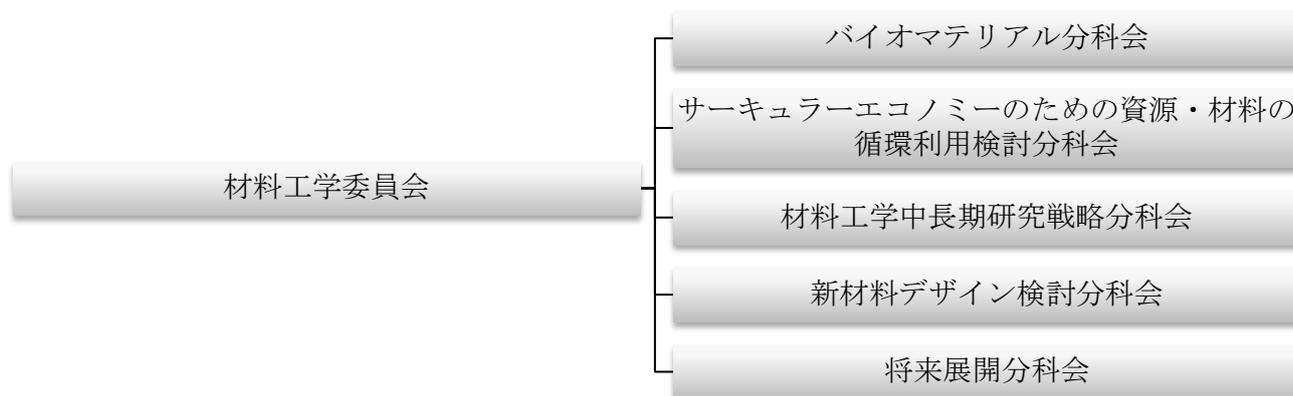
	「高齢者の健康と生活に与える環境の影響：学際領域の研究成果を融合」健康・生活科学委員会高齢者の健康・生活分科会、臨床医学委員会・健康・生活科学委員会合同老化分科会、環境学委員会・健康・生活科学委員会合同環境リスク分科会共催 「カーボンニュートラルに向けたエネルギー供給側と需要側の連携」(検討中)総合工学委員会エネルギーと科学技術に関する分科会と共催予定
開催状況	2024年3月21日、2024年5月27日、2024年7月24日～26日※メール、2024年10月17日、2024年12月24日、2025年4月2日、2025年6月16日
今後の課題等	

土木工学・建築学委員会・心理学・教育学委員会・臨床医学委員会・健康・生活科学委員会合同 (子どもの成育環境分科会)					
委員長	三輪 律江	副委員長	湯川 嘉津美	幹事	齋尾 直子、安部 芳絵
主な活動	審議内容 (※審議結果からの主要な意見、今後の審議予定課題などを含む)				
	・毎回の分科会では委員からそれぞれの専門領域での「子どもの成育環境」に関わる報告を担当し議論してきた。				
	・子どもの成育環境改善に向けては、分野横断的に、且つ、空間・時間・方法・コミュニティの側面から多角的に捉えていくことが必要であるものの、ここ数十年で子どもの捉え方や支援の仕方、各学問分野(技術分野)ではここまで理解や動きが進んでいるということを広く社会に発信する必要性を確認し、そのための書籍化を検討することとなった。				
	意思の表出 (※予定含む)				
	2026年内の本の出版を検討中				
	開催シンポジウム等 (※予定含む)				
	2026年8月頃 フォーラム開催を予定				
開催状況	第5回2024年10月1日、第6回11月26日、 第7回2025年2月20日、第8回3月6日、第9回3月28日、第10回5月20日、 第11回7月22日、第12回9月予定(以降2カ月に1回開催予定)				
今後の課題等	・出版およびフォーラム等の準備と、分科会委員外(学術会議外の専門家等)を参考人として招聘する。				

土木工学・建築学委員会(デザインをめぐる知の構築と社会的理解分科)					
委員長	佐々木 葉	副委員長	田井 明	幹事	小野 悠、齋尾 直子
主な活動	審議内容 (※審議結果からの主要な意見、今後の審議予定課題などを含む)				
	多様な文脈におけるデザインの概念の背景と意義の整理、公共的な環境、空間、インフラへの取り組みにおけるデザインの再解釈、デザインの社会的理解のための取り組みのあり方について審議する。特に各種政策におけるデザインの位置付けの重要性について議論し、社会への発信を行なっていく。				

	意思の表出（※予定含む）
	公開シンポジウムおよびなんらかの一般向けの媒体によって、活動成果を発信するとともに「報告」としての取りまとめを行う予定である。
	開催シンポジウム等（※予定含む）
	2025年6月6日に公開シンポジウム「デザインをめぐる知の構築と社会的理解に向けて」を開催し、その記録動画も公開している。
開催状況	2024年2月28日、5月27日、7月26日、11月8日、12月3日 2025年3月31日、6月16日
今後の課題等	25期までにおけるデザインに関連する分科会の成果などを踏まえ、委員の問題意識を共有しながら、必要に応じて外部からの話題提供者を交えて、分野横断的な知見の共有、議論がかなり進んだため、これを元にデザインの社会的理解の基本となる媒体の作成を検討していく。今後3回程度の分科会を開催する。

⑩材料工学委員会



材料工学委員会					
委員長	岸本 康夫	副委員長	尾崎 由紀子	幹事	中野 貴由、森田 一樹
主な活動	審議内容				
	1. 材料工学分野における研究力強化策について 2. 材料工学に関する教育の在り方について 3. 材料工学の未来				
	意思の表出（※見込み含む）				
	材料工学委員会では予定なし（各分科会で検討）				
	開催シンポジウム等				
	CN に関するシンポジウムについて次年度開催を検討				
開催状況	第9回：2024年12月27日 第10回：2025年6月16日 第9回では、前材料工学委員長山口周先生より「研究力の向上を目指して－25期研究力委員会活動と材料工学固有の問題について－」の題目で、第10回では、東工大前学長益先生より「研究と人材育成を支えるダイバーシティ戦略」の題目で講演をしていただいた。				
今後の課題等	・第26期重点審議課題（研究力強化、材料工学に関する教育、材料工学の未来）について継続議論する。				

材料工学委員会・臨床医学委員会・歯学委員会・化学委員会合同（バイオマテリアル分科会）					
委員長	埴 隆夫	副委員長	大矢根 綾子	幹事	岸田 晶夫、松本 卓也
主な活動	審議内容				
	1. バイオマテリアルを基軸とする分野融合体勢の確立				
	2. 主催シンポジウム開催				
	3. バイオマテリアル教育内容に関する審議				
	意思の表出（※見込み含む）				
	今期中の提出は予定していない				
開催状況	開催シンポジウム等				
	2024年10月29日に仙台で生体医工学分科会と合同の公開シンポジウム開催				
	2025年11月11日に八王子で公開シンポジウム開催予定				
開催状況	第3回：2025年3月17日、第4回：2025年11月開催予定				
今後の課題等	公開シンポジウムの準備、バイオマテリアル教育内容に関する審議など				

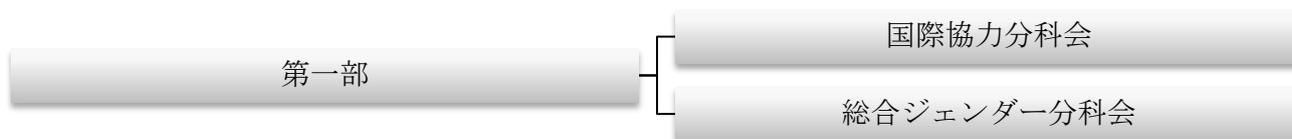
材料工学委員会・環境学委員会・総合工学委員会合同（サーキュラーエコノミーのための資源・材料の循環利用検討分科会）					
委員長	笹木 圭子	副委員長	森田 一樹	幹事	岡部 徹、松八重 一代
主な活動	審議内容				
	1. サーキュラーエコノミーの社会経済システムに資源循環を機能させるために克服すべき学術課題の抽出				
	2. 意思の表出「見解」の構成				
	意思の表出「見解」の執筆計画				
	意思の表出（※見込み含む）				
	2025年度に「サーキュラーエコノミーの社会経済システムに資源循環を機能させるために克服すべき学術課題」に関する意思の表出を行う予定。				
開催状況	開催シンポジウム等				
	2024年11月22日、日本学術会議講堂にて学術フォーラム「サステナブル社会への移行における資源循環の役割」を開催済み（総合工学委員会および環境学委員会との合同）				
	第1回：2024年3月28日@オンライン				
開催状況	第2回：メール審議				
	第3回：2024年11月22日@日本学術会議				
	第4回：メール審議				
	第5回：2025年7月25日@東京大学山上会館				
	今後の課題等	意思の表出にあたり、サーキュラーエコノミーを推進するための学術課題を、社会システムに関する課題と素材プロセスに関する科学技術的課題に大別し、人文社会科学的視点および理工学的視点から「見解」をまとめ提出する。			

材料工学委員会（材料工学中長期研究戦略分科会）					
委員長	埴 隆夫	副委員長	小出 康夫	幹事	杉浦 夏子、松下 伸広
主な活動	審議内容				
	1. 材料工学の中長期研究戦略を政策に反映させるための活動の方法 2. 材料工学分野におけるロードマップのローリング 3. 上記の議論を深めるためのシンポジウムの開催と意思の表出				
	意思の表出（※見込み含む）				
	報告「未来の学術振興構想に基づく材料工学の中長期研究戦略」を8月中に提出				
	開催シンポジウム等				
	意思の表出の内容を基に今期中の公開シンポジウム開催を予定				
開催状況	2025年1月8日第3回分科会開催、2025年8月第4回分科会開催予定				
今後の課題等	材料工学の中長期研究戦略を政策に反映させるための活動の方法、意思の表出、公開シンポジウムに向けた議論の深化など				

材料工学委員会（新材料デザイン検討分科会）					
委員長	中野 貴由	副委員長	三浦 誠司	幹事	河野 佳織、松本 卓也
主な活動	審議内容				
	1. 新材料デザイン、さらにはその融合分野に対する現状認識と将来展望 2. 周辺に関連分野との有機的連携 3. 新材料デザインのための材料工学分野の人材育成と研究に係る審議 4. その他（環境負荷低減や生成AIなども視野）				
	意思の表出（※見込み含む）				
	第27期での表出に向けた準備を行う。				
	開催シンポジウム等				
	2025年12月23日（火）13：00～17：00に日本学術会議・講堂とオンラインとのハイブリットで「地球再興を見据えた新材料デザイン」に関する公開シンポジウムを開催予定。				
開催状況	第1回：2024年7月11日（幹事会：2025年1月20日、2025年2月4日、2025年3月31日）、第2回：2025年6月17日、第3回：2025年9月22日（予定）、第4回：2025年12月23日（予定）				
今後の課題等	地球再興の定義を含め、今後の新材料・新プロセスの在り方について協議する。				

材料工学委員会・総合工学委員会合同（将来展開分科会）					
委員長	尾崎 由紀子	副委員長	梅津 理恵	幹事	筑本 知子、岸村 顕広
主な活動	審議内容				
	1. 材料工学・総合工学分野における研究インテグリティ・研究セキュリティの対応実施状況の調査実施内容、方法				
	2. 上記のうち、アンケート調査についてその実施方法および内容				
	3. 意思の表出（報告）の骨子および申出書の内容				
	4. 公開シンポジウム開催方法、内容、時期				
	意思の表出（※見込み含む）				
	意思表出（報告）を2025年度内に発出予定				
開催状況	開催シンポジウム等				
	学術フォーラムを開催予定（2026年4月）				
開催状況	第2～4回はメール審議、第5・6回は、意思の表出に向け、WEB審議を実施				
今後の課題等	研究インテグリティ・研究セキュリティ政策政策へのフィードバック、および実施者となる研究者意識の涵養				

(8) 部が直接統括する分野別委員会合同分科会



第一部国際協力分科会					
委員長	小田中 直樹	副委員長	城山 英明	幹事	浅田 進史
主な活動	審議内容				
	<ul style="list-style-type: none"> ・第一部の活動に関わる国際学術団体とのリエゾンとして機能する。 ・上記団体から、各種会議における代表派遣、総会・大会の開催、役員を選出などに関する依頼が来た場合、検討・対応する。 				
	意思の表出（※見込み含む）				
	<ul style="list-style-type: none"> ・上記審議内容からして、意思の表出を任務とする分科会ではないと考えられる。 				
開催状況	開催シンポジウム等				
	<ul style="list-style-type: none"> ・なし。 				
今後の課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・代表派遣にかかる旅費など費用が十分とはいえない状況にあり、各種会議への代表派遣の縮小による国際的プレゼンスの低下が懸念される。たとえば 2025 年 12 月にはニューデリー（インド）でアジア社会科学研究評議会連合（AASSREC）の大会・総会が予定されており、本来であれば大会テーマに詳しいプレゼンターと、総会における日本学術会議の代表者の 2 人を派遣すべきところであるが、派遣予定者は 1 名となった。 				

第一部総合ジェンダー分科会					
委員長	三尾 裕子	副委員長	島岡 まな	幹事	白井 恵美子、芳賀 満
主な活動	審議内容				
	<ul style="list-style-type: none"> ・科学者委員会ジェンダー・エクイティ分科会が中心になって作成している提言「社会と学術界におけるジェンダー平等・公正の実現を目指して—2030 年に向けた課題—」について、本分科会も参画することを決定し、適宜必要な部分についての執筆や加筆修正などを行った。 ・公開シンポジウム「ジェンダー問題と価値創出型言語文化のあり方」の準備について協議を行った。 				

	<p>意思の表出（※見込み含む）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・提言「社会と学術界におけるジェンダー平等・公正の実現を目指して—2030年に向けた課題—」（発出見込み）
	<p>開催シンポジウム等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公開シンポジウム「第6次男女共同参画基本計画に向けた日本学術会議の期待」 主催：科学者委員会ジェンダー・エクイティ分科会、第一部総合ジェンダー分科会、第二部生命科学ジェンダー・ダイバーシティ分科会、第三部理工学ジェンダー・ダイバーシティ分科会、史学委員会ジェンダー史学の知見と方法の社会実装分科会、法学委員会ジェンダー法分科会 日時：2024年12月22日13:30～17:00 オンライン開催
開催状況	<p>2025年1月26日（日）11:00～12:00 2025年4月15日～4月24日※メール</p>
今後の課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・「高等教育におけるジェンダー平等」をテーマに、ジェンダー平等やハラスメント対策を担保する根拠法の検討を行う。また、シンポジウムの開催を目指す。 ・「人文社会科学系学協会男女共同参画推進連絡会」（GEAHSS 略称ギース）との連携の維持、強化に努める。

第二部

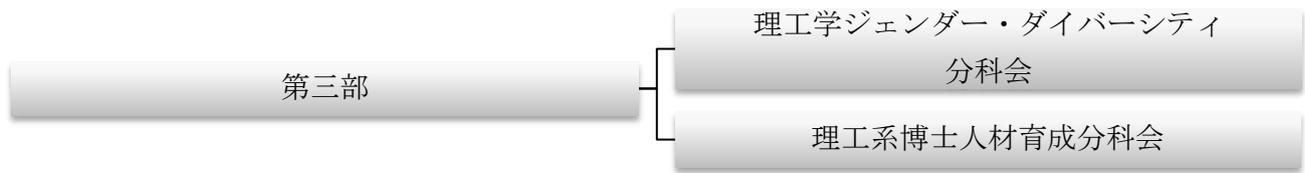
生命科学系学術雑誌問題検討分科会

生命科学ジェンダー・ダイバーシティ
分科会

第二部生命科学系学術雑誌問題検討分科会					
委員長	小林 武彦	副委員長	岩崎 博史	幹事	平田 たつみ、坂内 博子
主な活動	審議内容				
	<ul style="list-style-type: none"> ・生命科学系分野学術誌特有の問題点の整理、その改善に向けた方策の検討 ・J-stage の活動についてのヒアリング ・成果発信のための統一したプラットフォームの設置等の検討 				
	意思の表出（※見込み含む）				
	報告の発出予定有り。				
	開催シンポジウム等				
予定あり。					
開催状況	2024 年 11 月 8 日（木）				
今後の課題等	生命科学系分野学術誌特有の問題点の改善に向けた具体的な方策の検討				

第二部生命科学ジェンダー・ダイバーシティ分科会					
委員長	樋田 京子	副委員長	竹山 春子	幹事	熊谷 日登美 東原 和成
主な活動	審議内容				
	生命科学分野の大学・研究機関・学協会におけるジェンダー・ダイバーシティに関わる現状を把握するアンケート調査について審議した。また、課題解決のための発信のひとつとして、分科会が主体となるシンポジウム企画について協議した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
<ul style="list-style-type: none"> ・科学者委員会ジェンダー・エクイティ分科会、第6次男女共同参画基本計画小分科会、第一部総合ジェンダー分科会、第三部理工学ジェンダー・ダイバーシティ分科会とともに提言「社会と学術界におけるジェンダー平等・公正の実現を目指して—2030年に向けた課題—」発出予定。 					

	<p>・本分科会が主体とした報告の発出を検討中。</p>
	<p>開催シンポジウム等</p>
	<p>・公開シンポジウム「農芸化学分野におけるジェンダード・イノベーションへの展望」：2025年3月5日（日本農芸化学会と共催）</p> <p>・公開シンポジウム「科学におけるダイバーシティを考える～自分らしい進路・キャリアパス選択のために～」：2025年10月4日 開催にむけて準備中。</p>
開催状況	<p>第2回分科会（2024年10月21日ハイブリッド開催）</p> <p>第3回分科会：シンポジウムについてメール審議（2024年12月4日～6日），</p> <p>第4回分科会：意思の表出の申出書についてメール審議（2025年1月16日～18日）</p> <p>第5回分科会：2025年4月14日 ハイブリッド開催</p> <p>そのほか複数回執行部メンバーによるオンライン，メール会議を数回実施。</p>
今後の課題等	<p>日本学術会議の法人化について関係者と情報共有するとともに、生命科学分野における男女共同参画に関する活動調査を目的とした学協会アンケートを準備中である。</p>



第三部理工学ジェンダー・ダイバーシティ分科会					
委員長	玉田 薫	副委員長	堀 利栄	幹事	中野 裕美、中村 卓司
主な活動	審議内容（※審議結果からの主要な意見、今後の審議予定課題などを含む）				
	第26期は、昨今急速に拡大しつつある理工系の女子枠大学入試ならびに大学教員の女性限定公募等の動きを軸に、ダイバーシティ・インクルージョン・エクイティ（DEI）環境醸成の問題について、国際的視点を含めた幅広い議論を進める。				
	意思の表出（※予定含む）				
	第6次男女共同参画基本計画に向けた意思の表出（提言）「社会と学術界におけるジェンダー平等・公正の実現を目指して—2030年に向けた課題—」を提出（現在査読中）。				
	開催シンポジウム等（※予定含む）				
2024年12月22日「第6次男女共同参画基本計画に向けた日本学術会議の期待」を科学者委員会ジェンダー・エクイティ分科会と共催で開催。 米国NSFと連携し、2017年に科学技術振興機構（JST）と日本学術会議の共催で開催されたジェンダーサミットのフォローアップワークショップを11月5日開催予定。					
開催状況	第3回：2024年10月2日～2024年10月8日（メール審議） _ 第4回：2024年10月22日 オンライン会議 第5回：2025年1月15日～2025年1月21日（メール審議） _ 第6回：2025年4月22日～2025年4月24日（メール審議） _ 第7回：2025年5月29日～2025年6月2日（メール審議） _ 第8回：2025年7月2日 オンライン会議				
今後の課題等	科学者委員会ジェンダー・エクイティ分科会が中心となり進めている「第6次男女共同参画基本計画」に関連する提言に理工系分科会として協力する。				

第三部理工系博士人材育成分科会					
委員長	奥村 幸子	副委員長	関谷 毅	幹事	内田 誠一、関根 千津
主な活動	審議内容（※審議結果からの主要な意見、今後の審議予定課題などを含む）				
	理工系分野における博士人材育成の課題・問題点とその原因、課題解決に向けた施策を整理し、レポートをまとめる。分科会の前身である4回のWG（2024年12月～2025年3月）より、博士人材育成の課題（問題点）とその原因、施策をリスト				

	<p>アップし、課題の原因や施策の妥当性のエビデンスとなる既存データの収集・確認を行った。その上でさらにエビデンスの収集が必要な点を議論し、大学院生の座談会を実施するとともに、第1回分科会での議論をもとに、さらに深めるべき4つの論点、①公的支援の在り方、②学生側の意識、③大学教育側/アカデミア側の意識、④企業側の意識、について、第2回分科会において課題解決に向けた施策の議論を行った。</p>
	意思の表出（※予定含む）
	2025年内にレポートをまとめ、記録とする。
	開催シンポジウム等（※予定含む）
	2026年4～6月の学術フォーラム開催を目指す。
開催状況	<p>第1回 2025年5月29日 第2回 2025年7月22日 第3回 2025年9月5日（予定）</p>
今後の課題等	<p>レポートをまとめる際には、理工系分野共通の課題だけでなく、分野による状況・課題の違いについても明記した上で、俯瞰的な視野で、理工系分野の博士人材が我が国の中長期的発展に資する施策・方策を提起する。レポートを踏まえ、シンポジウム等を開催し広く関係機関や社会に向けて周知・提案する。</p>

(9) 地区会議

北海道地区会議
東北地区会議
関東地区会議
中部地区会議
近畿地区会議
中国・四国地区会議
九州・沖縄地区会議

北海道地区会議	代表幹事	宇山 智彦
主な活動	審議内容	
	<ul style="list-style-type: none"> ・2025 年度事業計画について ・日本学術会議公開シンポジウムの開催（2 件）について 等 	
	開催シンポジウム等	
<ul style="list-style-type: none"> ・2024 年 11 月 17 日に学術講演会「北海道から多文化共生を考える」をハイブリッド形式で開催し、219 名が参加した。また合わせて科学者との懇談会を開催した。 ・2025 年 3 月 13 日にサイエンスカフェ「火星の月から探る水惑星誕生の謎—火星衛星探査 MMX の挑戦」を三省堂書店札幌店で開催した。 ・2025 年 3 月に地区会議ニュース（No. 55）を発行し、代表幹事のメッセージ、学術講演会の開催報告、地区会議の活動報告等を掲載した。 ・2025 年 8 月 7 日に日本学術会議第二部会・北海道大学との共催で公開シンポジウム「次の新興・再興感染症にどう備えるか」をハイブリッド形式で開催した。 ・2025 年 8 月 10 日に日本学術会議第一部会・公立はこだて未来大学との共催で 		

	公開シンポジウム「AI時代に「対話」の意味を考える—熟議がつむぐ知と社会」をハイブリッド形式で開催した。
開催状況	運営協議会：2025年2月27日※メール、同年5月26日※メール
今後の課題等	2025年度は上記の通り既に公開シンポジウム2件を開催したが、今後もサイエンスカフェなどを通じて、北海道地区の研究者との連携を深めるとともに、日本学術会議の活動について社会的な周知を図っていく。

東北地区会議		代表幹事	五十嵐 和彦
主な活動	審議内容		
	<p>●東北地区会議運営協議会（2025年3月）※オンライン</p> <p>2024年度の事業報告及び2025年度の事業計画について審議し、決定した。また、第三部会と東北地区会議との共同主催で実施する公開シンポジウムの企画について議論を行った。</p>		
開催状況	開催シンポジウム等		
	<p>・東北地区会議ニュース（No. 39）の発行（2025年3月）</p> <p>・公開シンポジウム「研究者になって世界を駆け巡ろうⅡ～研究者の卵たちと共に未来を描く～」（2025年8月）※ハイブリッド</p> <p>https://www.tohoku.ac.jp/japanese/2025/07/event20250714-01-kenkyo.html</p> <p>https://sites.google.com/tohoku.ac.jp/symp2025</p>		
開催状況	2025年3月7日	東北地区会議運営協議会	※オンライン
	2025年8月7日	公開シンポジウム	※ハイブリッド開催
今後の課題等	公開学術講演会等、地区会議の活動を一般市民にも広く広報し、学術会議の活動についてさらに周知するようにしたい。		

中部地区会議		代表幹事	高田 広章
主な活動	審議内容		
	<p>年に2回の頻度で、中部地区会議運営協議会と学術講演会を中部地区の各県の持ち回りで開催。2025年8月開催の学術講演会は、地方学術会議と共同で開催。運営協議会の各回では、日本学術会議総会の報告とそれに関する議論、学術講演会の開催についての審議、地区会議ニュースの発行についての審議、科学者懇談会各県幹事との打ち合わせを実施。</p>		
	開催シンポジウム等		

	<ul style="list-style-type: none"> ・学術講演会「性はどうやって決まる?」(2024年12月6日開催、OKB 岐阜大学プラザ及びオンライン、参加者:217名) ・中部地区会議ニュース No.157 の発行(2025年3月) ・学術講演会「大災害からの復興と持続的社会のモデルを目指して～半島地域からの問題提起」(地方学術会議との共同開催、2025年8月2日開催、金沢市アートホール及びオンライン、参加者:344名)
開催状況	<p>2024年12月6日 2024年度第2回中部地区会議運営協議会(岐阜大学本部棟4階大会議室及びオンライン会議)</p> <p>2025年8月1日 2025年度第1回中部地区会議運営協議会(金沢大学角間キャンパス本部棟6階大会議室及びオンライン会議)</p>
今後の課題等	学術講演会により多くの一般市民に参加していただけるような広報活動が必要。

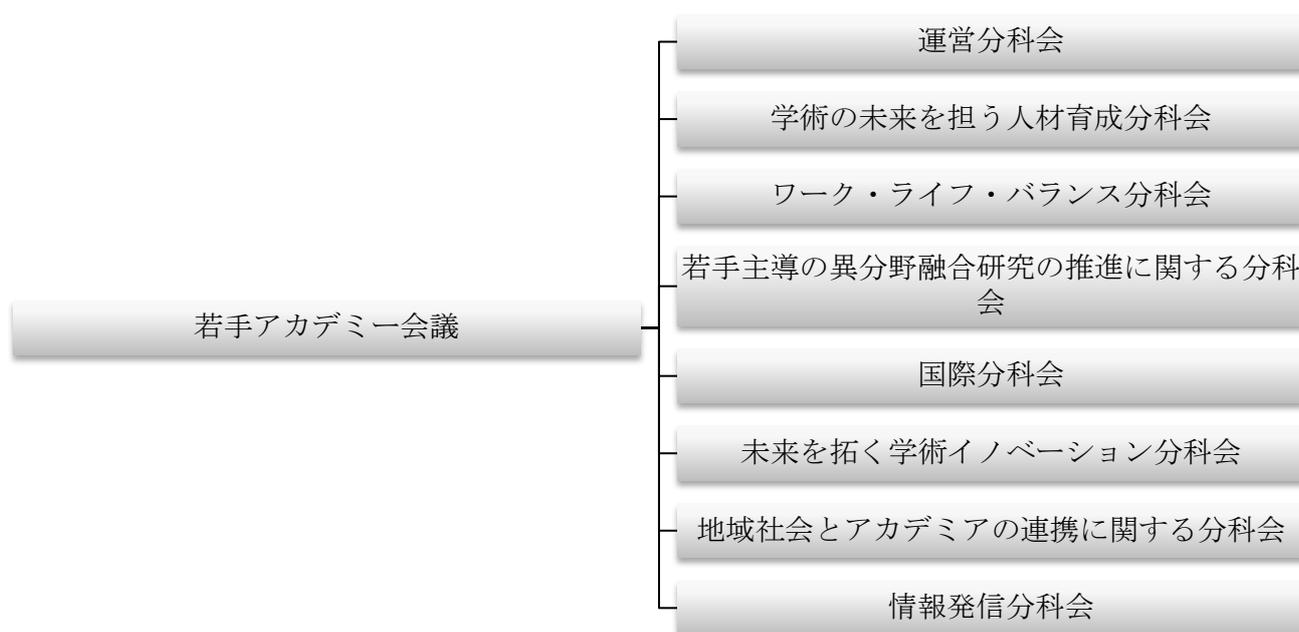
近畿地区会議		代表幹事	村山 美穂
主な活動	審議内容		
	<p>ニュースレター「近畿地区会議ニュース」を発行した。近畿地区独自の学術文化懇談会との協働体制において、一般市民の方々にも日本学術会議のあり方とその社会貢献の姿を広く知っていただくために年1回開催する学術講演会についての審議、および、近畿地区の学術会議関係者と大学・研究機関との連携についての議論を行っている。</p>		
	開催シンポジウム等		
	2025年9月13日に近畿地区会議学術講演会「社会の持続可能性と水問題」を開催予定		
開催状況	<p>運営協議会・学術文化懇談会:第3回を2025年2月28日、京都大学(ハイブリッド開催)において開催し、2024年度事業として近畿地区会議学術講演会「市民とともにつくる学術知ーシチズンサイエンス/シビックテックの挑戦」を開催したことを報告し、2025年度事業計画について、学術講演会のテーマ、日程、講演者について協議した。</p>		
今後の課題等	2026年度に開催予定の学術講演会のテーマについて、引き続き協議する。		

中国・四国地区会議		代表幹事	藪田 ひかる
主な活動	審議内容		
	<p>運営協議会 第1回：中国・四国地区会議主催の2025年度公開学術講演会／地区ニュース No.56 の内容／「学術の動向」への投稿。（学術講演会は2025年11月29日に鳥取大学にて開催予定。地区ニュース No.56 は2025年3月に発行。「学術の動向」への投稿は、2025年1月号に掲載。）第2回：2024年度事業報告と2025年度事業計画について。</p>		
	開催シンポジウム等		
	2024年11月30日「社会的課題と学術統合による研究と教育」（高知工科大学（ハイブリッド開催））。		
開催状況	運営協議会：第1回 2024年11月30日 高知工科大学・Zoom（ハイブリッド開催）、第2回 2025年3月10日 Zoom		
今後の課題等	<p>社会課題解決を主なテーマの一つとして、分野融合や高度専門人材育成といった今後の議論の活性化に繋げていく。運営委員会協議員だけではなく、中国・四国地区のできるだけ多くの会員・連携会員に地区会議活動に参加いただく工夫が必要である。2025年11月29日に、運営協議会及び学術講演会（鳥取大学）を開催予定。</p>		

九州・沖縄地区会議		代表幹事	内田 誠一
主な活動	審議内容		
	<ul style="list-style-type: none"> ・2025年3月に運営協議会（書面回議）を開催し、2024年度の事業報告（案）、2025年度の事業計画（案）について審議した。 ・2025年9月に運営協議会（書面回議）を開催し、九州・沖縄地区会議主催 科学者懇談会・学術講演会の実施概要（案）について審議予定。 		
	開催シンポジウム等		
	<p>【科学者懇談会及び学術講演会の開催】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2024年10月9日に鹿児島大学との共催により「科学者懇談会」及び「学術講演会」を開催した。「科学者懇談会」では、日比谷副会長、内田代表幹事、佐野鹿児島大学長他、鹿児島大学関係者、周辺他大学関係者等が出席し、意見交換等を行った。また、「学術講演会」（ハイブリッド開催）では、『世界遺産・奄美群島固有の生態系と文化的多様性～次代へつなぐアマミの宝～』をテーマに4件の講演が行われ、202名の参加者を得て、盛会裏に終了した。 ・2025年3月に「九州・沖縄地区ニュース第123号」を発行し、2024年度に開催した「科学者懇談会・学術講演会」の概要並びに地区会議の活動報告等を掲載した。 		

<p>開催状況</p>	<p>【運営協議会】2025年3月3日～10日、2025年9月（予定）（いずれも書面回議）</p> <p>【学術講演会】2024年10月9日（ハイブリッド開催）</p>
<p>今後の課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・2025年12月5日に熊本大学との共催で「科学者懇談会・学術講演会」を開催予定である。なお、学術講演会の様子は録画の上、後日一般公開し、学術会議の活動を広く周知していく。 ・また、2026年度の学術講演会については、高校生をはじめとする若年層の参加をより一層広げられるよう開催日等を検討していく。

(10) 若手アカデミー



若手アカデミー					
委員長	小野 悠	副委員長	標葉 隆馬	幹事	南澤 孝太、門田 有希
主な活動	審議内容				
	<p>・第25期に発出した見解「2040年の科学・学術と社会を見据えていま取り組むべき10の課題」を実現するため、国際学術団体、政策担当者（文部科学省、内閣府等）、技術職員・URA（研究基盤協議会等）、産業界（産業競争力懇談会等）、地域関係者などと具体的かつ継続的に議論を進めた。また、メディアと連携したアンケート調査を実施し、その結果を若手アカデミーでの議論に反映させるとともに、社会への発信にも活用した。さらに、シンポジウム・サイエンスカフェ等の多様なコミュニケーション手段を用いて社会に発信した。</p> <p>・国際活動として、第15回 Global Young Academy 総会・学会に若手アカデミーメンバー4名が参加し、議論に参画した。IAP (InterAcademy Partnership) Young Affiliates に加入し、アジア・太平洋地域の若手アカデミーとともに NAYA (Network of Asia-Pacific Young Academies) を共同設立した。さらに、アジア学術会議や STS フォーラムにメンバーを派遣するとともに、国際的な政策関係者との意見交換を行った。</p> <p>・見解「10の課題」のフォローアップや、新たに重要課題として位置づけたスタートアップについて、見解発出に向けて各種ステークホルダーと議論を行った。</p>				
	意思の表出（※見込み含む）				

	<ul style="list-style-type: none"> ・見解「いま取り組むべき 10 の課題フォローアップ (仮)」、見解「学術とスタートアップの両輪での推進に向けて (仮)」について発出に向けた検討を進めている
	開催シンポジウム等
	<ul style="list-style-type: none"> ・公開シンポジウム「地域課題解決に挑む実践型アカデミー創設に向けてー那須地域から始まる未来実装学アカデミー」(2024年10月26日) ・「2040年の科学・学術と社会を見据えていま取り組むべき 10 の課題」の連載記事公開 (esse-sense と共同実施) (2024年11月～) ・公開シンポジウム「多様な人財が拓く学術の未来に関するシンポジウム: 研究とコアファシリティのマネジメント人財の役割」(2025年1月24日) ・持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議 2024「持続可能なイノベーション創出のためのエコシステム～2040年の科学・学術と社会を見据えて～」(2025年2月3日) ・「日本の科学・研究」に関するアンケート (NHK と共同実施) (2025年2月) ・学会による学術雑誌の編集のあり方について検討する論文を公開 (DOI: 10.24533/spls.17.1_67) (2025年7月) ・こども霞が関見学デー 若手アカデミー連携企画「研究ってなんだろう?ー研究者と一っしょに科学を話そう、科学にふれよう」(2025年8月6日、7日) ・公開シンポジウム「地域の特徴を生かした大学の取組×学術とスタートアップの両輪での推進に向けて」(2025年9月16日)
開催状況	2024年9月5日、2025年3月14日、2025年9月17日
今後の課題等	これまでの議論と活動を踏まえ、見解「10 の課題」の実現に向けた取組を一層推進する。国内での成果を基盤に国際学術団体との連携を強化し、国際的なプレゼンスの向上を図るとともに、検討中の見解を発出し、社会への発信や政策・実践への反映につなげる。

若手アカデミー (運営分科会)					
委員長	小野 悠	副委員長	標葉 隆馬	幹事	南澤 孝太、門田 有希
主な活動	<p>審議内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若手アカデミーの活動方針、各分科会の活動状況の共有、若手アカデミー会議の開催等について意見交換を行った。 ・持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議 2024「持続可能なイノベーション創出のためのエコシステム～2040年の科学・学術と社会を見据えて～」の企画内容について議論した。 ・公開シンポジウム「地域課題解決に挑む実践型アカデミー創設に向けてー那須地域から始まる未来実装学アカデミー」、公開シンポジウム「多様な人財が拓く学術の未来に関するシンポジウム: 研究とコアファシリティのマネジメント人財の役割」、公開シンポジウム「地域の特徴を生かした大学の取組×学術とスタートアップの両輪での推進に向けて」の主催について審議し、承認した。 				

	<p>・IAP (InterAcademy Partnership) Young Affiliates への加入申請および NAYA (Network of Asia-Pacific Young Academies) 設立共同宣言への署名について審議し、承認した。</p>
	意思の表出 (※見込み含む)
	見解「いま取り組むべき 10 の課題フォローアップ (仮)」申出書および見解「学術とスタートアップの両輪での推進に向けて (仮)」申出書について審議し、承認した。
	開催シンポジウム等
	なし。
開催状況	2024 年 11 月 23 日※メール、2024 年 12 月 23 日、2025 年 1 月 19 日※メール、2025 年 5 月 1 日※メール、2025 年 7 月 6 日※メール
今後の課題等	若手アカデミーおよび各分科会の活動を効果的に推進するため、リーダーシップを発揮し、迅速に審議・意思決定を行う。また、次期への円滑な引継ぎを検討する。

若手アカデミー (学術の未来を担う人材育成分科会)					
委員長	小川 剛伸	副委員長	武田 宙也	幹事	八尾 史、仲上 豪二郎
主な活動	審議内容				
	<p>・学術の次世代を担う若手人材の育成および次々世代を担う中学生・高校生・大学生の教育における課題とその解決策に関して、意見交換を行った。</p> <p>・文部科学省「次の一手チーム」ならびに一般社団法人研究基盤協議会と研究人材に関するシンポジウムを開催し、約 350 名の参加があった。</p>				
	意思の表出 (※見込み含む)				
	なし				
	開催シンポジウム等				
<p>・多様な人材が拓く学術の未来に関するシンポジウム「研究とコアファシリティのマネジメント人材の役割」(2025 年 1 月 24 日)</p>					
開催状況	なし				
今後の課題等	人材育成に関する複数のテーマを設定し、活動を行う。また、文部科学省等のステークホルダーと積極的に情報共有を行う。				

若手アカデミー（ワーク・ライフ・バランス分科会）					
委員長	川口 慎介	副委員長	緒形 ひとみ	幹事	菅野 早紀
主な活動	審議内容				
	ワークライフバランスにかかるベストプラクティス事例として、日学における持続会議開催時に会議室を利用する一時託児の実践状況を視察し、また事業者から実態についての聞き取りを行った。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし。				
	開催シンポジウム等				
	なし。				
開催状況	第2回 2025年2月3日 ※ハイブリッド会議				
今後の課題等	科研費等補助金を受ける者が産育休を取得する際の受給継続可否やその条件についての情報整理と情報展開を進める。				

若手アカデミー（若手主導の異分野融合研究の推進に関する分科会）					
委員長	藤岡 沙都子	副委員長	石川 麻乃	幹事	田井 明、山内 紀子
主な活動	審議内容				
	異分野融合研究の推進に関して、好事例の共有や推進を困難にしている障壁について議論を行った				
	意思の表出（※見込み含む）				
	特になし				
	開催シンポジウム等				
	特になし				
開催状況	第2回 2025年3月10日（オンライン開催）				
今後の課題等	小グループに分かれ、異分野融合研究推進に関する議論を実施。10月に分科会メンバーでワークショップを実施予定。				

若手アカデミー（国際分科会）					
委員長	加納 圭	副委員長	坂元 晴香	幹事	門田 有希
主な活動	審議内容				
	持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議 2024 の運営実施、IAP への加入、Network of Asia-Pacific Young Academies (NAYA)への加入、Science Council of Asia The 24th Conference におけるパキスタン若手アカデミー国との共同セッション開催、World Forum for Women in Science (WFWS)2026 への協力、STS フォーラムへの派遣、について審議を行った。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし。				
開催状況	開催シンポジウム等				
	持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議 2024 「持続可能なイノベーション創出のためのエコシステム～2040 年の科学・学術と社会を見据えて～」 (2025 年 2 月 3 日開催) サイエンスポータル (2025 年 2 月 14 日公開) https://scienceportal.jst.go.jp/explore/reports/20250214_e01/				
今後の課題等	第 2 回：2024 年 12 月 17 日 ※オンライン会議 第 3 回：2025 年 2 月 3 日 第 4 回：2025 年 4 月 15 日 ※オンライン会議				
今後の課題等	今後の IAP 総会、STS フォーラムへの派遣、Science Council of Asia The 24th Conference への派遣、WFWS2026 協力などに向けた課題整理と方針立案を行う。				

若手アカデミー（未来を拓く学術イノベーション分科会）					
委員長	武田 秀太郎	副委員長	藤岡 沙都子	幹事	廣野 陽子
主な活動	審議内容				
	第 25 期若手アカデミーが発出した『見解』であげられた「課題 4：セクターを越えた共創プラットフォームの整備」を実現する、従来型の産官学連携を超えた新たなイノベーションを産み出す在り方について、議論を行った。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	見解「学術とスタートアップの両輪での推進に向けて」の表出に向け審議を行い、申立書ならびに骨子を提出し、発出に相応しい旨の助言書を受領した。				
開催状況	開催シンポジウム等				
	2025 年 9 月 16 日公開シンポジウム「地域の特色を生かした大学の取組×学術とスタートアップの両輪での推進に向けて」（新潟県新潟市） 2024 年 10 月 26 日、公開シンポジウム「地域課題解決に挑む実践型アカデミー創設に向けてー那須地域から始まる未来実装学アカデミー」（栃木県那須郡）				

開催状況	第2回 2024年11月27日 第3回 2024年12月24日 第4回 2025年8月28日
今後の課題等	見解「学術とスタートアップの両輪での推進に向けて」の表出に向け、実効的な意思の表出とすべく関連団体との意見交換を実施するとともにフォローアップの体制を審議する。

若手アカデミー（地域社会とアカデミアの連携に関する分科会）					
委員長	木村 草太	副委員長	櫻田 涼子	幹事	田井 明、門田 有希
主な活動	審議内容				
	第25期若手アカデミーが発出した『見解』であげられた、「地域連携の推進」を実現する方法について、継続的に議論を行った。各委員の現場における地域連携の現状について報告とディスカッションを行った。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし。				
開催状況	開催シンポジウム等				
	2025年9月16日公開シンポジウム「地域の特色を生かした大学の取組×学術とスタートアップの両輪での推進に向けて」（若手アカデミー主催）（新潟県新潟市）の計画				
開催状況	第2回 2025年1月28日 ※オンライン会議				
今後の課題等	引き続き、若手アカデミーメンバーと地域社会・地域における学術関係者との交流を計り、より実効的な議論を行う。				

若手アカデミー（情報発信分科会）					
委員長	大西 楠テア	副委員長	中谷 武志	幹事	久保田 好美、 河内山 拓磨
主な活動	審議内容				
	情報発信活動として、若手アカデミーHPの更新を継続的に行い、活動内容や見解を広く社会に発信した。加えて、2025年8月に開催された「こども霞が関見学デー」では、研究者と子どもたちが直接対話し科学の魅力にふれる企画を実施した。また、2024年11月からは esse-sense と共同で「2040年の科学・学術と社会を見据えていま取り組むべき10の課題」に関する連載記事を公開し、社会に対する継続的な情報発信を行った。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし。				
開催状況	開催シンポジウム等				

	<ul style="list-style-type: none"> ・こども霞が関見学デー 若手アカデミー連携企画「研究ってなんだろう？ー研究者とっしょに科学を話そう、科学にふれよう」（2025年8月6日、7日） ・「2040年の科学・学術と社会を見据えていま取り組むべき10の課題」の連載記事公開（esse-senseと共同実施）（2024年11月～）
開催状況	第2回 2025年2月28日 ※オンライン会議
今後の課題等	効果的な情報発信・アウトリーチについて引き続き検討する。